日本国憲法

大嶽 浩

【授業の概要】
日本国憲法について、その成立の事情や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

【授業の目標】
基本的人権の「獲得の歴史」を理解し、人権の「保障の意味」を理解すること。

【授業計画】
1．憲法と理想
2．憲法と法律
3．憲法と憲法典
4．国民の司法参加
5．憲法の最高法規性
6．憲法の改正

【評価方法】
試験とレポートによる評価。

【テキスト】
使用せず。プリントを配布。

【参考文献・資料】
授業の中で紹介する。

日本国憲法

初谷良彦

【授業の概要】
法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業の目標】
激動する世界の乱拍子が聞こえるような時代となった。今、次代を担う学生諸君にとって、もっとも大切なことは豊かな憲法感覚を身につけることであろう。憲法の基本原理やその歴史的背景をしっかり学んで欲しいと願っている。

【授業計画】
第１回　近代国家と憲法
第２回　日本国憲法制定の経緯
第３回　日本国憲法の基本原理
第４回　人権の歴史
第５回　人権の内容・享有主体
第６回　人権規定の効力
第７回　生命・自由・幸福追求権
第８回　法の下の平等
第９回　信教の自由と政教分離
第10回　表現の自由
第11回　人身の自由と刑事手続
第12回　国会
第13回　内閣
第14回　司法制度
第15回　地方自治

【評価方法】
主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】
憲法講義Ⅰ（第２版）（初谷良彦著　成文堂）

【参考文献・資料】
授業の際、随時紹介する。

民主主義と人権

初谷良彦

【授業の概要】
民主主義の根本原則は人権（人間としての権利）の尊重にある。人権の理想と実現が民主主義のあり方と人間の生き方に大きく影響する。民主主義の制度と仕組みについて、人権を保障する法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

【授業の目標】
政治変動のなかで、民主主義、人権保障などのあり方を基本に立ち返って再考する必要がある。そのためにも、これまで当たり前に思っていた概念が実は複雑な歴史的背景や驚くべき理念をはらんでいることを学ぶ。

【授業計画】
第１回　民主主義の歴史（ペリクレスからウィルソンまで）
第２回　近代民主主義の変容（市民社会から大衆社会へ）
第３回　現代民主主義の問題点
第４回　国家の正統性について
第５回　国家と社会契約の思想
第６回　議会制民主主義の歴史
第７回　議院内閣制と大統領制
第８回　多数決原理と民主主義
第９回　民主主義と選挙制度
第10回　現代の民主主義体制
第11回　人権総論
第12回　人間の尊厳と人権
第13回　障害者の国務請求権
第14回　少数者の人権
第15回　平等権

【評価方法】
主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】
概説　デモクラシーと国家（初谷良彦他　成文堂）

【参考文献・資料】
講義の際、随時紹介する。

民主主義と人権

本 秀紀

【授業の概要】
日本国憲法は人権と民主主義を保障しているが、その制度と仕組みについて、人権をまもる法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

【授業の目標】
「民主主義と人権」をめぐる新聞報道などから、できるかぎり身近で具体的な素材を取り上げつつ、まずは現実を知り、その上で諸問題への対応を考える力を養う。

【授業計画】
基本的には講義形式で行うが、受講生の問題関心を高めるため、適宜質疑をしたり、ビデオを観る予定である。

授業内容は現在のところ、以下の項目からいくつかを選択する予定だが、そのときどきのトピックによって変更もありうる（ちなみに2005年度は、「本編」として、性同一性障害、過労死、育児休業、ドメスティック・ヴァイオレンスなどを、「番外編」として、首相の靖国参拝、旧植民地ハンセン病補償訴訟、ビラ配り逮捕と表現の自由、憲法改正問題などを取り上げた）。

1　はじめに：「民主主義と人権」って?
2　個人の尊重と人権：性同一性障害、同性愛、個人情報保護
3　企業社会と人権：過労死、育児休業、労働者差別
4　女性と人権：ドメスティック・ヴァイオレンス、労働と女性差別
5　マスメディアと人権：プライバシー侵害、メディア規制立法
6　子どもと人権：校則・体罰、少年法、いじめ・児童虐待
7　医療と人権：インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死、代理出産
8　外国人と人権：参政権、出入国管理、外国人差別、難民問題
9　平和と人権・民主主義：米軍再編と自衛隊の海外出動、憲法改正
10　ゴミ問題と民主主義：廃棄物処分場と環境、住民投票
11　政治の仕組みと民主主義：選挙制度、国会・内閣、政党法制

【評価方法】
学期末の筆記試験を基本とし、ビデオへの感想などを加味する。

【参考文献・資料】
テキストブック現代の人権〔第３版〕（川人博編著　日本評論社　2004年）
ハンドブック国際化のなかの人権問題〔第４版〕（上田正昭編　明石書店　2004年）
それぞれの人権〔第２版補訂〕（憲法教育研究会編　法律文化社　2005年）
など。なお、必要に応じて、講義の際に資料・レジュメ等を配布する。

哲学的人間論

高畑祐人

【授業の概要】
東西の著名な哲学者の古典的な哲学論にふれながら、現代社会がかかえる諸課題についていかに対応し、対処すべきかについて講義をする。

【授業の目標】
1．自然観を考えることがなぜ人間を考えることになるのかを理解し自分の言葉で表現できるようになる。
2．機械論的自然観と有機体的自然観の違いを理解し自分の言葉で表現できるようになる。

【授業計画】
今日の環境問題は、人間と自然の関わり方の問題である。つまり、近代以降、技術の力で自然を自分たちのために利用し破壊し続けて来た結果生じている問題である。自然への関わり方の根底には「自然観」（＝自然の全体的な捉え方）が横たわっている。そうした自然観には人間の生き方が反映されている。したがって、自然との関わり方およびその根底にある自然観を考え直すことが、人間の善い生き方を考えることにもなるのである。今では近代的・自然科学的な自然観が圧倒的にわれわれの生活を支配しているが、西洋哲学の歴史を繙けばそれに対立する自然観が脈々と流れていることが分かる。そこで、この講義では西洋哲学の歴史の中の主な哲学者の思想を「自然」の概念を手がかりにして通覧し、「自然とのよりよい関わり方＝人間のより善い生き方」の本質的要素を考えてみたい。

1．なぜ自然の哲学か
2．神話的自然観－ギリシャ神話におけるプロメテウス観の移り変わり－
3．ソクラテス以前の自然哲学－タレスからアナクサゴラスまで－
4．ソフィストとソクラテス・プラトン
5．アリストテレス
6．デカルト
7．ロマン主義的自然観
8．進化論的自然観
9．カントの美的自然観

【評価方法】
学期末の筆記試験あるいはレポート、授業への参加態度などで総合的に評価する。

【テキスト】
特に指定しない。

【参考文献・資料】
西洋哲学史　上・下（シュヴェーグラー　岩波文庫）
西洋哲学史（岩崎武雄　有斐閣）
哲学の原風景（荻野弘之　NHKライブラリー）
野生の歌が聞こえる（レオポルド　講談社学術文庫）
エマソン論文集　上（エマソン　岩波文庫）

現代社会と倫理

大野波矢登

【授業の概要】
民主主義社会と自由主義社会は人々に多くの権利を保障しているが、それは人々がモラルや義務を守ることを前提としている。現代社会の守るべき倫理と課題について講義する。

【授業の目標】
近現代の倫理学の代表的な理論を理解し、現代社会における倫理問題に関する思考能力と表現能力を身につけること。

【授業計画】
科学技術の進歩によってもたらされた現代の社会問題を、ビデオ等の資料を使って紹介し、その解決のためにわれわれは何をなすべきかを考える。具体的には、以下のようなトピックスを１回または２回の授業で順に取り上げていく。

1．倫理的視点から見た現代の社会問題
2．倫理学の概念と理論に関する若干の考察
3．倫理学理論の応用（道徳的意思決定の方法）
4．社会の安全性と科学技術者の責任（クローン技術はどのように応用されるべきか?）
5．環境倫理学の主張（自然保護は何をめざしているのか?）
6．インターネット時代の倫理（知的財産は誰のものか?）
7．内部告発と社会の浄化（内部告発は行なうべきか?）

【評価方法】
小レポート（３、４回授業時に書いてもらう予定）と期末レポートの成績によって評価する。

【テキスト】
特に指定しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】
入門講義　倫理学の視座（新田孝彦著　世界思想社）
先端技術と人間　21世紀の生命・情報・環境（加藤尚武著　NHKライブラリー）
科学技術社会論の技法（藤垣裕子著　東京大学出版会）

全教養

ジェンダーと社会Ⅰ

國信潤子　星山幸子　佐藤 光　林かぐみ　生江 明

【授業の概要】
この講義は、まずジェンダーとは何かについて解説し、それらが日本社会において、また開発途上国においてどのように現象化しているかを紹介するオムニバス講座である。５名の開発協力の現場で活躍する講師によって日本、トルコ、バングラデシュ、ネパールなどでの現場の開発協力活動を基礎にジェンダー関係の多様性と開発協力におけるジェンダーに敏感な視点とは何かを紹介する。
持続可能な開発、基本的生活ニーズの確保、参加型開発、地域住民の意識化など、近年の開発論の理論的展開をもとにジェンダー関係の変容を考察する。

【授業の目標】
地球規模で格差拡大の見られる先進国と開発途上国の資源分配について考え、その是正を現場での体験をもとに、ジェンダーに敏感な視点で考えられるようになること。

【授業計画】
まず、本講座のコーディネーターである國信（本学教授）がジェンダーとは何か、日本社会におけるジェンダー関係の実態、国際開発におけるジェンダー視点の展開について講じる。次に生江明（日本福祉大学教授）による開発事業の現場からみえる各種統計にみるジェンダー格差の意味を参加型小グループ討議で読み取り、発表、討議する。第三番目の講師は星山幸子（金城学院大学講師）によってトルコ南東部アナトリア地方の綿摘み女性労働者の生活実態とイスラム農村社会にみるジェンダー規範を紹介する。（星山講師は後期のみ）第四番目の講師はアジア保健研修所（AHI）の佐藤光医師および、林かぐみ研究員によって愛知県日進市にある国際的なNGOであるAHIの活動、つまりアジア諸国で実施されている保健リーダーの参加型学習による医療・保健、ジェンダー平等化の促進活動を紹介する。
各講師が３-４回ずつ講義を行うリレー講義である。大半は講義形式である。必要に応じて、小グループ討議、ビデオ視聴なども取り入れる。

【評価方法】
期末のレポート、出席状況、履修態度、感想カード内容などの総合評価による。

【テキスト】
資料配布

【参考文献・資料】
開発とジェンダー（田中他　国際開発事業団出版刊　2001年）
ジェンダーと開発論の形成と展開：経済学のジェンダー化の試み（未来社　松村安子著　2005年）

ジェンダーと社会Ⅱ

中島美幸　山下智恵子

【授業の概要】
ジェンダーの観点から文学作品を分析することによって、<女/男>の規範がどのようにテクストにおりこまれているかを読み解き、さらにテクストがどれほど現実の女と男の生と性を規定してきたかを検証する。
（中島美幸兼任講師）「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。特に近代以降の女性表現については外国の女性文学と比較しつつ読み解いていく。
（山下智恵子兼任講師）現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係を、ジェンダーの視点から検証する。

【授業の目標】
文学を始めとして「表現」を分析する能力を高めることで、身近な社会にさまざまなジェンダー問題が存在することに気づき、自らの生き方を考える機会とする。

【授業計画】
第１回　講義の概要
第２回　幼い頃に出会った表現
第３回　教科書のなかのジェンダー
第４回　映画のなかのジェンダー
第５回　<ことば>とジェンダー
第６回　男性作家のジェンダー
第７回　【山下智恵子先生担当】
第８回　【山下智恵子先生担当】
第９回　表現する女性の困難
第10回　『青鞜』の女たち
第11回　<娘>の表現
第12回　<母>の表現
第13回　<家族像>を描きなおす
第14回　まとめ

＊第７回、第８回以外は中島美幸担当。

【評価方法】
出席状況、毎回の感想、学期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】
なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】
講義の中でその都度紹介する。

女性学・男性学

中島美幸

【授業の概要】
男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

【授業の目標】
男女をめぐる状況は、近年大きく変化してきた。男女に関する従来の思い込みから自由になれるよう、新しい情報に接し、自己決定できるための知識を獲得する。

【授業計画】
第１回　講義概要説明
第２回　恋愛と結婚
第３回　母になるということ、父になるということ
第４回　リプロダクティブ・ヘルス／ライツ
第５回　暴力の根絶
第６回　「男らしさ」からの解放
第７回　女性と労働
第８回　男性と労働
第９回　性別分業の歴史と将来
第10回　男女をめぐる国際比較
第11回　作られる「女らしさ」「男らしさ」
第12回　女性学・男性学の誕生
第13回　多様性とエンパワーメント
第14回　テスト

【評価方法】
毎回の授業の感想と学期末テストで総合的に評価する。

【テキスト】
なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】
講義の中でその都度紹介する。

女性学・男性学

竹信三恵子

【授業の概要】
少子化時代に向けて不可欠といわれるワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）が、戦後の日本社会でなぜ阻害されてきたのかを、新聞記者としての取材の成果やマスメディアの検証を通じて明らかにし、その実現へ向けた方策をさぐる。

【授業の目標】
ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要な働き方の仕組みや男女平等のための法制度、男女がともに働いて子育てできる経済・社会構造のあり方を総合的に身につけさせ、両立できる働き方のため個人が将来をどう設計すればいいかを考えさせる。

【授業計画】
新聞記事、ビデオを多数使って、以下の４点から戦後の企業社会がワーク・ライフ・バランスを軽視するに至った理由と、その軽視が招いた社会の行き詰まり、今後の企業社会のあるべき方向性を示す。
1．戦後の日本の経済政策が男女分業に支えられてきた状況とこれを可能にした社会状況～高度経済成長からバブル崩壊まで
2．ワーク・ライフ・バランスへシフトする海外の変化への日本社会の対応法とその限界～男女雇用機会均等法・男女共同参画社会基本法と「ワーク・ライフ・バランス」
3．正社員の減少と成果主義など不安定な働き方の増加と少子化～95年の新日本型経営と雇用不安
4．仕事と生活を両立できる社会構造の実現～男女が働ける税制と年金制度、福祉・雇用制度とは

【評価方法】
出席日数、授業後のフィードバックシートの提出状況と内容、授業内での質問や意見発表などの貢献度で評価する。

【テキスト】
『家事の値段』とは何か（久場嬉子・竹信三恵子著　岩波ブックレット　1999年）

【参考文献・資料】
ジェンダーから見た新聞のうら・おもて～新聞女性学入門（田中和子・諸橋泰樹著　現代書館　1996年）、ワークシェアリングの実像～雇用の分配か、分断か（竹信三恵子著　岩波書店　2002年）.

大衆文化論

鈴木 亙

【授業の概要】
大衆に愛され、大衆に浸透した文化について構造的に把握するように試みたい。そのためには、戦後若者世代がどのような動向をしたかを確認する。次いで各世代に共通して見られる「消費」というキーワードを軸に、大衆文化を支える消費社会のあり方を探る。最終的には、21世紀というポスト・モダンの社会でどう生きるかに迫りたい。

【授業の目標】
消費社会における戦後若者文化の実態解明を通じて、文化の逆転現象を確認し、人間にとって消費に基づく大衆文化がいかなるものか、その本源に迫りたい。それが今後の各自にとってどういう意味があるかにも触れたい。

【授業計画】
1　戦後世代の特徴からみた大衆文化の諸相を探る
1：1　団塊の世代（1965～1975）
1：2　新人類（1980年代）
1：3　団塊ジュニア（1990年代）
1：4　新人類ジュニア（2005～2015）

2　大衆文化を支える消費社会を分析する
2：1　現状認識
2：2『消費社会の神話と構造』（ボードリヤール）
2：3　人間の本源的な欲求としての消費（G・バタイユ）

3　モダンの脱構築=21世紀の大衆文化との戯れ方を探る

【評価方法】
出席、受講態度、提出物によって総合的に評価する。学習意欲のある、明るく元気な学生の受講を歓迎します。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
必要に応じて、授業中に指示する。

暮らしの法律

辻田芳幸

【授業の概要】
私たちの生活に身近な法律問題について考察する。たとえば、とても有益な発明の結果である製品がよく売れて会社が大儲けした場合、発明者である従業員の見返りはどうあるべきか。ブランドのマークを勝手に付けた商品（いわゆるコピー商品）はどうしていけないのだろうか。またネット上に他人が作成した写真や音楽をアップロードするときの注意点、さらにはネット上で商品を購入するときの注意点などについて解説したい。本講義ではできるだけ具体例を挙げながら話を進めたいと考えている。

【授業の目標】
日常生活がどのような法律問題に関連しているかを分析し、解決の糸口を掴めるようにしたい。

【授業計画】
第１回　導入（情報社会と知的財産・契約）
第２回　特許というシステム
第３回　著作権というシステム
第４回　Webへの写真掲載と肖像権
第５回　インターネット上の名誉毀損
第６回　オンラインショッピングと契約法
第７回　オンラインショッピングと契約法
第８回　インターネット犯罪
第９回　著作権ビジネス
第10～12回　その他の問題点

【評価方法】
出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

文化人類学

三木 誠

【授業の概要】

人間は無意識のうちに自然に生れ育った文化からさまざまな影響を受けている。世界中の社会に見られるさまざまな文化的事象を、できるだけ多くの事例をあげて講義する。

【授業の目標】

人間の文化の多様性を理解するとともに、文化相対主義的な考え方を身につけ、自文化の客観的な把握と、異文化の正当な理解ができるようにする。

【授業計画】

以下のようなテーマで講義を行う。それぞれのテーマを総合的に理解するのに不可欠な概念や用語の解説と、テキスト、プリント等を利用した事例研究が主になる。異文化に対する興味や好奇心を喚起するためにVTR資料なども活用する。

1．文化
2．性別と社会
3．婚姻と家族
4．独特の民族文化
5．宗教と信仰
6．民族と国家

【評価方法】

定期試験により評価する。ノートは持ち込み可とする。

【テキスト】

指定せず。

【参考文献・資料】

興味を持った学生にはそのつど指示する。

比較文化論

星山幸子

【授業の概要】

国際化が進み、世界の文化について触れる機会が多くなってきた。この授業では、さまざまな文化を考察する上で必要な概念について学ぶことによって、世界の文化の特徴について考える。さらに、異文化交流についても講義する。

その際、民族、国家、南北問題、ジェンダー等といったさまざまな視点から文化について考える。とくに、イスラームの文化の事例も授業のなかで取り上げる。

【授業の目標】

私たちの生活には、さまざまなモノや考え方に関する多くの情報があふれている。この授業では、複数の事例をとおして、異文化に対する視座について学習する。さらに、多様な文化や価値観を学ぶことにより自分自身の社会や文化を見つめ直すことを目標とする。

【授業計画】

1．文化と文明
2．文化の理解
3．民族と国家と文化
4．ナショナリズムと文化
5．イスラームの文化
6．イスラームとジェンダー
7．トルコの農村の暮らしと文化
8．南北問題とモノの国際化
9．食の文化
10．グローバル化とローカル化
11．異文化交流

【評価方法】

出席、授業中の提出物、討論と質疑応答　20%
期末試験　30%
期末レポート　50%

【テキスト】

テキストは使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業のなかで参考文献リストを配布する。また、ビデオなどの視聴覚資料を使用する。

比較文化論

文 嬉眞

【授業の概要】

国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

【授業の目標】

外国人が日本文化を見て表現したことを分析し、それによって「日本文化」を再認識することを目標とする。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1．異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2．異文化交流史における本講義の位置付け
3．前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4．近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5．異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1．出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2．学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

国際政治論

瀬戸裕之

【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対立の時代から、相互依存の時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域に関する紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的事象にふれながら講義する。

【授業の目標】

国際関係の基本概念や歴史的展開を理解するとともに、戦争と平和の問題を日本との関係も含めて理解すること。

【授業計画】

1．国際関係の基本概念
2．国際関係理論
3．冷戦構造の展開と終焉
4．国際経済と地域統合
5．国連の安全保障体制
6．地域紛争とテロリズム
7．アジアにおける日本の戦争
8．戦後日本と安全保障
9．アジアと日本の国際協力

【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受験しないものは、期末試験の受験資格を失う。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

国際関係学講義　新版（原彬久編　有斐閣）

国際交流論

松本一子

【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNGOやNPOの活躍がめざましい。国際交流の歴史を概観しながら、主として日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のあり方について講義する。

【授業の目標】

地球市民としての意識を育むことを目標とする。

【授業計画】

1．国際交流とは
2．国際交流の歴史
3．国際交流活動の現状
　・自治体と国際交流
　・地域の国際化と多文化共生
　・地球市民教育
　・ネットワークの形成と活用
4．実践国際交流
　・先進的組織運営のさまざまな事例

【評価方法】

レポート及び平常点で評価する

【テキスト】

オリジナル教材

【参考文献・資料】

草の根の国際交流と国際協力（毛受敏浩編著　明石書店　2003年）
国際交流の組織運営とネットワーク（榎田勝利編著　明石書店　2004年）

初めての外国語2（フランス語）

清水ベアトリックス

【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの旅に行ってみませんか？実際の旅にも役に立つフランス語を覚えるような内容を盛り込んでいるプリント、ビデオドキュメンタリーなどを使って、会話とコミュニケーションを中心にフランス語を楽しく学びます。

【授業の目標】

半年のコースなので、分かりやすいパターンを使って、日本語と英語と比較しながら、フランス語の特徴を理解し、フランス語に興味を持つようになります。

【授業計画】

毎回、担当教員（フランス人）が文法と語彙のメインポイントをしっかり説明した後、楽しい会話の練習をしたいと思います。様々なシチュエーションによる必要な単語や表現を覚えて、身に付くまでクラス全員と一緒に練習を繰り返して、喫茶店での注文の仕方、メトロの乗り方、道の尋ね方、電話のかけ方、デパートの使い方、お土産の買い方などを学びます。

【評価方法】

定期試験を重視するが、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

プリント

初めての外国語1（ドイツ語）

藤井たぎる

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ドイツの文化への関心を高める。ヨーロッパの中でも独特なものを持つドイツ・オーストリアの歴史・文化についても学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業の目標】

ドイツ語の文法についての知識を増やすことが目的ではない。使えるドイツ語、通じるドイツ語を習得することが目的である。

【授業計画】

授業はパートナー練習を中心にして、現在（および未来）のことがらに関する表現練習を行います。
学習する主な項目は、以下のとおりです。
（1）自己紹介、他人の紹介の練習
（2）数字に関する練習（ビンゴ・ゲームつき）
（3）冠詞の用法と表現練習
（4）名詞・人称代名詞の用法と表現練習
（5）動詞・助動詞の用法と表現練習
その他、ビデオを使ってヒアリング、場面理解、会話理解などの練習をします。積極的に参加して下さい。ドイツ語の知識を増やすことがねらいではありません。使いものにならないドイツ語ならいくら知識があっても宝の持ち腐れなのです。使いものになるドイツ語をマスターしましょう。上手な発音である必要はさらさらありませんが、理解される発音でないと意味がありません。きちんと正確に発音できる言葉が増えていくにつれて、ヒアリング能力も確実に向上します。
また、ドイツ・オーストリアの歴史や文化についても、学生の関心があれば、いくつかのビデオを素材にして紹介します。

【評価方法】

試験の成績と受講生の授業中の積極性の両面から総合的に評価するが、基本的には期末試験の点数を重視する。

【テキスト】

プリント配布。

初めての外国語3（ロシア語）

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ロシア語への関心を高める。ヨーロッパとアジアにまたがるロシアの風土と文化について学び、その歴史や日本とのかかわりなども理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業の目標】

1．キリル文字の読み方の習得
2．名詞の性、形容詞の基本変化の理解
3．日常会話基礎表現の習得

【授業計画】

みなさん、知っていますか?日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるところは本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです!「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか?映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしていてくださいね。
初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を憶え、発音を憶え、そのあとは辞書で遊び（?）ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人!
辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。
a．キリル文字と発音
b．大きな声であいさつしよう
c．買い物に行ってみよう
d．乗り物に乗ろう
f．おなかがすいたら…
g．自分について話してみよう

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典（白水社）

初めての外国語４（スペイン語）

木下まりあ

【授業の概要】

「初めての外国語４（スペイン語）」は、スペイン語を始めて学ぶ人のための入門的な講義であり、スペイン語の基礎知識の習得を目指します。

【授業の目標】

・スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、スペイン語への関心を高める。
・世界でも屈指の言語圏を持つスペインの歴史と文化的影響について学び、独特の風土について理解し、認識を深める。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1．スペイン語とスペイン語圏の世界
2．スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
3．挨拶、自己紹介の仕方
4．名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5．形容詞（性数の一致）
6．人称代名詞、ser動詞とestar動詞
7．数詞と時刻の表現
8．スペイン語の手紙の書き方
9．旅行に役立つスペイン語会話
10．まとめ

【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示。

全教養

日本と外国の歴史２（郷土）

秦 達之

【授業の概要】

東海地方が戦国統一の舞台になったのは周知の事実だが、その後の歴史については意外に知られていない。東西の文化を巧みに吸収した近世・近代について、一見地味だが、重要な事件や人物を取上げる。

【授業の目標】

受験時の暗記的歴史から脱皮し、考え、愉しみ、哀しみつつ、生きるための歴史を目指したい。

【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ・内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものにしたい。

内容は、「尾張のキリシタンたち」「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車（だし）」「渡辺崋山とその周辺」「戦争と女性」「モルフィと廃娼運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」「尾張藩草莽（そうもう）隊」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてヴィデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている（受講者もぜひご協力を）。

【評価方法】

出席状況（特に厳しいので注意！）と単位認定試験の成績などによる。

【参考文献・資料】

愛知県の百年（塩沢君夫・斎藤勇・近藤哲生共著　山川出版社）
愛知県の歴史（三鬼清一郎編　山川出版社）
東海・近代へのまなざし（都築亨・大嶋光義編　中部日本教育文化会）

日本と外国の歴史１（日本）

岩口和正

【授業の概要】

社会のもっとも基礎的な構造のひとつである家族や親族関係は、時代とともに大きく変貌してきました。そして、このような変貌こそが歴史の最も大きな変動要因のひとつとなっているものです。そこで、日本歴史における家族や親族関係の特徴・変遷の意味について、東アジア諸国のそれとも比較しながら、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

【授業の目標】

（1）人間の歴史が日々のたえまない暮らしの中からつくられることを理解すること
（2）家族や親族をめぐりあまり変わらない歴史と大きく変わってきた歴史を学ぶこと
（3）歴史史料に親しみ、その扱い方について習熟すること

【授業計画】

（1）氏・名字・姓の歴史
（2）戸と戸籍
（3）イエとヤケ
（4）イエの成立と展開１　貴族社会とイエ
（5）イエの成立と展開２　開発領主とイエ
（6）家族と親族<日本の親族体系の特徴>
（7）婚姻と家族・親族の諸形態１<妻問婚の特徴>
（8）婚姻と家族・親族の諸形態２<婿取婚と嫁取婚の成立>
（9）前近代日本社会における離婚法と密懐法の展開
（10）明治民法の成立と日本近代の「家制度」

【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。

【テキスト】

使用しません

【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

日本と外国の歴史３（東洋）

土屋 洋

【授業の概要】

東洋、特に中国を中心にした東アジア地域やその歴史を概説し、通史を学ぶ。日本は中国や朝鮮半島と歴史的・文化的に関係が深く、相互に影響を強く受けていることについても認識を深めたい。

【授業の目標】

たんに通史を学ぶというだけではなく、「日本」にいる我々が「アジア」ないし「中国」の歴史を学ぶとはどういうことなのかを考えたい。「アジア」の歴史への接し方を理解することが目標となる。

【授業計画】

1．期間計画指示・授業内容の説明
2．歴史学とは何か?：歴史リテラシーを身につけよう
3．「アジア」を考えるということ（1）
4．「アジア」を考えるということ（2）
5．「中国」の歴史を学ぶとは?
6．中国近現代史への眼差し：歴史観の諸相
7．中国の〈近代〉：「中国」の創生
8．中国の〈近代〉と日本
9．近代日本の中国観
10．日中戦争を考える：特に南京事件をめぐって
11．現代中国と日本：歴史認識問題をめぐって
12．現代中国を考える：特に中国の「民主」をめぐって
13．21世紀の日本、中国、東アジア

【評価方法】

中間レポートと期末テスト（人数によってはレポート）、および随時課す感想・意見等の提出状況によって評価する。

【テキスト】

基本的に毎回レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に提示する。

日本と外国の歴史４（西洋）

北村陽子

【授業の概要】
ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心にした西洋の歴史を概説する。近代以降の日本にも影響を与えた「国民国家」が形成される過程を追い、「国民意識」とは何かについて理解を深める。

【授業の目標】
他者との線引きを行い、異質なものを排除するナショナリズムがどのように発展し、何によって補強されたのか。この点をナショナリズム発祥の地ヨーロッパの歴史を学ぶことで理解すると同時に、その危険性にも留意し、現代社会を建設的に分析する視点をもつようになってほしい。

【授業計画】
1．はじめに―国民国家とは何か
2．近代国民アイデンティティ形成の前段階
（1）「個人」の覚醒：ルネサンス
（2）「他者」の認識：大航海時代
（3）普遍性の否定：宗教改革
3．イギリスの国民国家
（1）イギリス国教会の成立と絶対主義国家
（2）二つの市民革命―「イングランド」から「イギリス」へ
（3）パクス・ブリタニカージェントルマンが支える「大英帝国」の時代
4．アメリカ合衆国の国民国家
（1）対イギリス独立革命
（2）フロンティア開拓時代の「他者」認識
（3）奴隷制と南北戦争
5．フランスの国民国家
（1）ルイ14世治下における絶対主義の確立
（2）フランス革命とナポレオン
（3）「国民」の創出―「単一にして不可分のフランス」成立
6．ドイツの国民国家
（1）三十年戦争とプロイセン・オーストリアの絶対主義
（2）対ナポレオン解放戦争と諸国民の春
（3）ビスマルクによる「ドイツ」統一
7．おわりに―20世紀のナショナリズムと国民国家

【評価方法】
成績評価は、出席と学期末テストにより綜合的に行う。

【テキスト】
とくに定めない。

【参考文献・資料】
○国民国家とナショナリズム（谷川稔　山川出版社）
○国民国家を問う（歴史学研究会編　青木書店）
その他講義中に指示する。

東アジアの生活と文化

楊 衛平

【授業の概要】
日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

【授業の目標】
中国の多民族の構成からそれぞれの生活・民俗・風習を中心に取り上げ、中国の歴史・宗教・食・医学・音楽などについての認識を深め、伝統的な中国文化を理解していくことは目標とする。

【授業計画】
1．中国の民族構成
2．儒・仏・道とは
3．中国の年中行事
4．医食同源食文化
5．東西医学の比較
6．気文化と気功術
7．飲茶文化と歴史
8．伝統武術と映画
9．少数民族の音楽
10．少数民族の服装
11．中国人の百家姓
12．中国の名勝物語
13．中国人の考え方

【評価方法】
出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考文献・資料】
中国人・文字・暮らし（李順然　東方書店）
中国仏・道・儒教史話（劉克蘇　河北大学出版社）
中国伝統文化導論（劉栄興　河北大学出版社）

地域コミュニティ論

安藤純子

【授業の概要】
現代社会は都市化が進み、地域社会と人々のかかわりが希薄になっている。人々の生活にとって地域社会の果す役割と問題点について具体例にふれて講義する。

【授業の目標】
今日の地域社会に関する行政上のさまざまな政策や制度を通じて、私たちの生活がいかに地域社会と深く関わっているかを理解することを目的とする。

【授業計画】
1　イントロダクション
2　地域社会の歴史と構造１
3　地域社会の歴史と構造２
4　地域社会の歴史と構造３
5　地方分権とコミュニティ１
6　地方分権とコミュニティ２
7　コミュニティとネットワーキング１
8　コミュニティとネットワーキング２
9　コミュニティ活動の実践例１
10　コミュニティ活動の実践例２
12　まとめ

【評価方法】
定期試験と出席率など総合的に評価する。

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
授業中に適宜紹介する。

ビジネスの世界

伊藤義明

【授業の概要】
会社の組織やマネジメント、人の働き方、法律を含む社会のあり方など「ビジネスの世界」は21世紀に入り大きく変化しつつあります。
“Free, Fair, Global”の３つのキーワードをもちいて、その変化の全体像を具体的実例を挙げながら学習します。特にFinancial Literacyの重要性も学習します。
第一区分では“ビジネスを取り巻く環境変化”を、第二区分では“環境変化に適応する企業組織”を、第三区分では現在“社会から求められる企業経営”について学習します。
（Q&Aを重視しますので学生の積極的な発言を期待します。）

【授業の目標】
専門分野を問わず、大学生として理解しておくべき経済社会のパラダイムシフトを感覚的にも理論的にも理解出来るレベルを目指す。

【授業計画】
第１講　Introduction：ビジネスモデルと日本の国際競争力
第２講　企業活動の環境変化～
第３講　～　Free, Fair、Global－規制緩和と自己責任
第４講　制度変革と企業活動～
第５講　～　企業を取り巻く社会システムの変化
第６講　～　商法改正、環境、人口減少社会と労働市場、など
第７講　金融・資本市場の進化とFinancial Literacy
第８講　市場（金融・株式・外国為替マーケット）について
第９講　企業の組織
第10講　ビジネスとは何か？　（その法的要件）
第11講　会社とは何か？　（その法的要件）
第12講　組織の分解と再編（ITと生産性）、財務の重要性
第13講　企業のマネジメント

【評価方法】
学期末テストの成績で評価（出席率は成績に反映させない）

【テキスト】
「ビジネスの世界」（伊藤義明著　栄進堂書店）

【参考文献・資料】
特になし、新聞を読むことが望ましい。

健康とくすり

永井愼一

【授業の概要】

現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため、くすりの助けがなければ健康の維持が難しい。病気とくすりについて正しい知識を学び、くすりの効き方と副作用について理解を深める。

【授業の目標】

病気は、主に生体内の受容体や酵素が過剰に反応するために発症し、くすりの多くは、これらの過剰な働きを抑制することで効くことを学ぶ。

【授業計画】

第１回	受講生に、全授業で学ぶ内容をまとめた［病気とくすりについて］の知識調査を実施後、医薬品業界と最近の傾向、新薬開発にかかわる動物実験と治験について解説
第２～３回	くすりの基礎知識として、投与法と生体内運命、受容体拮抗薬と酵素阻害薬、危険なくすりの飲み合わせ、医薬分業、徐放薬など２回にわたり解説
第４回	くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でわかりやすく教える
第５～６回	近年発売されたピルなど、医師の処方を必要とする生活改善薬をはじめ、繁用される一般用医薬品（OTC）と医者が処方する医療用医薬品を薬効別に解説
第７回	頭痛、生理痛の原因物質と治療薬のメカニズム
第８回	アトピー性皮膚炎、花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方
第９回	病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法
第10～12回	生活習慣病のがん、糖尿病などをはじめ、エイズの発症原因とくすりが効くしくみを解説

【評価方法】

レポートの内容と、出席した授業時間数で評価する。

【テキスト】

プリントを毎回配布し講義する。

【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介する。

全教養

メンタルヘルス

太田龍朗

【授業の概要】

今や子供から大人まで、多くの人々が心を病んでいるといわれている。

心の病は少年期や青年期など世代に特有のものから、時代や社会に要因のあるものもある。臨床的事例をふまえてメンタルヘルスを考える。

【授業の目標】

心の健康についていろいろな病を通して考え、身体の病気と同じように、ごく身近なものであることを理解しつつ、正しい知識を修得するとともに、全人的なとりくみの重要性が分かるようにする。

【授業計画】

概論：	第１回	心の病：その歴史
	第２回	精神症状のとらえ方
	第３回	精神障害の種類と分類
	第４回	ライフサイクルと心：性格、発達と加齢
各論：	第５回	青年期、思春期にはじまる統合失調症（分裂病）
	第６回	気分・感情の障害としての躁うつ病（気分障害）
	第７回	ストレスとその反応：神経症と心身症
	第８回	やまらない、止まらない：薬物依存
	第９回	眠りと食と性の偏り：睡眠、摂食、性障害
	第10回	大人とは異なる児童・小児の障害
	第11回	老人と高齢者の病：器質性障害
総論：	第12回	病を前にして：治療、面接、カウンセリング
	第13～14回	心の健康に向けて：地域社会、制度と活動
	第15回	期末試験

【評価方法】

おもに期末試験の成績とレポート提出によって総合的に評価する。

【テキスト】

改定　大学生のための精神医学（高橋俊彦・近藤三男編　岩崎学術出版社）

【参考文献・資料】

精神を病むということ（秋元波留夫・上田敏著　医学書院）
図解雑学　心の病と精神医学（景山任佐著　ナツメ社）

メンタルヘルス

長谷川純子

【授業の概要】

複雑な現代社会において、心の病はもはや人ごとではない。なぜ心は病んでいくのだろうか。この授業では、心理学・医学モデルや事例などをもとに、心に影響を及ぼす様々な要因について検討し、心の健康について考える。

【授業の目標】

心の問題について、大学生の教養として必要と思われるレベルの知識習得を目指す。

【授業計画】

1．心の構造～心をどう捉えるか？
2．心の発達
3．脳と心
4．心の病とは？
5．心の病のいろいろ
6．ストレスのメカニズムとコーピング

【評価方法】

出席状況、授業態度、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

なし。プリント配布。

【参考文献・資料】

講義初日に紹介する。

ライフサイクルと健康

松田秀子

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて講義する。

【授業の目標】

ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて考える。

【授業計画】

1．ライフサイクルと健康とは
2．姿勢
3．プロポーション（理想と現実）
4．肥満とやせ
5．隠れ肥満
6．骨密度・体脂肪測定
7．自分のからだを判定しよう
8．体脂肪を正しく落とす方法
9．筋肉と運動神経
10．健康づくりのための運動
11．Walking
12．性への理解
13．学生生活と健康

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。
必要に応じて参考資料を配付する。

スポーツ科学

杉山 和　山本啓子　松田秀子　門間 博　寺田邦昭　丸山治美

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・金曜日を除いて、半期間に２種目を行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	２限	杉山	バドミントン・卓球
	３限	杉山	バレーボール・卓球
	４限	杉山	バレーボール・卓球
火曜日	２限	杉山	バレーボール・卓球
	３限	山本	卓球・バレーボール
	４限	山本	卓球・バレーボール
水曜日	１限	門間	バドミントン・卓球
	２限	門間	バドミントン・卓球
	３限	門間	バレーボール・バスケットボール
	４限	門間	バレーボール・バスケットボール
木曜日	１限	寺田	バドミントン・卓球
	２限	寺田	スキルトレーニング・バドミントン
	３限	山本	卓球・バレーボール
	４限	山本	卓球・バレーボール
金曜日	２限	松田	バドミントン
	３限	松田	バドミントン
	３限	丸山	エアロビクス＆フィットネス
	４限	松田	バドミントン
	４限	丸山	エアロビクス＆フィットネス

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

杉山 和

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕（月曜２限前半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットとシャトルに慣れる
3.　シャトルをコントロールする
4.　ルールとマナーを身につける
5～8．ミニゲーム

〔バレーボール〕（月曜３限前半・月曜４限前半・火曜２限前半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　パスワーク（オーバーハンド・アンダーハンド）
3.　サーブとレシーブ（サーブレシーブ・パスアタックレシーブ）
4.　トス・アタック・ブロック
（アタックカバー・ブロックフォロー）
5～7．ゲームと審判（ルール）、テスト（スキル）

〔卓球〕（月曜２限後半・月曜３限後半・月曜４限後半・火曜２限後半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットのグリップと打法
3.　フォアハンド・バックハンド
（ロング・ショート・カット・スマッシュ）
4.　サービスとレシーブ
5.　シングルスゲーム（審判）
6～7．ダブルスゲーム（審判とスコア）、テスト（スキル）

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

山本啓子

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔卓球〕（火曜３限前半・火曜４限前半・木曜３限前半・木曜４限前半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットのグリップと打法
3.　フォアハンド・バックハンド
（ロング・ショート・カット・スマッシュ）
4.　サービスとレシーブ
5.　シングルスゲーム（審判）
6～7．ダブルスゲーム（審判とスコア）、テスト（スキル）

〔バレーボール〕（火曜３限後半・火曜４限後半・木曜３限後半・木曜４限後半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　パスワーク（オーバーハンド・アンダーハンド）
3.　サーブとレシーブ（サーブレシーブ・パスアタックレシーブ）
4.　トス・アタック・ブロック
（アタックカバー・ブロックフォロー）
5～7．ゲームと審判（ルール）、テスト（スキル）

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

松田秀子

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕（金曜２限・金曜３限・金曜４限）
1．ガイダンス
2．記録への挑戦（打ち続けよう）
3．歴史的ゲームの追体験
4．用具の特徴（貴重な水鳥の羽根）
5．フォーム作り（格好良いフォームで打とう）
6．攻撃的なショット（初速はどれくらい?）
7．守備的なショット
8．基本の戦術
9．ダブルスのフォーメーション
10．世界のバドミントンプレーヤーを観よう（VTR）
11．ゲームの特徴（心拍数、運動強度はどれくらい?）
12．ゲームのルールとマナーを身につけよう
13．ハーフコート・ミニゲーム
14．ダブルスゲーム
15．スキルテスト

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

門間 博

【授業の概要】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業の目標】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】
・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕（水曜1限前半・水曜2限前半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットとシャトルに慣れる
3.　シャトルをコントロールする
4.　ルールとマナーを身につける
5～7．ミニゲーム

〔卓球〕（水曜1限後半・水曜2限後半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットのグリップと打法
3.　フォアハンド・バックハンド
（ロング・ショート・カット・スマッシュ）
4.　サービスとレシーブ
5.　シングルスゲーム（審判）
6～7．ダブルスゲーム（審判とスコア）、テスト（スキル）

〔バレーボール〕（水曜3限前半・水曜4限前半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　パスワーク（オーバーハンド・アンダーハンド）
3.　サーブとレシーブ（サーブレシーブ・パスアタックレシーブ）
4.　トス・アタック・ブロック
（アタックカバー・ブロックフォロー）
5～7．ゲームと審判（ルール）、テスト（スキル）

〔バスケットボール〕（水曜3限後半・水曜4限後半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ボールに慣れる
3.　基本的な個人技能の確認
4.　チームでの基本的な練習
5.　ルールとマナーを身につける
6～7．ゲーム・スキルテスト

【評価方法】
70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

全教養

スポーツ科学

丸山治美

【授業の概要】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業の目標】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】
・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
・この授業では、1．エアロビクスの特性・効果を理解する　2．エアロビクスを通して運動する楽しさ・表現する楽しさを味わう　3．自分の身体への感覚を敏感にし、自分の身体と対話し、自分の身体をよく知る　の3点を目標に行う。

〔エアロビクス＆フィットネス〕（金曜3限・金曜4限）
1.　ガイダンス
2.　エアロビクスとは何か　その理論と特性
3.　目標心拍数の設定と主観的運動強度
4.　筋力トレーニング　筋肉と骨格
5～6．ボールを使って
7.　体脂肪
8.　ウェイトコントロール
9.　骨を強くする
10～15．エアロビック ダンス パフォーマンス
動きづくり練習　発表・相互評価

【評価方法】
70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

寺田邦昭

【授業の概要】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業の目標】
スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】
・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕（木曜1限前半・木曜2限後半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットとシャトルに慣れる
3.　シャトルをコントロールする
4.　ルールとマナーを身につける
5～8．シングルスゲーム・ダブルスゲーム（スコア記録）

〔卓球〕（木曜1限後半）
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットのグリップと打法
3.　フォアハンド・バックハンド
（ロング・ショート・カット・スマッシュ）
4.　サービスとレシーブ
5～7．シングルスゲーム・ダブルスゲーム（スコア記録）

〔スキルトレーニング〕（木曜2限前半）
オールラウンドプレーヤーを目指し、下記のスポーツスキルを週毎に種目を変えながら実施し、その基本的な動きのコツの獲得を目指す。
1.　ガイダンス
2～4．主にアウトドア種目（フライングディスク、ソフトボール、ゴルフ、サッカー）等を用いての動き作り
5～8．主にインドア種目（卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール）等を用いての動き作り

【評価方法】
70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

杉山 和　山本啓子　松田秀子　門間 博　寺田邦昭　蛭田秀一

【授業の概要】
現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】
運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】
・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	2限	杉山	バレーボール
	3限	杉山	バドミントン
	4限	杉山	バドミントン
火曜日	2限	杉山	バレーボール
	3限	山本	バドミントン
	4限	山本	バドミントン
水曜日	1限	門間	テニス
	2限	門間	テニス
	3限	門間	テニス
	4限	門間	テニス
木曜日	1限	寺田	バドミントン
	2限	寺田	ニュースポーツ
	3限	山本	バドミントン
	4限	山本	バドミントン
金曜日	1限	蛭田	卓球
	2限	松田	テニス・ニュースポーツ
	2限	蛭田	卓球
	3限	松田	テニス・ニュースポーツ
	4限	松田	テニス・ニュースポーツ

【評価方法】
70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

杉山 和

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バレーボール〕（月曜２限・火曜２限）

1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
3.　サーブの種類と打ち方
4～6.　パス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
7～15.　ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム

〔バドミントン〕（月曜３限・月曜４限）

1.　ガイダンス、競技の概略
2～3.　ラケットワーク
4.　ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5.　ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6.　ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7～15.　ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

山本啓子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕（火曜３限・火曜４限・木曜３限・木曜４限）

1.　ガイダンス
2.　歴史的ゲームの追体験（シングルスゲーム）
3.　ラケットワーク
4.　ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5.　ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6.　ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7.　ゲームの進め方、ルール説明
8.　ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
9～15.　ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

松田秀子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕（金曜２限前半・金曜３限前半・金曜４限前半）

1.　ガイダンス
2.　ラケットとボールに慣れる
3.　ボールをコントロールする
4.　サービスを練習する
5.　ルールとマナーを身につける
6～8.　ミニゲーム・スキルテスト

〔ニュースポーツ〕（金曜２限後半・金曜３限後半・金曜４限後半）

1.　ガイダンス
2～8.　ユニホッケー
　　ペタンク
　　ソフトバレーボール
　　ミニテニス

上記のニュースポーツを実践する。

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

門間 博

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕

1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットとボールに慣れる（グリップ、スタンス）
3.　グランドストローク（フォアハンドを中心に）
4.　グランドストローク（バックハンドを中心に）
5.　サービス、レシーブ
6.　ボレー、スマッシュ
7.　ゲームの進め方、ルールとマナー
8.　ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
9～15.　ダブルスゲーム、スキルテスト

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

寺田邦昭

【授業の概要】
現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】
運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】
・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・ニュースポーツについて、２～８週までのうち雨天の場合には９～12週に予定しているインドア種目に変更して実施する。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕（木曜１限）
1.　ガイダンス
2.　歴史的ゲームの追体験（シングルスゲーム）
3.　ラケットワーク
4.　ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5.　ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6.　ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7.　ゲームの進め方、ルール説明
8.　ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
9～15.　ダブルスゲーム

〔ニュースポーツ〕（木曜２限）
1.　ガイダンス
2～3.　フライングディスク
4～6.　ペタンク、ターゲット・バード・ゴルフ
7～10.　アーチェリー、インディアカ、ミニテニス
11～14.　ダーツ、ソフトテニス、ソフトバレー
15.　グループによるニュー・スポーツの創作と発表

【評価方法】
70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

蛭田秀一

【授業の概要】
現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】
運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】
・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔卓球〕（金曜１限・金曜２限）
1.　ガイダンス
2.　用具の使用法と安全に関する注意点の説明、連続ラリー、簡易ゲーム
3～6.　卓球における各種基本打法の説明と学習（ルール、姿勢、位置どり、グリップ、スウィング、フットワークなど）、サービスとレシーブの学習、簡易ゲーム
7～11.　シングルス・ゲームの進め方の説明、打球技術の定着を図るための多人数との対戦、個別指導
12～13.　一流選手の打球技術に関するビデオ学習、ダブルス・ゲームの進め方の説明と実施
14.　実技テスト、まとめ

上記は標準的な実施計画であり、受講者の技能レベルに応じて順序や時間配分を変更する場合がある。

【評価方法】
70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

全教養

ボランティア論

矢島洋子

【授業の概要】
ボランティアは今や新しい時代を生きて行くための行動様式のひとつになっている。ボランティア先進国アメリカの実例にふれながら、ボランティアの成り立ち、その存在意義や方法論などについて講義する。

【授業の目標】
様々な困難・不平等が存在する現代社会で実践されているボランティア活動を学び、ボランティアが社会を、そして自らを変えることを理解する。

【授業計画】
1．ボランティアの思想
2．イギリスのボランティア
3．アメリカのボランティア（1）
4．アメリカのボランティア（2）
5．アメリカのボランティア（3）
6．日本のボランティアの変遷
7．特定非営利活動促進法（NPO法）
8．日本のボランティア活動（1）災害とボランティア
9．日本のボランティア活動（2）高齢者とボランティア
10．日本のボランティア活動（3）障害者とボランティア
11．日本のボランティア活動（4）難民とボランティア
12．日本のボランティア活動（5）開発とボランティア
13．ボランティアの課題

ビデオの活用や当事者による講義も予定している。ボランティアを具体的に理解できる授業を心がけたい。

【評価方法】
出席、授業中の提出物　30%。
期末レポート　70%。

【テキスト】
使用しない。適宜、資料などを配布する。

【参考文献・資料】
○ボランティア学を学ぶ人のために（内海成治他編　世界思想社）
○フィランソロピーの思想：NPOとボランティア
（林雄二郎他　日本経済評論社）他

手話・点字

堀 正和

【授業の概要】
手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

【授業の目標】
手話及び点字の成り立ちがわかり、手話の簡単な日常会話の読み取りや表現ができるようになり、点字のカナ・数字・アルファベットの読み書きができるようになる。

【授業計画】
1．視覚障害概要
2．視覚障害者のコミュニケーション方法
3．点字の概要
4．点字演習
5．聴覚障害概要
6．聴覚障害者のコミュニケーション方法
7．手話の概要
8．手話演習

【評価方法】
点字や手話の読み取りや表現のテストにより行う。

【テキスト】
点訳のしおり・点字器付き（日本点字図書館）及び
手話教室入門（全日本ろうあ連盟出版局）

スポーツ文化論

松田秀子

【授業の概要】
スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業の目標】
スポーツが文化であることを論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】
1．スポーツは遊びから出発する
2．スポーツは技能を追究する
3．スポーツは競争と協力の両面をもつ
4．スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5．スポーツは自己実現を志向させる
6．スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7．スポーツには富と閑暇が関係する
8．スポーツには教育が関係する
9．スポーツには政治が関係する
10．スポーツには科学が関係する
11．スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
12．スポーツには民族性が反映される
13．スポーツには商業主義がつきまとう
14．スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
15．スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

【評価方法】
出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】
使用せず。
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

人類と宇宙

安野志津子

【授業の概要】
宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえつつ、人類にとっての宇宙についても考察する。

【授業の目標】
学生のものの見方が、少しでも科学的に考えられるようにしたい。一方楽しい授業でもありたい。

【授業計画】
－地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために－
1．宇宙観の変遷
2．宇宙を観測する手段
3．太陽系を探る
4．星の世界
5．銀河から宇宙へ
6．宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

【評価方法】
基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
（1）宇宙論のすべて（池内了　新書館）
（2）星と宇宙の物理学読本（並木雅俊　丸善）
（3）見えてきた宇宙の神秘（野本陽代　草思社）
（4）太陽　－その素顔と地球環境との関わり－（ケネス.R.ラング著　渡辺尭・桜井邦朋訳　シュプリンガー・フェアラーク東京）

生き物の世界

服部一三

【授業の概要】
地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業の目標】
地球という太陽系第３惑星に住んでいる種々な動物・植物と人間との関わりを理解するとともに、特に、植物との関わりを中心として、今後の関わり方についても理解を得られるようにする。

【授業計画】
第１回　1．生物界の分類
　　2．生物の進化
第２－６回　3．植物と人の関わり
　　1）農耕の始まり
　　2）世界の農耕文化
　　3）日本農耕文化の起源と発展
　　4．人が手を加えた植物一作物
　　1）作物とは?
　　2）世界の作物の起源
第７－８回　5．作物改良の原理と方法
　　1）作物改良の原理
　　（1）メンデルの法則一遺伝学
第９回　　（2）遺伝の物質的基礎
第10回　　2）作物の改良方法
第11－12回　6．バイオテクノロジー
　　1）バイオテクノロジーとは?
　　2）作物の改良とバイオテクノロジー
　　（1）細胞・組織培養
　　（2）遺伝子操作
　　（3）バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか?
　　（1）倫理
　　（2）安全性

【評価方法】
受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】
下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。
生物的自然と人間（平田豊著　開成出版）

生命の科学

林 博司

【授業の概要】
生命の誕生、生命の維持、生体を構成する物質の特徴、遺伝の仕組み、遺伝子変異のメカニズムと機能などについてヒトの身体を例に講義する。

【授業の目標】
生命現象の多くの側面が、物理学と化学の言葉で説明できることを理解し、生命の科学が、人類の幸福にどう役立っているかを学ぶ。

【授業計画】
1．命の惑星地球
2．命の理解に必要な物理と化学のエッセンス
3．命を支える器官
4．器官を作る細胞。
5．細胞の仕組み
6．分子機械としての生命
7．分子機械の設計図：遺伝子
8．遺伝子の働き
9．遺伝子を操作する
10．細胞を操作する
11．器官を操作する
12．遺伝子と環境のかかわり

以上12講を実験・映像資料も用いておこなう。

【評価方法】
出席点と小テストの得点で総合的に評価する

【テキスト】
指定しない

【参考文献・資料】
講義中に適宜触れる

環境保護論

田部一史

【授業の概要】
現在、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれをとりまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

【授業の目標】
1．さまざまな地球環境問題の現状とその原因についての理解を深める。
2．環境汚染物質が生命と健康へ与える影響の大きさについて学ぶ。
3．人の手による生態系破壊の現状を知り、環境保護の方策を考える。

【授業計画】
第1講　序論：自然に学ぶ
第2講　森林破壊：森はいのちの母である
第3講　砂漠化：人為による沙漠の拡大
第4講　地球温暖化と異常気象：人間がつくり出した地球の異常
第5講　大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
第6講　フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
第7講　いのちのしくみ1・細胞レベル：遺伝子とタンパク質
第8講　いのちのしくみ2・個体レベル：ホメオスタシスと生体防御
第9講　環境汚染とがん：自然が想定しなかった物質の氾濫
第10講　環境ホルモン：内分泌攪乱物質はいのちのつながりを絶つ
第11講　生態系のバランス：壊れやすい自然のしくみ
第12講　生命の多様性：人の手による大量絶滅
第13講　美しい自然を守ろう：循環型社会をめざして

【評価方法】
出席状況、中間レポートおよび期末試験の成績によって総合的に評価する。（出席20%、レポート30%、試験50%）

【テキスト】
使用せず。毎回講義資料プリントを配布する。

【参考文献・資料】
授業中に指示する。

全教養

暮らしの化学

永井愼一

【授業の概要】
私たちの生命や健康で豊かな暮らしは化学の力で支えられている。日々の暮らしにかかわる物質や現象を、事例をあげながら化学の目で学ぶ。

【授業の目標】
身じかな物質の性質や現象の違いを、物質の顔というべき化学構造式を眺めながら理解を深める。

【授業計画】
生命と健康の化学、豊かな暮らしの化学、身近な現象の化学、環境・資源・エネルギーの化学、日用雑貨の化学、ホルモンと生体の化学、くすりと作用の化学、毒とくすりの化学、生老病死の化学などの分野からトピックスをとりあげ、図やイラストを多用して、これはなぜ？どうして？という［素朴な疑問］に答える。またテレビコマーシャルを賑わしたヒット商品のカラクリを化学的に解説、化学のおもしろさや楽しさを学ぶとともに、病院・診療所でうける最先端医療についても紹介する。

【評価方法】
レポートの内容と、出席した授業時間数で評価する。

【テキスト】
毎回プリントを配布。

【参考文献・資料】
多数あるので、初回授業で紹介。

食品の科学

千葉善根

【授業の概要】
基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業の目標】
日常生活で、身近にある食品が化学的（科学的）にどのような意義・性質・機能などを持っているかを理解する。

【授業計画】
1．現代食生活の問題点
　食生活の変化と食糧資源について。
2．糖質と食品
　デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3．たんぱく質と食品
　変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4．脂質と食品
　脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化食品。
5．無機質と食品
　骨粗鬆症等。
6．ビタミン
　食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7．発酵食品
　食品と酵素・微生物との関係。

【評価方法】
定期試験にて評価。

【テキスト】
使用しない（プリント配布）。

暮らしの化学

佐藤成哉

【授業の概要】
日常生活の中には、身近に目にしていながらつい見過ごしてしまっているさまざまな現象が溢れている。それらを探しだし、化学の目で見つめ直して、暮らしを支える知恵としての「役立つ化学」についての講義をクイズや簡単な実験を交えながら行う。

【授業の目標】
日頃、我々が目にする現象は、教科科目の項目に分けられない総合的なものである。そのさまざまな現象の中に見つけた「なぜ?」「どうして?」を糸口に広くサイエンスの世界に触れ、知的な楽しさ・おもしろさを通して化学（科学）の目を養う。

【授業計画】
1．キッチンの化学
2．リビングの化学
3．バスルームの化学
4．玄関の化学
5．ガーデンの化学
6．環境の化学
一つのテーマについて1回から数回講義するが、授業についての質問や感想および身近な疑問などを適宜出してもらい、授業に反映したい。

【評価方法】
定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】
使用しない。適宜資料などを配付する。

【参考文献・資料】
授業中に適宜紹介する。

文学１（日本）

堀尾幸平

【授業の概要】
日本の文学史について概説し、日本文学の特色や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

【授業の目標】
1．文学とは何か。その定義、形態、特色などを理解する。
2．日本の文学の著名な作品を鑑賞しながら、文学史全体を把握する。

【授業計画】
1．文学とは何か
2．明治期の文学
3．坪内逍遥．二葉亭四迷
4．三輪弘忠．巌谷小波
5．大正期の文学
6．小川未明．鈴木三重吉
7．千葉省三．浜田廣介
8．少年詩．童謡．金子みすゞ
9．昭和期の文学
10．佐藤紅緑．江戸川乱歩
11．宮澤賢治
12．新美南吉．坪田謙治
13．平成期の文学
14．創作方法理論
15．試験

【評価方法】
定期試験．レポート．出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】
新日本児童文学論（堀尾幸平著　中日文化　2,200円）

【参考文献・資料】
授業中に適宜紹介する。

文学２（中国）

寺尾 剛

【授業の概要】
中国の歴史と文化は古く、その影響は世界に与えているが、特に日本文学が受けたものは大きい。中国の代表的な古典を中心に紹介し、鑑賞するとともに、中国文学への興味と関心を高めたい。

【授業の目標】
中国の歴史と文学に関心を持つ。今後独自に読んでいく際の読み方のコツをつかむ。

【授業計画】
毎回、一つのテーマを取り上げ、それにまつわる文学作品を鑑賞していく。
1．男装の麗人・木蘭の物語
2．和蕃公主・王昭君の物語
3．亡国の美女・西施の物語
4．万里の長城秘話・孟姜女の物語
5．詩仙李白と酒の歌
6．詩聖杜甫とそのヒューマニズム
7．南宋の詩人・陸游～その愛の悲劇
8．中国の詩人とその妻～悼亡詩の系譜
9．『封神演義』～中国小説の世界
10．中国の笑い話～下ネタは下品か?
11．『論語』の世界～孔子、人生を語る
など。ただし、上記の全てを講義しきれるとは限らず、また、この順序通りに進めるとは限らない。
受講生の反応、あるいは要望に従って内容を変更する可能性もあることをお断りしておく。

【評価方法】
出席、平常点と試験。

【テキスト】
プリント

【参考文献・資料】
教場で指示する。

現代の芸術１（書道）

森美恵子

【授業の概要】
現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、書道への関心を高める。

【授業の目標】
すぐれた古典の臨書並びに鑑賞を通して、用美一体の書作を習得し、審美眼を得させる。

【授業計画】
楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。
書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

【評価方法】
授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

【テキスト】
書の鑑賞と学び方（上田桑鳩　教育図書研究会）

現代の芸術１（書道）

小川晃治

【授業の概要】
現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書の美について考え、書道への関心を高める。

【授業の目標】
東洋独自の文化遺産である書、用美一体の書美。
漢字、ひらがな、カタカナと世界で類を見ない最高の言語、文字を有する書と文化、この現代社会そして人々の生活の中にしっかりと存在していることを理解、認識すること。

【授業計画】
講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探求することを基準として進める。

【評価方法】
レポート二種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】
担当者の小文、古典法帖。

現代の芸術２（音楽）

志水博子

【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、いろいろなジャンルの洋楽の名曲を鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

【授業の目標】

正しい発声を学ぶ

【授業計画】

第１回　声の出るしくみを知る（学園歌をうたう）
第２回　腹式呼吸と身体のつかい方の練習
（ピクニックや集会でのやさしいハーモニーの楽しみ方）
第３回　発声練習と歌唱
第４回～９回　名演奏家によるオペラ鑑賞（カルメン、椿姫他）
第10回～12回　各自の課題（ジャンルは問わない）による実技発表とアドバイス
（毎回短時間を使って合唱曲を１曲仕上げる）

【評価方法】

授業内での実技演奏（各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可）と出席状況

【テキスト】

楽譜プリントは配布

現代の芸術２（音楽）

浅田まり子

【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、洋楽・邦楽の名曲についても鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

【授業の目標】

音楽を鑑賞し、演奏しながら、音楽の機能を健康的に活かし、人とコミュニケーションができる音楽を習得することを目標とする。

【授業計画】

第１講　鑑賞法（音楽の聴き方）
第２講　発声のしくみと声の管理
第３講　ヴォイストレーニング１（自然体）
第４講　ヴォイストレーニング２（呼吸法）
第５講　ヴォイストレーニング３（楽器の確保）
第６講　サウンドスケープ（音の風景）
第７講　音楽療法１（歴史と原理）
第８講　音楽療法２（音楽の作用と実践法）
第９講　演奏法１（リズムとメロディー）
第10講　演奏法２（コード・即興など）
第11講　合唱と合奏
第12講　～実技演奏発表会

【評価方法】

実技（授業内目標達成度）・感想レポート・出席状況・授業態度

【テキスト】

プリント・MUSIK（貸与）

全教養

現代の芸術３（美術）

藤井健仁

【授業の概要】

現代芸術としての美術の意味と意義や東西の流派を概説し、西洋や日本の名画についても鑑賞する。写生などの実作の実技指導も行い、美術や絵画への興味と関心を高める。

【授業の目標】

近代の美術運動が当時の社会情勢等と密接に連動して生まれていることを知り、現在の文化、流行にも影響を与え続けていることを理解する。

【授業計画】

前半
キュビスム、ダダイズム、シュルレアリスム、ポップアート等、現代美術のムーブメントをそれぞれの時代背景と照らし合わせながら講義する。
後半
小彫刻を制作することによって、表現が立ち現れる地点を体験する。
教材として樹脂パテ等（￥2500）を各自が購入する。

【評価方法】

授業後半に提出する制作物を重視する。

【テキスト】

使用しない。配布するプリントのみ。

【参考文献・資料】

なし

現代の芸術４（映画）

吉村英夫

【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。ヨーロッパやアメリカ映画などとの比較の視点から日本映画の特徴などを講義し、映画への興味と関心を高める。

【授業の目標】

映画をジャンル別とか作家別に鑑賞し、その特質を知る。映画の「今」を追う傾向のある現代若者気質に対して、歴史的系統的に映画を観ていくことの重要性を語りたい。実作品を観ながら、その表現や技法の特徴にも迫るものにしたい。

【授業計画】

＊ミュージカル映画の「まるごと１本」の鑑賞を中心にしながら、ミュージカル映画の楽しさを味わいたい。ミュージカル映画のルーツをたどり、その発展と衰退、さらには『シカゴ』『オペラ座の怪人』等での再生の様子をみていきたい。ただし、現代のミュージカル映画は鑑賞しない。
＊ミュージカルの歴史の学習…オペラから『キャッツ』へ至る歴史を探る。
＊参考上映を予定している作品（上映作品は変更するかもしれないが、すべてミュージカル映画、音楽映画の傑作秀作である。
『ウエスト・サイド物語』『パリの恋人』『プラス!』『雨に唄えば』『トップ・ハット』『掠奪された七人の花嫁』『キス・ミー・ケイト』『シェルブールの雨傘』『マイ・フェア・レディ』その他
＊有名なミュージカル映画を部分上映もして、分析や技法的特徴なども学習。
＊延長があることを覚悟してほしい。90分以上の映画を鑑賞するため。
＊長久手での夏期集中講義では、上映作品等、いささかの変更がある。

【評価方法】

＊学期末のテスト　＊随時提出のレポート　＊出席　＊テキストは使用しない

【テキスト】

なし。ただし、随時、講座通信『Limelight』を配布。５年前から続いており、これは講座生とつくる楽しい交流の広場。

【参考文献・資料】

『誰も書かなかったオードリー』（吉村英夫　講談社プラスα文庫）

現代の芸術４（映画）

HIGH, Peter B.

【授業の概要】
映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。アメリカ映画を題材として使って、映画芸術とは何かを考察

【授業の目標】
1）映画分析ための技術：
　a．セグメンテーション（SEGMENTATION＝映画を見ながら、ノーツの取り方）
　b．対極的分析法（映画ドラマにおける対立。競争、衝突などに焦点を絞って、ドラマの構造を分析すること）
2）典型的なハリウッド映画（1930年代から現在の「スター・ウォーズ」や「ターミネーターⅢ」等にいたるまで）のスタイルとストーリーの語り方：
　a．「因果的関係」とドラマの盛り上げ方
　b．FABULA（ファビュラ）＝観客が頭の中で作る"映画のストーリーの世界"対SUZHET（シュージェット、つまり"プロット"）＝画面から与えられた（"映画のストーリーの世界"を作るための"材料"やヒント）
　c．ハリウッド映画はどうやって「リアリズム」の感覚を作り上げるのか
　d．ハリウッド映画を見ている時に、どうして観客は「自分が映画を見てるんだ」ということを忘れるのか
3）ハリウッド映画におけるGENRE（ジャンル）の役割

【授業計画】
授業のやり方としては、映画（全体又は部分）を見終わってから教室で、ディスカションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章（原稿用紙２・３枚程度）にまとめて提出する。
課題：「古典ハリウッド映画」の表現手法

今学期、四つの映画を分析対象とする：
1）「駅馬車」（STAGECOACH, 1939年作品、監督：John Ford）
2）［マルタの鷹］（MALTESE FALCON, 1941年作品、監督：John Huston）
3）「市民ケーン」（CITIZEN KANE, 1941年作品、監督：Orson Welles）
4）「第三の男」（THE THIRD MAN, 1949年作品、監督：Carol Reed）

現代の芸術４（映画）の学期末評価は３つの宿題に基づく（学期末試験はなし）：
宿題１：「マルタの鷹」の対極的分析の図（文章化する必要はない）
宿題２：「市民ケーン」の対極的分析（原稿用紙３－４枚の文章）
宿題３：「第三の男」の対極的分析（原稿用紙３－４枚の文章）：この三つ目の宿題は学期末試験として扱われる

【評価方法】
出席と宿題によって、評価される

【テキスト】
テキストはありません。教材は適時配布します。

伝統芸能

林 和利

【授業の概要】
日本の伝統芸能の諸ジャンルのうち、舞楽・能・狂言・歌舞伎・文楽など主要なものを中心に取り上げ、実際の舞台をビデオ等で確認しつつ、その歴史や演技・作品などについて講じる。

【授業の目標】
各ジャンルの概要・歴史を知り、その価値を認識して、日本人として当然わきまえるべき知識を修得する。

【授業計画】
1．授業の目的と方針を提示
2．日本芸能演劇史概説
3．芸能の発生について
4．神楽について
5．伎楽・舞楽・散楽について
6．田楽について
7．猿楽について
8．能について
9．狂言について
10．歌舞伎について
11．文楽について
　また、学外で催される伝統芸能の舞台を種々案内し、各自の判断で鑑賞することを促す。

【評価方法】
出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。
学外の伝統芸能を鑑賞した場合は、レポート提出により評価の対象にする。

【テキスト】
日本文化論序説（林和利著　青山社）

【参考文献・資料】
日本演劇全史（河竹繁俊著・岩波書店）
演劇百科大事典（早稲田大学演劇博物館編・平凡社）

現代の芸術５（演劇）

海上宏美

【授業の概要】
現代芸術としての演劇の意味と意義について概説し、ヨーロッパや日本の演劇の歴史についてもふれる。内外の代表的な演劇について解説し、演劇への興味と関心を高める。

【授業の目標】
現代芸術としての演劇は脱ドラマ化しているので、演劇・ドラマを軸としながら国内外のダンス、パフォーマンス、アートを重要な参照項として見ていく。それにより演劇の 現代芸術としての側面を理解する。

【授業計画】
1．ドラマからポスト・ドラマ（脱ドラマ）という流れを理解する。
2．ウィリアム・シェイクスピア作「ハムレット」（ドラマ）を見る、理解する。
3．絵画を参照して演劇と劇場を理解する。
4．近代的な認識に現れる身体イメージとジェンダーを理解する。
5．ハイナー・ミュラー作「ハムレットマシーン」（脱ドラマ）を見る、理解する。
6．ダンスやパフォーマンスも脱ドラマであることを理解する。
授業は上演ビデオや参考スライドを鑑賞しながら進めていく。

【評価方法】
レポートの提出と出席状況で評価する。また、実際に劇場等で上演される現代の上演芸術（演劇に限定しない）を見ることを求める。

【テキスト】
テキストは使用しない。

【参考文献・資料】
授業内で適宜指示する。

現代マナー論

近藤乃芙子

【授業の概要】
人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】
良識ある家庭人であり、自立し誇りを持って行動できる社会人となり、伝統と文化に裏打ちされた広い教養を身につけ、自信を持って国際社会においても活躍できる人材を育成する一端を担うことを目標とする。

【授業計画】
講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。
1．マナーの基本
2．会話と傾聴
3．身だしなみとおしゃれ
4．服装　　フォーマルとカジュアル
5．訪問と応接　和風
6．　〃　　洋風
7．茶菓のマナー
8．贈答のマナー
9．冠婚のマナー
10．葬祭のマナー
11．食事のマナー
12．パブリックマナー

【評価方法】
出席状況、授業態度、期末試験等により総合的に評価する。

【テキスト】
テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】
参考文献・資料はなし。

現代マナー論

嘉悦祐子

【授業の概要】
人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】
自分の気持ちをどんな形で表現すれば相手に誤解なく伝わるのか、状況に応じたマナーを身につける。

【授業計画】
講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。
1．マナーとは
2．学生と社会人の違い
3．第一印象の重要性
4．マナーの五原則
①挨拶
②表情
③態度
④身だしなみ
⑤言葉づかい
5．電話応対
6．訪問と来客対応
7．報告、連絡、相談
8．文書のマナー

【評価方法】
出席状況、授業態度、試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】
授業中に指示する。

【参考文献・資料】
授業中に指示する。

全教養

言語表現

三久保角男

【授業の概要】
音声表現。
①日本語の発音のメカニズム、豊かな表現のための技術　②読む・話すことの実践と応用　③言葉の用法、を視点に、音声言語の特質とコミュニケーションのメカニズムを知る。

【授業の目標】
マルティメディアの発達で直接的な会話をすることが少なくなり、話すことが苦手な人が増えている。自分の意思を効果的に言葉で伝えるための基礎的な技術を身につけられるための方策を考える。

【授業計画】
1．話し言葉概論
ことばの機能　話し言葉の特徴　共通語と方言
2．日本語の音声 1（発声）
呼吸法　音声器官　発声法
3．日本語の音声 2（発音）
拍と音節　母音と子音　調音　アクセント　環境による音声変化
4．話し言葉の表現技法
スピード　ポーズ　イントネーション　プロミネンス
5．文を読む
短文の読み　朗読
6．話しをする
パブリックスピーキング　リポート　インタビュー
7．話し言葉の用法
言葉事情　言葉の変化　敬意表現

授業は講義が中心になるが、可能な限り実践を伴うものにする。

【評価方法】
筆記試験。随時のレポートも評価に加味する。

【テキスト】
毎回、レジュメ・資料を配布する。

文章表現

青木 健

【授業の概要】
マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎知識や構成について具体例を示しながら講義する。

【授業の目標】
書くことは同時に読むこと。文章表現の多様さにふれ、読む楽しさと、書くことによって自らの言葉で考えるトレーニングとしたい。書くことで新しい自己を発見し、自分の世界を拡げてもらえることがのぞましい。

【授業計画】
第１回　人は言葉の織物である。（伝達と表現１）
第２回　現代の口語表現について。（伝達と表現２）
第３回～12回
例文をテキストに、文章の構成、表現技法、話法、リズム、形容修辞法など具体的に講義。
この間に
課題を３回提出し、短文（２～３枚、400字詰）を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出して講評する。

【評価方法】
出席状況、３回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】
高校生のための文章読本（筑摩書房）参考書籍は授業中に数冊指示します。

メディア表現

鎌田基子

【授業の概要】
情報化社会の発達と技術の進歩で、さまざまなメディアが新しい表現を生み、文化を形成している。現在あるメディアの構造と伝達の仕組みやかかわりについて、講義と実践をまじえながら考察する。

【授業の目標】
メディアを通すことにより変化する情報のしくみを理解することと、創造的発想力の基礎を身につけること。

【授業計画】
1．どこからどこまでがメディアなのか
2．「編集」がもつ創造力
3．「伝える」と変化する
4．人を動かす力
5．自分との対話
6．「コンセプト」の功罪
7．共感する/させる
8．心を開かなければならないとき
ほぼ毎回WORK SHOPを行なう。一項目に関する講義が複数回にわたる場合もあるので、極力遅刻、欠席のないよう注意してもらいたい。
状況により、可能であればゲストを招いての授業も計画する。

【評価方法】
レポートによる。

【テキスト】
テキストは使用せず、資料を配布する。

職業と人生

樋口貴子

【授業の概要】
将来の職業選択にあたって参考事項や現代の企業社会の実態、就職するための予備知識などを話します。

【授業の目標】
人間的な魅力を備え且つ21世紀を生き抜く自立/自律した職業人として、学生生活を通じて何を感じどう行動すればよいのかを将来の自分のキャリアデザインを描きながら思考を深めます。また、複雑化・高度化する産業社会において仕事にますます専門性が求められる中で、職業人として求められる能力・スキル・心構えなどをケーススタディを交えて学びます。

【授業計画】
1）21世紀の人材像
2）職業観
3）プロフェッショナル意識
4）キャリア発達
5）キャリアコンピテンシー
6）自己理解①
7）自己理解②
8）コミュニケーション能力
9）自己表現アサーション
10）ビジネスマナー
11）職業研究
12）企業研究
13）キャリアデザインと目標設定

【評価方法】
筆記試験

【テキスト】
職業と人生（樋口貴子著）

【参考文献・資料】
なし

生涯学習論

藤井基貴

【授業の概要】
現代は生涯学習の必要性と重要さが強く説かれている。社会の構造が複雑になるとともに高齢化社会も進む中で、生涯学習の意義と学び方について、身近な事例をふまえて講義する。

【授業の目標】
受講者が生涯にわたる学習をみずから計画、実行していくための力量形成をはかることを目標とする。授業では生涯学習に関する基礎知識を解説し、受講者には実際に自己分析、キャリアシート作成などの作業を行ってもらう。

【授業計画】
1　生涯学習の理念
2　生涯発達と発達課題
3　戦後日本の教育改革
4　生きがいと自己実現
5　人生と学習計画
6　生涯学習施設の活用
7　ボランティアとNPO
8　高齢期の課題と学習支援

【評価方法】
レポート、授業内課題、出席状況による総合評価

【テキスト】
テキストは使用しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】
新しい時代の生涯学習（関口礼子他編著　有斐閣アルマ）
生涯学習の展開（香川正弘他編著　ミネルヴァ書房）
参考文献については随時紹介する。

全教養

一般心理学

青柳眞紀子

【授業の概要】
心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】
「心理学」の概要について、正しい理解を深めること。「心理学」は身近な存在でもあることを認識し、自分自身を振り返るきっかけをつかむ。

【授業計画】
1．ガイダンス、心理学とは
2．無意識の世界,1
3．無意識の世界,2
4．ストレスとタイプA性格
5．錯視の不思議
6．学習,1
7．学習,2
8．パーソナリティ,1
9．パーソナリティ,2
10．対人関係,1
11．対人関係,2
12．集団の心理

【評価方法】
試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】
随時資料を配布する。

一般心理学

加藤智宏

【授業の概要】
心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】
近年マスコミ等で心理学が取り上げられることが多くなってきた。それだけ心理学が身近になってきたと考えられる。しかしその一方で、マスコミ等で取り上げられた内容だけから心理学のイメージが作られているようにも思われる。そこでこの授業では、心理学の様々な切り口を取り上げることで、心理学の持つ広範な知識を獲得することを目標とする。

【授業計画】
a．知覚と感覚
b．ノンバーバルコミュニケーション
c．発達心理学（ピアジェとエリクソン）
d．学習と記憶
e．忘却と変容
f．防衛機制と無意識
g．心理療法
h．心理テスト
i．個人と集団
j．応用心理学（犯罪心理学、環境心理学）
以上を中心に、それぞれ１～２回の講義を予定しています。

【評価方法】
出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】
使用しません。授業中に資料を配付します。

一般社会学

長濱一夫

【授業の概要】

社会学は人間同士の関係に視座を置いて、個人・社会集団、社会事象について研究する学問である。社会学の領域と一般的研究方法や基礎的知識について概説する。

【授業の目標】

社会学的思考法の修得を目指し、、現代社会に対する認識力(時代の流れを読む力)を培いたい。

【授業計画】

以下のそれぞれのテーマを主たる切り口とし（順序は入れ替わることがあります)、私たちの社会生活について考えを深めていきたい。

（1）社会学とはどんな学問か－個人と社会－
（2）都市と農村－地域社会の変容－
（3）都市化の進展－その光と陰－
（4）人々の暮らし－「出稼ぎ」という暮らし方－
（5）現代社会における「豊かさ」と「貧困」
　　－国際社会を視野に－
（6）高齢化社会と家族

授業は講義形式で行いますが、VTRなども随時、利用していきます。また、人数によっては、意見・感想を求めたり、ディスカッションしてもらうこともあります。

【評価方法】

試験（レポートor筆記）および出席状況、平常点によって評価します。

【テキスト】

使用しません。

法律学

大嶽 浩

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、法とは何か、という問題を「文学作品」、「映像作品」、「新聞記事」などを利用して考えてみたいと思います。

【授業の目標】

「社会あるところに法がある」ことを文学作品を通して理解すること。

【授業計画】

1．法学の入門書と文学作品
2．法学学習と文学作品
3．法学学習の方法
4．法学と政治と文学
5．法学と活字
6．法学と批評

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

政治学

西尾林太郎

【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的な話題にもふれつつ講義を進める。

【授業の目標】

現代政治や現代社会について主体的な視座を確立する。

【授業計画】

1．国内政治と国際政治
　a　国際社会とは?
　b　国民国家、ナショナリズム、外国為替、国際貢献
　c　トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
　d　イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2．古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
　a　「都市国家」のデモクラシー
　b　市民社会と大衆社会
　c　立法国家と行政国家
3．現代の政治過程
　a　政治と利益団体、NPO、市民運動
　b　選挙、官僚、議会
　c　マスメディアとマスコミュニケーション
　d　議会制デモクラシーと市民
4．戦後国際社会と日本の政治
　a　冷戦構造と55年体制
　b　利権の構造
　c　外圧と政策決定

【評価方法】

試験（教科書と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

【テキスト】

市民政治再考（高畠道敏　岩波ブックレット617）

【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。

経済学

細野義晴

【授業の概要】

経済の仕組みと役割について、マクロ経済とミクロ経済の双方の視点から基礎的知識を学ぶ。日常生活や時事問題としての経済学的事象についてもふれ、経済学を身近なものにする。

【授業の目標】

経済の基礎理論にとどまらず、経済の実情把握に重点をおいて、わが国の経済の仕組みの変化やそこでの課題なども講義し、日々の新聞などで見聞きする経済の動きが十分理解できるようになることをめざす。

【授業計画】

1．経済のしくみの全体像
　マクロの経済とミクロの経済、GDP統計のしくみ、有効需要と乗数のメカニズム、など。
2．日本の経済と景気
　日本経済の発展と構造変化、日本の景気変動、など。
3．個人のくらしと経済
　個人の消費行動とその理論、消費と貯蓄、など。
4．企業の経済活動
　企業の生産・投資活動とその理論、需要・供給とモノの値段、失業とインフレーション、など。
5．政府の経済活動
　財政のしくみと役割り、わが国の財政事情と財政政策、など。
6．金融のしくみと経済
　お金と金融機関の役割り、中央銀行の役割りと金融政策、金融のビッグバン、など。
7．日本と世界の経済
　経済のグローバル化と国際収支、国際金融市場と外国為替相場の変動、国際機関の役割り、欧州の通貨統合、など。

【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

使用しない（資料配布)。

【参考文献・資料】

（1）Ｗｈａｔ’ｓ　経済学　(辻正次・八田英二著、有斐閣)
（2）入門の入門　経済のしくみ（大和総研著　日本実業出版社)

数学

岡田克彦

【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活や他の学問分野はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているので、例えば、物理学と数学との関連、日常体験と数学の関連性といったことにもふれてみたい。

【授業の目標】

文科系の学生が、社会に出て仕事をする上で、最低限必要な数学の知識を習得させる。数学が面白くて簡単なものである事を理解させる。

【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

1　確率
2　統計、偏差値
3　ベクトル
4　微分
5　積分
6　物理学への応用

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

統計学

鈴木有美

【授業の概要】

さまざまな情報が氾濫している現代社会は、情報処理の手段として統計学は不可欠である。統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会にどのようにかかわっているか、いかに必要かを講義する。

【授業の目標】

統計学の基礎的な知識を身につけるとともに、統計解析の基本的な手法について実際の調査・実験データを扱うことによって習得することを目指す。

【授業計画】

1．統計学とは
2．データの性質
3．度数分布
4．基礎統計量（1）：代表値・散布度
5．基礎統計量（2）：尖度・歪度
6．正規分布
7．2変量の関係（1）：相関・回帰
8．2変量の関係（2）：連関
9．母集団と標本
10．統計的推定（1）：点推定
11．統計的推定（2）：区間推定
12．統計的検定の基礎
13．平均値の差の検定（1）：t検定
14．平均値の差の検定（2）：分散分析

【評価方法】

課題の提出とその結果、および定期試験の結果をあわせて評価する。

【テキスト】

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本（吉田寿夫著　北大路書房）

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

物理学

坂井貞彦

【授業の概要】

人間の生命に関する分野を除く、自然現象を、数量的、法則的に把握し、普遍的法則や原理を見つけ出すという物理学の基礎を学ぶ。身近な現象の中から物理学的な観察や視野を持てる力を涵養する。

【授業の目標】

物理学における法則や原理には、新しく発見された観測事実や実験結果を統一的に説明するため考え出されたものが多いことを学ぶとともに、法則や原理が身近ないろいろの現象に関係のあることを理解する。

【授業計画】

講義方式による。実験は行わない。テキスト及び授業中に配布するプリントの記述のうち基本的なものを説明し、物理学への関心を高める。

1　はじめに
2　運動と力
3　ニュートン力学、力学的エネルギー
4　ものの状態、熱と温度、圧力
5　熱力学
6　振動と波動、音と光
7　電気と磁気、電磁波
8　相対性理論
9　量子力学、粒子性と波動性
10　素粒子、電子・陽子・光子・中間子・ニュートリノ、クオーク

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

【テキスト】

物理のしくみ（改訂新版）（井田屋文夫　ナツメ社）

ASU TOEIC Ⅰ A

天野純子　太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。最高期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC Ⅰ B

天野純子　太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。最高期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC Ⅱ A

STEPHENSON, Brett　PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。半期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
・演習（リスニング・Reading）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC Ⅱ B

STEPHENSON, Brett　PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。半期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
・演習（リスニング・Reading）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

Get together and Talk I

石橋千鶴子　福本明子　太田晶子　二村慎一　WOODMAN, Jo-Anne

【授業の概要】

事前英語集中授業、フィールドワーク、合宿、プレゼンテーションなどから構成される英語対話実践セミナー。本学および中部地区在住の留学生が、セミナー・アシスタントとしてフィールドワーク、合宿、プレゼンテーションに参加する。多様な文化背景を持つ留学生と行動を共にし、共通語の英語を使ってコミュニケーションを持つことにより、英語対話力の強化を目指す。

各学期終了時（集中授業期間内　前期：8／7（月）～11（金）、後期：2007年2／13（火）～17（土））に実施予定であるが、詳細は掲示および説明会（前期：6月中旬、後期：11月下旬の予定）で発表する。指定された期間（前期：6月末、後期：12月上旬）に外国語教育センターを通じて履修の申し込みを行う。

＊注意

本科目は申し込み者多数の場合、抽選により履修できない場合もある。また、1年生は学期の合計履修単位に上限が設定されているので、本科目の履修を希望する場合、余裕を持って登録すること。

【授業の目標】

異なる文化背景を持つ留学生とのコミュニケーションを通して、英語運用能力の向上を目指すと共に、文化の多様性に対する認識を深め、それに対応できる柔軟な視点の育成を目指す。

【授業計画】

前期　8／7（月）～11（金）、
後期　2007年2／13（火）～17（土）を予定。
事前英語集中授業、フィールドトリップなどを含む15コマ相当の活動を行う。
詳細は掲示で発表。

【評価方法】

全日程の活動を総合的に評価する。

【テキスト】

英文パンフレットなどを使用。

【参考文献・資料】

インターネットなどを通して資料は各自検索する。

<履修条件>

1）英語コミュニケーション科目2科目（4単位）以上を取得済みであること。
2）英語でのコミュニケーション実践に十分な「意欲」があること。
3）全日程に出席できること。

Get together and Talk II

NORRIS, Harry T.

【授業の概要】

対話力養成モジュールの1つとして、学生同士の意見交換を活発に行うことで、説得力のある議論を口頭で展開する方法を、実際の経験を通して学ぶことを目標とします。

Get together and Talk IIでは、本学学生同士の意見交換のみならず、インターネットのブロードバンド接続によるビデオコンファレンス機能（アップルコンピュータ社のiChat）を利用して、キャンベラ大学の学生と意見交換を行います。

さまざまなテーマに基づいて、キャンベラ大学の学生と意見を交換することで、英語運用力を高めるのみならず、日本語と英語の違い、日本とオーストラリアの文化・考え方の違いなどさまざまな違いを発見することが期待されます。

【授業の目標】

There are three main objectives.

1. To allow students to converse with native speakers, helping the students' listening and speaking fluency skills.
2. Discuss topics of interest with people of a similar age who live in a different country.
3. Listening to native English speakers speaking in Japanese will help students understand their own speaking difficulties and increase their awareness and confidence.

【授業計画】

This lesson will be held over 2nd and 3rd periods, 10.50 - 2.50.

During this time there will be 4 time periods, 1. Preparation, 2. Chat, 3. Review, and 4. Lunch! Due to the time difference between Japan and Australia it may be necessary to have a flexible lunch period.

May (2), 9, 16, 23 and 30. Will be used for real time chat with Canberra University students.Topics for discussion will include

1. Death penalty
2. The article no.9 of Japanese constitution
3. Marriage between the same sex couple
4. Should we accept more refugees?

【評価方法】

Assessment will be based on
50% Homework and Chat preparation
50% Participation

【テキスト】

No text

【参考文献・資料】

http://www.apple.com/support/isight/

上級英語セミナー 2006 A

WOODMAN, Jo-Anne　WRINGER, Paul

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2006A」は受講できない。）

【授業の目標】

Woodman

Improved knowledge of idiomatic and colloquial English expressions will allow students to "get" more of what native English speakers are "on about".

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

【授業計画】

Woodman

Each lesson will involve a combination of activities (reading, writing, listening and speaking) utilizing new vocabulary.

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

【評価方法】

「上級英語セミナー2006A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日1限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

Woodman：No text required,
Wringer：To be announced.

上級英語セミナー 2006 B

WOODMAN, Jo-Anne　WRINGER, Paul

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Woodman

Improved knowledge of idiomatic and colloquial English expressions will allow students to "get" more of what native English speakers are "on about".

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

【授業計画】

Woodman

Each lesson will involve a combination of activities (reading, writing, listening and speaking) utilizing new vocabulary.

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

【評価方法】

「上級英語セミナー2006B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日1限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

Woodman：No text required,
Wringer：To be announced.

上級英語セミナー 2006 C

横山綾子　WOODMAN, Jo-Anne

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2006C」は受講できない。）

【授業の目標】

横山

通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Woodman

The objectives of this course are two-fold. Firstly, it will encourage the students to improve their general knowledge of world affairs. Secondly, it will help the students to improve their English discussion skills.

【授業計画】

横山

第1回　通訳一般概論　Sight translation

第2～10回　The Student Timesからの記事使用（テープ）
Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Woodman

This course will operate on a 3-week cycle.

Week 1：Discussion questions based on materials provided by the teacher.

Week 2：Discussion - based on newspaper/internet articles provided by the teacher.

Week 3：Discussion - based on newspaper/internet articles prepared by the students.

【評価方法】

「上級英語セミナー2006C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日3限（担当教員：横山綾子）、金曜日4限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

横山：*The Student Times*　その他

Woodman：No text required.

上級英語セミナー 2006 D

横山綾子　WOODMAN, Jo-Anne

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

横山

通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Woodman

The objectives of this course are two-fold. Firstly, it will encourage the students to improve their general knowledge of world affairs. Secondly, it will help the students to improve their English discussion skills.

【授業計画】

横山

第1回　通訳一般概論　Sight translation

第2～10回　The Student Timesからの記事使用（テープ）
Shadowing, Sight translation,　メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Woodman

This course will operate on a 3-week cycle.

Week 1：Discussion questions based on materials provided by the teacher.

Week 2：Discussion - based on newspaper/internet articles provided by the teacher.

Week 3：Discussion - based on newspaper/internet articles prepared by the students.

【評価方法】

「上級英語セミナー2006D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日3限（担当教員：横山綾子）、金曜日4限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

横山：*The Student Times*　その他

Woodman：No text required.

上級英語セミナー 2006 E

難波豊子　CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2006E」は受講できない。）

【授業の目標】

Bev Curran

To create a community of supportive language learners and to develop each student's confidence in their ability to express their ideas in prepared presentations and extemporaneous discussion in English.

難波豊子

英語を通して様々な国内、海外の実状、社会問題等の背景知識を広げ、英語、日本語を問わず、要点をまとめて発表する習慣を身につける。

【授業計画】

Bev Curran

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

難波豊子

スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

「上級英語セミナー2006E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日2限（担当教員：難波豊子）、金曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

上級英語セミナー 2006 F

難波豊子　CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Bev Curran

To continue to give students practice in preparing and leading a discussion, as well as sustaining a discussion through careful listening and questions. The group discussion aims to form a community of supportive language learners and to develop each student's ability to express their ideas in English.

難波豊子

英語を通して様々な国内、海外の実状、社会問題等の背景知識を広げ、英語、日本語を問わず、要点をまとめて発表する習慣を身につける。

【授業計画】

Bev Curran

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibity for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

難波豊子

スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

「上級英語セミナー2006F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日2限（担当教員：難波豊子）、金曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

Traditional Arts in Japan

山田久美子　小沢 茂　二村慎一　McGOLDRICK, Gemma

【授業の概要】

日本の伝統文化に携わる方をゲストスピーカーとして招き、伝統文化に直に触れ、その歴史、現状などを英語で学ぶ。

【授業の目標】

伝統文化に直に接する機会は、日常生活では多くない。この授業を通して、一から伝統文化を学び、日本の優れた文化を理解し、それを自らの言葉で表現できるようにする。

【授業計画】

日本の伝統文化に携わる専門家をゲストスピーカーとして招き、講義を受ける。講義の際、あらかじめ、その伝統文化についての学習を行う。

日本舞踊（西川流）
尺八
琴
からくり
華道
歌舞伎
能・狂言

などの分野からのゲストスピーカーを迎える。詳しくは、最初の授業の時に説明する。

【評価方法】

レポート　80%　（各授業のレポート等）
出席　　20%

【テキスト】

プリント

Multiculturalism in Aichi

ブイ チ トルン

【授業の概要】

社会のグローバル化とともに一つの地域や国だけでは解決できない問題などが生まれている。愛知県においても製造業の発展に伴い諸外国から移住されてきた人々が年々増加している。多様な人種・文化・価値観が混在している愛知県における多文化社会の実態を理解し共生社会構築への道を考える。

【授業の目標】

＊日本社会および愛知県における多文化性を理解すること
＊行政・企業・NPOによる多文化共生事業の現状を理解すること
＊県内における外国人コミュニティの実態を理解すること
＊外国人労働者等を送り出し国の現状を理解すること
＊在住外国人支援事業を理解すること

【授業計画】

A．総論：多元文化社会について
①多元文化社会としての日本社会（ブイ　チ　トルン）
B．各論１：多文化共生支援事業について
②総務省および地域国際化協会の政策、事業について（外部講師・東京から）
③愛知県および愛知県国際交流協会の事業について（外部講師・県内）
④名古屋市および名古屋国際センターの事業について（外部講師・県内）
⑤豊田市および豊田市国際交流協会の事業について（外部講師・県内）
⑥経済産業界の事業について（外部講師・県内）
C．各論２：外国人コミュニティからの実態について
⑦コリアンコミュニティ（外部講師・県内）
⑧中国人コミュニティ（外部講師・県内）
⑨フィリピン人コミュニティ（外部講師・県内）
⑩ブラジル人コミュニティ（外部講師・県内）
⑪アメリカ人コミュニティ（外部講師・県内）
⑫留学生について（外部講師・県内）
⑬外国人研修生の送り出し国からの報告
タイ王国から（外部講師・タイ王国から）・前期
ベトナムから（外部講師・ベトナムから）・後期
D．各論３：在住外国人支援事業について
⑭生活相談事業について（外部講師・県内）
⑮日本語教育支援事業について（外部講師・県内）

【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

【テキスト】

プリント資料など配布。テキストは授業中適宜に指示する。

【参考文献・資料】

授業初回に指示する。

Central Japan

福本明子　山田久美子　小沢 茂　横関美津紀　McGOLDRICK, Gemma

【授業の概要】

中部地方から世界に向かって進出する企業の第一線で活躍している方をゲストスピーカーとして迎え、社会の中での企業の役割、その活動、経験等を英語で講義してもらう。この講義は、ゲストスピーカーの授業に際しての、事前・事後の学習もおこなう。

【授業の目標】

地元企業で活躍する方をゲストスピーカーとして招き、その講義を聞き、実社会における企業の役割、また厳しい現状等を理解し、より広い視野を育てることを目標とする。授業での内容を理解し、それをまとめることができるようにする。

【授業計画】

ゲストスピーカー

ミツカン酢
日本経済新聞
中部電力
ブラザー工業
ヒルトンホテル
デンソー
太陽科学株式会社　　など。
詳しくは、最初の授業の時に説明する。

【評価方法】

レポート　80%　（各授業のレポート等）
出席　　20%

【テキスト】

プリント

PowerPoint Presentations

NORRIS, Harry T.

【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究の成果、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、動画・音声・写真などを盛り込みながらPowerPointを使ってまとめ、英語による情報発信が行えるよう訓練する。

【授業の目標】

・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
・アイデアや意見を英語で論理的に口頭発表できる自己表現力を身に付ける。
・他者のプレゼンテーションを聴いて、英語で討論を行える能力を身に付ける。

【授業計画】

以下の項目を学習する。
・アイデアの要約
・口頭発表に必要な論理的展開方法
・動画・音声・写真などのマテリアルの収集や作成方法
・プレゼンテーションソフトの効果的な使用方法

【評価方法】

・出席状況
・プレゼンテーション
・ディスカッション参加への積極性

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

Booklet Publishing

NORRIS, Harry T.

【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、視覚的効果を高めてポスター、冊子、レポートにまとめ、英語を使って世界に向けた情報公開が行えるよう訓練する。

【授業の目標】

・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
・新聞・雑誌・パンフレットで活用されている見出し効果やテキストの段落構成について理解する。
・英語で短く分かりやすい文章を作る能力を身に付ける。

【授業計画】

以下の項目を学習する。
・アイデアの要約
・英語での自己表現方法
・図や表を使った表現方法
・タイトルや見出しの効果
・文章の段落構成

【評価方法】

・出席状況
・ブックレットなどの完成作品

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

中国語読解１Ａ

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　周 素芬　楊 衛平

【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の２級に受かることを目標に定め、<中国漢語水平考試大綱>に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文章の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである<HSK基礎コースＡ><HSK基礎コースＢ>の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．母音、数字、挨拶
3．疑問文、形容詞述語文
4．子音、声調、曜日表現
5．省略疑問文、疑問詞疑問文
6．音節、勧誘表現
7．動詞述語文、指示代名詞
8．我姓松本。自己紹介
9．介詞"和"、副詞"也""都"
10．我的家庭。所有・存在の"有"、名詞述語文
11．部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
12．我们的大学。介詞"给""在"
13．名詞の修飾表現
14．我的一天。時の表現、方向補語
15．まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解１Ａ２（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解１Ｂ

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは<中国語読解１Ａ>とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週２回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<中国語読解１Ａ>と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって講義する。

第一課　発音（１）
第二課　発音（２）
第三課　発音（３）
第四課　発音（４）
第五課　人称代名詞・“是”
第六課　指示代名詞・数詞・量詞
第七課　形容詞と形容詞述語文
第八課　動詞述語文
第九課　“有”・年月日
第十課　場所・時間・数量
第十一課　前置詞（介詞）・“了”
第十二課　能願動詞

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解１Ｂ（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話１Ａ

大森信徳　張 玉玲　曹 志偉　周 素芬　楊 衛平　陳 惠貞

【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて、中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の音声面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の２級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された<中国漢語水平考試大綱>に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである<HSK基礎コースＡ><HSK基礎コースＢ>の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に日常会話表現の習得を目指す。

第一課　発音（１）
第二課　発音（２）
第三課　発音（３）
第四課　発音（４）
第五課　あいさつ表現
第六課　時間の表し方
第七課　年齢を言う
第八課　家庭を語る
第九課　自分の家を語る
第十課　学校について語る
第十一課　趣味について語る
第十二課　中国へ行く

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話１Ａ２（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話１Ｂ

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<中国語会話１Ａ>とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週２回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが<中国語会話１Ａ>と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．今天星期几？　曜日と疑問詞利用の疑問文
3．我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
4．我学习中文专业。能願動詞“能”
5．現在幾点？　時間表現、語気助詞“了”
6．我的家庭。介詞“在”
7．谈天気。天気表現、選択疑問文、感嘆文、
8．邀请。仮定文、反復疑問文、部分否定文
9．中間テスト
10．我的大学。伝聞の表現
11．找手机。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
12．喜欢什么？　過去の経験表現「V+“过”」
　結果や程度表現「V+“得”」
13．帮我。能願動詞“会”
14．暇期做什么？　結果補語“好”
15．まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話１Ｂ（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 2

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　周 素芬　楊 衛平　陳 惠貞

【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の３級に受かることを目標に定め、<中国漢語水平考試大綱>に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには<HSK基礎コースA>か、<HSK基礎コースB>と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには<中国語会話２>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、読解能力のさらなる向上を目指す。より複雑な文章の学習を通じて、中国語の基本構造を理解し、読解能力を養成する。

【授業計画】

1．就要放暑暇了。語気助詞“了”、介詞“和”
2．伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
3．暑暇回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
4．使役の表現“让”
5．鈴木一家。能願動詞“会”“能”
6．過去の経験表現「V+“过”」
7．我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
8．介詞“离”、連動文
9．終于习慣了。感嘆表現２
10．自己の意見表示
11．我做了一個夢。動作の進行表現の「“在”+V」、程度補語と可能補語
12．副詞用法の“地”
13．我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
14．春暇的計画。未完了の表現、許諾の表現
15．まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解１Ａ２（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 2

大森信徳　張 玉玲　曹 志偉　周 素芬　楊 衛平

【授業の概要】

主として、身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の３級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された<中国漢語水平考試大綱>に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は、旅先での中国語による買い物などが可能になる。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、会話能力のさらなる向上を目指す。日常のさまざまなシーンであらわれる表現・会話の学習を通じて、中国語の運用能力を身につける。

【授業計画】

中国語会話１をクリアした学生が、さらに深く生きた中国語を話せるようになることを目指す。学生が、中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

第一課　部屋を借りる
第二課　換金する
第三課　道を尋ねる
第四課　交通機関を利用する
第五課　市場での買い物の仕方
第六課　デパート
第七課　ホテル
第八課　郵便局
第九課　電話
第十課　中国人宅に訪問する
第十一課　レストラン
第十二課　スピーチの仕方

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話１Ａ２（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 基礎コースA　＊聴解中心

大森信徳　河井昭乃　王 麗英　杜 英起

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK（漢語水平考試）に向けて、受験に必要な基礎的な能力を養成することに特化した授業である。試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力を身につける。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎２級から３級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1．“了”や“过”の使い方など
2．“时点”の言い方や“时段”の言い方など
3．“小时”や“钟头”の使い方など
4．“方位词表”について
5．“多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6．“该”や“应该”の使い方など
7．介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
8．比較表現について
9．“是字句”について
10．“愿意”や“想”の使い方など
11．“趋向补语”について
12．“复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 基礎コースB　＊読解中心

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　陳 惠貞

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK（漢語水平考試）に向けて、受験に必要な基礎的な能力を養成することに特化した授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK基礎コースA>とほぼ同じあるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK基礎コースA>で用いる教材と異なっている教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎２級から３級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1．“我”と“你”；“左右”と“前后”など
2．“是”；“语气助词”の“吗”と“呢”など
3．“了”；“形容词谓语句”など
4．“动词+过”と“形容词+过”；“在”など
5．“数量补语”；“头”と“面”など
6．“有字句”；结构助词“地”など
7．“量词的重叠”；“把字句”など
8．“从”と“离”；“一边～一边～”など
9．“都”と“一共”；“程度补语”など
10．“被字句”；“在・正・正在”など
11．“趋向补语”；“多么”など
12．“复合趋向补语”；“是～还是～”など
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解３

河井昭乃　楊 衛平　湯 海鵬

【授業の概要】
読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の４級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。HSK試験対策のためには＜HSK初等コースA＞か、＜HSK初等コースB＞と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには＜中国語会話３＞と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】
前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】
1．オリエンテーション
2．应该感谢谁。
3．一件小事。
4．生日宴会。
5．中国人的问候语。
6．在中国过春节。
7．修自行车的张师傅。
8．自行车上的宝宝座儿。
9．雨披。
10．服装与色彩。
11．逛商场。
12．一个特别的“村”
13．学汉语趣事。
14．まとめ
15．復習・テスト

【評価方法】
出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】
中国語読解３・４（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】
教場で指示すること、関連参考文献のプリント提出など。

HSK初等コースA　＊聴解中心

大森信徳　河井昭乃　陳 惠貞　杜 英起

【授業の概要】
中国語を１年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初等試験の４級に受かることめざし、試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】
HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等４級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】
各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。
学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】
出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】
HSK初中等A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】
必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話３

楊 衛平　曹 志偉　杜 英起

【授業の概要】
第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の４級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語ることができる。

【授業の目標】
前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】
中国語会話２を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。
1．初めまして
2．私達の中国語の先生
3．朝食を食べる
4．タクシーに乗る
5．宿舎のおばさん
6．言葉のパートナー
各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】
出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】
中国語会話３・４（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】
必要に応じて授業時に指示する。

HSK初等コースB　＊読解中心

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　湯 海鵬

【授業の概要】
中国語を１年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK初等コースA＞とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK初等コースA＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】
HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等４級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】
各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。
学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】
出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】
HSK初中等B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】
必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 4

河井昭乃　楊 衛平　杜 英起

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。HSK試験対策のためには＜HSK中等上級コースA＞か、＜HSK中等上級コースB＞と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには＜中国語会話4＞と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】

1．接続詞の使い方、用途など。“虽然～但是”など。
2．連動文の構成。主語+動詞フレーズ1+動詞フレーズ2。
3．動詞の繰り返しの構造。AA式：说说;A-A式：说一说等等。
4．挨拶の言葉。“打招呼、问候语”などの基本と応用。
5．構造助詞の使い方。“的、地、得”の使い方、それぞれの違い。
6．名量詞と動量詞の区別。“一个小时”和“一小时”。
7．「宝宝」からの連想ゲーム。“宝贝、宝座、珠宝、心肝宝贝”。
8．疑問文のイロハ。“吗、呢、是吗、是不是、是～不是”。
9．副詞のポイント。“又、再、也、都、一直、已经”。
10．方向動詞の使い方。“上、下、出、回、来、去”を中心。
11．語気副詞の応用。“可、更不用说、真的”。
12．形容詞と副詞の用例。“差不多”の使い方などを。
13．比較の方法。“最、更、比、跟～一样”の使い方と区別。
14．特殊な動詞述語文。“连动式文、兼语式文、把和被の用例”
15．まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解3・4（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提示など。

中国語会話 4

楊 衛平　曹 志偉　陳 惠貞

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語ることができる。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話3を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1．市場での買い物
2．旅行に行こう
3．体を鍛える
4．ついてない一日
5．ダイエット
6．友情に乾杯

各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等上級コースA　＊聴解中心

大森信徳　河井昭乃　陳 惠貞

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初・中等試験の5級に受かることをめざし、ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初中等A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等上級コースB　＊読解中心

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　杜 英起

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK中等上級コースA＞とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK初等コースA＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初中等B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文１

曹 志偉　陳 惠貞

【授業の概要】

第二外国語として２年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の６級または７級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要となる平易な文章だけではく、社会に使われている実用な文体を身に付けることも目標とする。自ら各文体に沿って練習を重ねて文章が書けること。

【授業計画】

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

第一課　文章記号と文章形式
第二課　自己紹介
第三課　書き付けと招待状
第四課　日記
第五課　手紙
第六課　電子メール

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース１B　＊読解中心

曹 志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK中等高級コース２A＞とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK中等高級コース２A＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースBは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考試）７級に合格するレベルの語彙、文法、読解力を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめずす。予習を課することもあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース１A　＊聴解中心

大森信徳　曹 志偉

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の６級または７級に受かることを目標に定めた授業である。

【授業の目標】

ねらいの試験で要求される2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。１課を２回の授業で進めてゆく。

【評価方法】

期末試験、出席状況、小テスト、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門１

大森信徳

【授業の概要】

第二外国語として２年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な実務通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の６級または７級に合格する程度の2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしてゆく。

【授業計画】

教科書は12課から構成され、１課を２回授業で進める予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文２

曹 志偉　陳 惠貞

【授業の概要】

２．5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の７級または８級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要となる平易な文章だけではく、社会に使われている実用な文体を身に付けることも目標とする。自ら各文体に沿って練習を重ねて文章が書けること。

【授業計画】

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

第七課　契約書
第八課　就職書類
第九課　記述文
第十課　説明文
第十一課　感想文
第十二課　意見文

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

HSK中等高級コース２Ａ　＊聴解中心

大森信徳　曹 志偉

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の７級または８級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される総合的な中国語の能力を養成する。

【授業の目標】

練習問題を大量に解くことで,2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしてゆく。

【授業計画】

教科書は12課から構成され、１課を２回の授業で進める予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語中等高級Ａ（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

言活（中国語）

HSK中等高級コース２Ｂ　＊読解中心

曹 志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK中等高級コース２Ａ＞とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK中等高級コース２Ａ＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースＢは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考試）７級に合格するレベルの語彙、文法、読解力を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめずす。予習を課することもあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースＢ（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門２

大森信徳

【授業の概要】

２．5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の７級または８級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには＜HSK中等高級コース２Ａ＞か、＜HSK中等高級コース２Ｂ＞と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには＜中国語作文２＞と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の７級または８級に合格する程度の3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法事項を身につける。

【授業計画】

教科書は12課から構成され、１課を２回の授業で進める予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

韓国・朝鮮語入門

パク ヨンソン　キム ソヨン

【授業の概要】
ハングル（韓国・朝鮮の文字）の習得、発音のトレーニング、基礎文法の理解など、韓国・朝鮮語の入門段階を総合的に学習する。入門段階における集中学習の効果（韓国・朝鮮語は日本語と文法構造がほとんど同じなので、効果的に学習すれば１年間で高校３年の英語力程度の力をつけることができる）をねらい、週２回履修を義務づける。

【授業の目標】
基礎的名詞および動詞や形容詞を中心にする500語程度の基本語彙、60項目ほどの基礎文法を身につけ、それを用いた短文の読み書き、聞きとり、意思表示、そして会話上の運用を可能にする。

【授業計画】
第１回　授業の概要説明、韓国・朝鮮語の概説
第２回～第５回　ハングルの読み書き１～４、まとめ
　１）基本母音字（10個）、挨拶１
　２）基本子音字１（平音９個）、挨拶２
　３）基本子音字２（激音５個）、名詞１
　４）合成子音字（濃音５個）、名詞２
第６回～第８回　ハングルの読み書き５～７
　１）合成母音字１（４個）、形容詞１
　２）合成母音字２（７個）、形容詞２
　３）終声子音字（７種）、叙述格助詞
第９回～第10回　発音のルールとトレーニング１・２、動詞１・２、表現練習、まとめ
第11回～第12回　尊敬形１、平叙文・疑問文１・２、助詞１・２
第13回～第14回　尊敬形２、否定文、助詞３・４、まとめ
第15回　中間試験
第16回～第17回　上称形、平叙文・疑問文および否定文、連結語尾１・２
第18回～第20回　１）勧誘および命令文、転成語尾１
　２）禁止および不可能文、変則活用１、転成語尾２
　３）漢数詞、書き取り、表現練習、まとめ
第21回～第23回　１）略対上称形、転成語尾３
　２）平常形、先語末語尾１
　３）曖昧形、先語末語尾２
第24回～第25回　１）変則活用２、先語末語尾３
　２）固有数詞、表現練習、まとめ
第26回　単位認定試験

【評価方法】
出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】
はじめての韓国・朝鮮語　（曺述燮　プリンテック）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話１

パク ヨンソン　キム ソヨン　李 正子　金 芝恵

【授業の概要】
使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】
名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それを用いた会話の聞き取り、意思表示の運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の１級、ハングル能力検定試験の４級に受かることを目指す。

【授業計画】
第１回　授業の概要説明、こんにちは
第２回　韓国は初めてですか
第３回　ここが寮です
第４回　３月２日からです
第５回　どこで売っていますか
第６回　MTって何ですか
第７回　韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第８回　スタンドランプを見せてください
第９回　一杯飲みましょう
第10回　大学生活はどうですか
第11回　よく聞けば勉強になります
第12回　誕生パーティをしましょう
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】
始めよう韓国語会話（曺述燮・李正子・金賢珍　プリンテック）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解１

パク ヨンソン　金 由那　姜 信和

【授業の概要】
身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】
名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞など1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それを用いた文章の読み書きの運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の１級、ハングル能力検定試験の４級に受かることを目指す。

【授業計画】
第１回　授業の概要説明、入門講座の復習
第２回　サッカーがお好きですか。過去の経験の敬語体、理由・原因の表現、単純否定表現と不可能表現
第３回　明日は何をされますか。意志・意図・計画の表現、願望の表現、勧誘の表現
第４回　喫茶店で。変則１、仮定の表現、選択・許容の表現、命令・提案・要求の表現
第５回　韓国料理屋で。変則２、前置きや状況の表現、逆接の表現、助数詞
第６回　道をたずねる。変則３、案内の表現、義務・必要性の表現、比較・対照の表現
第７回　中間試験
第８回　地下鉄の駅で。変則４、可能・能力の表現、不可能・無能力の表現、排除の表現、推量・可能性の表現
第９回　タクシーに乗る。前後関係の表現、意図・予定の表現、決定の意の表現、依頼・要求の表現
第10回　郵便局に行く。用言の連体形
第11回　約束を交わす。状態変化の表現、感動・独白・感想の表現、同時進行の表現
第12回　天気、引用・伝聞の表現、可能性への推測の表現、確認あるいは同意の表現
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】
韓国語中級（李昌圭　白帝社）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策１

パク ヨンソン　キム ソヨン　姜 信和　金 美淑

【授業の概要】
韓国語能力試験の１級あるいはハングル能力検定試験の４級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】
1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の１級あるいはハングル能力検定試験の４級に必ず合格する。

【授業計画】
発音と表記、文法、助詞、読解と表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。
第１回　授業の概要説明、前期の復習
　完全制覇５級・挨拶言葉１
第２回　挨拶言葉２、ハングルのカタカナ表記
第３回　日本語のハングル表記、基本語彙と文法１
第４回　基本語彙と文法２、尊敬形と上称形の活用、各種助詞
第５回　漢数詞と固有数詞、助数詞、疑問詞
第６回　韓国語の短文作成および聞き取り、表現練習、まとめ、中間テスト
第７回　完全制覇４級・基本語彙と文法１
第８回　基本語彙と文法２・各種助詞、数詞・助数詞、過去形、尊敬形、単純否定形と不可能形
第９回　基本語彙と文法３・各種活用と変則、接続文、連体形
第10回　基本語彙と文法４・仮定の表現、状況変化の表現、各種語気の表現、動作の先行関係の表現
第11回　韓国語の発音、応用問題１
第12回　応用問題２
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】
絶対合格のために!!「ハングル」能力検定試験５級・４級（小坂伸顕　白帝社）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解 2

キム ソヨン　李 正子　金 美淑　金 芝恵　姜 信和

【授業の概要】
身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】
1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、基本的な説明文・広告文などが理解できること、簡単な文章が正しく書けること、そして韓国語能力試験の２級、ハングル能力検定試験の３級に受かることを目指す。

【授業計画】
第１回　授業の概要説明
第２回　初出勤、受動動詞、謙譲動詞、引用あるいは伝聞の表現、
第３回　順杯、平行動作と逆接の語尾、変則１、動詞の過去の連体形
第４回　会食、補助動詞、引用文縮約形
第５回　業務報告、推量・勧誘の表現、敬語体の依頼と命令
第６回　整理と発展「北韓山で」、漢字音を覚える、音の変化、模擬試験
第７回　韓国の文化・風習、表現練習、中間試験
第８回　再会（１）、婉曲・感嘆・非難の語尾表現、進展の語尾表現、会話文の縮約形
第９回　再会（２）、曖昧形文の疑問・命令・勧誘表現、意思表示の表現
第10回　日本の取材（１）、変則２、目的の表現、義務・必要性の表現
第11回　日本の取材（２）、判断あるいは同意の表現、間接疑問、曖昧形文
第12回　整理と発展「同僚紹介」、漢字音を覚える、連体形の色々、模擬試験
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】
総合韓国語２（油谷幸利・南相瓔　白帝社）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策 2

金 美淑　金 由那　金 芝恵　李 正子

【授業の概要】
韓国語能力試験の２級あるいはハングル能力検定試験の３級に合格するために、既出問題のおよび新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】
1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の２級あるいはハングル能力検定試験の３級に必ず合格する。

【授業計画】
基礎表現、発音、読解と活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。
第１回　授業の概要説明、３級完全制覇１・基本語彙と文法２
第２回　基本語彙と文法２、韓国語文の日本語文訳
第３回　各種動詞、各種形容詞、韓国語文の日本語文訳
第４回　尊敬形と上称形、命令・勧誘・否定の表現、禁止の命令形
第５回　各種連体形、各種助動詞、各種接続詞、時制の表現、選択・許容の表現
第６回　試しの表現、可能・不可能の表現、過去の経験の表現
第７回　韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第８回　意志、意図・計画の表現、決心の表現、依頼・要求の表現
第９回　各種否定の表現、禁止の勧誘形、理由・条件の表現、感動・独白・感想の表現、未来推量・意志の表現、伝聞
第10回　直接話法と間接話法１
第11回　直接話法と間接話法２
第12回　直接話法と間接話法３、韓国語と漢字、韓国語の発音、まとめ
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】
絶対合格のために!!「ハングル」能力検定試験３級（小坂伸顕　白帝社）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話 2

パク ヨンソン　キム ソヨン　金 美淑　姜 信和

【授業の概要】
使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】
1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、ホテルでの客室予約、銀行での口座開設などの日常生活の簡単な会話を可能にし、基本的な説明文・広告文が理解できるようにする。そして、韓国語能力試験の２級、ハングル能力検定試験の３級に受かることを目指す。

【授業計画】
第１回　授業の概要説明、そこは行かないでおきましょう
第２回　週末には何をしましたか
第３回　またお電話いたします
第４回　料理とか旅行です
第５回　資料を探しに一緒に行きましょうか
第６回　韓国料理ができますか
第７回　韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第８回　何をしようと思っていますか
第９回　どこにいらっしゃいますか
第10回　バスか地下鉄に乗っていきます
第11回　過ぎた水曜日からです
第12回　このバックいくらだった
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】
始めよう韓国語会話（曺述燮・李正子・金賢珍　プリンテック）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解 3

パク ヨンソン　金 由那

【授業の概要】
身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】
3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、簡単な手紙を読んだり書いたりするなど平易な文章による意思伝達が可能であること、新聞、雑誌を読んである程度理解可能であること、そして韓国語能力試験の３級または４級、ハングル能力検定試験の準２級または３級に受かることを目指す。

【授業計画】
第１回　授業の概要説明
第２回　日本語案内放送、変則１、感動・独白・感想の表現、
第３回　日韓間の親近感、引用・伝聞の表現、勧誘表現、引用文連体形、回想連体形
第４回　板門店、理由・原因の表現、同等・比喩の表現、仮定の表現、譲歩の表現
第５回　韓国映画、変則２、推量の表現
第６回　整理と発展「海底トンネルへの期待」、漢字音を覚える、同等・比喩表現
第７回　韓国の文化・風習、表現練習、中間試験
第８回　ＰＣバン、変則３、前置き・逆接の語尾、用言の連用形
第９回　東大門市場、選択の表現
第10回　コリアンタウン、文章の省略形、疑問詞の不定用法、曖昧形文と敬語体
第11回　あかすり、用言の名詞形、可能・不可能の表現、思い込みの表現、変則４
第12回　整理と発展「祝杯」、漢字音を覚える、音の変化
第13回　単位認定試験

【評価方法】
出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】
総合韓国語３（油谷幸利・南相瓔　白帝社）

【参考文献・資料】
授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話 3

パク ヨンソン　キム ソヨン

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、日常言語生活において語彙の不便がなくよく使われる言葉をゆっくり聞けば十分理解できてハングルの会話が楽しめるようにする。そして、韓国語能力試験の３級または４級、ハングル能力検定試験の準２級または２級に受かることを目指す。

【授業計画】

第１回　授業の概要説明
第２回　履修登録と単位数
第３回　バイト探し
第４回　口座開設と自動振込みの手続き
第５回　天気予報そして日本の天候
第６回　山つつじと韓国の春
第７回　韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第８回　韓国の食文化および調理法
第９回　博物館めぐり
第10回　韓国と日本の庭園文化の比較
第11回　郵送：飛行便と船便
第12回　夏のヘアスタイル
第13回　単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使おう韓国語会話　（曺述燮・金賢珍　プリンテック）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策 3

キム ソヨン　金芝恵

【授業の概要】

韓国語能力試験の３級または４級あるいはハングル能力検定試験の準２級または２級に合格するために、既出問題のおよび新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の３級または４級あるいはハングル能力検定試験の準２級または２級に必ず合格する。

【授業計画】

発音、読解、注意すべき用言とその用例、活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

第１回　授業の概要説明、各種発音ルール
第２回　受身、使役形、形容詞の動詞化表現、動詞の名詞化表現、読解・カッパの語源
第３回　読解・韓国と日本の文化比較、結婚後の複雑な親族呼称、韓国の朝は忙しい
第４回　各種活用表現１
第５回　各種活用表現２、注意すべき用言とその用例１
第６回　注意すべき用言とその用例１、慣用表現、まとめ、中間テスト
第７回　模擬試験１、解答と解説
第８回　模擬試験２、解答と解説
第９回　模擬試験３、解答と解説
第10回　聞き取り・書き取り模擬試験１、解答と解説
第11回　聞き取り・書き取り模擬試験２、解答と解説
第12回　聞き取り・書き取り模擬試験３、解答と解説
第13回　単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

ハングル能力検定試験準２級合格をめざして（李昌烈　白帝社）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

プログラミング入門

三和義秀　他

【授業の概要】

システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、BASIC言語等を用いてその基礎知識を習得する。このため、プログラミング言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。

【授業の目標】

データ処理におけるアルゴリズムからプログラミング作業に至るまでのシステム開発における基礎知識と技術をコンピュータ実習を通じて習得する。

【授業計画】

1．システム開発におけるプログラミング
2．プログラミング言語の概要
3．プログラミングの基礎、手順
4．アルゴリズムとフローチャート
5．変数とデータ型
6．順次構造
7．関数の利用
8．選択構造
9．繰り返し構造（1）
10．繰り返し構造（2）
11．一次元配列
12．二次元配列
13．文字列処理

授業は、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で実施する。コンピュータ実習を伴うことから、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。また、実習の際には記憶メディア（FD、USBメモリ等）が必要になる。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

プログラミング入門（西荒井学著　共立出版）

CG 入門

石丸 緑　他

【授業の概要】

コンピュータグラフィックス（CG）を含むディジタルコンテンツ制作に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CGを効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。本講では、ディジタルコンテンツを使ったコミュニケーションやプレゼンテーションの基本から具体的な表現・制作技術にいたるまで概説する。

【授業の目標】

画像や映像についての知識を身につけ、コンピュータ実習を通じて、画像やアニメーション、映像制作などの技術を習得する。

【授業計画】

画像・映像やスライド教材などを活用した講義を中心に、時にはコンピュータ実習や課題制作を交えて進める。扱うトピックスは次のとおりである。

1. コミュニケーションと情報
2. プレゼンテーション
3. Webにおける情報デザイン
4. 映像制作
5. コンピュータグラフィックス１：基礎編
6. コンピュータグラフィックス２：アニメーション編
7. 表現の基礎
8. 技術の基礎

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、試験結果などから総合的に評価する。

【テキスト】

ビジュアル情報表現：ディジタル映像表現・Webデザイン入門（CG－ARTS協会）

情報数学入門

親松和浩　他

【授業の概要】

情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、CGやゲームプログラミングで特に重要な代数幾何の基礎を学ぶ。

【授業の目標】

全ての情報処理プログラミングで必要な論理演算、データ量や処理スピードに関する基礎知識を理解し、CGやゲームプログラミングで必要となる三角関数やベクトルの基礎的な計算法を習得する。

【授業計画】

以下の項目について、コンピュータを用いた演習を交えて学習する。

1．集合・命題と制御処理
2．2進数による情報の表現
3．三角関数
4．ベクトル
5．図形の方程式
6．行列
7．図形の変換

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、試験結果などから総合的に評価する。

【テキスト】

第１回目の授業にて指示する。

人工知能入門

高橋信明　他

【授業の概要】

人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および情報処理について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、出来る限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。

【授業の目標】

人工知能の学問分野を概観し、人工知能プログラムや知識の表現、推論についての基礎知識を習得する。

【授業計画】

1．人工知能の基本原理と考え方
2．知識と知識表現
3．述語論理と導出原理
4．問題解決
5．探索法とアルゴリズム
6．プロダクションシステム
7．意味ネットワーク
8．推論
9．自然言語処理
10．人工知能用言語
11．エキスパートシステム
12．ニューラルネットワーク
13．人工知能の応用と展望

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

第１回目の授業にて指示する

情報処理技術特殊Ⅰ

中野雅晴

【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

1）情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
2）上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
3）プログラミングに必要な論理的思考能力
4）プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

【授業の目標】

基本情報技術者試験の資格取得を目指し、アルゴリズムやデータ構造に関する知識に基づいて、プログラムを作成するスキルを習得する。

【授業計画】

ステップ1　コンピュータ科学基礎
ステップ2　データベース技術
ステップ3　コンピュータシステムの開発と運用
ステップ4　ネットワーク技術
ステップ5　情報と経営
ステップ6　セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅱ

中野雅晴

【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

1）ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する全般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
2）内部設計書・プログラム設計書の作成能力
3）プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
4）ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
5）プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

【授業の目標】

ソフトウェア開発技術者試験の資格取得を目指し、高度なアルゴリズムやデータ構造に関する知識に基づいて、効果的なプログラムを作成するスキルを習得する。

【授業計画】

ステップ1　コンピュータ科学基礎上級
ステップ2　コンピュータシステム上級
ステップ3　システムの開発と運用
ステップ4　ネットワーク技術
ステップ5　データベース技術
ステップ6　セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅲ

黒部晃一

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門2級」の合格を目標として、その対策を会得する。2級問題は、「CGクリエイター検定3級」レベルのCGに関する総合的な知識の他に、コンセプトメイキングから運用に至る全工程の知識が必要とされるので、Webデザインや音の利用に関するWeb制作に必要な体系的な知識を学習する。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門2級の資格取得を目指し、Web技術・デザインに関する基本的な知識を習得する。

【授業計画】

テキストや授業内で配布するサブテキストに基づいて、講義方式で行う。

1．Webデザイン概論
2．テキスト『Webデザイン』検証
3．HTML
4．JavaScript
5．スタイルシート
6．DreamweaverとFireworks
7．FlashムービーとActionScript
8．Javaアプレット、CGI、XML
9．平成17年度後期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析
10．平成17年度後期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析
11．平成18年度前期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析
12．平成18年度前期CGクリエイター検定2級試験問題の検証と分析

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

Webデザイン：コミュニケーションデザインの実践（CG-ARTS協会）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅳ

黒部晃一

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門1級」（平成18年前期から実施）の合格を目標として、その対策を会得する。1級問題は、Web設計とデザインの高いスキルを要求されるので、自ら発案するテーマに基づいたWeb制作の実習を行う。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門1級の資格取得を目指し、さまざまなWeb技法を効果的に活用し、高度なWebサイト制作や開発に応用できるスキルを習得する。

【授業計画】

前半は講義方式で、後半は主に実習形式で行う。

1．基本Webテクノロジーとその活用
2．最新のWebテクノロジーの概要
3．平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（マークシート）の検証と分析
4．平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（記述式）の検証と分析
5．平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
6．平成18年度CGクリエイター検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
7．自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
8．自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
9．自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
10．自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
11．自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
12．自ら提議したテーマに基づいたWeb制作

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

Webデザイン：コミュニケーションデザインの実践（CG-ARTS協会）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

英語コミュニケーション1（TOEIC Ⅰ）

DYCUS, David C.　相川由美　横関美津紀　関瀬欣美　寺本史子　今井知子　野口崇香　STEPHENSON, 友貴　PUDWILL, Larry A.　REINTSMA, Sharell　STEPHENSON, Brett　SUTHONS, Philip　BROWNING, Jeremy S.　HAYE, Avril　小沢 茂　太田晶子　McGOLDRICK, Gemma　鈴木哲至

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を身に付ける。

【授業の目標】

TOEICに向けての基本的な文法や語彙など基本事項を徹底的に身につけることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のように授業を進める。

1．受講生による演習問題への解答
2．授業担当者による問題解説
3．演習問題を利用したディクテーション、シャドーウィング、ペア・プラクティスなど
4．Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5．確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、１回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション2（Listening Ⅰ）

石橋千鶴子　山田久美子　横関美津紀　太田晶子　野口崇香　磯村香里　関瀬欣美　鈴木哲至　山田豊　DUNKLEY, Daniel　相川由美　寺本史子　BROWNING, Jeremy S.　HARRIS, Richard S.　PUDWILL, Larry A.　REINTSMA, Sharell　LACEY, Charles F.　JUNEJA, Indo　McGOLDRICK, Gemma　二村慎一　松本一喜

【授業の概要】

基本的なリスニング能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1．英語のリズムとイントネーションの習得
2．連結・脱落・同化などの聞き取り
3．ディクテーション
4．シャドーイング
5．短文・長文の暗唱
6．ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、１回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション3（Listening Ⅱ）

石橋千鶴子　中川直志　太田晶子　横関美津紀　SUTHONS, Philip　BROWNING, Jeremy S.　PUDWILL, Larry A.　REINTSMA, Sharell　LACEY, Charles F.　鈴木哲至　野口崇香　磯村香里　寺本史子　CHAMBERS, Tim　DUNKLEY, Daniel　GAFFNEY, Sean　HAYE, Avril　STEPHENSON, 友貴　JUNEJA, Indo　小沢 茂　McGOLDRICK, Gemma

【授業の概要】

リスニングの発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1．英語のリズムとイントネーションの習得
2．連結・脱落・同化などの聞き取り
3．数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4．ディクテーション
5．シャドーイング
6．短文・長文の暗唱
7．ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、１回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション4（Reading Ⅰ）

DYCUS, David C.　山田久美子　横関美津紀　太田晶子　相川由美　関瀬欣美　野口崇香　今井知子　山田豊　寺本史子　鈴木哲至　BROWNING, Jeremy S.　HARRIS, Richard S.　DUNKLEY, Daniel　REINTSMA, Sharell　STEPHENSON, Brett　PUDWILL, Larry A.　STEPHENSON, 友貴　小沢 茂　McGOLDRICK, Gemma

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業の目標】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

１分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）のSpeed Reading機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1．社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2．語彙力の増強
3．文法事項の整理
4．練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、１回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション5（TOEIC II）

DYCUS, David C.　横関美津紀　BROWNING, Jeremy S.　JUNEJA, Indo　間瀬欣英　HARRIS, Richard S.　寺本史子　REINTSMA, Sharell　PUDWILL, Larry A.　STEPHENSON, Brett　GAFFNEY, Sean　STEPHENSON, 友貴　小沢茂　McGOLDRICK, Gemma　LACEY, Charles F.　WACHOLTZ, Terry

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業の目標】

リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることが目標である。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1．受講生による演習問題への解答
2．授業担当者による問題解説
3．演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4．確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、１回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション6（Oral Communication I）

HARRIS, Richard S.　CAMERON, Leona R.　SUTHONS, Philip　SMITH, September　STEPHENSON, Brett　HAYE, Avril　CHAMBERS, Tim　GAFFNEY, Sean

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Course objectives】

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション7（Oral Communication II）

HARRIS, Richard S.　SUTHONS, Philip　STEPHENSON, Brett　CAMERON, Leona R.　SMITH, September　HAYE, Avril　REINTSMA, Sharell　GAFFNEY, Sean　McGOLDRICK, Gemma

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Course objectives】

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション8（Reading II）

横関美津紀　山田久美子　今井知子　寺本史子　相川由美　STEPHENSON, Brett　SMITH, September　間瀬欣英　McGOLDRICK, Gemma　鈴木哲至

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業の目標】

目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1．長文の大意把握
2．語彙力の増強
3．文法事項の整理
4．練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、１回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語演習Ⅰ（Writing Ⅰ）

石橋千鶴子

【授業の概要】

パラグラフ・ライティングの指導を中心とした英語総合演習。英文の基本であるパラグラフの構成とフォームを理解した後、サマリー・ライティングやレター・ライティングの実践を通して、ライティング運用能力を身につける。

【授業の目標】

ライティングの実践を通して、英文の基本であるパラグラフのフォームと構成の定着をはかり、ライティング運用能力を身につける。

【授業計画】

パラグラフ構成について指導を行った後、英語ビデオ教材を使い、内容把握のための口頭活動を英語で行っていく。最後にサマリー・ライティングで仕上げ、パラグラフ構成の定着を促す。

また、教材として英字新聞記事も用い、語い・表現の増強と読解力養成をはかり、最後にライティングに発展させる。

【評価方法】

ライティングの課題、平常の勉学状況および期末試験により評価を行う。

【テキスト】

未定。英字新聞記事のコピーなどは配布する。

英語演習Ⅱ（Writing Ⅱ）

BROWNING, Jeremy S.

【Course description】

This class is designed to help the student gain greater ability & confidence in written English through the investigation of common themes they encounter in real life. This provides the students with useful English that they can apply to various situations. Examples of these are "my daily activities" (descriptive), "a letter to a friend" (narrative), and "visiting an art museum" (compare & contrast).

【Course objectives】

The objective of this class is to help students develop greater writing proficiency beyond the paragraph level. Students will explore various text types from personal topics to complex writing tasks that require knowledge of rhetorical writing types that they will gain in the class.

【Course schedule】

In the early part of the semester, students will review basic paragraph composition and then make a transition into larger essays that evoke background knowledge. From personal essays of various themes and text types, the students will then engage in more complex writing that is based around rhetorical structures like descriptive, narrative, persuasive and comparative writing.

【Assessment】

Assessment will be based on（1）attendance and participation in classroom activities,（2）homework assignments done in preparation for longer writing assignments, and（3）a mid-term and end-of-term essay on a topic agreed upon by the instructor.

【Textbooks】

"Composition Practice", Book 2 by Linda Lonon Blanton.
Published by Thomson Learning（Heinle & Heinle）

Also, there will be supplementary handouts given to students as well.

英語演習Ⅲ（Speech and Presentation）

LEWIS, Paul

【Course description】

This course will teach students how to make presentations and speeches of various kinds, including for business purposes. We wil learn and practice how to make the most of our voice, gesture, and body language. We also learn how to integrate this with audio-visual aids, particularly presentation software. The course will be given mostly in English.

【Course objectives】

By the end of the course, students should be able to:

--use their voices for various forms of presentation
--know how to gather data for a research project
--know how to use PowerPoint to create a slideshow of original research
--give a basic presentation using PowerPoint

【Course schedule】

1～9：Presentation techniques (including PowerPoint)
10～12：Project work; preparing & developing own presentation

【Assessment】

Assessment will be according to: attendance, class participation, project work, practice presentations, and final presentation.

【Textbooks】

TBA

英語演習Ⅳ（Business English）

大鐘洋司郎

【授業の概要】

商社、外資系会社、製造業者、外国為替銀行、海運会社、航空貨物会社、国際運送会社や保険会社などに就職しようとする学生に役に立つ体験から帰納した内容をやさしく解説。

海外からの商品の物流、代金決済方法の理解は一般企業就職希望者にも役に立つ。

授業担当者は全米最大の小売業者シアーズ社などとの取引経験から、教科書の事例を解説し、英語ビジネスコミュニケーションの手法を学ぶ。

TOEICにも役立つ体験的英語上達法。

【授業の目標】

わかりやすく解説された貿易実務の基本と英語の立体的習得を通じて、実務社会に受講生が自信を持って入っていけるようにする。

【授業計画】

第1回　何を学習するか。レター・フォーマットの解説。その他。
第2回　海外取引先紹介依頼及び取引先紹介者への礼状
第3回　信用照会及びその返信
第4回　取引開始申し込み
第5回　ビデオ視聴（内容は下記参照）
第6回　一般取引条件協定書の交換
第7回　基本貿易価格FOB及びCIF
第8回　オファー、価格表及びカウンターオファー
第9回　発注及びその確認
第10回　注文書、売約書の送付
第11回　信用状修正依頼及び受領確認
第12回　船積みに関して
第13回　国際的ブランド等のビジネス常識について（時間次第で実施）

【評価方法】

出席状況・定期試験・その他による。
授業に取り組む積極性も評価する。

【テキスト】

ケーススタディで学ぶ英文ビジネス文書のライティングとプレゼンテーション再増補版（大鐘洋司郎他　嵯峨野書院　税込　2,625円）
ビデオ「貿易実務の基礎知識」又は「外国為替について」
授業担当者作成資料（プリント教材その他）

情報技術基礎Ⅰ

小林久恵　宇佐美貴史　岡川卓詩　水野勝仁

【授業の概要】

情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。このため、基本的なハードウェア構成および各周辺機器の機能や特徴をはじめ、ソフトウェアの役割、情報社会の特質や問題点にも触れながら、一般的な情報関連知識ならびに情報倫理観を育てる。

【授業の目標】

情報技術の基礎として不可欠なインターネット利用技術ならびにデータ処理操作方法について、利用者が持つべき基礎的な専門知識を習得する。

【授業計画】

1．コンピュータの歴史、原理
2．情報の表現（２進数、16進数）
3．ハードウェアの仕組みとソフトウェアの役割
4．情報社会と情報倫理１（ネットワーク犯罪）
5．情報社会と情報倫理２（情報セキュリティ、知的所有権）
6．情報収集と分析
7．情報ツールとマナー
8．インターネット基本操作１（電子メール）　実習
9．インターネット基本操作２（WWW）　実習
10．EXCEL基本操作１　実習
11．EXCEL基本操作２　実習
12．EXCEL基本操作３　実習
13．EXCEL基本操作４　実習

授業は、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で実施する。コンピュータ実習を伴うことから、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎III」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際には記憶メディア（FD、USBメモリ等）が必要になる。

なお、当該科目については、コンピュータ操作や習得内容に不安のある学生を対象にした「補習授業」を別途設定するため、積極的に受講して問題解決を図る。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報技術基礎Ⅰ2006年度版（愛知淑徳大学情報教育センター編　共立出版）

情報技術基礎Ⅱ

梅田敏文　小林久恵　岡川卓詩　奥村文徳　加藤浩樹

【授業の概要】

情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに応用ソフトに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけではなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習授業を通して学習していく。このため、基本的な文書書式、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。情報技術基礎Ⅰと同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。

【授業の目標】

Windows XPの環境を前提に、基本的なパッケージソフトウェアの処理操作方法について、利用者が持つべき基礎的な専門知識をコンピュータ実習を通じて習得する。

【授業計画】

1．Windows基本操作１（キー・タイピングを含む）　実習
2．Windows基本操作２　実習
3．WORD基本操作１　実習
4．WORD基本操作２　実習
5．WORD基本操作３　実習
6．WORD基本操作４　実習
7．プレゼンテーションの概要
8．POWERPOINT基本操作１　実習
9．POWERPOINT基本操作２　実習
10．POWERPOINT基本操作３　実習
11．総合課題（プレゼンテーション資料作成１）　実習
12．総合課題（プレゼンテーション資料作成２）　実習
13．情報発信の管理と運用

コンピュータ実習を中心に授業を実施するため、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎III」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際には記憶メディア（FD、USBメモリ等）が必要になる。

なお、当該科目については、情報技術基礎Ⅰと同じく、コンピュータ操作や習得内容に不安のある学生を対象にした「補習授業」を別途設定するため、積極的に受講して問題解決を図る。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報技術基礎Ⅱ2006年度版（愛知淑徳大学情報教育センター編　共立出版）

情報技術基礎Ⅲ

上原 衛　諸上茂光　林 誠　宇佐美貴史

【授業の概要】

情報技術基礎Ⅰ、情報技術基礎Ⅱを踏まえ、Windowsの高度操作、WORD、EXCELの高度操作、ACCESSの基本操作を学ぶ。

【授業の目標】

WORDによるレポート・論文・ビジネス文書の作成、及びEXCELによる表の操作と関数を利用した編集についての高度なスキルと知識を習得する。また、ACCESSによるデータベース作成・検索・レポート作成についてのスキルと知識を習得する。

【授業計画】

1．デスクトップの高度操作
2．ファイルの高度操作
3．ネットワークの操作
4．学術文書、ビジネス文書の操作（WORD）
5．ビジネス情報処理（EXCEL）
6．マクロ操作（１）
7．マクロ操作（２）
8．ACCESSの概要
9．ACCESSの基本操作（１）
10．ACCESSの基本操作（２）
11．ACCESS総合演習（１）
12．ACCESS総合演習（２）
13．まとめ

コンピュータ実習を中心に授業を実施するため、授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。

なお、この授業では、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅰ」、「情報技術基礎Ⅱ」で習得した知識、技術が必要になる。

【評価方法】

出席状況、学期末試験、課題内容によって評価する。

【テキスト】

情報リテラシーの応用（伊東俊彦他著　近代科学社）

ネットワーク技術入門

小林久恵　原 伸之

【授業の概要】

ネットワーク（network）という言葉は、人間を中心とする情報交換の仕組みとして使われたり、コンピュータを中心とする情報通信の仕組みにおいて使われたりしているが、両者には「情報のやり取り」という一義的な目的が存在し、ネットワークを流れるデータは人間の行動を左右する必要不可欠な情報となっている。本授業では、コンピュータネットワークに関する理論と技術の両側面における基礎知識を習得し、ホームページの作成、およびCGIプログラミングの基礎知識によって、ネットワークの基本的な考え方、意義、活用方法、有効性を体得する。

【授業の目標】

ネットワーク技術を利用する上で必須となるネットワークの仕組みやホームページ作成の知識とスキルを習得する。

【授業計画】

1．ネットワーク理論の基礎知識（１）：ネットワークの仕組みとその意義
2．ネットワーク理論の基礎知識（２）：情報量と通信速度、プロトコル
3．ネットワーク技術の基礎知識（１）：LANの仕組み
4．ネットワーク技術の基礎知識（２）：サーバの種類と仕組み
5．ネットワーク技術の基礎知識（３）：IPアドレスとファイアウォール
6．HTMLとホームページ（１）：ハイパーテキスト、HTMLの仕組み
7．HTMLとホームページ（２）：基本タグの設定、画像の表示
8．HTMLとホームページ（３）：ファイルの管理方法、ハイパーリンクの設定
9．HTMLとホームページ（４）：サウンドの再生と動画の再生
10．ホームページ課題作成（１）
11．ホームページ課題作成（２）
12．CGIプログラミング：CGIの仕組みと特徴
13．セキュリティと情報倫理：セキュリティ対策と情報倫理の意味と必要性

この授業では、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅰ」、「情報技術基礎Ⅱ」で習得した知識、技術が必要になる。

【評価方法】

出席回数、課題提出、期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

ネットワークリテラシ（三和義秀著　共立出版）

情報演習Ⅰ（プレゼンテーション）

宮崎慎也　稲葉 洋

【授業の概要】

ITビジネス社会において今後必然的に要求されると思われる電子文書を利用したプレゼンテーション法について学ぶ。

【授業の目標】

PCプレゼンテーションのスタンダードアプリケーションソフトであるPowerPointをはじめとし、数種類の電子文書デザイン用ソフトを組み合わせた文書作成方法を学び、基礎的なプレゼンテーションの能力を身につける。

【授業計画】

1）文書のビジュアル化
2）レイアウトの原則
3）カラーリング
4）紙面レイアウト
5）デザインの基礎知識
6）PCプレゼンテーション
7）スライドレイアウト
8）効果的なプレゼンテーション
9）テンプレート
10）プレゼンテーションの企画
11）図解の基本技術
12）グラフ、表の利用
13）Webプレゼンテーション

【評価方法】

出席50%、レポート評価50%。

【テキスト】

Webサイト、プリント配布等。

【参考文献・資料】

説得できるプレゼン・図解200の鉄則（日経BP社 ISBN 4-8222-9156-1）
プレゼンテーション用の書籍は多数出ています。上記に限らず中身を比較して自分にあうものを選ぶようにしましょう。

情報演習Ⅱ（プログラム応用）

長谷川達也

【授業の概要】

インターネットは世界中の誰もが情報を収集、発信できる画期的な道具です。この授業ではWWWで情報発信するために必要なソフトウェアの知識とプログラミング技術を身につけることを目的としています。初めてホームページを作る人を対象にして、インターネットのしくみとソフトウェア、デジタル画像情報の基礎知識と作成、HTMLを用いるホームページの作成、Javaによるアプレット作成などのアルゴリズムとプログラミングについて学び、最後に学んだプログラミングの知識を応用してホームページ作成の演習を行います。

【授業の目標】

この授業ではWWWで情報発信するために必要なHTML、Javaのアルゴリズムを理解しプログラミング技術を身につけることを目標としています。また初めてホームページを作る人にも理解できるようなわかりやすい授業を目標としています。

【授業計画】

1．インターネットのしくみとソフトウェア
2．デジタル画像情報の基礎知識と作成
3．ホームページのプログラミング（HTML）
4．ホームページのプログラミング（Ｊａｖａ）
5．ホームページ作成演習

【評価方法】

出席、レポートおよび提出されたホームページで評価します。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業時にお知らせします。

情報演習Ⅲ（統計分析応用）

神田幸治

【授業の概要】

アンケート調査や観察調査、心理学実験などで得られる様々なデータを、コンピュータを使用して効率よく集計、分析し、最終的にレポートとしてまとめるための統計処理テクニックに関する実習を行なう。本授業は、統計処理ソフトウェアSPSSの入門（初歩）コースとして進められる。

【授業の目標】

統計処理ソフトSPSSを使用して、コンピュータを用いた実践的な統計分析に関するセンスと知識を身につけることを目標とする。

【授業計画】

以下よりいくつかの項目をとりあげ、SPSSによるコンピュータ実習を行なう。

1．ガイダンス
2．統計知識確認１：記述統計と推測統計
3．統計知識確認２：統計的検定
4．データ分析の準備をする：図表作成　統計処理ソフトSPSS操作基本
5．データを単純に比較する：平均値の差の検定１
6．データを多要因で比較する：平均値の差の検定２
7．データを度数で比較する：独立性の検定・比率の検定
8．一つの変数からデータを予測する：相関分析・単回帰分析
9．複数の変数からデータを予測する：重回帰分析
10．データを合成する：主成分分析
11．データの背後を探る：因子分析
12．データを分離する：判別分析
13．データを群化する：クラスター分析
14．データを自由に分析する：総合課題

【評価方法】

出席、受講態度並びに課題レポート、試験により総合的に評価する。

【テキスト】

SPSSによる統計処理の手順　第４版（石村貞夫著　東京図書）

【参考文献・資料】

毎回プリントを配布する。

情報演習Ⅳ（シミュレーション）

辻 紘良

【授業の概要】

コンピュータシミュレーションによりいろいろな社会・経済システムの分析が可能である。最近は、情報技術の進展によりパソコンでもシミュレーションが容易にできるようになっている。
ここではシミュレーションの基礎を学習するとともに、パソコンソフトを用いて社会・経済システムのモデル化とシミュレーション分析手法を体験的に学習する。これによりシミュレーションのモデル作成から実行・分析、ならびにマルチメディア表現によるプレゼンテーション（アニメーション）までの一連のプロセスを習得する。

【授業の目標】

1．シミュレーションの基礎を把握するとともに問題解決のための分析方法を体系的に理解する。
2．モデル化と実行・分析まで、事例を通して体験的にシミュレーションを修得する。

【授業計画】

毎回、講義の前半はシミュレーションの理論と基本的な言語の説明、後半は簡単なシミュレーションモデルの作成と実行・分析を行う。

1．シミュレーション概論
2．シミュレーションの体験（簡易モデルの作成と実行）
3．モデル化の考え方と言語の基本
4．モデル化　/１　窓口と待ち行列の表現
5．モデル化　/２　リソース（資源）の概念
6．モデル化　/３　グループの概念
7．モデル化　/４　ゲートの概念
8．モデル化　/５　要素の流れの選択や統合・分解
9．モデル化　/６　待ちファイルの操作、外部データとのI/F
10．事象処理ロジックと制御文
11．外部ソフトを取り入れた離散型シミュレーション
12．シミュレーション例
　生産管理システム
　救急介護システム
　臓器移植システム
13．マルチメディア表現（アニメーション）
14．出力（統計データ）の見方と感度分析
15．簡易な社会システムモデルの作成と実行

【評価方法】

授業中の課題や期末の課題提出の結果を総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

Visual SLAMによるシステムシミュレーション改訂版（森戸晋他著　共立出版 2001）

情報演習Ⅴ（インターネット応用 1）

山田雅之　遠藤 守

【授業の概要】
近年のインターネット技術の発展は目覚しく、我々の生活に欠かせないものとなってきている。インターネットを形成する各種要素技術について学習し、正しく理解することはネットワーク社会に生活する我々にとって重要なリテラシーの１つと考えられる。
本講義ではインターネットの基礎となるネットワーク技術のハード・ソフトの構造や仕組みについて学習し、併せてインターネットのこれまでの歴史や現状の把握、さらに将来の可能性や問題点について技術的な観点から考察を行う。また、インターネット分野への応用が著しい携帯電話を代表とする移動体通信についても触れる。

【授業の目標】
インターネット上の各種サービスがどのような要素技術から構成されているかを理解できるレベルを目標とする。

【授業計画】
1．インターネットの歴史と構造
　・インターネットの歴史
　・インターネットの構造
2．インターネットサービス
　・サーバ・クライアントシステム
　・インターネットの各種要素技術
3．移動体通信と情報セキュリティ技術
　・移動体通信
　・電子認証と暗号化通信
4．コミュニケーション技術
　・Ｐ２Ｐ通信
　・電子メールシステム
　・Webスクリプティング技術１
　・Webスクリプティング技術２
5．個人情報発信
　・個人情報と著作権
6．まとめ

【評価方法】
講義の出席状況、レポートおよび提出課題により評価を行う。

【テキスト】
ホームページ上に準備したものを用いる。

【参考文献・資料】
講義中に適宜紹介する。

【備考】
本講義の学習内容を実際に演習を通して理解を深めるために、受講者は情報活用Ⅴ（インターネット応用を履修することが望ましい）

情報演習Ⅵ（インターネット応用 2）

山田雅之　遠藤 守

【授業の概要】
本講義ではインターネットの仕組み、情報セキュリティなどの基礎的な学習から、最近のコミュニケーション手段としての活用方法までを演習を通して理解する。

【授業の目標】
インターネットによるコミュニケーション手段の仕組みを理解するとともに、それらを実際に活用できるレベルを目標とする。

【授業計画】
1．インターネットの仕組み
　・ネットワークのハードウェアおよびソフトウェアの階層構造
　・通信プロトコル
2．情報収集とコンテンツ
　・情報の検索と収集
　・様々なマルチメディアコンテンツ
3．情報セキュリティ
　・通信情報の保護
　・認証技術
4．インターネットによるコミュニケーション
　・チャット
　・電子メール
　・掲示板システム
　・簡易ホームページ作成ツール
5．ホームページの活用
　・グループワーキングによる情報公開
6．まとめ

【評価方法】
講義の出席状況、レポートおよび提出課題により評価を行う。

【テキスト】
ホームページ上に準備したものを用いる。

【参考文献・資料】
講義中に適宜紹介する。

【備考】
本講義の学習内容の基になる技術的な知識を学習するため、受講者は情報活用Ⅴ（インターネット基礎を履修することが望ましい）

情報演習Ⅶ（システム設計）

吉川和男

【授業の概要】
本授業では、ホームページ上で稼動するチャットシステムの設計・製作とそのシステム利用を通じて、情報システムの設計・開発や管理・運用について学ぶ。先ず情報システムが果たす要件について、システムの目的・機能の面から概要を分析する。その結果に基づいてユーザの視点から見たインターフェース等の設計、さらに、プログラム構成やハード構成などの設計、ソースプログラムの作成等を行なう。演習では、例えば旅行などのホームページ上で稼動し、ホームページの情報も使いながら、チャットで話し合えるシステムを、Java、HTMLを使って作成する。

【授業の目標】
（１）情報システムの設計に関する基本的な考え方、取り組み方を修得する。
（２）基本的なチャットシステム制作を通じて、Java言語の基本を体得する。

【授業計画】
1．システム設計とは
2．システム設計の進め方
3～4．チャットとは（チャットシステムの要件を分析する）
5～6．ユーザの視点からみたチャットシステムのインターフェース設計
7～8．話し手の機能を提供するクライアントやこれらの機能をまとめるサーバ、あるいはそれらをつなぐネットワークなど、システム構成の設計
9～11．サーバやクライアントのプログラム設計・実装
12．チャットシステムとしての動作検証
13．チャットシステムとホームページとの併用状況も含めたシステムの出来栄え、使い勝手、改良点などの検討
14．チャットシステム維持のための運用管理

【評価方法】
各工程実習で作成するレポート（開発ドキュメント他）と開発したシステムの成果（品質）により評価を行う。

【テキスト】
使用しない（資料配布）

【参考文献・資料】
Javaプログラミング入門（林正幸著　共立出版）
Javaネットワークプログラミング（幸村剛樹　秀和システム）

情報演習Ⅷ（情報システム活用）

親松和浩　神田幸治

【授業の概要】
調査・研究でオンライン情報検索システムを活用するために必要な知識と技術を習得する。この授業では、文献・統計データベースからのデータの取得法と、取得データを効果的に利用するための情報の整理・加工法について、基本的な考え方と実践的な技法を学ぶ。

【授業の目標】
調査・研究で必要となるデータの検索と加工、および報告書作成や情報提示に関する基礎概念と技能を習得する。

【授業計画】
次のトピックスについて実習を通じて学ぶ。
1．検索エンジンの活用
2．辞典、翻訳サービスの利用
3．文献検索：蔵書目録（OPAC）、MAGZINE PLUS
4．文献リストの作成と整理法
5．オンラインジャーナル
6．新聞記事、写真のオンラインデータベース
7．白書や総務庁統計局の統計データの利用法
8．数値データの活用法
9．報告書作成の方法
10．情報呈示の方法

【評価方法】
提出課題、報告などを総合的に評価する

【テキスト】
未定

社会学概論

高木眞理子

【授業の概要】
社会学は、人間関係に視座を据えて、個人・集団・社会のレベルで、社会を総体的に研究する学問である。授業では、学生の関心と興味を考慮して、現代社会の中心的な課題を分析対象に取り上げる。まず、実証的・相互関連的・生活志向的観点から、その現状・実相を把握する。次に、社会に内在する課題・問題を摘出し、これに検討を加える。最後に、これらの課題を解決・解消するための方策を研究する。さらに、研究手法として、現代社会が絶えず変動を続けている点に着目し、いくつかの変動を選び、これを切り口として、現代社会の実像に迫りたい。さらに、講義を通じて学生の問題解決能力・政策提示能力の涵養をはかりたい。

【授業の目標】
社会を多方面から見つめる「目」を身につけよう

【授業計画】
大体、以下のトピックを扱ってゆく。授業はレクチャーとディスカッションとを織り交ぜて進めたい。
1．イントロダクション
2．社会
3．行為
4．集団
5．家族
6．都市
7．逸脱
8．コミュニケーション
9．社会心理
10．宗教
11．ジェンダー
12．医療と福祉
13．現代社会
14．まとめ

【評価方法】
毎回ではないが、pop quizを行う。最終評価はレポートかまたは試験。
出席を重視する。出席とは単に教室に「存在」することではない。積極的に意見を述べるなど、授業への貢献が求められる。
評価=出席（50%）　pop quiz（10%）レポートまたは試験（40%）

【テキスト】
社会学（奥井智之　東京大学出版会）

【参考文献・資料】
授業中に紹介する。

現代社会論

石田米和

【授業の概要】
急激に変化する社会環境のなかでの個人の存在や人間関係、家族や組織そして文化や政治、国家、メディアやグローバリゼーションなどについて、基本的に社会学の視点から論じていく。

【授業の目標】
様々な社会的事象を読み解く能力、問題を解決する能力を、社会学などの方法論を用いて獲得すること。

【授業計画】
テキストの解説を中心とし、適宜、参考資料、ビデオ等を使用する。

【評価方法】
レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
授業内で、適宜紹介する。

家族社会学

金子佳代

【授業の概要】
私たちにとって非常に身近な「家族」を社会的諸条件と関連づけて、客観的に見直す。また、結婚や子育てなどについての意識や欲求が、自分たちの気づかない部分で社会的に形成されることについても考える。

【授業の目標】
家族に対して客観的視点をもち、家族に関する諸事象を多面的にとらえることができるようにする。

【授業計画】
1．家族についての基本的概念
2．配偶者選択と結婚
3．夫婦の人間関係
4．離婚
5．子どもの社会化
6．育児不安
7．女性と職業
8．高齢社会と老親扶養

【評価方法】
定期試験による。授業中に行う小テストも評価に加える。

【テキスト】
なし。プリントを配布する。

フィールドワーク論Ⅰ

谷沢 明

【授業の概要】
フィールドワークとは、現地調査・野外研究のことである。社会の事象を把握し、実証的に解明する手法として、このフィールドワークはきわめて有効な手段となりえる。フィールドワークの三要素は、「あるく・みる・きく」という行為であろう。まずは資料を探訪するために自らの足で歩く。そして物事を自分の目で深く見つめる。さらに地域で暮らす人々の話に謙虚に耳を傾ける。それがフィールドワークの基本である。このようにモノに対峙し、人間の営為と意志を読み取る作業をとおし、本物を見きわめる目と洞察力を養ってほしいと願っている。

【授業の目標】
現地調査・野外研究の多様な手法の基礎を学ぶことを目標とする入門的な内容。

【授業計画】
1．フィールドワークとは何か～あるく・みる・きく～
2．地域の宝探し～好奇心が大切～
3．生活文化遺産を探す
4．景観を読む～ムラの風景から人間の営みをみる～
5．風土と地方色を探る～日本の民家から～
6．日本文化を探る～住まいをとおして～
7．生活文化を探る～居住形式から～
8．伝統美観を守る民芸のまち～岡山県倉敷市～
9．演出された古きまち～岐阜県高山市～
10．水の恵みを活かした地域づくり～岐阜県郡上八幡～
11．八幡堀再生への思い～滋賀県近江八幡～
12．宮本常一のフィールドワーク論～師から学んだもの～
13．宮本常一先生のこと～おもしろいじゃろう～
備考：入門的なフィールドワーク実習への参加希望学生は「フィールドワークⅠ（国内調査実習①・基礎）」を併せて履修してください。

【評価方法】
フィールドワークを伴う中間レポート及び授業内小テスト・試験による。

【テキスト】
フィールドワークで探る民俗と生活文化

【参考文献・資料】
授業で必要に応じて紹介します。

フィールドワーク論Ⅱ

谷沢 明

【授業の概要】
人間が自然に対峙し、共存しながら築いてきた暮らしの様式と内容を、フィールドワークの視点から考える。内容は、物質文化と精神文化の両面を対象とし、フィールドワークの成果をもとにビデオ等の映像を用いて、具体的かつ分析的にとらえる。とりわけ、歴史的遺産の継承とまちづくりの観点から、地域文化の振興について重点的に扱い、地理・歴史・生活文化の分野を重視した内容を目指す。

【授業の目標】
フィールドワークを通して、歴史的遺産の継承とまちづくりの観点から地域文化の振興について理解することを目標とする中級的内容。

【授業計画】
1. 歩くヒント～充実したフィールドワークを～
2. 風土と生活文化①～沖縄を歩いて～
3. 風土と生活文化②～竹富島を歩いて～
4. ワインによる地域づくり～北海道池田町～
5. 村おこしの元祖～大分県大山町～
6. 町並み保存の元祖～長野県木曽郡妻籠宿～
7. 伝統工芸を活かす～長野県塩尻市楢川～
8. 市街地活性化の元祖～滋賀県長浜市～
9. 運河が観光資源に～北海道小樽市～
10. 国際観光都市を目指して～北海道函館市～
11. 旅の文化史～お伊勢参り～
12. 歴史的風土の保全～伝統・文化的環境を開発から守る～
13. 地域の個性を活かす～特色ある地域創生～

備考：中級的なフィールドワーク実習への参加希望学生は「フィールドワークⅡ（国内調査実習②）」を併せて履修してください。

【評価方法】
フィールドワークを伴う中間レポート及び授業内小テスト・試験による。

【テキスト】
フィールドワークで探る民俗と生活文化

【参考文献・資料】
授業で必要に応じて紹介します。

統計学概論

元吉忠寛

【授業の概要】
行動科学の研究を行うのに必要な統計解析法とその理論について講義します。統計学的な考え方や統計的手法は、実社会においてますますその必要性が大きくなっています。特に、大量の情報があふれる現代社会では、情報処理のツールとして統計学を欠くことはできません。この講義では、データの分析や図表の作成の実習をしながら統計学の基礎について学びます。

【授業の目標】
統計学に関する基本的な知識を学習しながら、パソコンを用いたデータ処理スキルを身につけ、分析方法について理解する。

【授業計画】
1. 授業ガイダンス・統計学とは
2. 統計データとその分布
3. 分布の特徴をあらわす指標（1）
4. 分布の特徴をあらわす指標（2）
5. 確率分布と標本抽出
6. 推定と検定
7. 2群間の平均の比較
8. 相関関係の分析
9. 回帰分析（1）
10. 回帰分析（2）
11. 分散分析
12. カテゴリー変数の関連分析
13. まとめ

【評価方法】
課題レポート、期末試験、出席状況から評価します。

【テキスト】
なし。

【参考文献・資料】
講義中に紹介します。

経済学概論Ⅰ

秦 忠夫

【授業の概要】
大学生もすでに経済社会の一員で、「経済」はみなさんの身近なところで動いています。しかし、漠然としていて奥行きが深いため、どういう仕組みで動いているのか大いに興味はあるが理解を深めるてかがりがつかみにくい。そう思っている人が多いのではないでしょうか。経済の動きがわかるようになるためには、まず経済学の基本を一通り勉強し、現実の動きを興味をもってフォローしていくことが大切です。この講義は、経済全体の動きを分析対象とするマクロ経済学の基礎を習得してもらうことを主たるねらいとしていますが、単に理論の説明に終わらず、できるだけ現実の日本経済の動きと関連づけて解説する方針です。
解説がていねいで入門書として最適と思われる下記のテキストを使用して、マクロ経済学の基礎を一通り幅広く勉強します。必要に応じ補足資料を配付します。

【授業の目標】
基本的な経済用語、基礎的な経済理論をしっかり理解し、現実の経済の動きの理解につなげる努力をする。

【授業計画】
1. GDP統計のしくみ
2. 消費と貯蓄の理論
3. 投資の決定理論
4. マクロ経済における金融の役割
5. 貨幣の需要と供給
6. 乗数理論とIS-LM分析
7. 財政赤字
8. インフレーション
9. 失業

【評価方法】
期末試験と小テストの結果を総合して評価します。

【テキスト】
マクロ経済学・入門（第２版）（福田慎一・照山博司著　有斐閣　2,100円）

【参考文献・資料】
授業の際、適宜紹介します

経済学概論Ⅱ

園田 正

【授業の概要】
社会は家計と企業によって構成されている。それらを結びつけているのが市場（しじょう）である。ミクロ経済学は、家計、企業、そして市場の働きを理解するための理論、すなわち道具である。この道具を身につけることで、私たちの身の回り経済活動の多くがいとも簡単に理解可能になる。

【授業の目標】
新聞などの経済面を読んで、それを理解し、自らの意見や判断を持てるようになることをこの授業の目標とする。このことで、経済活動についての理解が、就職活動やその後の社会・経済活動に役に立つ実践的知識として活用できる可能性を大きく広げることができる。

【授業計画】
1　ミクロ経済学の考え方
2　市場の均衡
3　消費者の行動行動
4　消費の理論
5　需要曲線
6　さまざまな財：代替財と補完財
7　企業の理論
8　供給曲線
9　完全競争
10　独占と寡占
12　不完全な市場：公共財
13　不完全な市場：外部性
14　所得分配：賃金と利子率
15　何が明らかになったのか

【評価方法】
中間レポート（30％）と期末試験（70％）の合計得点で評価する。

【テキスト】
初心者のための　やさしい経済学（塚崎公義・山澤光太郎　東洋経済新報社）

【参考文献・資料】
経済に関連する図書館の本、インターネット情報、テレビ・ラジオ番組、毎日配達される新聞などの全てが生きた「参考文献」になる。これらを大学生活の一部分に取り入れること。

社会心理学

石田米和

【授業の概要】

大きく変容する社会経済環境への“適応・不適応”をキーワードにして、人と人、人と社会の間に生ずる様々な現象を解明し、人間や社会の在り方についての洞察力、問題解決能力等を養っていくことを主な目的とする。

【授業の目標】

人と人、人と環境との関わり方について、様々な事例を通して学びつつ、特に若者に欠如している人間関係や社会関係における適応能力を身に付けること。

【授業計画】

テキストの解説を中心とし、適宜、参考資料、ビデオ等を使用する。

【評価方法】

・レポート、定期試験および出席状況、受講態度受講態度、によって評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

コミュニケーション論

太田浩司

【授業の概要】

本講義では人間コミュニケーションのプロセスについてさまざまな理論的視点から検討する。言語や非言語を通しての対人コミュニケーションから、近年目覚しい発達をしているメディアテクノロジーを媒介してのコミュニケーションまで様々な形態のコミュニケーションを概観する。

【授業の目標】

本講義の目標は以下の４つである。

1．理論と理論化についての基礎的理解とそれらが学問や毎日の生活で果たす役割の理解
2．コミュニケーション学の根幹を成す理論や概念の理解
3．既存の理論を批判的見地から眺め、一方でそれらを実践的に使用する力を培うこと
4．効果的にコミュニケーションをする力を養成すること

【授業計画】

講義の内容については初回の講義で詳しく説明する（必ず出席すること）が、以下の内容を扱う予定である。

1．コミュニケーションとは
2．言語とコミュニケーション
3．非言語とコミュニケーション
4．組織、グループとコミュニケーション
5．異文化間コミュニケーション
6．テレビの影響
7．メディアテクノロジーとコミュニケーション

【評価方法】

出席、中間レポート、ショートペーパー（１回）、期末試験

【テキスト】

なぜあの人とは話が通じないのか：非・論理コミュニケーション（中西雅之　光文社新書　2005）

【参考文献・資料】

授業にて紹介・配布する。

政治学概論

西尾林太郎

【授業の概要】

政治体制や政治制度との関わりで政治の動態を概括的に捉える能力を涵養すると共に、戦後日本の政治・外交を国際的視野で考察することを、講義の目的とする。

また、政治との絡みではあるが、時事的な問題についても積極的に取り上げていく。特に、立法過程や外国為替の政治・経済のメカニズム、イスラム原理主義および政治指導者について重点的に取り上げたい。

【授業の目標】

現代政治を冷静に観察できる能力を養う。

【授業計画】

1．国内政治と国際政治
　a．戦後世界における国際関係
　b．トランスナショナル現象と国家間の相互依存性の増大
　c．政党、官僚、利益団体、議会とその相互関係
2．市民社会と大衆社会
　a．市民社会と古典的デモクラシー
　b．大衆社会とマス・デモクラシー
　c．立法国家と行政国家
3．「55年体制」の成立とその崩壊
　a．冷戦構造と55年体制との関連
　b．日本の政治風土- 田中角栄の場合
4．政治権力
　a．権力とは何か
　b．王権神授説→社会契約論→人民の支配
　c．リーダーシップ
　d．マス・メディア、シンボル
　e．権力分立
　f．政治家

【評価方法】

評価は出席状況と試験による。試験の際、自筆ノートと講義資料の持込を許可する。

【テキスト】

使用しない。但し、適宜、講義資料を配布する。

【参考文献・資料】

随時、指示する。

法学概論

大嶽 浩

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされおり、数多くの「法」が日常の生活に関わっているが、この授業では、その日常生活を「民法」の観点からみつめることで、「法」とは何か、を考える。

【授業の目標】

日常生活において「民法の果たす役割」の重要性を理解すること。

【授業計画】

1．日常生活と法、法律と法
2．公法と私法、民法と法
3．商法と民法、民法典と民法
4．行為能力と法、代理と法
5．法律行為と法、時効制度と法
6．占有と法、所有と法
7．担保物権と法
8．契約と法、保証と法
9．不当利得と法、不法行為と法
10．家族と法
11．相続と法、法と人生

【評価方法】

試験による評価。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

国際情勢論

青島 宏

【授業の概要】

第二次大戦後の国際政治の在り方は冷戦終結により激変し、新しい国際秩序はまだ見えてこない。日本人が今後国際的に活躍するためには、現代の国際社会の流れをできるだけつかんでおく必要がある。半世紀続いた冷戦構造の変化をたどりながら、国際連合など国際機関・組織についての基本的知識を身につけさせるとともに、混迷を続ける冷戦後の国際情勢の読み方を考える。

［ガイダンス］国際情勢を動かす力は経済、政治、その背後にある文化、民族性などがある。地理、風土や歴史などを含めた地政学視点の重要性を述べる。

［国民国家とは］現代の国際情勢を動かす原動力となった国民国家を理解させるために、古代国家から近代の国民国家への成立の歴史でのフランス革命などの意義。

［冷戦構造の始まり］現在の国際関係の基本的構造の源は第二次世界大戦にある。いわゆる冷戦構造とは何か、大戦末期のヤルタでの米、英、ソ連の首脳会談など。

［冷戦構造の変遷］ いわゆるヤルタ体制として冷戦構造が定着する国際情勢の変化を「プラハの春」やハンガリー動乱などとソ連、米国、西欧政治との関わりを解明する。冷戦構造は不変ではなく、デタントなど様々なバリエーションが現れた。ゴルバチョフソ連共産党書記長の登場で冷戦構造の消滅が始まる。東欧の激動に続くベルリンの壁崩壊で冷戦構造消滅は決定的になり、バルト三国独立、ソ連消滅へとつながる。

［冷戦後の世界］冷戦構造消滅により、地域紛争が世界各地で多発している。紛争の性格は地域の歴史的背景によって異なる。湾岸戦争、中東和平への動き、ベルリンの壁崩壊につづいて発生した東欧の変化や、９・11米中枢テロ以後のアフガン問題、イラク戦争などを手掛かりに、新しい国際秩序への動きを考察する。

【授業の目標】

冷戦時代からポスト冷戦へ目まぐるしく展開する国際社会の動きを、その底流から理解する力をそれぞれ身につけさせ、グローバルな活動へのジャンプ力を養う。

【授業計画】

理解を助けるために地図、スライド、写真などを多用する。

【評価方法】

随時実施の小テストによる。

【テキスト】

使用せず。

国際理解教育論

羽場俊秀

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業の目標】

明治以降のわが国の教育のあり方を踏まえ、国際理解教育を理解すること。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1．日本の近代化の過程における外国文明の摂取
　（1）近代化への萌芽
　（2）海外視察と帰国後の動向
　（3）外国人教員の雇用とその教育への影響
　（4）技術伝習による日本の産業の近代化
2．現代の学校教育における国際化
　（1）学校教育における国際理解教育
　（2）海外留学生等の派遣と受け入れ

【評価方法】

レポートにより評価を行う。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

教育学概論

渡辺かよ子

【授業の概要】

現代世界は多くの社会問題を抱えている。教育問題はこれらの社会問題の一つであると同時に、これらの有効な解決方法の一つでもある。あるべき教育とは何か。これほどあるべき教育が語られるのになぜ教育問題は解決しないのか。本講義はこれらの問いへの答えと解決の試みを教育と社会の連関から考察していく。

【授業の目標】

教育学の基礎知識の習得と現代社会教育課題の理解を通じ、社会と教育の関連に関心を喚起する。

【授業計画】

1．オリエンテーション：教育と教育学
2．教育の思想と歴史：近代以前と近代以後
3．教育制度：各国の教育行政と学校制度
4．教育内容と教育課程
5．教育方法
6．家庭教育としつけ：教育の比較文化
7．社会教育と生涯学習
8．総括：人権としての教育

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

教育の比較社会学（原清治他編　学文社）

【参考文献・資料】

生涯発達と自己実現（麻生誠・堀薫夫　放送大学教育振興会）

ジェンダー論

國信潤子

【授業の概要】

近年、公的文書などにもジェンダー（gender）ということばが頻繁に使われるようになってきた。それは社会・文化的性別という意味である。つまり、社会的に期待される役割、意識、行動様式などの性別区分を指す。従来の固定的性別分業とは異なり、個性的な新たな社会的役割行動様式をとる青年たちが増加してきている。このような社会変容の背景、法制度の改革などを紹介する。統計データから変化を実証する。また固定的な男らしさや女らしさをこえて個性の発揮が今後重要である。男女ともに少子高齢社会を支えるために、家事・育児・介護における責任を遂行し、労働により経済自立し、地域活動を行える適正ミックス社会を展望する。

【授業の目標】

日本社会におけるジェンダー関係を統計データなどを元に理解する。ジェンダー概念を正確に理解し、男女に公平な社会を探求する。

【授業計画】

この講座では現代社会におけるジェンダー関係を社会学的な統計データなどで紹介し、現代日本における女性・男性の社会的位置付けを国際比較をしつつ考察する。また各種法制の変革、国際条約・規約などにみるジェンダー関係変容を考察し、日本におけるジェンダー関係の将来を展望する。大半は講義形式である。必要に応じて、小グループ討議、ビデオ視聴なども取り入れる。

【評価方法】

期末のレポート、出席状況、履修態度、授業後の感想カードなどの総合評価による。

【テキスト】

女性学・男性学～ジェンダー論入門-（伊藤、國信他著　2002年刊　有斐閣）

【参考文献・資料】

・法律にみる女性（ミネルヴァ書房）

NGO・NPO 論

ブイ チ トルン

【授業の概要】
現代社会において、自主的に社会へ参画・行動する市民が増えている。NPO活動は地域社会変革を、さらにNGO活動は世界平和・繁栄をもたらす手段として評価されている。今の若い学生にこれらの活動に関する情報、知識、実践例を多く伝え、また開発教育手法を用い社会行動できる人材に育成する。

【授業の目標】
＊ ボランティアとNGOとNPOとの相違を理解すること
＊ 日本のNPO/NGO活動の特徴を理解すること
＊ 日本社会におけるNPO/NGOの役割、課題、展望を理解すること

【授業計画】
1．NPO総論：
　1）NPOとは?ボランティアとNPOとの相違
　2）世界・日本のNPO活動の潮流
2．NPO各論：
　1）NPO法の成立とその内容
　2）企業とNPO
　3）政府・地方自治体とNPO
　4）NPOの中間支援組織
　5）NPOで働く人々
　6）日本社会におけるNPOの役割、現状、課題、展望
3．NGO総論：
　1）NGOとは?国際交流と国際協力
　2）世界・日本のNGO活動の潮流
4．NGO各論：
　1）＊国連とNGO　＊環境とNGO　＊女性とNGO　＊教育とNGO
　　＊開発とNGO　＊在住外国人とNGO　＊その他
　2）政府・自治体とNGO
　3）各地のNGO推進支援センター
　4）NGOで働く人々
　5）日本のNGOの役割、課題とその展望

【評価方法】
出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

【テキスト】
授業中適宜に指示する。

【参考文献・資料】
授業初回に指示する。

都市環境デザイン概論

垂井洋蔵　河辺泰宏　日色真帆　清水裕二　齋藤基之　岡本晴彦

【授業の概要】
都市環境デザインコースにおける教育課程の編成と学習方法を説明する。この講義を通して都市環境デザインの全体像とそのひろがりを理解するとともに、建築と都市に関する今日的テーマについてその一端を紹介する。

一級建築士受験資格の取得を目指している人には、本科目は必修科目であるので、必ず受講すること。

【授業の目標】
現代の建築、都市をとりまくさまざまな学問分野の体系を知る。将来自らが建築を通して何を学ぶかの方向を見いだす。

【授業計画】
８名の教員で担当し、それぞれが専門とする分野から、基本的で、興味深い話題を提供する。

街づくり、オフィスデザイン、インテリアデザイン、室内環境、現代都市建築、都市の防災、歴史的建造物の維持・再生、立体的に複雑な都市空間等のトピックスを取り上げる予定である。

講義を中心とするが、テーマによっては、学生からの発表をもとに議論する。

【評価方法】
各担当教員による授業期間中の小レポートと、期末に課題に従って提出するレポート、および出席状況を総合して評価する。

【テキスト】
なし。随時、プリント教材を配布する。

生活環境学

渥美正子

【授業の概要】
住まいを取り巻く社会環境の変化は、住宅・住環境面に対して様々な問題を提起し、従来の住み方を見直す要因となっている。高齢社会の進行、高度情報化社会の到来、人工的室内環境、家族・ライフスタイルの多様化、地域コミュニティへの無関心など、住生活に関わる今日的問題を客観的に把握し、健康で文化的な住まいの実現に向けての問題解決の視点を考察していく。

【授業の目標】
生活の質を高めるために、生活者としてどのような対応が求められているのかについて理解すること。

【授業計画】
1．家族・ライフスタイルの多様化と住まい
　家族の形態・機能・関係・役割が変容するなかで、住宅・居住地に対して、新たにどのような機能が求められているのかを考える。
2．高齢社会と住まい
　急速な高齢化が進むなかで、高齢者が人間としての尊厳を守ることのできる住宅・居住地のあり方を考える。在宅福祉の基盤となる住まいをどのように改善するのかを理解し、ついの住みかとしての新しい住まいのかたちについても論じる。
3．子どもと住まい
　子どもは自らの意思で住環境を選択できないため、健全な発達を保障する住環境を、子どもの視点にたって整えることは親や大人の責任である。子ども部屋のあり方、高層居住と子ども等について考える。
4．健康と住まい
　住宅建材が健康に及ぼす影響が社会問題となっている。今なぜ、住まいと健康をめぐる議論が活発化してきたのかを、主に住み手の生活スタイルから考える。
5．住まいとモノ
　限られた住空間がモノに占領され、住み手の生活が制約されている現状がある。生活者として、住まいとモノとの関わりをいかに考えていくかについて考える。

【評価方法】
試験とレポートによって行う。

【テキスト】
プリント配布。

【参考文献・資料】
授業にて指示する。

歴史学Ⅰ（日本史）

岩口和正

【授業の概要】

今、日本社会は様々な分野で、かつてない「国際化」の波に洗われています。また、近年の国際政治の場でも、日本の「歴史問題」がしきりに問いかけられています。これらのことは、ややもすれ孤立的に理解されがちな日本の社会・文化の歴史をあらためて国際的な視野から見直すことを私たちに求めています。そこで、問題の重要性の割には取り上げられることも少なく、また、あまり広く知られているとも言い難い日本の国際社会との関係の歴史を、それぞれの時代の特徴を踏まえながら概観したいと思います。

【授業の目標】

1）明治維新以来の日本近代国家のアジア認識と現代のそれとの関係について考える。
2）前近代における東アジアの国際関係の特徴について理解する。
3）歴史の史料に親しむ。

【授業計画】

1）近代日本のアジア認識 ＜征韓論と江華島事件＞
2）鎖国時代の日本と朝鮮 ＜朝鮮通信使と国書偽造事件＞
3）秀吉の朝鮮出兵
4）室町将軍と中国皇帝・朝鮮国王 ＜交隣と事大＞
5）高麗王国と日本朝廷
6）蕃国としての新羅・渤海
7）蒙古襲来と宋人来着
8）遣隋使と遣唐使 ＜大唐皇帝と日本天皇＞
9）前近代日本国家の国際認識の特徴

【評価方法】

期末テストによって成績評価をします。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

各時間毎に必要史料を配布します。
参考文献は最初の講義で紹介します。

歴史学Ⅱ（世界史）

北村陽子

【授業の概要】

社会主義の実験が破綻し、ヨーロッパの国々が再編されてから10年余りが経過した。その間に、そもそも現代社会の基礎となるべきヨーロッパの近代とは何であったのか、ということが絶えず問いかけられてきた。本講義では、現在の激変の基盤ともなるヨーロッパの近代に焦点を当て、個別の国家の変動と、それらが相互にどのように影響しあって国際社会を形成していったのかについて理解を深める。

【授業の目標】

近代のヨーロッパは、ヨーロッパ地域に限らず、世界中の地域に政治的経済的文化的に関わり、影響を与えてきた。そのヨーロッパ諸国における変動を学ぶことを通して、現在世界の諸地域で生じている問題群をより深く考察できるようになってほしい。

【授業計画】

1．はじめに　歴史を学ぶことの意義と現代社会の理解について
2．絶対主義の時代
（1）イギリス、フランスの絶対主義
（2）プロイセン、オーストリアの絶対主義
3．市民革命の時代
（1）イギリスの二つの革命
（2）アメリカ独立革命
（3）フランス革命
（4）ナポレオンの登場とウィーン体制
（5）環大西洋革命ーラテン・アメリカの独立から1848年革命へ
4．ナショナリズムの時代
（1）ドイツとイタリアの統一
（2）帝国主義の拡大と植民地争奪
（3）第一次世界大戦
5．おわりに　現代の幕開けー大衆民主主義社会の到来

【評価方法】

定期試験と出席から綜合的に評価する。

【テキスト】

西洋の歴史（近現代編）（大下尚一編著　ミネルヴァ書房 1998）

【参考文献・資料】

ヨーロッパの歴史（樺山紘一　放送大学教育振興会 2001）
歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ（谷川稔編　山川出版社 2003）
そのほか講義中に適宜指示する。

地理学

林 上

【授業の概要】

日本では近年、少子・高齢化がいくつかの先進国と同様社会問題となり、近い将来には総人口が減少すると予測されている。他方では過大な年少人口を抱え、人口増加に悩む開発途上国も少なくない。また、国内人口における「過密」と「過疎」の不均衡分布は先進国、開発途上国に共通する現代的課題である。講義ではそのよってきたる要因を探り、問題点を整理・解説する。
なお、高校での「地理」未習者向けに、毎回の講義の冒頭20分ほどを基本的な地理学用語の解説に当てる。

【授業の目標】

地理学という学問の性格を理解するために、まずその研究対象と研究方法について述べる。研究対象は非常に幅広く、自然現象から人文現象まで多岐にわたるのが地理学の特徴といえる。研究方法に関して言えることは、空間把握や地域理解のために有用と思われる手法を多用するという点である。人文現象を主として対象とする場合、景観、生態、立地、行動、構造といったキーワードを手がかりとしながら研究が行われる。講義では、経済現象を中心としながら、日本や海外における多くの事例に着目し、経済発展、地域的展開、構造的変化について述べる。空間的現象、地域的パターンの背後にある論理に注意しながら、理論・モデルとそれらに対応する現実的諸現象がいかに説明できるか、といった点に注目したい。

【授業計画】

1）地理学の性格と研究方法
2）経済活動の立地と土地利用
3）人口分布と資源・エネルギーの利用
4）交通の空間的展開と変化
5）情報通信手段の発展と経済活動
6）工業生産の立地要因とその変化
7）商業システムの立地展開とその変化
8）サービス活動の空間的パターン
9）都市化と都市システムの発展
10）国際化による資本主義経済の変化
11）経済地域の構造的変化
12）産業の集積と発展の新たな動き
13）都市経済の持続的発展と環境問題

【評価方法】

レポート作成と定期試験による

【テキスト】

都市経済地理学（林　上著　原書房）

【参考文献・資料】

現代都市地域論（林　上著　原書房）
都市サービス地域論（林　上著　原書房）

地誌学

林 上

【授業の概要】

イギリスとアメリカ合衆国はともに幕末以来、日本の近代化に大きな影響を及ぼした国であったし、今も日本とは多方面にわたって密接な関係にあるが、国内がきわめて地域性に富むことは日本では無視されることが多い。本講義は２国の風土・人口・産業・農村・都市の態様を、日本のそれと比較しながら紹介・考察し、両国に関する地理的理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

欧米、日本を主な対象として、社会、経済、文化などの人文活動がどのように営まれているかに注目し、その実態を明らかにする。そのうえで、実態の背後にある地域的あるいは空間的な要因に目を向け、それらがどのように作用して現象を左右しているかに迫る。主たる対象はイギリス、アメリカ、カナダ、日本であるため、アングロサクソン系の社会と日本社会が対照的に取り扱われることになる。同じ北アメリカでも、カナダとアメリカでは歴史、風土、国民性がかなり違っており、こうした相違点が何に由来するかを究明する。

【授業計画】

1）都市地域の形成・変化と地域把握の視点
2）都市の土地利用と都市景観の社会性
3）イギリスにおける都市計画と都市政策
4）アメリカ合衆国におけるニューコミュニティ
5）モータリゼーションの進展と都市地域
6）グローバル経済化と先進諸国の都市システム
7）イギリス、アメリカ、日本の世界都市
8）イギリス、日本におけるサービス供給
9）アメリカにおけるコミュニティ研究
10）欧米都市におけるインナーシティ
11）欧米都市における都市再生の動向
12）日本の国土計画と都市政策
13）欧米、日本における都市問題の解決

【評価方法】

レポート作成と定期試験

【テキスト】

現代都市地域論（林　上著　原書房）

【参考文献・資料】

都市経済地理学（林　上著　原書房）
現代カナダの都市地域構造（林　上著　原書房）
都市サービス地域論（林　上著　原書房）

民俗学

谷沢 明

【授業の概要】
なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業の目標】
日本民俗学の基礎を幅広く学び、民俗学的な物の見方を身につけることを目標とする。

【授業計画】
1．民俗学を学ぶ～目的・領域・方法論～
2．稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3．農耕儀礼～田遊びを中心に～
4．年中行事～正月行事を中心に～
5．年中行事～盆行事を中心に～
6．人生儀礼～人生の折り目にあたって～
7．暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8．暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9．庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10．庶民信仰を探る～庚申信仰～
11．日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12．日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

【評価方法】
中間レポート及び授業内小テスト・試験による。

【テキスト】
フィールドワークで探る民俗と生活文化

【参考文献・資料】
授業で必要に応じて紹介します。

食文化論

千葉善根

【授業の概要】
人間が生活している所には食物があり、その地域、その国において長い歴史を経た独特の食品を作り出した。これらは人間と人間との交わりをとおして生活に結びつき、農耕文化や牧畜文化をつくり、交易・信仰・戦争などとのかかわりをもって広がり定着したものである。わが国の食文化としてどのようにして受け入れられ、変化をしてきたか歴史・生活・文化をとおして考えるとともに多用な食文化に対する理解の道を探る。
1．日本の食文化形成要因と食生活の変化について
2．米食文化について
3．麦食文化について
4．乳食文化について
5．肉食文化について
6．その他

【授業の目標】
日本の食は外国渡来のものも数多い。これらを含め、各食品のルーツ、歴史、日本人の生活との関わりを理解する。

【授業計画】
講義形式　VTRを数回使用する。

【評価方法】
リポートおよび授業内小テスト。

【テキスト】
使用しない。

都市社会論

安藤純子

【授業の概要】
私たちは複雑な現代社会の潮流の中で日々の生活を送っている。そのような社会がどのような構造をもち、私たちとどのような関連があるかについてさまざまな分野で研究されてきている。都市社会論では、特に都市に焦点を当て、社会学的視点から、都市社会特有の構造や人間関係などについて、これまでの主要な理論をふまえ、今日主として扱われている研究テーマ等について学習していく。

【授業の目標】
都市社会論では、都市社会学の古典理論から現代理論までの学習を通じて、今日の都市社会の社会構造について把握することを授業の目的とする。

【授業計画】
1　イントロダクション
2　都市社会学の歴史1
3　都市社会学の歴史2
4　シカゴ学派の都市社会学1
5　シカゴ学派の都市社会学2
6　日本の都市社会学1
7　日本の都市社会学2
8　ネットワーク研究1
9　ネットワーク研究2
10　今日の都市問題1
11　今日の都市問題2
12　まとめ

【評価方法】
定期試験および出席状況による評価を行う。

【テキスト】
特になし。参考文献は授業中に適宜紹介する。

消費者行動論

石田好江

【授業の概要】
「必要」の限界を超えることができた経済は、いま資源や環境など新しい限界に直面している。経済学の理論が資源・環境制約を理論に組み込まなければならないだけでなく、企業にとっても生き残るために、いまや企業利益と消費者利益の両立が重要な課題になっている。本講では、そうした社会経済の変化を踏まえながら、消費行動・消費者行動の変化とその方向性をさぐってみたい。

【授業の目標】
消費行動及び消費者行動を規定する経済学的・心理学的・社会学的要因について理解するとともに、人間行動を理論的・科学的に捉える力を身につける。

【授業計画】
1．消費社会とは何か
2．消費行動決定に関わる経済的要因
　価格と消費行動
　所得と消費行動
3．消費者行動決定に関わる内的要因と外部環境要因
　消費者行動と知覚・動機付け、態度変容、関与、パーソナリティ
　消費者行動と準拠集団、状況要因
　消費者行動とマーケティング

一つのテーマが終了した授業の最後にフィードバック・シートを配布し、授業についての感想、質問、要望などを自由に書いてもらう。次の授業の最初に、その中からいくつかを選んで回答することによって、一方的な授業にならないようコミュニケーションをはかりたい。

【評価方法】
成績評価は定期試験の結果で行う。なお、出席率は受験資格にはしない。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
必要に応じて適宜紹介する。

人口動態論

坂井貞彦

【授業の概要】
日本人口の動向、人口問題と人口政策、人口動態（結婚、出生、死亡など）、人口構造（年齢別、産業別など）、世界人口、将来人口の推計などを学ぶ。さらに、人口問題は、地域を超えた課題であるとともに、地域によって現れ方が異なっていることを理解する。

【授業の目標】
日本及び世界の人口の推移、現状、将来推計についての基本的事項を覚えるとともに、人口とその諸属性の中長期的変化に対応して、人口政策も変化していることを理解する。

【授業計画】
講義方式による。おもな統計資料などをプリントとして配布する。

1　日本人口の推移と今後の見通し
2　少子化と高齢化［Ⅰ］
3　人口問題と人口政策（日本及び先進国）
4　人口に関する統計調査
5　人口の男女別、年齢別構造
6　結婚と出生
7　死亡統計、生命表、平均寿命
8　労働力、就業者、産業と職業
9　少子化と高齢化［Ⅱ］
10　世界人口の推移と人口政策
11　人口爆発と人口政策
12　将来人口の推計

【評価方法】
おもに期末試験（筆記）による。（毎回出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
人口統計学（増補改訂版）（岡崎陽一　古今書院）

産業・組織心理学

榊原國城

【授業の概要】
この講義では、会社や役所、あるいはその他の団体などの組織における人間の職務遂行行動や対人関係に影響を及ぼす心理学的要因を明らかにしていくことを目指す。その際、人間（集団を含む）の行動を、行動主体とそれをとりまく組織的環境との相互依存関係としてとらえる。したがって、この講義では、組織で働く人間の能力や意識・行動が、人間の置かれた外的環境（仕事、他者、集団、組織構造など）との相互作用過程において、主たるテーマになる。以上の視点に基づいて、最近の研究動向を踏まえて、新たな産業社会を展望する。

【授業の目標】
この授業の目標は、応用心理学発展の象徴的存在である産業心理学発展の推移と最近の組織心理学研究の動向を理解することである。

【授業計画】
1．産業心理学の発展
2．科学的管理法とホーソン研究
3．職業選択と職業適応
4．適性とパーソナリティ・アセスメント
5．動機づけと職務満足
6．組織の機能
7．組織における職務と組織成員の役割

【評価方法】
期末定期試験の成績によって評価する。出席率も成績評価の際に勘案する。また、総授業回数の３分の１以上欠席した場合は定期試験受験資格を喪失したものとみなす。

【テキスト】
人と組織の心理学（榊原國城著　1999　文教資料協会 定価 2,048円）

【参考文献・資料】
授業中に指示する。

日本経済論

竹村 弘

【授業の概要】
わが国は、「バブル経済」崩壊以降、平成の「10年代不況」から「2000年デフレ」へとかってない長期不況が継続し、相次ぐ大型企業倒産、金融再編、リストラ・失業など、深刻な社会問題が生じていています。「超氷河期」と言われて久しい就職難は、改善の兆しも見られません。「ついていない」「運が悪い」ということではなく、「なぜだ」「なにが悪かったか」「これからどうなるか」を考えましょう。

【授業の目標】
経済政策の基本課題を理解した上で、わが国経済を構成する諸要因について、欧米先進国と比較し、過去を統計的にトレースすることにより、現在の日本経済の実態を認識し、今後の日本経済を展望する。

【授業計画】
1．経済の原点：経済政策の基本課題を、経済の原点に立ち戻って考える。
2．相次ぐ大型企業倒産：「バブル経済」崩壊以降、大型企業倒産が相次いでいるが、資産デフレに起因する不良資産・不良債権の発生に加え、それぞれ独自の原因があるので、それらの事例を紹介する。
3．日本の見当識：わが国の経済社会指標を欧米先進５か国と比較することにより、「経済大国・日本」「生活小国・日本」の実態を認識し、次いで「日本の百年」を統計的にトレースすることにより、わが国経済が現在歴史的な転換期にあること理解し、さらに今後21世紀の日本経済を展望する。
4．経済指標の見方：わが国経済を正しく理解するためには、経済指標の理解が必要である。国内総生産、国際収支、為替、物価、雇用指標など、主要な経済指標について解説する。
5．バブル経済と平成の『10年大不況』：「バブル経済」の形成は、対外バランスに気をとられた極端な金融緩和政策と目いっぱいの財政出動に起因し、その崩壊は慎重さを欠く金融引き締め政策・地価規制政策によるものである。その後も不適切な経済運営が繰り返され、「2000年デフレ」へと未曾有の長期不況が継続している。

【評価方法】
毎回提出する『TEN MINUTES PAPER』および期末試験。

【テキスト】
配付プリント。

【参考文献・資料】
講義の中で提示する。

経済交流史

清水 洋

【授業の概要】
本講義では、19世紀末から今日に至るまでの日本とアジア（とりわけ東南アジア）の経済交流を、移民・通商・金融・直接投資・政府開発援助などの側面から体系的に考察し、アジアに関する理解を深めることを意図する。明治以降、我が国は「脱亜入欧」を重視し、欧米の工業諸国を手本としてきたため、アジアにあまり目を向けてこなかった。しかし、1960年代以降、一部のアジア諸国が積極的な外資の導入によって新興工業国として台頭する一方、中国は78年以降大胆な経済改革と対外開放政策によって急速な経済発展を達成しており、日本でも近年アジアへの関心がとくに高まっている。このような時期に、日本とアジアの経済交流史を学ぶことはとりわけ意義があると思われる。

【授業の目標】
アジアにおける日本の経済活動の諸相に関する専門知識を身につける。

【授業計画】
講義を主体とするが、ビデオ・OHCなどの視聴覚設備も適宜使用する。

1）東南アジアにおける初期日本人移民の経済活動
2）アジアにおける日本人移民の経済活動－からゆきさん先導型経済進出
3）アジア内貿易ネットワーク：神戸・横浜の華僑商人とインド人商人
4）戦前期シンガポールにおける日本人漁業
5）太平洋戦争期の東南アジアにおける日本の経済活動
6）戦争賠償問題と日本の対東南アジア経済回帰
7）東南アジアの経済発展における日本の役割－直接投資、観光、FTA等

【評価方法】
定期試験が主体となるが、レポートや受講態度等も考慮にいれる。

【テキスト】
からゆきさんと経済進出－世界経済のなかのシンガポール・日本関係史
（清水洋・平川均共著　コモンズ）

【参考文献・資料】
授業中に随時指示する。

国際金融論

秦 忠夫

【授業の概要】

国際間の経済取引は経常取引（商品・サービスの輸出入）と資本取引に大別されますが、いずれの面でも取引の自由化が進んで世界経済は相互依存関係を深めています。こうした動きのなかで、世界の共通通貨が存在しない今日、国際経済取引の決済にあたっては異種通貨の交換（例えば円とドル）が必要となり、その交換比率（為替相場）が変動すると個々の取引が影響を受けるのみならず、一国あるいは世界の経済活動全体にも影響が及びます。実際、変動相場制と呼ばれる現在の国際通貨制度のもとでは、為替相場の変動が激しく、世界経済の成長が時として攪乱されています。この授業は、世界経済の結びつきを通貨・金融面から理解するための基礎知識の習得をねらいとしています。

【授業の目標】

基本的な経済・金融用語や基礎的な理論をしっかり理解し、現実の経済・金融の動きの理解に結びつける努力をする。

【授業計画】

（1）外国為替取引のしくみと実態（外国為替のしくみと形態、外国為替相場、外国為替市場、為替リスクヘッジの手法）
（2）マクロ経済分析の視点から通貨問題を理解するための基礎知識（国際収支のしくみ、為替相場と国際収支、為替相場の決定理論）
（3）国際通貨制度の歴史と現状（国際通貨制度のしくみ、国際通貨制度の変遷、ヨーロッパの通貨統合、国際通貨制度改革、円の国際化）

【評価方法】

節目で小テスト実施。
期末試験と小テストを総合して評価。

【テキスト】

国際金融のしくみ（新版）（秦忠夫・本田敬吉著　有斐閣　1,900円）

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

欧米教育文化史

渡辺かよ子

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」の意味を、子どもの生活の変遷に着目しつつ、比較教育史的に明らかにし、今日の世界の教育文化と教養の問題を検討する。

【授業の目標】

西洋教育史の概要を子どもの生活との関連から理解する。

【授業計画】

1．欧米教育文化史の視点と課題
2．中世後期の欧米教育文化とルネサンス、宗教改革
3．近代教育文化の生誕と展開（啓蒙思想と市民革命、産業革命）
4．大学の誕生と展開
5．西洋的教養と学校制度の確立
6．欧米教育文化と今日の世界の教育

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

子どもの教育の歴史（江藤恭二他編　名古屋大学出版会）

【参考文献・資料】

子供とカップルの美術史（森洋子　日本放送出版協会）
歴史のなかの子どもたち（森良和　学文社）
教養の復権（沼田裕之他　東信堂）

日本政治外交史

西尾林太郎

【授業の概要】

「19世紀後半から1920年代にかけての日本の政治外交」
日本における近代国家の成立とその展開過程について、政治・外交を中心に理解すると共に、現代日本の政治・外交や社会を考察する視点を形成することを目的とする。

【授業の目標】

国際的視野で日本の近代国家の成立とその展開について理解する。

【授業計画】

1．徳川幕藩体制と幕末維新の政治と外交
　a　近世の徳川幕藩体制下の政治システムや社会のルール。
　b　鎖国下における最大の友好国は李氏朝鮮であった。
　c　政治的・経済的統合を目指して、天皇政府はどのような施策を打ち出したか。
　d　沖縄の廃藩置県は明治12年＝1879年であった。
2．明治憲法体制の成立とその外交
　a　憲法制定に向けての動きが明治１ケタ代にすでに始まっていた。
　b　大日本帝国憲法と教育勅語。
　c　朝鮮半島をめぐる日清、日露間の対立。
　d　政友会の成立。
　e　日露戦争が、明治憲法体制における”民主化”を促進した?
　f　欧米列強の了解のもとで韓国併合がなされた。

【評価方法】

評価は出席状況と試験による。試験は自筆ノートと教科書の持込を許可する。コピーは持込不可。

【テキスト】

新詳日本史図説（浜島書店　800円）（後半の三分の一を主に使用する）。

【参考文献・資料】

随時、紹介する。

国際コミュニケーションズ

石橋千鶴子

【授業の概要】

＜多文化・多言語社会のコミュニケーション＞
世界的に多文化化が進む中で、文化の多様性を尊重しあい共存を目指す努力が強く求められてきている。その中で意思の疎通をはかり共生のみちを求めていくためには、まず異なる文化とそれに根ざした多くの異なる価値観・発想の存在を認識しなければならない。多文化社会としてアメリカを例に取り、その社会がどのような文化背景を持った人々で構成されているかを具体的に考察していく。
英語読解力の強化を念頭に置き、英文の教材を用いる。

【授業の目標】

文化の多様性を認識し、柔軟な視点を培っていって欲しい。

【授業計画】

英文テキストおよび英字新聞記事などの講読を行い、解説を加える。ビデオ視聴も行う。

【評価方法】

期末試験および平常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

テキスト未定。英字新聞記事のコピーなどは、授業で配布する。

ツーリズム論

安藤典子

【授業の概要】

旅行図書からみたツーリズムの変遷、JTB旅行編集者の仕事について。実際に携わってきた国内の旅行図書、るるぶ情報版、月刊誌『旅』、単行本などの編集実務、また、担当した向田邦子氏や嵐山光三郎氏はじめ作家、評論家、写真家など「十人十色」の旅のスタイルを紹介し、旅の多様性を考える

【授業の目標】

ツーリズムの変遷と具体的な旅行図書の編集業務について概要を学ぶ

【授業計画】

1）ツーリズムの変遷と旅行図書
2）ガイドブックの実務。企画から取材、執筆、編集、校正まで
3）『るるぶ情報版』のコンセプト
4）編集長の仕事
5）月刊誌『旅』を考える
6）作家、評論家、画家、カメラマンなどの旅のスタイル。作家・向田邦子氏や嵐山光三郎氏、ドイツ文学者・池内紀氏、森と水の評論家・富山和子氏、カヌーイスト・野田知佑氏を例に考える
7）単行本・キャンブックスの編集実務
8）阿川弘之、宮脇俊三、田中小実昌、西江雅之、奥本大三郎自選集の編集、紀行文について
9）テーマ物の図書、特に温泉・宿関係の図書の編集
10）古寺関係の図書編集
11）近代化遺産を考える
12）写真集『日本の民家』の取材・執筆
13）まちおこしなど、観光の未来と情報発信

【評価方法】

レポートによる評価

【テキスト】

配布資料をテキストとする

【参考文献・資料】

授業中に紹介する

路上観察論

岡本信也

【授業の概要】

現代都市の生活や風俗を観察し、その記録採集した事柄から私たちの暮らしを考える。種々の現象のとらえ方とその視点を学ぶ、楽しい講座である。

【授業の目標】

町や村を見て歩いて、さまざまな現象にめぐり会う。「発見のよろこび」を感じつつ、フィールドワークによって世界認識を広げ、深めることができるようにしたい。

【授業計画】

1　現代都市におけるフィールドワークとは
2　路上観察学と考現学とのつながりについて
3　身辺の道具からの観察・食風俗をめぐって
4　身辺の道具からの観察・衣風俗をめぐって
5　身辺の道具からの観察・住まいの風俗から
6　身辺保持する物とその作用
7　用のモデル・無用物と転用物の意味
8　身辺の道具を分析する（その１）
9　分析表づくりから考える（その２）
10　身近な環境をフィールドワークする
11　生活領域地図をつくる
12　観察の視点と採集法・カード採集づくり
13　地域分布図を読む
14　定点観察について

【評価方法】

レポートを中心に、簡単なテストを行なう。

【テキスト】

未定（使わないつもり）

【参考文献・資料】

超日常観察記、路上観察学入門、考現学入門。

エスニシティー論

藤井麻湖

【授業の概要】

エスニシティーとは、民族に関わる領域を漠然と指す概念として捉えられている。たしかに、エスニシティーとは何かを一言で述べることは難しい。だがその定義はともかく、現在、世界で「民族紛争」や「民族問題」といった民族をめぐる問題が多発しており、現代に生きる地球人として、ある程度、民族に関する事柄を理解しておく必要があるということだけは確かであろう。たとえば、イラク戦争における民族をめぐる問題とは何なのか、その民族とは宗教（スンナ派やシーア派）とどのように関連しているのか、問題はどのように発生したのか、その地域の歴史はどうなのか、といった事柄である。

【授業の目標】

この授業での目標は、新聞における民族に関する記事を読んで理解できるようになることです。

【授業計画】

授業の前半では、イラクの国家と民族といったテーマで講義をおこなう。イラクを取り上げるのは、現在の日本人の位置を、日本とは相当に異質な異文化から捉えなおすことができる意味で極めて重要だと考えるからである。このテーマを追ううちに、イラクはイラクにとどまらず、ヨルダン、シリア、レバノン、イスラエル、パレスチナといった、現在、紛争の絶えない中東の国々にも目をむけることになる。

授業の後半では、中国かロシアを取り上げ、多民族国家が現在抱える諸問題をできるだけ深く理解することが目標となる。ここでは、少数民族と一括される人々ではなく、固有名詞のついた少数民族を取り上げ、中東とはまた異なる様相を呈する民族問題を考察する。

【評価方法】

平常の出席点と期末試験で評価します。

【テキスト】

民族世界地図（浅井信雄著　新潮文庫）

【参考文献・資料】

「エスニック」とは何か　エスニシティ基本論文選（青柳まちこ編・監訳　新泉社）

組織コミュニケーション論

榊原國城

【授業の概要】

組織コミュニケーションをコミュニケーションの構成要素の観点から整理すれば、組織あるいは組織の成員が、自己に関する情報を、受け手（組織の成員および組織外の人々）のニーズに応える形で体系化し、様々なメディアを通じて伝達する過程であると考えられる。したがって、この講義では、組織コミュニケーションを巡る種々の問題、すなわち、現代社会における組織の機能とコミュニケーションとの関わりの中で生ずる問題を、行動科学をはじめとする隣接諸科学における基礎的な理論に基づいて分析し、考察する。

【授業の目標】

この授業の目標は、コミュニケーション概念の科学的理解と、組織における人間に関わる具体的な問題の発見と改善の糸口を見出す能力の涵養である。

【授業計画】

1．コミュニケーションの基本過程
2．組織コミュニケーションのタイプと特色
3．職場のコミュニケーションと人間関係
4．組織成員の役割とコミュニケーション
5．職場におけるストレスとコミュニケーション
6．リーダーシップとコミュニケーション
7．女性のキャリア形成と組織コミュニケーション

【評価方法】

期末定期試験の成績によって評価する。出席率も成績評価の際に勘案する。また、総授業回数の３分の１以上欠席した場合は定期試験受験資格を喪失したものとみなす。

【テキスト】

人と組織の心理学（榊原國城著　1999　文教資料協会　定価 2,048円）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

地域開発論

竹村 弘

【授業の概要】
従来の「地方開発」は、日本全体の経済産業開発と、中央と地方の経済格差是正を目的として、主として地方への産業開発・企業誘致を手段として実施されてきたが、今日の新しい「地域開発」は、各地域それぞれが、知恵・金・人を自分たちで出し、誰にも頼らず、自律的に発展するような、自立した「地域づくり」を目的としている。

【授業の目標】
従来の「地方開発」が果たした歴史的役割と今日の「地域開発」の課題を理解したうえで、一人ひとりの市民として自分たちの地域づくりに発言し、参加し、行動できる実力を身につけることを目標とする。

【授業計画】
1．地域開発概論：従来の「地方開発」が果たした歴史的役割を評価し、次いで、今日の新しい「地域開発」の課題が何であるかを述べる。
2．地方開発の光と影：地方開発が成功し、大きく発展した地域がある一方で、産業公害の被災地、衰退産業と共に疲弊した地域、農山漁村の過疎化などは、高度経済成長期の地方開発の影であった。今日のゴミやダイオキシン、自動車排ガス等の環境問題および東海地震の懸念などは、暮しやすい豊かな地域を築く上で暗い影を落す。
3．首都機能移転：首都機能移転は、東京の過大・過密、大規模災害対策、東京一極集中の是正、および、わが国経済社会の閉塞状態打破、人心一新の契機などの観点から、国会・行政を中心にその構想が推進されている。中部地域は移転先の有力候補地のひとつである。
4．中部圏のビッグ・プロジェクト及び21世紀ビジョン：「愛知国際博覧会」「中部新国際空港」「リニア中央新幹線」などのビッグ・プロジェクトは、中部地域の重点的な開発整備の大きなチャンスであるが、一方で自然破壊などの批判もある。

【評価方法】
毎回提出する『TEN MINUTES PAPER』および期末試験。

【テキスト】
配付プリント。

労働社会論

石田好江

【授業の概要】
労働市場や労働者の就業行動が、人口構成の変化、産業構造、技術革新、国際情勢といった要因からどのよう影響を受け、どう変化してきているかを理解する。また、今日大きな課題である「日本的雇用慣行」の問題や「ジェンダーと労働」の問題についても考える。

【授業の目標】
労働市場や労働政策についての基礎知識を身につけるとともに、労働に関わる社会問題への関心を深める。

【授業計画】
1．「労働」の系譜
2．労働市場
3．賃金・人事制度
4．労働時間
5．ジェンダーと労働
6．雇用構造の多様化
7．日本的雇用慣行の変化
8．高齢社会の労働・労働市場

一つのテーマが終了した授業の最後にフィードバック・シートを配布し、授業についての感想、質問、要望などを書いてもらう。次の授業の最初に、その中からいくつか選んで回答することによって、一方的な授業にならないようコミュニケーションをはかりたい。

【評価方法】
成績評価は定期試験の結果で行う。なお、出席率は受験資格にはしない。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
新版　労働経済（永山武夫編著　ミネルヴァ書房）

地方自治体論

坂井貞彦

【授業の概要】
前半：地方自治の意義、日本における地方自治制度の変遷、地方自治体に関する法令制度について学ぶ。
後半：名古屋市の歴史、現状、将来計画などを概観する。

【授業の目標】
日本における地方自治制度の変遷、現状、今後の問題点についての基本的事項を覚えるとともに、名古屋市に関する学習を通じて、地方自治への理解を深める。

【授業計画】
講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。
1．地方自治の意義と法体系、憲法と地方自治
2．明治以降の地方自治制度の変遷と現行制度
3．地方公共団体の種類、区域及び住民
4．地方公共団体の事務
5．地方公共団体の議会と法規
6．地方公共団体の執行機関、議会との関係
7．地方公共団体の財務（予算、会計、公の施設）
8．地方公務員
9．名古屋市の歴史（明治以降）
10．名古屋市及び区の組織
11．名古屋市の経済産業
12．名古屋市の暮らしと文化
13．名古屋市の将来計画

【評価方法】
おもに期末試験（筆記）により評価する。（毎回、出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）
期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】
使用しない。

【参考文献・資料】
（1）地方自治制度　第5次改訂版（久世公堯　学陽書房）
（2）21世紀への名古屋（愛知淑徳大学地域産業研究会　中部日本教育文化会）

地域福祉論

野田秀孝

【授業の概要】
日本の社会福祉は、介護保険制度の導入、社会福祉基礎構造改革の動きからなる社会福祉法成立、医療法の改定などの医療政策の変動など、大きな変革期を迎えている。また、地方分権、福祉ニーズの多様化と福祉サービス供給主体の多様化、保健・医療・福祉の更なる連携又は統合などを背景に、各自治体における介護保険事業計画から地域福祉計画の策定、苦情処理・解決、第3者評価システムの構築などさまざまな課題はある。また、それらに対応する地域ケアシステムの構築が求められている。
本講義では、上記のような今日的課題を整理しながら、多様で複雑な社会情勢に対応しうる地域福祉の理念と新たな手法、諸外国の動きなども紹介し、地域福祉の魅力を具体的に論じたい。

【授業の目標】
わかりやすく『福祉』を解説し、『地位福祉』を理解することからはじめ、一般社会の中での『福祉』さらには『地域福祉』の位置について学んでいくことを目標とする。

【授業計画】
講義方式による。
1 講義の概要　地域福祉の理念
2 現代社会における家族とコミュニティ
3 地域福祉の歴史
4 地域福祉の国際的動向
5 地域福祉の概念と厚生
6 地域福祉の公私関係と共同の開発
7 在宅福祉のサービス供給と展開
8 居住福祉と福祉環境作り
9 地域福祉の運営と主体形成
10地域福祉の実践実態形成
11住民参加による地域福祉計画づくり
12地域福祉の人材養成
13まとめ

【評価方法】
筆記試験
毎回出席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う
出席調査時に質問・感想などを提出させる。これを成績評価に反映する

【テキスト】
新時代の地域福祉を学ぶ（野口定久編集　（株）みらい）

【参考文献・資料】
厚生労働白書

国際経済論

秦 忠夫

【授業の概要】

グローバリゼーションの進展とともに世界経済の相互依存関係が深まるなかで「国際経済論」のテーマも広がりつつあるが、本講義では国際貿易の問題に焦点を絞って世界経済の結びつきと問題点を勉強したいと考える。

【授業の目標】

基本的な経済用語や基礎的な理論をしっかり理解し、現実の国際経済の動きの理解に結びつける努力をする。

【授業計画】

講義は次の３部構成で行う。

1．国際貿易のしくみ：「自由貿易のメリット」「自由貿易を阻む保護主義」など国際貿易をめぐる基礎理論。
2．国際貿易システム：GATT・WTO体制のもとで進められてきた戦後の貿易自由化の動きをフォローし現在の問題点を明らかにする。
3．地域経済統合：とりわけ1990年代後半以降世界各地で盛んとなっている自由貿易地域形成の動きの実情とその問題点。

【評価方法】

期末テストおよび小テストを総合して評価。

【テキスト】

グローバル・エコノミー（岩本武和ほか著　有斐閣）

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

欧米経済史

藤瀬浩司

【授業の概要】

この講義は、西ヨーロッパ中世社会から20世紀末までの歴史過程を、資本主義と世界経済に視点をおいて、概観する。最初に、西ヨーロッパ封建社会が解体する中で、どのようにして最初の資本主義世界経済が成立するかを考察する。次にイギリス産業革命の特徴を明らかにし、これを起点として、西ヨーロッパ諸国やアメリカ合衆国、あるいはまたロシア、イタリア、日本などで工業化がどのように展開したかを考察する。最後に20世紀経済の歴史的発展を、企業組織、経済社会政策、世界経済の各側面について、第一次世界大戦前、両大戦間期、第二次世界大戦後の各時期に分け考察し、現在の情報革命とグローバリゼーションの進展まで言及する。

【授業の目標】

現代の社会と経済が、どのような歴史過程を通して生み出されたかを明らかにする。

【授業計画】

第１部　歴史社会としての資本主義
　1　共同体社会としての資本主義
　2　資本主義の誕生
第２部　19世紀の資本主義
　3　イギリス産業革命
　4　イギリス資本主義の成熟
　5　世界経済の拡張- 西欧とアメリカの工業化
　6　周辺経済の分極化
第３部　20世紀の資本主義
　7　20世紀経済成長の特徴
　8　大型企業体と社会改革
　9　多角的貿易決済システムと国際金本位制
　10　帝国主義と戦争
　11　戦間期経済と大不況
　12　アメリカ体制の成立
　13　資本主義の黄金時代
　14　成長国家の終焉と新しい時代の始まり

【評価方法】

授業への参加状況と期末のテストによって評価します。

【テキスト】

改訂新版　欧米経済史- 資本主義と世界経済の発展（藤瀬浩司著　放送大学教育振興会　2004）
講義と平行してテキストをよく読むこと。

【参考文献・資料】

テキスト巻末の文献目録の他、適時授業中に指摘する。

アジア経済論

清水 洋

【授業の概要】

本講義では、世界経済の中で重要度を増しているアジア地域の経済発展の背景を探り、これまで日本が果たしてきた役割を多角的に考察する。1960年代以降、韓国・台湾・香港・シンガポールが外資を梃子に輸出志向型工業化政策を実施し、70年代に新興工業国として世界の耳目を集めるようになった。80年代半ば以降は、マレーシアやタイ等のアセアン諸国もやはり外資と海外市場に大きく依存して急激な工業化に成功している。さらに、90年代には中国が同様に輸出主導型政策を導入して急成長を遂げ、今日では「世界の工場」と呼ばれるようになった。一方、日本は90年のバブル崩壊後、長期間にわたって「平成不況」が続いたため、アジア地域におけるプレゼンスと影響力が低下している。

【授業の目標】

アジア経済に関する知識を深め、日本の対アジア政策を客観的に評価する能力を養う。

【授業計画】

講義を主体とするが、ビデオなどの視聴覚機器も適宜使用する。

1）日本型発展モデルとアジア経済
2）中国の情報技術産業と外資系企業
3）東南アジア諸国の経済発展
4）アジアにおける進出日系企業の事例（製造業、建設業、流通業など）
5）その他

【評価方法】

定期試験が主体となるが、授業への参加度、レポートなども考慮にいれる。

【テキスト】

シンガポールの経済発展と日本（清水洋著　コモンズ）

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

比較政治論

西尾林太郎

【授業の概要】

政治的近代化および議会政治の導入とその展開を主軸とした日本、中国、韓国、イギリス等の比較研究と比較政治文化論。

【授業の目標】

日本との比較で中国や韓国の近代国家の成立について理解し、それを踏まえ今日のそれぞれの国の政治について考察する。

【授業計画】

1．〈比較〉の意義と手法
　ポリアーキー、政治的近代化、国民国家
2．中国、韓国、日本の近代化と議会政治
　a．科挙官僚体制、国民党、中国共産党
　b．李氏朝鮮、両班、党争
　c．韓国の大統領とその政治文化
3．西欧諸国の近代化と日本
4．イギリスの議会政治
　a．名誉革命
　b．ウォルポールの貢献
　c．W.バジョットの議院内閣制論

【評価方法】

試験と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

その都度、紹介する。

国際法

初谷良彦

【授業の概要】

国際法は、国と国との関係を定める法である。数百年に及ぶ歴史の展開の中で、現代の国際法は地球社会の大変動を反映して、重大な転換期に入っている。地球環境の保全、難民の保護、人権保障、安全保障などこれまでに見られなかった新しい問題をできるだけ取り上げ、できるだけ身近なものとして国際法を理解してもらうようにしたい。

【授業の目標】

これからの日本、また学生諸君は、国際社会とどうつき合っていくべきかを考える。

【授業計画】

第１回　国際法の概念
第２回　条約（条約の締結、条約の適用、条約の無効と終了）
第３回　国家（国家の種類、国家の承認、国家の基本権）
第４回　国際組織（国際連合、その他の国際組織）
第５回　国家領域（南極、宇宙、日本の領土問題）
第６回　外交（外交関係、外交特権、領事関係）
第７回　個人・外国人（国籍、難民の保護、犯罪人の引渡し）
第８回　国際社会における人権保障（１）（人権法の国際的実施措置、実施のための法と機構）
第９回　国際社会における人権保障（２）（女性の人権、子どもの人権）
第10回　国際協力（環境の国際規制、経済的国際協力）
第11回　紛争の平和的解決（国際裁判）
第12回　国際安全保障（国連軍、軍縮）
第13回　武力紛争（戦争法・人道法）
第14回　国際社会における法の支配（展望）
第15回　国際秩序の展望

【評価方法】

主として平常点と単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

比較教育論

渡辺かよ子

【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中にあって、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は自らが社会問題であると共に、貧困や不平等などの社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育制度と教育状況の比較を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

【授業の目標】

各国の教育制度や教育事情を日本との比較から検討し、日本の教育の特徴と課題を理解する。

【授業計画】

１．比較教育学の基礎理論
２．社会発展論と教育
３．近代化と各国の教育制度（識字と就学）
４．「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
５．近現代日本の教育制度の成立と特徴
６．文化と教育、異文化交流としての教育
７．人権としての教育
８．比較教育と教育改革

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

世界の学校：教育制度から日本の学校風景まで（二宮皓編著　学事出版）

【参考文献・資料】

比較国際教育学（石附実編著　東信堂）
世界の学校（二宮皓編著　福村出版）
多文化教育（中島智子編著　明石書店）
学歴社会　新しい文明病（ドーア著　岩波書店）
被抑圧者の教育学（フレイレ著　亜紀書房）
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著　中公新書）
世界の教育開発（米村明夫　明石書店）

フィールドワークⅠ（国内調査実習①：基礎）

谷沢 明

【授業の概要】

フィールドワークの基礎を体験的に習得することを目的とする学外教育を実施します。
1　歩く（アプローチ）：フィールドスタディで必要なのは、歩くこと。人との出会い、モノとの出会いが始まります。どのような方法で歩いたら、調査目的に接近できるのか、その可能性を探る手法を教育します。
2　見る（観察法）：フィールドスタディで重視される観察調査。テーマ・問題意識を持ってじっくり対象物を観察していく手法を教育します。あわせて、物事の背後に潜む真実を解読する力を育成します。
3　聞く（取材法）：正直言って、人と接する取材は難しい。相手の話したいことを充分に聞き取り、記録していくインタビュー調査。このノウハウを教育します。
4　プレゼンテーション：取材成果をパワーポイント（作品）にまとめ発表します。

【授業の目標】

フィールドワークの基礎を体験的に習得する入門的な実習授業。フィールドワークの成果をパワーポイントにまとめてプレゼンテーションできるまでを目標とする。

【授業計画】

この授業は集中授業で実施します。2006年度は下記の予定です。
４月４日（火）：ガイダンス（時間・場所は掲示）
４月17日（月）：第１回レポート提出（事前の下調べ）
５月３日（水）～５日（金）：第１回フィールドワーク（高山２泊３日）
５月８日（月）～：パワーポイント作成指導（研究室でグループ別に）
６月１日（木）：第１回作品提出（高山FWの成果）
６月４日（日）：第１回作品発表会（高山FWの成果）
９月19日（火）：第２回レポート提出（事前の下調べ）
９月30日（土）10/１日（日）：第２回フィールドワーク（郡上八幡１泊２日）
10月19日（木）：第２回作品提出（郡上八幡の成果）
10月21日（日）：第２回作品発表会（郡上八幡FWの成果）
＊レポート・作品の提出は、１号棟３Ｆのレポートボックスへ。13：00締め切り。
【備考】
１）定員は20名ですが、抽選は行いません。定員を超えた場合は第１回レポートにより選考します。選考にもれた人は履修登録の取り消しをしてください。
２）２回のフィールドワーク（学外教育）の実費を各自負担してください。名古屋～高山の往復バス代5,000円。名古屋～郡上八幡の往復バス代5,000円。高山（淑友館）の宿泊代（２泊で食事付きで5,000円程度）、郡上八幡の宿泊代（食事付きで5,000円程度）。フィールドワークは現地集合・解散です（公共交通機関を利用のこと）。

【評価方法】

フィールドワークへの参加、提出レポート・作品（パワーポイント）、プレゼンテーションによる（単位取得はすべての参加・提出が条件です）。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

必要に応じてアドバイスします。

フィールドワークⅡ（国内調査実習②）

谷沢 明

【授業の概要】

中級的なフィールドワークを体験的に習得することを目的とする学外教育を実施します。
「まちづくり」をテーマに、４回の調査実習を行います。調査対象は名古屋近郊。伝統工芸や歴史的な街道・城下町の町並みを対象に、「人間と自然との調和の取れた生活空間・景観の形成」「地域の個性を活かすまちづくり」をテーマにフィールドワークの実習を行い、その取材成果をパワーポイント（作品）にまとめて発表します。

【授業の目標】

フィールドワークを体験的に習得する中級的な実習授業。上記テーマに基づいたフィールドワークの成果を効果的な作品（パワーポイント）にまとめて説得力をもってプレゼンテーションできるまでを目標とします。

【授業計画】

この授業は集中授業で実施します。2006年度は下記の予定です。
３月28日（火）：ガイダンス（時間・場所は掲示）
４月17日（月）：第１回レポート提出（事前の下調べ）
４月29日（土）：第１回フィールドワーク（犬山市）
５月21日（日）：第１回作品発表会（犬山FWの成果）
５月28日（日）：第２回フィールドワーク（瀬戸市）
６月18日（日）：第２回作品発表会（瀬戸FWの成果）
９月28日（木）：第３回フィールドワーク（常滑市）
10月22日（日）：第３回作品発表会（常滑FWの成果）
11月11日（土）：第４回フィールドワーク（緑区有松）
12月３日（日）：第４回作品発表会（有松FWの成果）
＊レポート・作品の提出は、１号棟３Ｆのレポートボックスへ。13：00締め切り。
レポート（下調べ）提出日：第１回４/17・第２回５/26・第３回９/21日・第４回11/９
作品提出日：第１回５/18・第２回６/15・第３回10/19・第４回12/１
【備考】
１）定員は20名ですが、抽選は行いません。定員を超えた場合は第１回レポートにより選考します。選考にもれた人は履修登録の取り消しをしてください。
２）４回のフィールドワーク（学外教育）の実費を各自負担してください。フィールドワークは現地集合・解散です（公共交通機関を利用のこと）。

【評価方法】

フィールドワークへの参加、提出レポート・作品（パワーポイント）、プレゼンテーションによる（単位取得はすべての参加・提出が条件です）。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

必要に応じてアドバイスします。

フィールドワークⅢ（海外調査実習①）

西尾林太郎

【授業の概要】

台湾の政治・経済及び社会・文化を学ぶとともに、日本統治時代の史跡を参観したり、関係者にインタビューしつつ、日本統治時代について考える。また、現地の大学生と交流する。

【授業の目標】

①台南や台北など台湾の代表的な都市を探訪するとともに台湾の伝統文化にふれる。
②日本と台湾の関係史について考える。
③日台関係について考える。
④中台関係について考える。

【授業計画】

9月下旬（9/23～9/30を予定）に、台北、台南を中心に8日間の調査研修旅行を実施する。

①3月28日（火）：ガイダンス（時間・場所は掲示）
②4月17日（月）：第1回レポート提出
③5月22日（月）：第2回レポート提出
④7月28日（金）：事前授業（時間・場所は掲示）
⑤8月4日（金）：事前ガイダンス（時間・場所は掲示）
⑥9/23～9/30：フィールドワーク実施
　a 9/23～9/26：台南（2日間は現地の大学生と交流）
　b 9/27～9/30：台北（台北への移動の途中、鹿港または台中でフィールドワーク）
⑦10月20日（金）：第3回レポート提出

【評価方法】

実施前の事前授業への出席状況と現地での活動および実施後提出するレポート等の課題等を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

事前授業の折に紹介する。

フィールドワークⅣ（海外調査実習②）

清水 洋

【授業の概要】

シンガポールは、人口400万人余りの都市国家だが、輸出志向型工業化政策をとり、外資に大きく依存して急激な経済発展を遂げている。進出日系企業は約1700社、在留邦人は2万人に上り、日系ゼネコンが建設した高層ビルも多い。現地で聴き取り調査・資料収集を行い、都市国家の現状および日本との係わりについて知識を深める。また、現地の学生との交流も行なう。なお、シンガポールをベースとしてマレーシアを訪問し、両国の諸相を比較検討する。

【授業の目標】

フィールドワークを通じて机上で学んだことを現地で確認し、知識を深める。

【授業計画】

（1）3月28日（火）：ガイダンス（時間・場所は掲示）。
（2）4月17日（月）午後4時までに第1回レポートを提出。
　テーマ：「東南アジアと私」（800字前後。氏名、学年、学籍番号、ゼミ名を明記）。
　提出場所：1号棟3Fレポートボックス。［履修者が10名未満の場合は不開講とする］。
（3）8月26日（土）10：00～15：00：事前研修。
（4）8月26日までに第2回レポートを提出。
（5）9月4日（月）～9日（土）：フィールドワーク（シンガポール・マレーシア）。
　サイエンスパーク、日系企業、ゴム園、民族博物館、回教寺院、チャイナタウン、旧日本人街、国立大学等を訪問予定。
（6）旅費：往復航空運賃（シンガポール航空）、ホテル宿泊費（朝食付き）、マレーシア日帰り貸し切りバス代（日本語ガイド・昼食付き）の合計で約10万9500円。
（7）後期に1度、成果発表会を開催する。フィールドワークで収集した資料等を基に第2回レポートを加筆修正のうえ提出。

【評価方法】

レポート、フィールドワークでの活動状況、研究発表の内容を総合的に評価する。

【テキスト】

シンガポールの経済発展と日本（清水洋著　コモンズ）

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜指示する。

フィールドワークⅥ（国内実地研修②）

谷沢 明　藤井麻湖

【授業の概要】

現代社会を総合的・体験的に学び、現代社会を多様な切り口で解読する能力を養うことを目的に、国内実地研修を行います。2006年度は、沖縄でフィールドワークをします。テーマは、「沖縄の世界遺産を探る」。9箇所すべての世界遺産を訪ねます。

【授業の目標】

フィールドワークの基礎を学び、その成果をプレゼンテーションする初歩的な内容を授業の目標とします。

【授業計画】

この授業は集中授業で実施します。2006年度は下記の予定です。
3月28日（火）：3～4年生ガイダンス（時間・場所は掲示）
4月4日（火）：1年生ガイダンス（時間・場所は掲示）
4月17日（月）：レポート提出（事前の下調べ）
6月11日（日）：事前講義（1～3限。8号棟5Fプレゼンテーション R）
9月10日（日）～14日（木）：沖縄フィールドワーク（4泊5日）
10月26日（木）：作品（パワーポイント）提出
10月28日（土）～29日（日）：成果発表会
＊レポート・作品の提出は、1号棟3Fのレポートボックスへ。13：00締め切り。
【沖縄フィールドワークの日程】
1日目：中部国際空港～那覇空港（飛行機）。首里城・園比屋武御嶽石門・玉陵・金城町の町並み
2日目：織名園・中城城跡・勝連城跡・座喜味城跡・残波岬
3日目：斎場御嶽・琉球舞踏・万座毛・今帰仁城・備瀬集落
4日目：各自のテーマに基づいてフィールドワーク
5日目：各自のテーマに基づいてFW。那覇空港～中部国際空港（飛行機）
【備考】
1　定員は40名ですが、抽選は行いません。定員を超えた場合は事前の下調べレポートにより選考します。選考にもれた人は履修登録の取り消しをしてください。
2　沖縄フィールドワーク（学外教育）の実費を各自負担してください。費用の目安は60,000円程度です（往復飛行機代、移動の貸し切りバス代、ホテル代4泊朝食付き）。なお、履修者が10人未満の場合は閉講とします（団体割引がきかず費用が高くなるため）。

【評価方法】

フィールドワークへの参加、提出レポート・作品（パワーポイント）、プレゼンテーションによる（単位取得はすべての参加・提出が条件です）。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

必要に応じてアドバイスします。

フィールドワークⅦ（教育ボランティア）

渡辺かよ子

【授業の概要】

学校や施設等での教育に関連するボランティア活動を通じ、現代社会における教育問題への関心を育て、教育理論とその有効性をフィールドでの実践を通じて検証する。月に一度のミニ講義で教育フィールドワークの基礎理論と観察法の要点を学びつつ、他の参加者と交流しながら、自身の活動の成果と意義を検討する。

【授業の目標】

教育学の基礎理論の習得と実践で得た知見との統合。

【授業計画】

この授業は集中授業で実施します。2006年度は下記の予定です。
3月28日（火）フィールドワーク科目説明会（2～4年）
4月4日（火）フィールドワーク科目説明会（1年）
4月17日（月）ガイダンス（昼休み）第1回レポート提出
4月28日（金）5・6時限：講義
5月22日（月）ミニ講義（昼休み）
6月19日（月）ミニ講義（昼休み）
7月10日（月）第2回レポート提出、ミニ講義（昼休み）
10月2日（月）ミニ講義（昼休み）
11月13日（月）ミニ講義（昼休み）
12月4日（月）ミニ講義（昼休み）
1月15日（月）第3回レポート提出、総括講義（昼休み）
＊レポートの提出は1号棟3Fのレポートボックスへ。16：00締切。
［備考］
1．定員は40名で抽選は行いません。定員を超えた場合は第1回レポートにより選考します。選考にもれた人は履修登録の取り消しをしてください。
2．履修者は4月17日のガイダンスに必ず出席してください。

【評価方法】

レポート（毎月の活動ミニレポートと、実践研究レポート）。

【テキスト】

資料配布。

【参考文献・資料】

教育研究のメソドロジー（秋田喜代美他　東京大学出版会）
教育のエスノグラフィー（志水宏吉編　嵯峨野書院）
学びの教育文化史：フィールドスタディ（梶田正巳　ナカニシヤ出版）

フィールドワークⅧ（海外調査実習③）

藤井麻湖

【授業の概要】

現地を訪れてみることは、異文化を理解するために重要なことです。この実習では、モンゴル国へ約一週間の研修旅行をおこないます。2006年は、1206年にチンギス・ハーンがモンゴル帝国のハーンとして即位した年から数えて、ちょうど800年になる節目にあたります。モンゴル国では800年祭にちなんだ各種のイベントがおこなわれます。こうした節目にモンゴルへ行くことは、たいへん意味深いことであると思います。この授業は集中授業で実施します。2006年度は以下の予定です。

【授業の目標】

日本とは全く異なるモンゴルの自然、文化に触れて、異文化許容度を高めることを目標とします。

【授業計画】

4月11日（火）：ガイダンス（昼休み：8号棟827教室）
4月25日（火）：第一回レポート提出
7月22日（土）：事前講義（2～4限）（8号棟5Fプレゼンテーションルーム）
8月末まで：第二回レポート提出（モンゴルで各自行おうとする課題を書く）
8月末～9月始めの一週間のモンゴル研修旅行し、研修後第三回レポートを提出してもらいます。
※その他、後期に一度、成果発表会（プレゼンテーション）を開催します。
【モンゴル国フィールドワークの日程】（仮）
一日目　名古屋～モンゴル国ウランバートルへ　ウランバートル泊
二日目　ウランバートル～テレルジ保養所で自然観察
三日目　テレルジ～ウランバートル、ウランバートル市内見学
四日目　ウランバートル～ウンドゥル・ハーン　途中でチンギス・ハーン碑を見学後、現地で牧民の家にホームステイ
五日目　現地で乳搾り、チーズ作りといった日常の仕事に参加します。
六日目　ウンドゥル・ハーン～ウランバートル　自由行動
七日目　ウランバートル～名古屋
【備考】
1　定員は20名ですが、抽選はおこないません。定員を超えた場合は第1回レポートにより選考します。選考にもれた人は履修登録の取り消しをしてください。
2　モンゴル国への研修旅行（学外教育）の実費を各自負担してください。費用の目安は20万円程度です（人数その他により変動するので了解しておいてください）。

【評価方法】

モンゴル研修旅行への参加、および三回のレポート提出、成果発表会のプレゼンテーションによる。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

必要に応じてアドヴァイスします。

ケーススタディⅠ（企業・プロジェクト研究）

竹村 弘

【授業の概要】

少人数のグループで、自らの問題意識に基づき選択したテーマについて、自主的に調査研究を実施し、研究発表、討論、レポート作成を行う。

【授業の目標】

今何が問題で、何をすべきかを自分で考え、自分で決断し、実際に行動し、課題を達成し、そのプロセスと成果を人にきちんと説明し、理解と賛同を得る能力を修得する

【授業計画】

1．問題意識を共有する少人数のグループを編成し、具体的な研究テーマを設定する。
2．文献調査、現地調査、企業訪問、アンケート調査、有識者ヒアリングなどにより調査研究を実施する。
3．「レポート」「展示パネル」の作成など発表準備を行い、夏合宿で「中間報告」「全体討論」、『淑楓祭』展示、他大学合同研究会など、外部との討論で一層の研究の充実を図り、かつ、説得力のある説明、質疑・批判に対する明快な応答など、ディベート能力の向上を図る。
4．訪問企業、ヒアリング先などに「レポート」を持参し、研究成果を報告する。
5．過去の研究テーマ例：「愛知万博」「中部新国際空港」「首都機能移転」「豊橋市の中核都市指定」「長久手まちづくり」「豊根村の過疎」「藤前干潟ごみ処分場」「名古屋市のごみ問題」「環境ホルモン」「環境と都市緑化」「国債」「産業空洞化」「デフレ」「調整インフレ論」「郵政公社」「日本経済と中国経済」「石油価格高騰」「介護保険」「高齢社会」「ゆとり教育」「トヨタ自動車」「JR高島屋」「イオングループ」「中部の中堅企業」「中部大丈夫?」「東海地震」「地方銀行の生き残り」「契約社員と人材派遣」
6．「地域社会演習Ⅱ」（竹村）とタイアップして実施する。

【評価方法】

グループ研究を総合的に評価。

フィールドスタディ・セミナーⅠ

石田好江　西尾林太郎

【授業の概要】

実際に現場に身を置いて観察をしてみると、常識や通念とされている事柄や物の見方がいかに物事の表面だけとらえたものであるかがわかる。

授業では、専門家の指導のもとに、非言語的な情報をもとにした「路上観察」を実際に行い、その成果を効果的にまとめ発表する。

【授業の目標】

路上観察の基礎的な知識や手法を学ぶとともに、この観察を通じて、日常生活における新たな観察の枠組みを見つけ出すことを目的とする。同時に、フィールドワークの成果をパワーポイントでいかに発表するか、という課題にも取り組む。

【授業計画】

8月の集中授業期間に実施（確定した日程は後日掲示する）

1日目　1限～4限　フィールドワーク報告会
　学生グループによるフィールドワークの報告を聞き、評価を行う。
2日目　1限・2限　講義　「体験的路上観察論」
　講師：岡本信也　岡本靖子
　3限・4限　実習：路上観察（3グループに分かれて実施）
　指導者：岡本信也・岡本靖子・嶋村博
3日目　1限～4限　実習：路上観察の成果をまとめる
4日目　1限・2限　報告会：路上観察のまとめを報告

【評価方法】

授業に取り組む姿勢、調査・研究の成果（まとめ方も含める）によって評価。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

未定。

ケーススタディⅡ（現代金融研究）

秦 忠夫

【授業の概要】

多様化する現代の金融取引・金融市場の動きを、生活者の立場で理解することを目標に、極力具体的に、最新のデータを踏まえて実証的に、諸外国の動きと比較しつつ国際的に勉強する。

【授業の目標】

主要な金融取引のしくみや金融市場の構成をしっかり理解する。

【授業計画】

（1）金融市場の構成
①わが国の金融市場：直接金融と間接金融、金融機関の種類と役割、IT革命と金融など
②世界の金融市場：三大金融センター〔ニューヨーク、ロンドン、東京〕の比較など
（2）金融取引のしくみと実情
①株式
②債券
③その他：投資信託、外貨預金、生命保険・損害保険など
（3）資産選択の基準
①収益性と安全性
②リスク管理：リスクの種類、リスク分散、金融商品に関する消費者保護など

【評価方法】

小テストと期末テストを総合して評価。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

授業の際、紹介する。

ケーススタディⅢ（人事・組織研究）

榊原國城

【授業の概要】

この授業での主要な手法はケース・スタディと呼ばれる。受講学生には、具体的なテーマに関わる、何らかの問題を含んだケース（事例）が提示される。このケースは、比較的短い文章により、具体的な組織場面と、そこに登場する人物が描かれている。ケース・スタディは、そのような事例の内容を様々な角度から分析・検討することによって、問題解決能力を養成しようとする方法である。授業は、組織における人事システムの基本的知識に関する講義と、ケース内容に関する学生間の討議がセットとなって進められる。

【授業の目標】

近い将来、会社組織のメンバーとしての貢献が期待される受講学生にとって、組織が求める、人事管理の在り方や評価・育成システムを実践的に捉え、理解を深めることがこの授業の目標である。

【授業計画】

主として、以下のテーマを扱う。

1．組織人の役割のとらえ方
2．組織運営上の諸原則
3．効率的な職務の進め方
4．職場の問題解決
5．人事評価の考え方
6．職務遂行能力・コンピテンシー
7．職場の人間関係
8．チームワーク

【評価方法】

授業への参加態度およびリポートの内容によって評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に提示する。

ケーススタディⅣ（消費者行動・マーケティング研究）

石田好江

【授業の概要】

顧客が何を求めているかを探る消費者行動研究やマーケティングは、単に理論だけ学べば理解できるわけではない。「もっといい広告が可能ではないか」「この機能は本当に消費者が欲しているのだろうか」「価格をもし10％上げたらどういう影響がでるだろうか」など具体的に考えることが必要である。

この授業ではそうした事例研究を通じて、課題の発見、調査・分析、問題解決、政策提案までの全過程を演習の形で行う。

【授業の目標】

事例研究を通じて、研究手法の基礎を学ぶとともに、課題発見及び問題解決能力を身に付ける。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．研究の技法の学習
3．テーマの設定（課題の発見）、計画作成
4．調査・研究の実施
5．分析・ディスカッション
6．調査・研究のまとめ
7．フィードバック

【評価方法】

授業への自発的な取り組み姿勢、調査・研究の内容によって評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜指示する。

フィールドスタディ演習Ⅰa・b

石田好江

【授業の概要】

前半は、消費者行動、就業行動、ジェンダー問題等の社会政策に関わる理解や問題意識を深めることを目的に、関連する文献や論文を読みあい、ディスカッションを行う。

後半は、前半で学んだことを基礎にグループでテーマを設定し、研究する。その成果は順番に発表し、そこでの討議やコメントをふまえ、最終的にレポートとして提出する。

あわせて、プレゼンテーションの方法、レジュメやレポートの作成方法、文献・情報検索の方法も学ぶ。

【授業の目標】

研究活動のための基礎的な知識やツールを取得するとともに、自ら研究課題を発見する力、その課題に関する知識・情報の収集、考察ができる力をつける。

【授業計画】

1．オリエンテーション
　演習の目的、プレゼンテーションの方法、レジュメ（ハンドアウト）の作成方法など
2．文献講読
　文献は、基礎的でありながら、新しい問題提起、パラダイム（理論の枠組み）の問い直し、通説の批判などを含んだものを選びたい。したがって文献講読を通じて基本的な知識を身につけるとともに、消費経済をめぐる新しい動きの理解をめざしたい。
3．個人研究・発表
　研究方法について
　個人研究・発表

【評価方法】

前期は発表内容及び演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。後期は個人研究の発表、レポート、演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜指示する。

フィールドスタディ演習Ⅰa・b

石橋千鶴子

【授業の概要】

＜地域研究：多文化・多言語社会の考察＞

文化の多様性を尊重し共存の道を目指す多文化共生への流れは、世界的に大きくなってきている。オーストラリア、カナダ、米国その他の多文化・多言語社会に焦点を当て、その歴史、経済、文化、人口構成、言語政策、外国人受け入れ政策、多文化維持政策などの視点から考察する。多文化共生世界の中で、日本が進むべき方向について、多くのヒントが得られるだろう。

【授業の目標】

文化の多様性を認識し、柔軟な視点を培っていって欲しい。

【授業計画】

英語・日本語資料の講読、ビデオ視聴、ゲストスピーカーとの意見交換などを通して、オーストラリア、カナダ、米国、その他の地域について学ぶ。英語語彙力および読解力の強化を念頭に授業を進める。

受講生は、各自興味を持った地域や問題を選び、調査・発表する。

【評価方法】

レポート、発表および平常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

テキストは未定。英字新聞記事のコピーなどは配布する。

フィールドスタディ演習Ⅰa・b

大嶽 浩

【授業の概要】

「住宅」（土地、建物）に関する法（法律）を、特に民法の観点から学習する。

【授業の目標】

民法の基本的な「仕組み」を理解すること。

【授業計画】

「住宅」に関する法制度を「総論」的に考察する。具体的には、

1　契約（意思表示）　2　代理（専門家）　3　売買契約
4　請負契約　5　賃貸借契約　6　消費貸借契約

などについて考察する。なお、当演習では、「条文」をこまめに引きますが、その際の態度としては、辞書（法学辞典、六法全書）は「引く」のではなく、辞書と「相談する」という姿勢であってほしい。六法は必ず、持参すること。

【評価方法】

出席状況（演習に対する姿勢）とレポート（内容）による総合的な評価。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

フィールドスタディ演習Ⅰa・b

榊原國城

【授業の概要】

前期は、リポートの書き方、文献の紹介の仕方、プレゼンテーション実習など、大学生としての勉学の基本を修得する。後期においては、観察法・実験法・面接法・調査法・検査法などの心理学研究法を概観する。講義、実習、討議などの方法を用いて授業を進める。

【授業の目標】

この演習の目標は、学生自身が、自らの主体的な態度に基づく勉学や研究の基礎となる原則的方法や態度と、心理学研究の基本的考え方を身につけることである。

【授業計画】

前期　リポートの書き方、プレゼンテーション、科学的研究の進め方等。
後期　心理学研究法の実際、心理ゲーム、パーソナリティ・インベントリー、対人魅力等。

【評価方法】

前期末および後期末にそれぞれリポート提出を課し、その内容によって評価する。なお、演習への参加態度の逐次評価をも行う。

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

授業時に提示または指示する。

フィールドスタディ演習Ⅰa・b

清水 洋

【授業の概要】

この演習は、「アジアの社会経済発展と日本の役割」をテーマとして、アジア社会の諸問題を政治・経済・文化・宗教・民族などの側面から多面的に考察し、アジアに関する知識と関心を深める。また、アジア諸国に対する日本の影響を大衆文化（映画、音楽、和食、ファッションなど）、政府開発援助、直接投資、技術移転などを取り上げて検討する。

【授業の目標】

アジア諸国の諸相に関する基礎知識を身につけるとともに、様々な資料を用いて分析能力を養う。

【授業計画】

テキスト、新聞・雑誌記事、ビデオなどを使ってアジア社会の諸問題を考察し、討議を通じて知識を深める。また、文献の集め方・使い方、レポート作成の方法などを適宜教示する。

1）アジア諸国の政治・経済
2）民族、宗教、言語
3）教育
4）アジア諸国の社会経済発展における日本の役割
5）その他

【評価方法】

討議への参加度、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

シンガポールの経済発展と日本（清水洋著　コモンズ）
アジア政治を見る眼（岩崎育夫著　中公新書）

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

フィールドスタディ演習Ⅰa・b

竹村 弘

【授業の概要】

「文献講読」「グループ討論」「スピーチトレーニング」「バーチャル株式投資」「21世紀いろはかるた」「春合宿」などの共同研究、共同制作を実施する。

【授業の目標】

将来、企業・地方公共団体などにおいて、主体的に事業計画を企画、立案、遂行する能力を養成し、また、一人の市民として地域づくりに発言し、参加し、行動できる実力を身につけることを目的とする。

【授業計画】

1．「文献講読」：　広く「日本経済」「地域開発」その他に関する文献を講読することにより、基礎知識から詳細な専門的知識まで広範な知識および方法論を習得する。輪読、討論、専門家等との意見交換などにより、一層の理解を深めるとともに、自発的思考能力を養い、問題意識の喚起を図る。
2．「グループ討論」：　最初の段階で、ディベート・EQトレーニングを行う。これは、論理的かつ効果的に組み立て、好感の持てる話術で、穏やかに、辛抱強く、時にユーモアを交えて、自己主張するためのトレーニングである。
3．「スピーチトレーニング」：　大勢の人の前で上手にスピーチし、聞く人の共感を得るためには、事前の準備と十分なトレーニングが必要である。
4．「バーチャル株式投資」：　バーチャル株式投資およびマネー・フローの実習を通じて、証券取引や資金運用等の実務を体得する。
5．「21世紀いろはかるた」：　福沢諭吉の「20世紀歓迎会」の故事に倣い、21世紀に実現したい理想や現代社会の風刺を読み込んだ「いろはかるた」を制作し、『淑楓祭』で展示する。
6．「春　合　宿」：　4月上旬に一泊二日の日程で「3分スピーチト・レーニング」「グループ討論」「真実探し『藪の中』」などのディベート・EQトレーニングを実施する。（費用6千円程度）

【評価方法】

討議、グループ研究など総合的に評価。

【テキスト】

議論に絶対負けない法（G.スペンス 三笠書房）
日本の論点（文芸春秋）（各貸与）

フィールドスタディ演習Ⅰa・b

谷沢 明

【授業の概要】

テーマは「フィールドワークで探る生活文化・地域文化」。

生活文化や地域文化、地域の民俗をフィールドワークをとおして学びます。

「あるく・みる・きく」という行動をとおして上記テーマを追求することを演習の中心とします。好奇心を持ってなんでも観察し、小さな発見を積み重ねていきます。さらに、謙虚な気持で土地の人々に接し、そこから学んでいきます。その成果をパワーポイントにまとめ、ゼミ発表をおこないます。

【授業の目標】

前期に「歴史・風土・文化を活かした地域づくり」の実例を文献により学び、夏休みにフィールドワークの実習を行い、後期にその成果のまとめをする。

【授業計画】

前期：田村明『まちづくりの実践』（岩波新書）の講読を行い、日本各地の「歴史・風土・文化を活かした地域づくり」の実例を学ぶ。

夏休み：1週間程度の学外教育・フィールドワークを実施する（行き先は協議の上決定、費用はその上で連絡します）。

後期：夏休みに実施した学外教育・フィールドワークの成果をパワーポイントにまとめて発表する。併せて3年次にそれぞれが取り組んでみたい研究テーマを見つけ、その基礎固めを行う。

備考：2年次に実習科目「フィールドワークⅡ（国内調査実習②）」を併せて履修してください。夏休みに行うフィールドワークの手法はこの実習授業を通じて教示するため、必ず履修のこと。

【評価方法】

平生の授業態度、フィールドワークへの参加、パワーポイント作成等で行う。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

授業で必要に応じて紹介します。

フィールドスタディ演習Ⅰa・b

千葉善根

【授業の概要】

食べものと文化

「禽獣は喰らい、人間は食べる。教養ある人にしてはじめて食べ方を知る」『美味礼讃』より

即ち、人間が「食べること」には精神的・社会的な意味が加味されている。こうした動物とは異なる人間独特の食のあり方が食文化である。

各地に数多くある食品（または素材）および話題について、食文化形成要因や他の地域の食とのつながり、食と人間とのかかわりなどを視野に入れて討議し、今後の食文化や食生活について考察する。

【授業の目標】

「特色のある食、伝統的な食、地域特有の食、美味いもの」などが各地に存在するが、地域によっての特徴、差異の背景を理解する。

【授業計画】

1. 各自、種々の資料をもとに各地の「特色のある食、伝統的な食、地域特有の食、美味いもの」などからテーマを自主的に選択し要約・発表する。
2. 前半はできるだけおおくのテーマ（食）について幅広い知識を身につける。
3. 各発表に全員が参加し討議する。
4. 必要に応じて見学、調査、試食などを考える。

【評価方法】

発表・討議、リポート、出席など総合して評価。

【テキスト】

使用しない。

フィールドスタディ演習Ⅰa・b

西尾林太郎

【授業の概要】

「近・現代における日本人の対外観と外国人の日本観」

特に近・現代における日本人の対外観および外国人の日本観について、古代から現代に至るまで幅広く調査・研究し、〈国際化〉のまっただ中にある今日の日本および日本人について考えてみたい。

【授業の目標】

国際感覚を身に着ける。アジアへの認識を深める。

【授業計画】

例えばルース・ベネディクト『菊と刀』など外国人の日本人論（日本論）や日本人の対外観に関する文献を逐一検討したり、新聞や雑誌あるいは各種テレビ番組で報じられた外国人の日本観、ないしは日本人の対外観をできる限り収集し、検討したい。また、こうした作業を通じて、調査・研究や発表のやり方あるいは討論（ディベート）の方法を修得する。

また日本近・現代政治史、外交史、社会史の文献講読をし、近・現代日本の姿を歴史的に把握することにも努めたい。

特に今年度は、台湾を中心として、東アジアの国際関係や日本について考察する。

a 前期：上記のテーマに関して各自の発表（特に、台湾や中国、日中関係などに関して）。

b 後期：調査研修旅行に関する、いくつかのプレゼンテーション。日本政治・外交史、日本社会論、日本社会史に関する各自のテーマについて調査・研究と発表。

【評価方法】

評価は演習およびそれに付随する行事での活動状況と随時に課すレポートの内容による。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

フィールドスタディ演習Ⅰa・b

秦 忠夫

【授業の概要】

日本経済と世界経済の結びつきを重点に、経済をみる眼を養うことを目標とします。具体的には、内外経済の注目されている動きを、新聞・雑誌の解説記事、政府機関や各種研究所の報告書、単行本などを参考資料として質疑応答しながらいっしょに検討します。その課程では参加者の間で資料の要点整理を分担し、表現力の訓練も重視します。併せて、最近では参加者の間で身近な金融問題への関心も高まっているので、そうした分野にも勉強をテーマを広げていきます。後期には、それぞれが独自のテーマにつき研究し発表する「個人報告」も取り入れていきます。

【授業の目標】

積極的な姿勢で授業に参加し、活発に意見を述べる。割り当てられたテーマについてはしっかりと準備して説得力のある報告を行う。

【授業計画】

前期には、内外経済の注目されているテーマを共通の資料でいっしょに勉強する。後期には、それぞれが自分で選んだテーマにつき発表する「個人報告」も取り入れていく。

なお、前期末には共通テーマにつき、後期末には各自が選んだテーマにつきレポートの提出を求めます。

【評価方法】

レポートと授業への参加態度で評価。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

フィールドスタディ演習Ⅰa・b

藤井麻湖

【授業の概要】

ユーラシア大陸においては大変独特な諸民族文化を歴史的に形成してきました。

この民族文化を理解するには、大きなスケールでユーラシア大陸をとらえる必要があります。そのスケールを味わう。それが、この演習です。

【授業の目標】

この演習では、みなさんが架空なる旅人になります。そして、十四世紀の偉大なる旅行家イブン・バトゥータと共に旅をします。

彼は、二十二歳で故郷のモロッコを出て、アフリカから西アジア、南ロシア、バルカン半島、中央アジア、インドをめぐり、ついにスマトラを経て、福建の泉州に上陸し、北京まで行きました。彼が故郷に帰りついたのは四十六歳のとき、足掛け二十五年の旅でした。彼の大旅行は『三大陸周遊記』に克明に記されており、たいへん面白い民族誌になっています。

演習においては、十四世紀と現在とを横断しながら、ユーラシア大陸という壮大な空間を、わがものと体感します。

【授業計画】

- ●４月に国立民族学博物館参観及びゼミ生の親睦をはかるため、大阪に一泊二日のゼミ旅行をおこないます。
- ●授業では『三大陸周遊記』を輪読し、ディスカッションします。
- ●十四世紀の「歩く旅」に実感を得るために、名古屋を歩くこともします。

【評価方法】

出席と二回のレポートで判断します。

【テキスト】

三大陸周遊記（イブン・バトゥータ著　前嶋信次訳　中央文庫　定価一一四三円+税）

【参考文献・資料】

必要に応じてアドヴァイスします。

メディアと社会Ⅰ（メディアリテラシー）

小川明子

【授業の概要】

現在、ありとあらゆる領域で「情報化」が喧伝され、新たなメディアや技術の登場が私たちにバラ色の未来を約束しているかのように宣伝されている。あるいは、ネットの世界や携帯の出会い系サイトなどが危険なメディアとして敵視されたりする。しかし、「情報化」は決してバラ色の未来ばかりをもたらしてくれるわけでも、暗黒の未来をもたらすわけでもない。私たちの社会や日常生活を幾重にも取り囲むようにして存在するメディアは、私たちの使い方次第であり、両刃の剣といえる。

そこで、本講義では、「メディア」とは何かについて熟考したい。特に、最近様々な場で提唱されるようになった「メディアリテラシー」の切り口から昨今のテレビ報道やコマーシャルなどを分析する一方、取材体験、メディア表現などのワークショップを通じて体験的にメディアの特徴や限界を考察することを目標とする。単なるメディア批判に終わることなく、市民社会における情報モラルやメディアとの関わり方についても考えていきたい。

特に、メディア・プロデュースコース希望者で、特に「メディアと社会」、「メディアとコミュニケーション」に関心のある学生はできるだけ前期に受講すること。

【授業の目標】

普段なんとなく見聞きし、利用しているさまざまなメディアの社会的な役割や機能、問題点の概略を理解し、講義と実習の両面から経験的に学ぶ。

【授業計画】

1．メディアとは
2．映像メディアの特性を知る
3．メディアとコミュニケーション
4．マスメディアの特長と限界
5．戦争とメディア
6．市民社会とメディア

毎回資料を提示しながら進める。取材、メディア表現等の実践も取り入れる。

【評価方法】

毎回、授業後に提出するコメントあるいは作品、期末レポートによる。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

メディアリテラシー- メディアと市民をつなぐ回路（NIPPORO 文庫）
メディア・リテラシー- マス・メディアを読み解く（リベルタ出版）
メディア・プラクティス（せりか書房）
メディア・リテラシーの道具箱（東京大学出版会）

メディアと社会Ⅱ（放送）

梅田紘輝

【授業の概要】

マスメディアの中でもデジタル化の波で、厳しい対応を迫られているのが、放送メディアである。現代社会に欠かせない基幹メディアとしての放送の成立から放送現場の実態までをたどりながら、その機能や問題点を探り、現代社会との関わりを展望する。

【授業の目標】

「マスコミ」とか「メディア」という言葉は、日常語の一つである。しかし、「その意味は?」と聞かれると、実に不確か。生活と不可分の"マスメディア入門"コースを提供。

【授業計画】

講義形式。

1．放送の成立と歴史（概論）
2．放送の公共性とシステム（NHKと民放）
3．放送とビジネス（広告媒体としての放送）
4．放送と戦争
5．放送と政治
6．放送と人権
7．制作現場（1） ニュース/ワイドショー
8．制作現場（2） ドキュメンタリー/ドラマ
9．放送のグローバル化、その功罪
10．メディア・アクセス、「市民メディア」の展望

（内容は、見直し・変更の場合がある）

VTR、参考資料を多用し、「批判的」に放送メディアを検証する。

【評価方法】

出席状況、小テストと学期末レポートなどによる。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

メディア・リテラシー（岩波新書）
ジャーナリズムの思想（岩波新書）

メディアと社会Ⅲ（新聞）

小塚哲司

【授業の概要】

新聞、テレビなどによって伝えられるニュースは、国内外で起きる日々の動きを映す鏡である。IT革命と相まって、ますますグローバル化、スピード化する21世紀高度情報社会。マスコミ、マスメディアは、そうした刻々と起きる地球レベルのニュースを、迅速に収集し、公正な価値判断をして、国民に伝えるのが役割である。それは「報道の自由」が保証されてこそ可能だが、逆に厳しい職業倫理も求められる。ジャーナリズムに課せられた責務と職業観、勤労観を考え、ニュースへの理解を深めるため、主に新聞報道を素材として、新聞記者、海外特派員の体験を交えながら、分かりやすく教えていきたい。

【授業の目標】

ニュースとは何かをしっかり学ぶ。高度情報化時代、デジタル時代の中で、マスコミ、特に活字メディアである「新聞」の果たすべき役割とジャーナリズム倫理を考える。

【授業計画】

1．マス・コミュニケーションは、一度に大事件などを多数に伝えられる点では有効だが、一つ誤ると大混乱を生む。公平な視点を欠けば、偏った見方を伝えてしまう。影響力が大きいが故に、加害者、被害者、報道される側の人権、プライバシーへの細心の配慮、厳しい報道倫理が求められる。
2．低年齢化する少年非行、実名と匿名報道、その訴訟例、イラク戦争とナショナリズム……。これらの意味、背景を、具体的なニュース報道で検証する。
3．新聞、メディアの歴史と日本、世界の新聞、通信事情を考える。
4．授業を面白くし、時代を考える手助けとして、毎週、その週の大きなニュースを解説する。

【評価方法】

出席率、毎日の小レポートと最終講義での大レポートなどで総合評価する。

【テキスト】

毎回、独自のレジメを配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で、随時紹介する。

メディアと社会Ⅳ（情報）

中島豊四郎

【授業の概要】

今日の社会において、情報は第４の資源と言われるように非常に重要、かつ必要不可欠なものとなっている。それゆえに、情報システムやネットワークシステムの不具合、また、誤った情報、伝達の遅れ等は、社会に多大の影響を及ぼす。その原因は、情報に関する業務に従事する人にあることが多い。

本講義では、情報化社会の進展と職業の変遷について、また、今日の社会を支えている情報システムの構築や運用を通して、情報に関する業務に従事する人に求められる職業（情報）倫理を含む職業観と勤労観等について学習する。

【授業の目標】

今日の情報化された社会、また、情報システムの重要性とその脅威を理解すること。さらに、情報システムの開発や運用に関する業務を理解し、それらの業務に従事する人達（開発者、運用者等）に求められる職業（情報）倫理を含む職業観と勤労観等について理解すること。

【授業計画】

第１回　ガイダンス
第２回　今日の情報化社会の概観
第３回　コンピュータの発展の歴史
第４回　情報システムの概要と種類
第５回　情報システムの重要性
第６回　情報システム構築のプロセス
第７回　情報システムの運用の実際
第８回　情報に関する職業その１（構築サイド）
第９回　情報に関する職業その２（運用サイド）
第10回　情報システムの脅威とその対策
第11回　情報倫理の必要性と実際
第12回　情報に関する業務に従事する人の職場環境
第13回　職業倫理を含む職業観と勤労観
第14回　職業倫理を含む職業観と勤労観の教育
第15回　まとめ

【評価方法】

1）学期末の試験、2）レポート、3）受講態度、4）出席、5）その他等により総合的に行う。

【テキスト】

未定（開講時に指示する）

【参考文献・資料】

高度技術社会と人の生き方（東京大学出版会）

【備考】

理解を促進するためできるだけ履修者と対話する方式で進める。また、ビデオ等も用いる。

メディアと社会V（マス・カルチャー）

山田登世子

【授業の概要】

ブランド文化論をとおして「現代社会」を考える。

とりあげるブランドは、ルイ・ヴィトンなど、いわゆるファッション関連のラグジュアリー・ブランドとする。

◇ファッションとは何か――「見た目」は人を語る
「見せる」ことと「隠す」こと
◇モードとは何か――人はなぜ流行に左右されるのか
「流行」とは何か、トレンドはいかにしてつくられるのか?
◇ブランドって何?
ルイ・ヴィトン、エルメス、シャネルを例にとってブランドの文化史を学ぶ。
ある商品がブランドになる「条件」は何なのか。
人はなぜブランド品が欲しいのか?
◇大衆消費社会と贅沢
◇同一化願望と差異化願望
◇ひとはなぜおしゃれをするのか――ファッションとセクシュアリティ

上記のようなプランにそって「ブランドという現象」を考える。

【授業の目標】

ファッションやブランドといった日常文化の分析をとおして現代社会とそこに生きる自分を考える。

【授業計画】

講義ではありますが、授業に「参加」してもらうため、ぬきうちショートテストを毎回のようにやります。

【評価方法】

ショートテストなどの平常点を重視しますが、成績は期末レポートで。

【テキスト】

ブランドの世紀（山田登世子　マガジンハウス　1,800円）
ブランドの条件（山田登世子　岩波新書）

【参考文献・資料】

上記テキストのうち、『ブランドの条件』は2006年5月発売予定（価格未定）。
また、授業では適宜アクチュアルな資料を使用しますが、学生からの資料提供も期待します。

メディアと社会VI（イベントプランニング）

大井 純

【授業の概要】

現代社会においては、スポーツ、エンターテインメントを代表とするイベントが満ちあふれている。しかし、それをどのように実施すれば、成果があがるのか、専門知識が求められる。今や単に企業PRのみならず、公共イベント、祭など地域活性化にもイベントは欠かせない。参加する立場から、企画する立場に視点をかえることによって、メディアプロデュースの主流となりつつあるイベントプロデュースを深く理解することができる。本講は集中講義により、イベントの企画から実際までをモデルをもとにワークショップ形式で実習する。

【授業の目標】

イベントの実際を理解するとともに、プラニングを実習で体験することで、現代社会におけるメディアイベントについての幅広い知識を得る。発表とディスカッションを通じて、イベントのプロセスを理解し、企画とプレゼンテーション能力を高める。

【授業計画】

1．イベントの実例を分析
2．イベントの企画
3．イベントの提案
4．イベントの演出
5．イベントの評価

以上のようなプロセスをチームワークで実習する。主催、内容、予算設定、参加者などシミュレーションにより、現実に可能か検証していく。

【評価方法】

ワークショップでの発表、作品、レポートなど

【テキスト】

プリントを配布する

メディアと社会VII（地域メディア）

高橋 徹

【授業の概要】

20世紀後半から電気通信メディアの技術的発展が産業、地域社会、個人、行政等に大きな影響を与えてきたことを把握し、地域社会におけるコミュニケーション環境の変化ついて電気通信メディアや通信ネットワーク等の普及過程から論じる。

【授業の目標】

メディアが地域社会の中で社会・経済・文化等の様々な側面と密接な関係にあることを理解し、地域社会が抱える問題とその対応策について考える力を身につけること。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1．電気通信メディアの歴史
2．地域メディアの普及導入
3．電気通信産業の展開
4．地域情報化政策の変遷
5．地域開発と情報通信システム
6．電子政府・電子自治体の進展
7．市町村合併の動きと情報環境の変化
8．地域情報化をめぐる海外の動き
9．デジタルデバイドと情報リテラシー

以上の項目についてテキストを中心に、随時プリント教材、VTRも使用する。

【評価方法】

定期試験、小テスト、出席率等により総合的に評価する。

【テキスト】

未定。（授業にて配布する）

【参考文献・資料】

未定。（授業にて配布する）

メディアと社会VIII（情報文化）

小川明子

【授業の概要】

現代社会において、私達の文化はメディア産業と深い関わりを持っている。本講義では以下の内容に焦点を当てて具体的で身近な事例を
参照しながら、情報文化について多面的な考察を加えたい。

1．産業と文化の接点－コマーシャルを手がかりに－
現代は高度消費社会でもある。産業の歴史でもあり、大衆文化の記録でもあるコマーシャルを手がかりに高度消費社会と情報、意味生成について考える。
2．情報の東京一極集中を考える
情報の東京一極集中が叫ばれて久しく、行政によって地域情報化政策も行われているが、成功しているとは言いがたい。そこで、私達の生活、文化と密接なテレビや新聞といったメディアの歴史を地域との関係から考察する。
3．情報化と社会－課題と可能性－
情報化は私たちの文化にどのように関わるのか。グローバリゼーション、デジタルデバイド、著作権等の知的所有権の問題など、現在話題のトピックについても考えていく。

【授業の目標】

消費社会論やカルチュラル・スタディーズ、メディア文化論の論者の知見を手がかりに、明治期以降から現在にいたる情報とメディア、文化の歴史について理解する。

【授業計画】

上記の内容について、ビデオ、プリント資料をもとに講義形式で進める。

【評価方法】

テスト。授業後のコメントを補助的に用いる。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

適宜指定する。

メディアと社会Ⅸ（メディア社会）

石田米和

【授業の概要】

今日、メディアの発展、それに伴う社会の情報化の進展が目覚ましい。そして、プライバシーの侵害、著作権等の知的所有権の侵害、利用者利益の阻害等の諸問題を契機として、情報モラルや情報リテラシーのあり方が取りざたされている。

本講義では、上記のような状況を踏まえつつ、およそ以下の項目について議論していく予定である。

・メディアおよびメディア環境の捉え方
・既存メディアおよびマルチメディアの機能と役割
・メディア環境の変容と社会的文化的影響
・情報メディアの利活用と諸問題　-プライバシーや知的所有権の侵害など
・メディア社会とどう関わるか　-情報モラルや情報リテラシー

【授業の目標】

メディアの発展状況や問題点の理解を通して、メディアのあるべき姿について考え議論する能力を養うこと。

【授業計画】

基本テキストの解説・関連学習を中心に、適宜、参考資料、映像資料等を使用する。

【評価方法】

評価は、レポート提出、定期試験、受講態度により行う。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

未定

メディアと情報Ⅱ（マルチメディア・デザイン）

川澄未来子

【授業の概要】

マルチメディアを利用したコミュニケーションやシミュレーションのために必要となる知識やデザイン手法について学ぶ。特に、コンピュータや通信環境にも配慮しながら、図形処理や映像、処理の方法から情報メディアの在り方まで概説する。

【授業の目標】

実際の制作でどのようにして情報を扱っていくのかを具体的に学びながら、マルチメディア検定２級レベルの知識習得を目指す。

【授業計画】

画像・映像・サウンドなどのマルチメディア教材を利用し、コンピュータを使った実習を通じて学習する。特に、マルチメディアを利用したコミュニケーションやシミュレーションに関係の深い、次のトピックスについて学ぶ。

（1）コミュニケーションデザインの概念
（2）マルチメディアコンテンツデザイン
（3）コミュニケーションデザインの方法
（4）コンテンツデザイン制作の実際
（5）メディア環境とデザイン
（6）マルチメディアデザインにおける人間要素
（7）知的所有権と表現

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出課題、試験結果などから総合的に評価する。（評価点の配分は授業にて説明する。）

【テキスト】

コミュニケーションデザイン編マルチメディア標準テキストブック（CG-ARTS協会）

メディアと情報Ⅰ（マルチメディア情報）

辻 紘良

【授業の概要】

マルチメディア情報を構成する要素は画像、映像、音、通信であり、また一方、認識と創作という両面を持ち合わせている。ここでは、これらの種々の特徴を示すとともに、技術、システム、応用の面から全体の体系と相互の関連性をわかりやすく提示する。あわせて、技術的な内容について基本となる原理を中心に説明し理解を進める。

【授業の目標】

1．マルチメディアを構成する基本となる技術、システムについて体系的な理解を深める。
2．コミュニケーション手段としてのマルチメディア情報の多様な面を理解し、その創造的展開を図る能力を培う。

【授業計画】

1．マルチメディア情報学の基礎
2．情報を用いた問題解決
3．情報の伝達
4．情報の収集と発信
5．情報の表現
6．文字と音の情報処理
7．情報の計測と制御
8．表現の技術
9．情報化社会

CD-ROMやビデオ機器を用いて最先端のマルチメディア活用の実例や実験例を提示し理解を深める

【評価方法】

課題の提出や期末試験の結果を総合し成績を評価する。

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

マルチメディア- 基礎から応用まで-（マルチメディア編集委員会編　CG-ARTS協会　p393　平成16年）
マルチメディア情報学の基礎（長尾・安西他編著　岩波書店　p240）

メディアと情報Ⅲ（マルチメディア・システム）

辻 紘良

【授業の概要】

コンピュータ、インターネット、デジタル通信・放送など、マルチメディア関連技術は21世紀を支える根幹技術となっている。ここでは、おもにマルチメディア関連の情報処理およびシステムと応用技術の基本を学修し、現状技術の理解と今後の展開への基礎とする。

【授業の目標】

1．マルチメディア情報処理や機器に関する基本的な理解を深めるとともにシステム応用面を把握する
2．マルチメディアシステムの多面的な展開を理解するとともに進展する今後の展望を得る。

【授業計画】

1．概論
2．マルチメディア情報処理
3．文書・画像・映像・音声処理
4．コンピュータグラフィックス
5．マルチメディア応用
6．放送・通信方式
7．ヒューマンインターファース
8．マルチメディアシステムと構成要素
9．システムハードウエア
10．周辺機器
11．システムソフトウエア
12．インターネット
13．マルチメディア応用システム

CD-ROMやビデオ機器を用いて最先端のマルチメディア技術の実例やシステム例を提示し理解を深める

【評価方法】

小テストや期末試験の結果を総合し成績を評価する。

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

マルチメディア・基礎から応用まで（CG-ARTS協会　p393　2004）
マルチメディア情報学の基礎（長尾・安西他編著　岩波書店　p240）

メディアとコミュニケーションⅠ（メディア心理）

太田浩司

【授業の概要】

メディアの影響やメディア使用などメディアとコミュニケーションの主要なパラダイムの中にある理論を利用して、我々人間のメディアコミュニケーション的生活を考察する。

【授業の目標】

本講義の目標はコミュニケーション論のマスメディアの部分に特化し、メディアの人間コミュニケーションにおける理論を概観することを目標とする。さらに我々の社会生活におけるメディアの果たす役割や問題など実践面について理解を深める。

【授業計画】

学期の最初の授業に詳しい予定を提示する。従って必ず出席すること。講義は以下の内容を含む予定である。

1．メディア映像の影響とメディア使用
2．メディアと社会化
3．コンピューターとコミュニケーション
4．モバイルメディアのコミュニケーション
5．パラソーシャルインターアクションとメディア
6．メディア暴力と培養理論
7．メディア広告と説得
8．メディアとコミュニティー
9．メディアと異文化

【評価方法】

出席
タームペーパー
期末試験

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

ケータイ学入門：メディア・コミュニケーションから読み解く現代社会
子供の発達とテレビ（村野井均　かもがわ出版）
トランスナショナルジャパン：アジアをつなぐポピュラー文化（岩渕功一　岩波書店）
ケータイを持ったさる（正高信男　中公新書）

メディアとコミュニケーションⅡ（サブカルチャー）

太田浩司

【授業の概要】

この授業ではコミュニケーション論の異文化間コミュニケーションの部分に特化し、現代日本社会における様々なグループ間でのコミュニケーションの現状と特徴について概観する。。特に「変化」という概念に注目し、社会アイデンティティー理論の立場から異文化、サブカルチャー、共文化などと呼ばれるグループに属する人々の間で繰り広げられるコミュニケーションについて吟味をする。

【授業の目標】

本講義の目的は大きく分けて次の二つである。一つには、めまぐるしく変化する現代社会の中で我々自身や異なる集団に属する人々をどのようにとらえ、その人たちとどのようにコミュニケーションをしているかについての理解を深めることである。第２の目標は、現存する様々な問題を解決していく為には我々一人一人がどのようなことが出来るかを考え、自分なりの提案をすることである。

【授業計画】

詳しい授業の計画は初回の講議で説明する（必ず出席すること）が、以下の内容を授業で扱う予定である。

（1）社会アイデンティティー理論
（2）偏見と差別
（3）ステレオタイプ
（4）コミュニケーション調節理論
（5）文化と価値観
（6）異文化間コミュニケーション
（7）スティグマ（Stigma）と対人プロセス
（8）異文化と教育

【評価方法】

テスト１回（期末）、短いペーパー２回の予定。出席

【テキスト】

異文化理解（青木保　岩波新書）

メディアとコミュニケーションⅢ（レトリック）

五島幸一

【授業の概要】

コミュニケーション研究の一領域であるレトリック批評を中心として人間のコミュニケーション活動を考える。レトリック研究そのもの自体はその源を紀元前のローマ・ギリシャ時代に遡るものであるが、本講義では現代の様々な事象に焦点を当てて、レトリックの観点から考察する。

日常生活の多くの影響を及ぼしているコミュニケーションの問題としてしばしば指摘される広告、政治キャンペーン、ニュース報道などを取り上げて、現代社会において人々とどのように互いに影響を及ぼしあっているのかを考え、理解を深める。

【授業の目標】

レトリック批評について基本的な考えかたを学び、実際の分析の仕方を理解すること。

【授業計画】

基本的な文献を提示しながら進めていくが、グループによる発表も課すことがある。

【評価方法】

成績は学期末の試験をとくに参考とするが、出席状況や授業への参加度も考慮する。

【テキスト】

適時プリントを配布する。

メディアとコミュニケーションⅣ（ヴィジュアル）

小田茂一

【授業の概要】

マルチメディアの進展が契機となり、コミュニケーションの場における映像化・ヴィジュアル化の傾向が顕著になりつつある。このような状況を踏まえて、映像化・ヴィジュアル化の歴史的変遷を概要しつつ、そのことの社会的影響や認知、理解への影響、文字によるコミュニケーションとの関係、さらにトータル・コミュニケーションの再検討について考えていく予定である。

主として以下のような内容を取り上げる予定である。

映像化・ヴィジュアル化とは―歴史的変遷、社会的要請
映像化・ヴィジュアル化の影響―社会経済的、心理的（認知、理解等）等
映像化・ヴィジュアル化と文字によるコミュニケーションとの関係
映像化・ヴィジュアル化と文化
映像化・ヴィジュアル化の問題点

【授業の目標】

コミュニケーションの基礎知識を習得し、ヴィジュアル化の意味と問題点を考え、議論できるようにすること。

【授業計画】

適宜、参考資料、ビデオ等の映像資料を使用する。

【評価方法】

レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

【テキスト】

適時プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

メディアとコミュニケーションV（映像演出A）

坂元 多

【授業の概要】

ビデオや映画の中の表現テクニックを抽出して映像制作方法として一般化、法則化を試みる。

映像制作は高い独創性が要求される。これは説明や講義で学べるものではない。数多くの優れた作品に接しながら、これを理解し、消化する中で制作の手がかりを得る。

【授業の目標】

映像作品を分析的に観賞できる技能、態度を養う。

【授業計画】

映像作品の試写と解析。

【評価方法】

授業時間内のテストで評価。

【テキスト】

特になし。

メディアとコミュニケーションVI（映像演出B）

大西 誠

【授業の概要】

国内外の名作映画の中から、シーンを抽出し、映像技法という角度から分析し、制作者の意図と演出の意味について学ぶ。

【授業の目標】

用語理解と実際の映像表現の分析を通じて、映像技法の知識を身につける。また映像文法を学ぶことで映像批評能力を高める。

【授業計画】

すぐれた映像は、一定の技術を使って作品を作り上げる職人的要素と独自の語り方を表現する作家的要素によって成り立っているといえる。本講では、日本人監督の作品を中心に映像が生み出す感動や驚きに焦点をあてて、数々の映像技術を取り上げ解説する。あわせて映画が作り上げてきた映像文法を考察する。

具体的には、下記のような技術を用いた映像場面を取り上げて検討する。

・クロース・アップとロング・ショット
・アクション・カットとダイアローグ・カット
・オーバー・ラップとフェード・アウト
・マルチ・カメラ
・スローモーション
・パン・フォーカス（ディープ・フォーカス）
・ワンシーン・ワンカット

【評価方法】

授業への参加度、リポート、期末の試験などで総合評価する。

【参考文献・資料】

一人ででもできる映画の撮り方（洋泉社）

放送制作実習I（基礎）

宮原美佳

【授業の概要】

ビデオカメラやコンピュータの個人所有が一般的になった現在、映像はテレビや映画関係者などプロだけが制作するものではなくなった。趣味の撮影、会社での記録や、プレゼンのため、webでの映像配信など、だれでもが映像（情報）の発信者になれるようになった。しかし、人に何かを伝えるためにはただ撮影すればいいというものではない。ビデオカメラで撮影するだけでは記録にすぎない。人に見せる、伝えるという意志を持って、撮影、編集することによりメッセージが生まれる。

この授業ではテレビ番組の制作方法をベースに、企画、撮影、編集の基礎を行ない、映像で他者に何かを伝えるということに取り組んでもらう。実際に自分で番組制作をすることにより、現実に放送されている映像、情報の虚実を読み取る力をつける。

【授業の目標】

この授業には正しい答えがありません。
個人でテーマを見つけ撮影して編集します。
自分で学ぶスキルを一緒に発見してゆきましょう。

【授業計画】

最終課題として、デジタルビデオカメラ等を使用して、2分間の自己PR番組を制作する。それに向け番組制作の基礎理論と演習を行なう。

メディアプロデュースコース希望または専攻者が望ましい。

【評価方法】

出席回数、授業態度、課題で総合的に評価する。

【テキスト】

なし

放送制作実習II（スタジオ）

大西 誠

【授業の概要】

スタジオ機器を使用して、ニュース番組とトーク・情報番組を制作する。演出などの理論と機器の使用方法を学習し、放送が個人プレイによるものでなく、集団で作り上げるものであることを学ぶ。またカメラ、音声、照明など技術面とディレクターやフロア・ディレクター、出演者など演出面を実地に経験することにより、制作における問題点や番組制作の裏面からメディア・リテラシーを身につける。

【授業の目標】

グループによる番組の制作を通じて、メディア・リテラシー能力を高める。また、お互いに意見を出しあうコミュニケーション能力や、社会性を身につける。

【授業計画】

理論と実習を組み合わせる。

1．スタジオカメラ等制作技術の操作
2．出演者とスタッフの関係
3．企画の立て方、台本の書き方
4．放送素材/ロケーションと編集
5．スタジオ収録と試写

メディアプロデュース・コース希望または専攻者が望ましい。実習の積み重ねが大切なのでチームワークを大切にしてほしい。

【評価方法】

実習の態度（チームワーク）と作品及びリポートで評価する。

【テキスト】

なし。

放送制作実習Ⅲ（音声表現）

小川明子

【授業の概要】

この授業では、標準語にとらわれず、自分らしく、好感を持ってもらえる話し方やナレーション、伝え方をそれぞれに研究し、相手から本音を引き出すインタビュー術などについて学ぶ。また、生活の中に存在するさまざまな音に注目し、収録・再現することで、音声表現の奥深さを理解する。最終的には編集を加えながら、自分の住む地域で起こっているできごとに関して２分間の音声作品を制作する。

【授業の目標】

音声で表現すること、音声メディアの特徴と限界を学び、自らも音声で表現できる基礎的なスキルを獲得する。

【授業計画】

1．音声と映像
2．町にあふれるナレーションの数々
3．自分らしく語る①　滑舌・発声
4．自分らしく語る②　方言と共通語
5．自分らしく語る③　イントネーション
6．自分らしく語る④　実践
7．インタビュー術
8．状況を実況する
9．原稿の書き方
10．収録
11．編集
12．プレビュー

【評価方法】

出席と最終作品、毎回の授業態度などから総合的に判断する。

放送制作実習Ⅳ（ドキュメンタリー）

小田茂一

【授業の概要】

現代社会をビデオカメラの目を通して見つめる力を実習と理論で養成する。カメラによって切り取った現実を編集という作業によって、再構成していく「現実世界」のとらえ方を認識する。また作品を通じて、新たな現実を映像で作り上げ、伝えていくというドキュメンタリー番組のあり方や問題点について考察する。
（放送制作実習Ⅰ受講済が条件）

【授業の目標】

放送制作実習Ⅰで学んだ制作能力をさらに高める。また作品制作を通じて、現実と映像の差異を理解することで、放送制作現場を実感する。そのことにより、メディアリテラシーの理解と知識を深める。

【授業計画】

実習と講義を組み合わせる。ドキュメンタリーの意味、方法論を知るとともに企画（テーマの選び方）から制作までの手法を学ぶ。最終的には、インタビューとリポートを基本としたドキュメンタリー番組を制作する。

1．ドキュメンタリー番組の歴史
2．ドキュメンタリー番組の企画
3．ドキュメンタリー番組の演出
4．ドキュメンタリー番組の編集
5．ドキュメンタリー番組の評価

以上を目標に２～３人のチームワークによる実習を中心に番組制作をする。

自ら取材する意欲、問題意識が求められる。新聞の企画記事やドキュメンタリー番組を見てほしい。

【評価方法】

出席・実習の態度、小課題と作品内容で評価する。

【テキスト】

なし。

放送制作実習Ⅴ（ドラマ）

大久保晋作

【授業の概要】

ドラマ（TVドラマ番組）制作を試みることによって、自然や人間を見つめる目を育てるとともに、現代社会を把握する一つの方法を身につける。

また、ドラマがいかに多くの人を経て制作されるかを知ることによって、その中に現れる芸術性や文化の創造性について考える。

【授業の目標】

・日常の中でTVドラマを制作することによって、現代社会を把握する力を養う。
・TVドラマの制作には、他人との関わりが大切な条件となることを知る。

【授業計画】

講義は、下記のようなもので構成される。

1．TVドラマの条件
2．TVドラマの企画
3．台本の決定と演出
4．TVドラマの美術
5．TVドラマの技術（カメラ、音声、照明）
6．演技者
7．編集
8．完成/試写

など

多くのドラマ番組を視聴しながら、理論と実習を組みあわせる。また制作現場を見学し、理解の一助とする。

【評価方法】

授業への参加度、課題リポートで総合評価する。

【テキスト】

なし。

デジタルメディア実習Ⅰ（CG画像制作）

石丸 緑

【授業の概要】

コンピュータによる画像・図形処理の基礎を学習する。

２次元画像の作成・加工のプロセスを体得し、作品制作までを行う。

【授業の目標】

２次元画像編集ソフトの基本的操作方法の理解と作品を制作することでCGでの表現方法の多様性を発見する。

イメージを形にする楽しさを体験してほしい。

【授業計画】

1　ガイダンス（画像処理）Adobe Photoshopの基本操作
2　画像合成演習－選択範囲、マスクの作成
3　画像合成演習－レイヤー作成
4　画像処理演習－ペイント、レタッチ
5　画像合成の実践－コラージュ作品制作
6　Adobe Illustratorの基本操作
7　イラストの作成演習
8　テキストのデザイン演習
9　IllustratorとPhotoshopの連携
10　グリーティングカードの作品制作
11　テーマ課題（実習）
12　テーマ課題（実習）

【評価方法】

出席状況と提出課題
（３課題）の評価採点。

【テキスト】

CGデザインの入り口（石丸みどり著　株式会社マナハウス発行）

デジタルメディア実習Ⅱ（CG 動画制作）

親松和浩

【授業の概要】

コンピュータによる動画像・３次元図形処理の基礎を学習する。

動画像の作成・加工とウェブページへの応用のプロセスを実習し作品制作まで行い、３次元画像についてモデリングからレンダリングまでの一連の処理プロセスを実習する。

３次元グラフィックは、現実世界をモデル化し、光の反射屈折透過をシミュレートするものである。授業では、コンピュータグラフィックがメディア作品に使われるだけでなく、フライトシミュレーターなど工学医療等の様々な分野で幅広い応用を持つことも紹介する。

【授業の目標】

動画像と３次元画像の制作の基礎的な概念と技能を習得する。

【授業計画】

1　コンピュータグラフィックとシミュレーション
2　画像処理の基礎- 基本図形、ベジェ曲線、テキスト
3　簡単なアニメーションの作成
4　アニメーションを利用したウェブページ
5　アニメーションの作成技術
6　インタラクティブなアニメーション
7　課題１：アニメーションを利用したウェブページ
8　３次元グラフィックの作成手順
9　３次元グラフィックの作成技術
10　３次元グラフィックのアニメーション
11　課題２：３次元グラフィックの制作

【評価方法】

出席状況と提出課題の評価。

【テキスト】

未定（開講時に指示する）

デジタルメディア実習Ⅲ（デジタル映像制作）

辻 紘良

【授業の概要】

最近は高度な映像処理がパソコンを用いて誰にでも簡単にできるようになっている。ここではデジタル映像処理技術の基礎を学習するとともに、ビデオ素材の処理・編集操作を体験的に学習する。ビデオ素材の取り込みからムービー作成まで通して行うことにより、一連のデジタル映像処理プロセスを習得する。

毎回、講義の前半は映像処理理論と操作法の説明、後半はパソコンを用いた映像処理の実習を行う。

【授業の目標】

1．デジタル映像処理の基礎と編集処理の基本的な体系を理解する。
2．パソコンによる映像制作の実習を通して、体験的にデジタル映像編集を理解、体得する。

【授業計画】

1．デジタル映像制作概論
2．ムービー作成の流れ（シナリオ、ロケ、カット表）
3．ビデオカメラの使い方と撮り方
4．デジタル映像処理の基本
5．環境設定とプロジェクト設定
6．映像とサウンドの取り込み
7．ビデオの編集（１）分割・削除・トリミングなど
8．ビデオの編集（２）インサート・オーバーレイなど
9．サウンドの編集
10．映像に特殊効果（フィルタ）を付ける
11．トランジション（場面転換）の使用
12．映像のモーション設定（回転、移動、変形）
13．文字と画像の合成処理（重ね合わせ）
14．タイトル画面の作成と文字アニメーション
15．ムービーのコンパイルとビデオテープへの録画

期末には各自小規模なムービーを作成する。それを授業内で発表しかつ期末の課題として提出する。

カセットテープ、MO/DVDメディアは各自用意すること。デジタルビデオ・カメラは貸し出しする。

【評価方法】

課題の提出状況や期末作品の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

Premiere Pro の仕事術（エ・ビスコム・テック・ラボ著　毎日コミュニケーションズ、2004年）

デジタルメディア実習Ⅳ（電子音楽制作）

渡邊 康

【授業の概要】

マルチメディア表現を構成するにあたって、音響、音声、音楽は、欠くべからざる要素である。そこで、音データの編集・処理・音楽ファイル作成の実習を通して、サウンド処理の基本原理とプロセスを体得する。さらに、Midiを使った音楽データ製作の演習により、より個性的なマルチメディア表現の獲得を目標とする。Cubase SXを使用する。

【授業の目標】

1．音声トラックの効果的な構成を各種エフェクトを使用することなどで行う。
2．オリジナル曲を作曲できるように学習する。

【授業計画】

（1）　授業概要、メディアランドの利用法、Mac Osの基本操作
（2）　Cubase SXチュートリアル
（3）　Audio処理によるムービーサントラ制作
（4）　Audio処理によるムービーサントラ制作
（5）　発表
（6）　Midiによる課題曲の打ち込み
（7）　Midiによる作曲法の演習
（8）　Midiによる作曲法の演習
（9）　MidiデータとAudioデータの融合
（10）　発表
（11）　Audio処理とMidi処理によるムービーサントラ制作（楽曲制作を中心に）
（12）　Audio処理とMidi処理によるムービーサントラ制作（楽曲制作を中心に）
（13）　発表

【評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度の総合評価。

【テキスト】

毎回プリント配布

メディアプロデュース演習Ⅰａ・ｂ

石田米和

【授業の概要】

人々の意識や行動の総体としての文化に与える各種メディアの影響は、近年日増しに強くなってきている。このような状況のなかで、本演習では、先ずさまざまな基本的な方法論を修得し、メディアと文化に関わる広範な知識を蓄積し、議論し、理解力・洞察力を深めていくことに主眼を置く。なお、演習Ⅱや卒業論文作成への連携を念頭に置いて進めていく。

概ね、以下のようなテーマを考えている。

1．社会科学における方法論・手法論
2．理解力・洞察力・表現力等
3．メディア（環境）の変容とその影響
4．メディア文化の考え方
5．関心テーマ（卒業論文）の模索

【授業の目標】

社会とメディアとの関係を考えるための分析視点や枠組みの設定および問題意識～仮説構築～分析～結論という一連の調査分析技法を習得する。

【授業計画】

徹底的な議論と学生諸君のプレゼンテーションとをベースに進めていく。主体的かつ積極的な態度、十分な関連学習時間、海外文献のための英語力等が必要である。

【評価方法】

レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

【テキスト】

未定。英文も使用する。

【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

太田浩司

【授業の概要】

音声、文字、画像などの表現・伝達媒体としてのメディアは文化や社会集団と密接に結びついている。テレビ、新聞、雑誌、インターネット、映画などでのマスメディアで繰り広げられる対人コミュニケーションや異文化間コミュニケーションのプロセスについて概観する。そこに潜む様々な人間心理について観察、実験、コンピュータを使用してのデータ分析・研究発表を通して理解を深めて行く。

【授業の目標】

授業の主な目的としては①対人、異文化、マスコミュニケーションの様々な理論的視点を概観すること、②人の前で適切な語彙を使用し、自分の意見を発表できる能力を培うこと、③新たな知識や情報を作り出すプロセスについて実践を通して理解を深めること、である。

【授業計画】

各学期の最初の授業に詳しい予定を提示します。以下の内容を含む予定である。

1. メディアのとらえかた
2. 文化としてのメディア
3. 社会グループとメディア
4. 対人コミュニケーションと人間関係
5. 異文化とコミュニケーション
6. 研究方法
7. データ分析
8. 論文作成

【評価方法】

出席、口頭発表、タームペーパー

【テキスト】

未定

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

小川明子

【授業の概要】

前期は、大学生活に必要な文献探索、調査法、研究法について学ぶ。
後期には、地域に関するさまざまな問題をテーマにディベートを行う。

【授業の目標】

大学での学習に必要なスキルを獲得し、地域生活に関する時事問題を概観する。

【授業計画】

1．年間計画提示
2－10．調査法・研究法
11－23．地域に関する時事問題のディベート
24．まとめ

【評価方法】

授業態度、発表等から総合的に評価する

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

大西 誠

【授業の概要】

現代の情報化社会では、メディアの存在そのものが当然のものとして受けとめられている。この演習では、メディアの自明性に疑問を向け、多様化する現代のメディアの意義や問題点を探る。具体的には、リアリティを構成する映像等の素材をもとにメディアの送り手の意図を解読するとともに主体的な発信者となることを目指す。

【授業の目標】

幅広い視野を身につけるための知識を身につける。メディア表現の分析方法について学ぶとともに現実の事象で実習し、プレゼンテーション能力を高める。

【授業計画】

＜前期＞

現代社会をダイナミックに理解するために、言語、イメージ、情報などを地域、世界に目を向け、複眼的にとらえ、メディア表現を読み解くとともに、ワークショップを通じて表現の技術を学ぶ。

1）テキストの解読
2）メディア表現の技術/プレゼンテーション

＜後期＞

メディア・リテラシーの中でも特に表現技術や映像レトリックに焦点をあて、英文文献で解読する。またグループごとにテーマ・課題を調査し、発表する。

1）テキストの解読と応用
2）映像分析と発表

【評価方法】

口頭発表、小レポート、討論への参加、課題レポートなど。

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

知の技法（東京大学出版会）

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

親松和浩

【授業の概要】

情報メディア技術をはじめとした科学技術をどのように利用していけば、私たちの暮らしを豊かにそして幸せなものにできるかを考えていきます。演習Ⅰでは、自分自身の考えをまとめて、文章にしたり、人前で報告する練習を行い、「調査、分析、報告までの一通りのプロセスを体験」して、卒業論文/制作に繋げていきます。

【授業の目標】

情報メディアをはじめとした科学技術を暮らしに活かすことをテーマとして基本知識を習得し、調査、分析、報告の技能を養う。

【授業計画】

「暗しと自然環境について考える」「情報メディアを利用した作品や教材の制作」を２つの柱として、次の課題に取り組む予定です。

1．自然環境を考える～デジカメ、ビデオカメラやパソコンを利用した自然観察～
2．メディアとしてのコンピュータ入門～コンピュータ言語Squeak入門～
3．旧暦とピラミッドからGPSの科学まで～精密科学の発展と暮らし～
4．Webやケータイを利用した情報サービスの実態調査
5．科学館/博物館見学

【評価方法】

出席状況と報告レポート等で評価する。

【テキスト】

未定

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

古賀暁子

【授業の概要】

―映像の面白さを“ことば”で語る―

現代は映像の時代だといわれている。生活の中で映像の読解や映像による表現の必要性は日々に増している。

古今の映像、それが1枚の絵や写真、映画の1シーン、テレビCMの1場面であれ、自分に訴えてくるものを、ことばによって追い求め、知の枠組みとして構築してみることは愉しい。一人で楽しむのもいいが、授業では、この愉しみを仲間と共有してみよう。

【授業の目標】

映像を多角的に味わう力を養うとともに映像の世界を拡げる。

【授業計画】

各学生が自分のこだわりの映像を提示し解説し、全員でこれを解析してゆくことを中心とする。自作の映像作品を題材とすることも奨励する。

【評価方法】

授業への参加態度や貢献度、期末レポートなどによって常時評価する。

【テキスト】

なし。

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

五島幸一

【授業の概要】

新聞、テレビ、雑誌や広告などの様々なメディアを概観し、その特徴を考えていく。それとともにそのようなメディアを通して流されるメッセージの内容を考察する。

【授業の目標】

私たちの身の回りにあるメディアの特徴を覚え、そのメディアを通じて流されてくるメッセージ（コンテンツ）を分析し、人々にどのようにアピールしているのかについて、コミュニケーションの視点から理解すること。

【授業計画】

テキストを中心に行うが、副教材としてプリント、ビデオなどを使用する。とくに、学生主体の発表とするので、学生はプレゼンテーションを考えること。

【評価方法】

授業への参加度、与えられた課題についてのプレゼンテーション、およびレポートをもって評価の対象とする。

ゼミでは学期末試験を行わないかわりに、レポートを課す。

【テキスト】

未定

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

坂元 多

【授業の概要】

―映像表現のテクニックをさぐる―

テレビ制作の技能を学びとるには、数多くの番組視聴試写がかかせない。映画を含む既成の映像番組の中から具体的にすぐれた表現テクニックを抽出し、整理分析し体系化することでトータルな映像表現の理解を構築する。組織化された教材映像のスクリーニングを媒介として映像表現の知識、技能を習得する。

一枚の絵ハガキ、絵画、写真などスティールの解析

TV、映画、コマーシャルなど動く映像の解析

ディスプレー、インスタレーションの解析

ビデオ制作による表現技術の実践と評価

【授業の目標】

映像で伝達できるメッセージと映像表現のテクニックとの関連を知り自らも、その知識を使って表現できる基礎を養う。

【授業計画】

映像の提示、報告、解析の演習。

【評価方法】

試料となる映像から何をどう読みとるか、各回のとり組み方や自主的研究の深め方を見て常時評価する。

【テキスト】

特になし。

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

辻 紘良

【授業の概要】

電子メディアの要素技術であるCG画像作成、デジタル映像ならびに電子音楽について作成技術や編集方法を学ぶとともに、これらを総合的に活用してマルチメディア作品を作成する。さらに、HPを作成し研究室内LANを介して対話型送受信を試みる。これらにより、マルチメディア技術諸相の現在を体得するとともに、マルチメディアの可能性と問題点を把握する。

【授業の目標】

1．マルチメディア作品の制作法をより幅広く捕らえかつ深め、総合し創作する能力を高める。

2．システム制作や個人やグループ制作を通して体験的に制作技術を修得する。

【授業計画】

前期はパソコンで行うマルチメディアに関する基礎技術を学ぶ。後期は、修得した技術を総合的に活用して映像作品を作成し、ネットワークに載せ対話型送受信を試みる。

前期：マルチメディアに関する基礎技術の修得

・2・3次元画像作成（イラスト、3次元CG）

・ディジタル映像作成・編集（対話型2・3次元動画）

・サウンド作成・編集（MIDI音楽）

・ホームページ作成（対話型ネットワーク通信）

・プログラミング（ネット対応言語）

後期：作品作成

・各自作品（一つのソフトを利用して作成）

・グループ作品（複数のソフトを活用して作成）

7号棟Media Landの設備を使用する。

受講にさいしては「情報活用4,5,6」の履修が望ましい。また、授業に電子メールを利用するので、学内のネットワーク利用資格を取得しておくこと。

【評価方法】

課題の提出状況や期末試験の結果、ならびに作品の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

マルチメディア情報学の基礎（長尾真他著　岩波書店　p.240）

住生活論

渥美正子

【授業の概要】

住まいは、私たちにとって欠かすことのできない家庭生活の「器」である。現代社会の住まいは様々であるが、住まいやそこで展開される住生活様式は、風土・時代・社会の中で形成され、変化してきた。今日の住生活様式が形成されるまでの流れを概観し、今後の新しい住み方を展望する。

【授業の目標】

住まいは人間生活の大切な基地であることの理解を深め、快適な「住まい方」を創造していくことの重要性を認識すること。

【授業計画】

1）住生活とは
2）風土と住まい：風土特性と住様式、民家が語るもの
3）日本住宅の原型：寝殿造・書院造の住様式
4）戦前の住宅と住様式：「家」制度と住まい
5）西山夘三の研究：住生活の秩序化
6）モダンリビングの住生活：民主的住生活、n LDK型プラン
7）住生活におけるポスト・モダンリビング：家族の多様化と住要求の変化
8）これからの住生活：新しい住まい方の展望
9）住生活の洋風化：住生活の洋風化過程
10）起居様式：イス座・ユカ座、畳の行方
11）マンションと住居管理：集住、マンションの管理問題
12）家庭生活を映し出す住まい：住み手が主人公の住まい

【評価方法】

試験とレポートによって行う。

【テキスト】

プリント配布

【参考文献・資料】

授業にて指示する。

住宅政策論

渥美正子

【授業の概要】

日本における住宅問題の発生についての歴史的経緯と、戦後の住宅政策の特徴について考える。経済大国でありながら、先進諸国のなかで貧しいといわれるわが国の住宅事情の特徴と背景を探り、人間らしい住まいを実現するための住宅政策の理念について、西欧先進国との比較を交えて考察する。また、住まいの質的向上の原動力となる住教育の実情や、消費者問題について論じる。

【授業の目標】

住宅は、多くの消費財のなかで特殊な商品であること、私的に利用・所有するものであるが社会資本として公共財的側面をもつことを理解する。

【授業計画】

1．住宅の社会的側面
2．住宅事情の国際比較
3．東海圏の住宅事情
4．住宅政策の母国- イギリス
5．住宅の質の政策化
6．日本における住宅政策のあゆみ
7．住宅政策における市場主義
8．住居費の管理
9．多様化するハウジング
10．消費者問題と欠陥住宅
11．住教育の課題と展望
12．阪神大震災と住まい

【評価方法】

出欠状況とレポート・試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布。

【参考文献・資料】

現代社会とハウジング（巽和夫編　彰国社）
変貌する住宅市場と住宅政策（伊豆宏編　東洋経済新報社）
住宅貧乏物語（早川和男著　岩波新書）
住教育－未来へのかけ橋（住環境教育研究会編　ドメス出版）

建築計画論Ⅰ（住宅）

垂井洋蔵

【授業の概要】

建築のデザインを学ぶためにはまず建築で扱う空間がどのような概念であるかを知らなければならない。また建築空間をデザインするということは具体的にどのようなプロセスなのであるかを理解しなければならない。建築を学ぶ第一歩として、住宅という最も人間にとって基本的な建築空間を題材にしながら上記のテーマについてまず解説する。それをふまえて、住まうことに関わる建築を設計するために必要な住要求、建築意図や設計条件の把握、分析の方法、また住宅設計の基本となる構造、設備、材料に関する知識を設計者の立場から総合的に修得することを目的とする。

【授業の目標】

建築に関わるさまざまな学問分野を紹介し、建築作品を設計する上で基礎となる計画学的な建築のとらえ方を住宅をテーマに学ぶ。

【授業計画】

1　建築とは、建築家とは、建築で扱う空間とは
2　住みやすい住宅を作るために　建築計画学
3　安全な住宅を作るために　建築構造学
4　快適な住宅を作るために　建築環境工学
5　美しい住宅と町並みを作るために　建築デザイン
6　住宅の設計に関わる法律　建築関連法規
7　各室の計画１　招き入れる空間
8　各室の計画２　集まる空間
9　各室の計画３　私的空間とサービス空間
10　近年の住宅作品の実例　計画上の試みとデザイン
11　住宅計画の今日的課題　高齢者　健康　省エネ
12　まとめと質疑

【評価方法】

講義への出席状況、小レポートの提出、期末試験の結果を総合評価する。

【テキスト】

スライド、OHP等の視覚資料を用い、できるだけ実例を示しながら講義を進める。
講義のはじめに必要な資料をその都度配布する。

建築計画論Ⅱ（計画各論）

垂井洋蔵

【授業の概要】

現代の施設設計は、従来からの建築種別にとらわれない複雑な複合化、新しい要求や情報メディアの登場、社会構造の変化に直面している。こうした建築設計に関わるさまざまな外的条件の分析や、計画に先立つ建築企画の手法の理解とともに、建築計画上考慮すべき機能上の諸要求、法規、それらに対応する新しい計画上の試み等、施設計画上必要な諸知識の体系的な修得を目的とする。

【授業の目標】

さまざまな、建築の設計にあたり、建築の企画、計画段階でまず知っておかなければならない基本的な知識を学ぶとともに、現在行なわれている手法を学ぶ。

【授業計画】

以下の６テーマについて各２週にわたり講義する。

1　住居系施設
新しい集住の形態と、集合住宅
2　教育系施設
新しい教育方法論に基づく学校計画の試み
3　医療・社会福祉系施設
病院、診療所計画の基本と、高齢化社会に対応する医療福祉施設計画
4　文化系施設
新しいメディアと情報の共有、発信の場としての複合文化施設計画
5　商業系施設
大規模複合施設とオフィス計画の今日的課題
6　施設計画の手法
地域活性化施設の企画と、諸提案の実例

【評価方法】

講義への出席状況、小レポートの提出、期末試験の結果を総合評価する。

【テキスト】

講義のはじめに必要な資料をその都度配布する。

【参考文献・資料】

新建築学体系（彰国社）
建築設計資料集成　コンパクト建築設計資料集成（丸善）
その他講義中に参考図書を紹介する。

建築計画論Ⅲ（環境心理）

日色真帆

【授業の概要】
建築や都市における人間と環境との関係について、個人や集団の行動、環境の知覚や認知、それらの時間的変化などの視点から学ぶ。スケール、状況、利用者の違いを理解し、人間と環境との関係の質をたかめるデザインのあり方を考える。また、これらを学習する中で環境心理学の基礎的な諸理論と研究方法を習得する。

【授業の目標】
基礎的な諸概念と研究方法を学ぶことで、建築や都市における人間と建築との関係について分析的に観察し理解することを学び、具体的なデザインにおいて適応して考察できるようにする。

【授業計画】
・文化と空間：パーソナルスペースや人のテリトリーについて述べ、文化によるその差異を取り上げる。
・環境認知：環境認知やそれを支える空間認知の問題を取り上げ、その構造や発達に関する理論を解説する。
・Wayfinding：環境認知の典型として、人の動きと空間の認知を扱う。特にwayfinding（経路探索）における迷いや発見を切り口に理論や研究方法を紹介する。インターネットなどハイパーテクスト上の移動にもふれる。
・シークエンスと表記法：建築の内部空間やアプローチ、庭園などの例を取り上げ、人の行動や体験を記述し、分析し、デザインする手法を学ぶ。
・居住環境、多様な利用者：居住環境をとりあげ、人間環境系としてとらえる視点を示す。
・都市環境のデザインへ：都心と郊外という対照的な環境を取り上げ、総合的な見方を示す。その環境の質を向上する方法として、デザインの意味について述べる。

【評価方法】
数回のレポートと期末の試験によって行う。

【テキスト】
未定

【参考文献・資料】
建築・都市計画のための空間学事典（日本建築学会編　井上書院）
環境と人間（高橋鷹志・長澤泰・西出和彦編　朝倉書店）
人間環境学（日本建築学会編　朝倉書店）
建築人間工学事典（日本建築学会編　彰国社）
建築理論の創造（J. ラング著　鹿島出版会）
人間−環境系のデザイン（日本建築学会編　彰国社）
空間計画学（日本建築学会編　井上書院）
環境行動のデータファイル（高橋鷹志他編　彰国社）

ファシリティマネジメント論

吉田邦彦

【授業の概要】
施設とその環境を総合的に企画、管理、活用する経営活動であるファシリティマネジメント（FM：Facility　Management）について、その基礎知識と固有技術の理解と修得を目指す。FMの主要な対象であるオフィスを取り上げ、具体的に論じる。

【授業の目標】
FMの考え方、FMの基礎知識と関連知識、そしてFMに関する技術の理解と習得を目指す。

【授業計画】
以下の項目について講義形式で授業を進める。
1．オリエンテーション、FMの必要性と重要性
2．オフィスの歴史、日本のオフィス建築の歴史と形態的な変遷
3．オフィスプランニングの基本と基礎知識
4．オフィスの快適性- 豊かな人間生活と仕事の場を求めて
5．地球環境とFM
6．セキュリティの必要性と災害への対策
7．欧米の情報化オフィスの諸相
8．オフィスの実例紹介
9．FMのための知識と技術
10．施設評価の必要性と困難性、各種の評価手法
11．FMの目的と目標、FMの業務体系
12．公共施設、教育施設などにおけるFM

【評価方法】
授業時間中の小レポートと、課題に対する期末のレポートとを総合して評価する。

【テキスト】
変化するオフィス（沖塩荘一郎他　丸善株式会社）
また、授業時間毎に、必要に応じてレジュメ資料を配布する。

【参考文献・資料】
総解説 ファシリティマネジメント（FM推進連絡協議会編　日本経済新聞社）

建築計画論Ⅳ（設計方法）

吉田邦彦

【授業の概要】
建築の設計対象の機能の複雑化、規模の拡大化、設計主体の多様化などに対応して、提案され論じられてきた種々の設計方法、設計手法についての理解と知識の修得を目的とする。
設計方法の考え方、設計プロセス、各種の設計手法、人間−環境系の計画理論などを取り上げ、設計行為の解明と実践との連携等について論じる。

【授業の目標】
建築設計における設計方法の考え方、設計プロセス、種々の設計方法、設計手法についての理解と基本的な知識・技術の修得を目指す。

【授業計画】
以下の項目について講義に演習を加えた形式で授業を進める。
・オリエンテーション：建築計画と設計、設計方法研究の歴史
・設計プロセス・発想のプロセスのモデル化、
・アイティアと情報
・設計ツール（機能図、チェックリスト、シミュレーションによるモデル分析など）
・表現言語・パターンランゲージ
・建築設計におけるコンピュータ利用
・設計方法と設計主体
・建築設計におけるコラボレーション

【評価方法】
授業時間中の提出物と、期末試験の結果を総合評価する。

【テキスト】
授業時間毎に、必要に応じてレジュメ資料を配布する。

【参考文献・資料】
設計方法Ⅳ「設計方法論」（日本建築学会編　彰国社）
人間−環境のデザイン（日本建築学会編　彰国社）

インテリアデザイン論

高橋敏郎

【授業の概要】
近世から現代に至るインテリアデザインの思潮と様式を概観し、これを基盤として、空間を構成する各種エレメント（要素）や素材、造形のそれぞれの機能と意味について学習する。さらに、近未来に向けての、健康や安全を含むインテリアアメニティー高き空間創造について考察する。

【授業の目標】
インテリアデザインを考えるにあたって最小限配慮しなければならない事項について、基礎的な知識と関心を抱くことが出来、社会状況や環境とインテリアデザインが不可分の関係にあることが一定理解できること。

【授業計画】
以下の項目につき講義形式で授業を行う。
1．インテリアの意義と資格
　授業のオリエンテーション。インテリアの意義と資格。
2．インテリア空間の意味（1）
　実際の作品に見るデザインの意味と意図。
3．インテリア空間の意味（2）
　実際の作品に見るデザインの意味と意図。空間を規定するもの。
4．デザインするために必要な解読の手がかり
5．人体寸法と動作空間。
6．人間工学とその応用。
7．インテリアの安全。建築基準法と消防法など。
8．インテリアの健康。シックハウスほか。
9．加齢と障害。ユニバーサルデザインに向けて。
10．知覚による認識。人の集合と行動。
11．建築の工法。インテリアの材料。
12．インテリアの納まり。
テキストを中心に、OHCなどで学習する。随時プリント教材も配布する。

【評価方法】
学習した各単元ごとに小テスト、レポート課題などを実施、出席、受講態度、定期試験と合わせて評価する。

【テキスト】
インテリアデザイン教科書（インテリアデザイン教科書研究会編著　彰国社）

色彩計画論

高橋敏郎

【授業の概要】
空間デザインにおける重要な要素である色彩と、色彩を生み出す根源である光（自然光、人工光）について基礎的知識を修得する。重ねて、色彩が心理に及ぼす影響を学び、これらの知識を基盤として、室内、建築、環境等の色彩計画をいかに行うかについて学習する。実際に色彩計画を行ったデーターを使用して、3D-CADなどを用いて色彩構成、照明シュミレーションやマッピングによる材料のテクスチャーと色彩の関係などについて検証する。
計画演習Ⅳ（CAD基礎）履修者（同時履修可）のみ受講可。

【授業の目標】
色彩と光についての基礎的知識を習得し、コンピュータを使用して具体的な空間の素材、光、色彩の計画が出来ること。

【授業計画】
以下の項目について講義形式で授業を行う。
1．色彩計画の意義
2．光から生まれる“色”
　光と光の創り出す色彩現象
3．光源の種類と特徴
4．照明と色彩
　光源の明るさと演色性。照明による色彩の演出
5．色が見える仕組み
　眼と脳の構造。色の見えを決める要因。
6．色の知覚に関与する相互作用
　色の対比と同化、面積効果、視認性と誘目性
7．色がもたらす心理効果
8．色の表示方法と特徴
9．配色と色彩調和
　色彩調和の考え方と調和の原則
10．混色と色の再現
　混色の原理。色再現の方法
11．12．色彩計画
　CADによる3ディメンションの室内色彩計画（CAD室にて授業）
テキストを中心に、OHCなどで学習する。随時プリント教材も配布する。

【評価方法】
期間中に数回の小テストを行う。この結果と、出席、作品を合わせて評価する。

【テキスト】
カラーコーディネーションの基礎（東京商工会議所編）

【参考文献・資料】
カラーコーディネーション（東京商工会議所編）
カラーコーディネーター1級テキスト（環境色彩）（東京商工会議所編）
公共の色彩を考える（青娥書房）

現代デザイン史

高橋敏郎

【授業の概要】
19世紀から現在に至る欧米を中心にしたデザインの思潮の流れを概観し、社会状況、生活様式、技術と生産様式などの背景の変化との関わりの中で近代デザインが成立し、現代デザインへと引き継がれてゆく過程を学習しながら、デザインの分析を通じて近代社会の歩みを理解しデザインの在り方を考える。

【授業の目標】
現代のデザインに至る歴史の大きな流れと、デザインの成立の背景としての社会の動きの関係について基礎的な理解をし、一定の社会的視点を獲得する。

【授業計画】
1）デザインの意味と力
　産業革命がデザインに及ぼした影響
2）デザインによる革命
　アーツ・アンド・クラフト運動の歴史的意義
3）世紀末の華燭
　社会現象としてのアール・ヌーヴォー
4）アール・ヌーヴォーの伝播
　新しい時代の予感
5）ウィーンの新世紀
　分離派の新デザイン原理
6）工業技術と芸術
　ドイツ工作連盟が意味するもの
7）ポスターの時代
　商業化社会におけるポスターの歴史
8）炎の1910年代
　工業化の曙・デザインの革命
9）芸術と技術の統一
　バウハウスのもたらしたもの
10）アール・デコと摩天楼の夢
　1925年様式・第一機械時代のデザイン
11）白の時代
　バウハウス以降のモダンデザインの特質
12）世紀末の回航
　多様化した現代のデザイン傾向

【評価方法】
授業時間中の小レポートと、課題に対する期末のレポートとを総合して評価する。

【テキスト】
世界デザイン史（阿部公正監修　美術出版社）

建築史Ⅰ（西洋）

河辺泰宏

【授業の概要】
西洋建築の様式史を中心に、様々な時代の価値観の移り変わりと建築様式との関わりについて論じる。とくに、建築を社会的産物としてとらえ、支配体制や技術革新と建築造形との結びつきを明らかにし、社会思潮の変化を理解する指標としてその歴史を解説する。

【授業の目標】
各時代・各地域の歴史的建築様式の特徴を覚え、その様式がどのような社会思潮から生まれてきたかを理解すること。

【授業計画】
1）建築に託された人類のメッセージ
　古代エジプトにおけるピラミッド建設の意義
2）人と神と王の建築
　古代メソポタミアのジッグラトとエジプトの神殿建築
3）民族と神々
　ギリシア神殿とペルシアの宮殿に見る民族の表現
4）新しい建築空間の創造
　古代ローマ建築におけるアーチとオーダーの意味
5）ローマに生まれた神の館
　初期キリスト教時代とビザンティン帝国の教会堂建築
6）世界の終末を越えて
　至福千年説とロマネスク建築の興隆
7）地上の天国
　ゴシック建築の構造と表現
8）人と神の対話方式
　マホメットの帝国とイスラム建築の特質
9）再生という名の創造
　ルネサンス建築における科学と芸術の融合
10）不安と成熟のマニエリスム
　16世紀イタリア芸術に見る原則性と非原則性
11）建築のドラマツルギー
　反宗教改革から生まれたバロック建築の劇的性格
12）プロテスタンティズムの顔
　パラディアニズムと新古典主義建築
13）様式の消費
　19世紀リヴァイヴァリズムの時代

【評価方法】
レポートを課す。必要に応じて小テストを課す場合もある。

【テキスト】
西洋建築史図集（日本建築学会編　彰国社）

【参考文献・資料】
図説ローマ『永遠の都』都市と建築の2000年（河辺泰宏著　河出書房新社）

建築史Ⅱ（日本・東洋）

溝口正人

【授業の概要】
建築史は、生活空間を構成する基本要素である建築の歴史的な変遷の考察を通して、建築や都市の社会的・文化的な意味について論ずる分野である。
本講義では、日本の建築や都市を主な対象として、その背景にある思想や造形理念、技術をふまえ、東アジアという地理的な視点、あるいは現代建築思潮という今日的な視野からの比較検討をも交えながら、建築の空間構成や造形の変遷について学ぶことにより、日本の建築観の特質について理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】
大きくは、建築士受験を前提とした日本建築に関する基礎的な用語と意匠の理解、建築を通してみた日本文化の理解、のふたつを目標とします。講義内容は建築のデザイン的な側面を重視し、空間デザインの観点からみた日本建築の特質の理解、現代において日本人建築家が活躍する背景としてみた日本建築の近代性の理解、に力点を置きます。

【授業計画】
1．世界からみた日本の建築
2．「建築」の発生：先史時代の日本建築
3．源流／インド・中国の建築と都市
4．古代／東アジアの造形理念と日本建築
5．古代～中世1／宗教建築の変容
6．古代～中世2／住居と都市の変容
7．中世／和風空間の確立
8．中世～近世／技術革新と空間デザイン
9．近世1／生産と規格化
10．近世2／社会相としての住居と都市
11．近代の胎動／数寄屋建築とモダニズム
12．文明開化と洋風建築／近世技術の開花

【評価方法】
単位認定試験、レポートを適宜課し、出席状況を加味して総合的に評価する。

【テキスト】
なし。適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】
図解日本建築の構成（山田幸一著　彰国社）
日本建築史序説（太田博太郎著　彰国社）
建築の歴史（藤井恵介・玉井哲雄著　中央公論社）
日本建築史図集（日本建築学会編　彰国社）
東洋建築史図集（日本建築学会編　彰国社）

都市形成史

河辺泰宏

【授業の概要】
都市の形成される過程と都市造形との関わりについて論じ、歴史的都市の成立過程と産業革命以降の近代都市の変化を明らかにする。また、都市再生や町づくりの様々な試みを紹介し、都市のアイデンティティの確立や機能開発についても考える。

【授業の目標】
都市組織の観察によって都市形成の歴史と特徴を推察する能力を養い、さらに近代から現代に至る都市計画の歴史について理解すること。

【授業計画】
1）都市文明をささえるもの
人口暴発と計画不能の巨大スラム都市の出現
2）名古屋を読む
人工都市名古屋の都市計画の歴史をたどる
3）格子状都市の履歴
古代文明から現代に至る格子状都市の特質を分析
4）不整形都市～中世都市の営み
自然に発展した不整形な都市の秩序について分析
5）放射状都市の論理
権力によってコントロールされた放射状直線街路
6）都市と広場の形成史
都市における広場の歴史と役割
7）水の都の物語
日本と西洋における親水都市の歴史
8）実験都市ハウステンボスの挑戦
企業が経営する町
9）近代都市計画の理論と実践
産業革命以降の都市の変化と新しい都市計画理論
10）歴史的資産を活かした都市再生
環境改善策のための都市財産の保存と活かし方
11）景観コントロールの意味と手法
景観論争とデザインコントロールの手法
12）計画なき都市計画
挫折した首都復興計画と都市開発理念の国際比較

【評価方法】
中間と期末のレポートによる。

【テキスト】
なし。

【参考文献・資料】
必要に応じて プリントを配布する。

都市景観論

清水裕二

【授業の概要】
都市景観は我々にとって非常に身近でありながら、容易な分析を拒む複雑な事象である。この授業では具体的な例をとりあげながら都市景観を読み解くための様々な視点を提示し、都市景観についての理解を深めると共に、景観を形成する活動としての都市デザインの手法を概観する。
主な授業内容は次の通り。
1．都市論・都市景観論
近代以降の都市論・都市景観論のなかから代表的なものをとりあげ、現代の都市を切り取る視点の多様さを認識する。
2．都市景観の構造
都市景観に潜む構造を抽出し、普段目にしている都市とは異なる都市像を浮き彫りにする。
・自然：景観を形成する最大の要素である地形と景観の関係性を明らかにする。
・都市基盤（インフラストラクチャー）：インフラストラクチャーと景観の関係性から、現代都市の景観に影響を及ぼしている不可視の営みを捉える。
・郊外：近代都市が生み出した都市周縁の景観と、そこから派生する社会的状況について考察する。
・歴史：都市景観のなかに織り込まれた時間性をもとに現在の都市景観を再検討する。
・法規制、建築・都市計画：都市の景観をコントロールしようとする様々な制度について見てゆく。
3．景観の視点
都市以外のフィールドから、都市景観を捉え直す
・集落：都市の原型ともいえる伝統的集落を見てゆくことで現代都市の逆照射を試みる。
・芸術：アースワーク、映画、写真、文学等の芸術において描かれた景観を分析する。

【授業の目標】
都市景観のはらむ現代的課題について、多様な視点から考察することを学ぶ。

【授業計画】
講義を中心とし、いくつかのレポートを出す予定。

【評価方法】
出席状況、レポート及び試験により、総合的に評価を行う。

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
適宜指示する。

都市計画論

瀬口哲夫

【授業の概要】
都市計画論においては、現代の複雑な社会で生活して行く上での基本的な知識である都市問題を認識させると共に、都市のあり方を理解させる。その上で、都市計画理論や都市計画制度について解説し、都市計画（まちづくり）への市民参加のあり方などを講義する。授業では、具体的な都市や都市計画事例を取上げて、わかりやすく論じる。

【授業の目標】
都市計画の主な制度、手法を覚え、それらにより実現される都市についての理解を深める。

【授業計画】
1．現代の都市問題
人口増加時代から人口縮小時代を向かえた都市の問題
大都市と地方中小都市では異なる都市問題
2．都市の分析
都市と人口で見る都市の実態
土地利用コントロールとその実態
どのような都市計画規制方策があるか。
3．市街地の整備
土地区画整理事業による市街地の整備
開発許可による市街地の整備
自然発生的な市街地の形成／スプロールの発生
4．団地開発
近隣住区理論による住宅団地
日本のニュータウンを代表する高蔵寺NT、千里NT、多摩NTなど
5．都市の再生
市街地再開発事業による都市機能の更新
都市資産を活かした都市再生
6．都市計画策定プロセス
市民参加と計画プロセス
7．近代都市計画理論
日本と欧米での近代都市／交通との調和
8．欧米の都市計画
英国、ドイツ、アメリカなどの都市計画の特徴
国により都市計画制度は異なる。

【評価方法】
出席状況に加え、レポートなどにより総合的に判断する。

【テキスト】
特に使用しない。随時、資料を配布する。

【参考文献・資料】
都市計画教科書（都市計画教育研究会、彰国社）など

建築環境学Ⅰ（熱・空気）

齋藤基之

【授業の概要】
建築空間は人間の日常生活の場であり、その内部環境は健康・安全かつ快適なものであることが求められる。この講義では、建築や都市における熱・空気環境、およびこれらと人間とのかかわりに関する基本的事項を解説し、建築・都市のデザインに応用するための基礎知識を身につけるとともに、環境への配慮の重要性を理解することを目的とする。数式の使用等は必要最小限にとどめ、身のまわりの住生活における実例や実際の設計例を挙げながら解説する。

【授業の目標】
建築設計に必要な、熱・空気環境に関する基礎知識（一級建築士試験で要求される範囲）を習得する。

【授業計画】
○屋外気候
○太陽の動きと日射
○湿気と結露
○建築における熱の伝わり方
○断熱・熱容量
○室内気候・温熱環境評価
○シックハウス問題
○室内空気汚染
○換気・通風のしくみ
○必要換気量

【評価方法】
単位認定試験、レポート、出席状況により総合的に評価する。

【テキスト】
建築環境工学（山田由紀子著　培風館）

建築環境学Ⅱ（音・光）

齋藤基之

【授業の概要】

建築環境学Ⅰに引き続き、建築や都市における音・光環境、およびこれらと人間とのかかわりに関する基礎的事項を解説する。本科目履修に先立ち、建築環境学Ⅰ（熱・空気）を履修しておくことが望ましい。

【授業の目標】

建築設計に必要な、音・光環境に関する基礎知識（一級建築士試験で要求される範囲）を習得する。

【授業計画】

○音に関する物理量
○音の知覚
○遮音と吸音
○騒音防止計画
○音響計画
○光に関する物理量
○光の知覚
○採光計画
○人工照明計画
○色彩計画

【評価方法】

単位認定試験、レポート、出席状況により総合的に評価する。

【テキスト】

建築環境工学（山田由紀子著 培風館）

【参考文献・資料】

初めての建築環境（建築のテキスト編集委員会編　学芸出版社）
図説テキスト建築環境工学（加藤信介・土田義郎・大岡龍三著　彰国社）

建築法規

山本正文

【授業の概要】

建築物の基本法である建築基準法を中心に建築士法、都市計画法、住宅の品質確保の促進等に関する法律等について概要を理解するとともに、法律書が活用できるよう、より実践的な内容とする。

【授業の目標】

社会生活に加え、街づくりや建築物を造るという創造的な行為についても、そのベースは法律にあることを理解させるとともに、建築士の社会的責任の大きさを学ぶ。

【授業計画】

1．建築士の役割と建築士法及び法律についての基礎知識
2．日常生活言葉と法律用語
3．戸建住宅を計画するための建築基準法（集団規定）
4．　同　　上
5．戸建住宅設計をするための建築基準法（単体規定）
6．　同　　上
7．建築基準法の仕組み
8．街づくりや建築計画のための都市計画法の概要
9．店舗を計画するための建築基準法（集団規定）
10．　同　　上
11．店舗を設計するための建築基準法（単体規定）
12．　同　　上
13．建築基準法における手続きやその他の制度規制
14．住宅の品質確保の促進等に関する法律やハートビル法の概要
15．期末テスト

【評価方法】

授業では演習問題を多用する予定であるため、この結果と期末試験を中心とし、さらに出席状況を加味する。

【テキスト】

図解建築法規（国土交通省住宅局建築指導課編　新日本法規出版）

【参考文献・資料】

建築法規用教材2006（日本建築学会編　丸善株式会社出版）

建築設備学

池畑紀久雄

【授業の概要】

近年における建築物は建築基準法の改正により大型化になり、高断熱、高気密になった結果、建築設備は高度な機能を要求されるようになった。そのため空調設備に代表されるように建築物はエネルギの大量消費型となり、更にはシックビルシンドロームや地球温暖化等さまざまな問題を指摘されるようになった。そこでこの講座では、最新の建築設備について体系的に学ぶだけでなく、地球環境に貢献できる建築技術者の育成に貢献したいと考えています。

【授業の目標】

CASBEE（日本）、BLEEM（カナダ）、LEED（米国）GBTOOL（中国）などに代表されるように建築物環境配慮制度の導入は世界的傾向にある。これらの建築環境技術を体系的に学び、建築家として持続可能な社会形成に貢献できる人材を育成する。

【授業計画】

パワーポイントによる講義を中心に13コマ開催。教材はこのパワーポイントで作成した資料を教材として配布する。

1．ガイダンスと建築設備概要
2．建築と地球環境問題
3．建築設備工学の基礎知識
4．空調調和設備
5．熱源設備と搬送装置
6．クリンルームとバイオハザード
7．給排水衛生設備
8．防災と消火設備
9．排煙と換気設備
10．電気設備（受変電・配電設備）
11．証明コンセントと動力設備
12．情報通信と警報設備
13．自動計装設備
14．昇降機設備（エレベーター等）
15．建築物環境配慮制度

【評価方法】

1．テスト問題（50点）
2．レポート（50点）
3．出席回数とノート

【テキスト】

パワーポイントによる講義ため不用

【参考文献・資料】

建築設備工学（田中俊六監修、井上書院）、空気調和衛生設備の基礎（彰国社）、建築設備（オーム社）、建築物の環境衛生管理（ビル管理教育センター）、電気設備の実務知識

建築構法

高田豊文

【授業の概要】

常時荷重や地震、風などの外力に対して建物が安全であるためには、適切な構造形態および構造材料を選択する必要がある。本講義では、力学基礎と建物構築法の考え方を理解することを目的として、木材・鋼材・コンクリートなどの構造材料および各種構造形式の特性を概説する。

【授業の目標】

建築で用いられる各種の構造形式について、それらの名称を覚え、作用する様々な荷重（外力）に対してどのように抵抗するかといった力学的特徴を理解すること。

【授業計画】

1．ガイダンス、東海地方の地震危険度
2．力学基礎・建築構造概説
3．構造形式と建築構造材料
4．ラーメン構造
5．コア構造・チューブ構造
6．壁式構造・スラブ構造
7．アーチ・シェル構造
8．ドーム構造
9．平面トラス構造
10．立体トラス構造
11．折版構造・テンション構造
12．テント・エアドーム構造

【評価方法】

出席状況とレポートの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

初めての建築構造デザイン（宮元健次著　学芸出版社）

建築生産システム

鈴木直人

【授業の概要】

工業生産としての建築・商行為としての建築の実務に関する理解と知識の習得を目的とする。建築生産のプロセスについて概観したのち、建築施工計画・施工管理の現状と問題点を解説する。併せて、ビデオ・現場見学によって建築生産の実態に関する理解を深める。今後の方向として、建築生産の新しいシステムや生産情報に関する動きについて論じる。

【授業の目標】

授業にて明示する。

【授業計画】

第1回　ガイダンス　工業生産としての建築生産
第2回　建築生産のプロセス・商行為としての建築生産
第3回　建築設計のプロセス
第4～6回　施工計画と施工管理の現状
　　現場見学会
第7回　建築生産の問題点・建築生産の新しい動き
第8回　建築生産情報と将来展望
第9回　単位認定試験

現場見学、ビデオの関係で週1回2時限の時と、隔週1回4時限との組み合せを考えています。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験（レポートを含む）の成績による総合的評価

【テキスト】

建築材料

山田和夫

【授業の概要】

現代の建築構造物を代表する構造形式は、鉄筋コンクリート構造と鉄骨構造である。本授業では、これらの構造物を構成する素材、すなわちコンクリートおよび鉄鋼の製造方法と各種性質について述べるとともに、仕上げ材料として使用される各種の天然材料および人工材料の基本的特性に関する知識も習得できるように講義する。

【授業の目標】

各種建築物を構成する主要な構造材料の種類と性質を把握し、構造材料と建築物の特徴との関係を理解するとともに、仕上げ材料の種類とその用途についての知識を得る。

【授業計画】

第1講　建築材料の分類と講義予定の説明
第2講　コンクリートの構成材料
第3講　コンクリートの製造方法
第4講　フレッシュコンクリートの性質
第5講　硬化コンクリートの強度性質
第6講　硬化コンクリートの変性性質
第7講　鉄鋼の種類と製造方法
第8講　鉄鋼の性質と製品
第9講　木材の性質と製品
第10講　粘土およびガラス製品
第11講　アスファルトおよびプラスチック製品
第12講　不燃材料および材料試験

【評価方法】

出席状況と定期試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

建築材料<第3版>（嶋津孝之他著　森北出版）

建築構造Ⅰ

岡本晴彦

【授業の概要】

建物には、作用する力に対して安全であることと、必要な使用性を保つことが求められる。そのために建築構造に関する学問体系が存在する。本科目においてはそれらの体系の基となる構造力学の基礎について扱う。力とは何か、力の釣合い、建物のモデル化の説明後に、構造物に生じる力を、力の釣合いのみから求めることのできる静定構造物の断面力と変形の求め方を解説する。

授業においては講義とともに演習問題を解く。それにより、理論を具体的に理解できるようにする。

【授業の目標】

静定構造物に関する力学的扱い方を習得する。それを通じて建築全体と構造との関係を考えるための端緒を得る。さらに、次段階の建築構造学を学ぶための知見を身につける。

【授業計画】

1．なぜ建築構造学を学ぶか
2．構造物のモデル化
3．力の考え方、力の釣合い
4．断面力、応力（応力度）、ひずみ
5．静定はりの断面力
6．静定トラスの断面力
7．静定ラーメンの断面力
8．断面の性質
9．仮想仕事の原理
10．静定構造物における変形の求め方

【評価方法】

単位認定試験、レポート、出席状況により総合的に評価する。

【テキスト】

やさしい構造力学（浅野清昭著　学芸出版社）
建築構造力学（林　貞夫著　共立出版株式会社）
授業担当者の作成するテキスト（講義の際に配布）

【参考文献・資料】

構造用教材（日本建築学会編　日本建築学会）

建築構造Ⅱ

岡本晴彦

【授業の概要】

力の釣合いと変形の双方を考慮して行う不静定構造物に生じる断面力の求め方を解説する。さらに、主要構造種別である鉄筋コンクリート構造と鋼構造の設計法基礎を講じる。

授業においては講義とともに演習問題を解く。それにより、理論を具体的に理解できるようにする。

【授業の目標】

不静定構造物に関する力学的扱い方を習得する。さらに、鉄筋コンクリート構造と鋼構造の力学的挙動の特性を把握し、その各種耐力と変形算定方法を理解する。それらを通じて建築技術者に必要な構造関連の知見と基礎的判断力を養成する。

【授業計画】

1．仮想仕事の原理の応用
2．応力法による不静定骨組の解法
3．たわみ角法
4．鉄筋コンクリート構造の力学的性状
5．鉄筋コンクリート構造の各種耐力と変形
6．鋼構造の力学的性状
7．鋼構造の各種耐力
8．建築と構造の関係

【評価方法】

単位認定試験、レポート、出席状況により総合的に評価する。

【テキスト】

建築構造力学（林　貞夫著　共立出版株式会社）
エース　鉄筋コンクリート構造（渡邊史夫他著　朝倉書店）
授業担当者の作成するテキスト（講義の際に配布）

【参考文献・資料】

構造用教材（日本建築学会編　日本建築学会）
その他、講義中に紹介する。

計画演習Ⅰ（図面表現）

高橋敏郎　渡辺 達　小林 聡

【授業の概要】

建築は設計者、施工者、その他多くの人々の共働によってつくられる。建築設計製図は、それら建築に携わる人々を結ぶコミュニケーション手段であり、基本言語であるともいえよう。計画設計演習Ⅰでは、構想⇔平面⇔立体といったプロセスを通じて設計に必要な空間把握力や、図面から立体的な空間がイメージできる能力を修得するとともに、建築設計製図作成上必要な諸々の製図記号、表現方法を学び、設計意図の有効なプレゼンテーション技法を身につけることを目的とする。

1．平面と立体：立体をいかにして平面上に表現するのか。正投影法、透視図法など、いくつかの図法を通じて学んでゆく。
2．建築設計図面の基礎：製図記号などの基本的言語を身につけ、平面図、立面図、断面図など、建築設計図面の読み方、描き方を修得する。
3．様々な図面表現：必要なことを過不足なしに伝える図面から、アピールする図面をめざし、プレゼンテーションの幅を広げる。

＜受講上の注意＞
・一級建築士受験資格の取得を目指している人は、必ず受講すること。
・基本的製図用具（三角スケール、三角定規、製図用シャープペンシル、テンプレート等）が必要。詳細は授業のガイダンスで説明する。学内での販売も行う予定。

【授業の目標】

製図法について理解し、図面をルールにのっとり正確に表現し、また読み取ることの出来る能力を習得する。

【授業計画】

1．製図法や図面表現に関する解説を行った後、課題を出題する。
2．数週間製図作業を行い、課題を提出する。
3．授業中作業する課題以外に、いくつか宿題を出す予定。

【評価方法】

出席状況と提出された課題、宿題をもとに評価を行う。

【テキスト】

建築設計演習　基礎編　建築デザインの製図法から簡単な設計まで（武者英二・永瀬克己　彰国社）
コンパクト建築設計資料集成（日本建築学会編　丸善）

計画演習Ⅲ（調査実測）

清水裕二　高橋敏郎　岡島哲明　太田 忍

【授業の概要】

建築設計の作業の中で、図面や建築模型と実際の空間体験を結びつけるにはある程度の経験を必要とする。たとえば、スケール感。たとえば、構造の空間的な力の流れ。この授業では、手を動かし、ものをつくり、五感で体験することを通じて、机上での構想と実現される空間とを少しでも架橋することを試みる。詳細はまだ決定されていないが、「簡易シェルター」「構造と空間」「展示空間」などのテーマを設定し、簡便な材料を使用して製作を行う予定である。登録者は、日程、必要な道具、材料などを追って掲示するので、注意するように。（毎年、ギャラリー間主催の巡廻展の会場構成計画、及び施工を行っており、本年度も開催が決定された場合、例年通り展覧会場の計画・施工を授業内で行う予定である。）

【授業の目標】

実際の空間を対象とし、インテリアデザインのプロセス＜調査、コンセプトワーク、デザイン、施工＞を実践的に学ぶ。

【授業計画】

授業は集中講義とする（日程は追って掲示するが、前期土曜日に６～７回の授業と、展覧会前に設営を数日間行う予定である。履修の際は注意すること）。

【評価方法】

作業の成果物及びその製作過程を記録したレポート等の提出物、授業態度等を評価の対象とする。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

計画演習Ⅱ（都市観察）

林 廣伸

【授業の概要】

人は集合して社会を形成し、都市を構築する。一方、都市は自然環境や歴史環境も内包している。我々の生活の基盤である都市を、自然・人・社会からなる横軸と、それらの重層を時間の縦軸でとらえ、その構成を読み解く。

演習では、名古屋を中心にその近郊を訪れ、現地において様々な視点から観察し、あわせて、より良き生活環境としての都市創出の手法を模索する。

【授業の目標】

講義・演習を通して、都市における自然性と歴史性についての観察眼を養い、都市環境のあり方についての考察力を高める。

【授業計画】

1）都市の歴史……名古屋の成立
2）歴史建造物（町並み保存・文化財）
3）歴史街区見学
4）建造物の調査・修理手法
5）修復建造物見学
6）都市観察の手法
7）都市観察実習
8）観察内容の発表
9）レポート講評・まとめ

【評価方法】

レポート・資料等をまとめたファイルにより評価する。

【テキスト】

講義ごとに必要資料を頒布するので、テキストはありません。

【参考文献・資料】

図説 日本の町並み　5（中部編）・6（東海編）（第一法規）
愛知県の地名　日本歴史地名大系23　（平凡社）
明治・昭和　東海都市地図　（柏書房）

空間設計Ⅰ（設計基礎）

清水裕二　三輪律江　道家 洋

【授業の概要】

与えられた条件から導き出される建築的解答はひとつではない。この授業では、ある与条件からコンセプト（概念）を整理しつつ空間を構築してゆく訓練を行い、より複雑な建築を設計するための基礎体力を養うことを目標とする。

授業の進め方としては

1．課題の提出：条件の提示。
2．コンセプト：与条件に対して自分はどのような考え方で空間を構成してゆくのかを言葉やダイヤグラムを用いて練る。
3．プレゼンテーション：スケッチ、図面・模型等によるプレゼンテーションを行う。
4．エスキース：議論を通じて案をリファインしてゆく。
5．図面化：最終的な案を平・立・断面図、パース・模型等を用いて表現する。
6．講評会：図面を用いての最終プレゼンテーションを行い、講評を受ける。

という流れとなる。

【授業の目標】

建築内部の環境的要求からのアプローチと、外部との関係性からのアプローチ双方から建築のデザインを進めて行くことを学ぶ。

【授業計画】

いくつかの課題を出題し、数週間製図作業とエスキース（２～４）を繰り返した後、課題を提出し、最後に講評会を行う。

【評価方法】

出席状況、制作過程と提出された課題をもとに評価。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

空間設計Ⅱ（小規模施設）

日色真帆　小林 聡　高橋敏郎

【授業の概要】

空間設計Ⅰをふまえて、周辺環境も考慮した小規模な施設の設計を行う。現地調査、資料収集、事例研究などをふまえて、図面、模型、CAD、写真、スケッチ、文章など、さまざまな表現手段を使って、案をまとめあげるトレーニングを行う。プレゼンテーションの仕方についても学習する。

【授業の目標】

小規模な施設について、十分な検討を加え、具体的な設計案としてまとめあげる技術を身に付ける。

【授業計画】

・出された課題に対して、エスキースを作成し、教員の指導を受けながら案をまとめる。
・最終的に図面や模型で表現し、講評会でプレゼンテーションを行い講評を受ける。
・課題は２～３課題出される予定である。
・具体的な課題は、講義の中で説明する。
・グループ分けを行い、３名の教員で分担して指導する。

【評価方法】

提出された作品と、講評会におけるプレゼンテーションによって行う。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

建築のかたちと空間をデザインする（フランシス.D.K.チン著　彰国社）
目を養い手を練れ（宮脇塾講師室編　彰国社）

空間設計Ⅲ（中規模施設）

垂井洋蔵　笠嶋淑恵　鈴木千鶴

【授業の概要】

空間設計Ⅰ及びⅡでの成果をふまえ、提出された演習課題に従って、複雑な建築的諸要求を具体的なプロジェクトにまとめる為のトレーニングを行う。

1）より複雑な機能上の諸要求の建築的空間への計画学的な合理性を持った翻訳
2）周辺環境のもつ視覚的構成と論理的に対応する形態の発見と外部空間の規定
3）建築空間と、それを成立させる為の整合性をもった構造的システムの提案
4）法的規制の把握
5）魅力あるオリジナルな建築空間の造形とその表現を実際の設計課題を通して学ぶ。

【授業の目標】

教員とのディスカッションを通して建築設計の各プロセスで、どのような手法で何を考え、それをどう具体化していくのかを作品制作の過程で学ぶ。

【授業計画】

おおむね次のようなプロセスをふむ。各段階ごとに必ず成果を提出し批評を受ける。

1）敷地や周辺環境の空間的特性から建築造形のイメージを得る為のスケッチと概念的造形モデルの作成
2）ヴォリューム検討の為のブロックモデルを造形モデルと関連させながら作成する
3）建築モデル第一次案の作成と講評
4）構造システムの検討
5）エスキースと講評により計画をまとめあげる。
6）最終提案の完成と発表

【評価方法】

各段階ごとの提出作品と、最終案への成熟プロセス、講評会での発表の内容などを総合的に評価します。

【テキスト】

特に無し

空間設計Ⅳ（複雑な施設）

清水裕二　宇野 享　鈴木えいじ

【授業の概要】

現代の建築は、スケールの大きさにかかわらず、従来のビルディング・タイプ（学校・美術館・庁舎等）では分類できないような新たなプログラムが要求される。この授業では、従来の建築計画をベースにしつつ、現代性のある提案を盛り込んだ課題について考察し、建築化するプロセスを学習する。

授業の進め方としては

1．課題の提出：条件の提示。
2．コンセプト：与条件に対して自分はどのような考え方で空間を構成してゆくのかを言葉やダイヤグラムを用いて練る。
3．プレゼンテーション：スケッチ、図面・模型等によるプレゼンテーションを行う。
4．エスキース：議論を通じて案をリファインしてゆく。
5．図面化：最終的な案を平・立・断面図、パース・模型等を用いて表現する。
6．講評会：図面を用いての最終プレゼンテーションを行い、講評を受ける。

という流れとなる。

【授業の目標】

複雑なプログラムをコンセプトに基づいて整理し、それを空間化すること。さらに、それを図面化、模型化し、設計意図を明快に示したプレゼンテーションを学ぶ。

【授業計画】

いくつかの課題を出題し、数週間製図作業とエスキース（２～４）を繰り返した後、課題を提出し、最後に講評会を行う。

【評価方法】

出席状況、制作過程と提出された課題をもとに評価。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

空間設計Ⅴ（都市複合施設）

日色真帆　尾崎公俊

【授業の概要】

空間設計Ⅰ～Ⅳをふまえて、現実の建築設計に近い、より複雑で高度な課題に取り組む。コンセプトの立案から、資料の収集、案の創造性豊かな展開、細部にいたる修正と詰め、プレゼンテーションの工夫といった一連のプロセスを自力で展開することが要求される。課題としては、都市的環境における建築のあり方を探るものが出題される予定である。学生はこの科目で十分なトレーニングを積んだ上で、卒業時に制作する卒業設計に臨むことになる。

【授業の目標】

複雑な条件を多方面から検討し、各自の構想を展開し独自の設計案としてまとめあげる技術を習得する。

【授業計画】

・出された課題に対して、教員の指導を受けながら案をまとめる。
・最終的に図面や模型で表現し、講評会でプレゼンテーションを行い講評を受ける。
・具体的な課題は、講義の中で説明する。
・２名の教員で分担して指導する。

【評価方法】

提出された作品と、講評会におけるプレゼンテーションによって行う。

【テキスト】

特になし。

建築環境学実験

齋藤基之

【授業の概要】

室内や屋外等の熱・空気・光・音環境の定量的な測定・評価方法を学ぶことにより、建築や都市の環境、およびこれらと人間とのかかわりについて理解を深めることを目的とする。

なお、本科目受講に先立ち、建築環境学Ⅰ（熱・空気）およびⅡ（音・光）を履修しておくことが望ましい。

【授業の目標】

物理環境の測定値と各自の感覚との対応関係を身につけるとともに、基礎的なデータ解析（測定値からその意味を読み取る）手法を習得する。

【授業計画】

測定器を用いた演習を行い、測定結果・考察をレポートにまとめる。提出されたレポートに基づき講評・解説を行う。

演習のキーワードは以下のとおり。

・温熱環境の測定と評価
　－気温、湿度、風速、放射温度、着衣量、代謝量、PMV－
・空気環境の測定と評価
　－二酸化炭素濃度、粉塵濃度、換気量－
・光環境の測定と評価
　－照度、昼光率、均斉度－
・音環境の測定と評価
　－音圧レベル、騒音レベル、等価騒音レベル－

【評価方法】

出席状況、提出レポートにより評価する。

【テキスト】

建築環境工学（山田由紀子著　培風館）

CAD 基礎

垂井洋蔵

【授業の概要】

建築設計、デザイン、設計図の作成等の諸場面におけるCADシステムのもつハード、ソフト面の基礎的な概念を理解する。CADの持つ積極的側面、限界を正しく把握することによって、計画、デザインのプロセスにコンピュータを有効に利用する能力を開発することを目的とする。演習を通してCADシステム利用の基本的操作をマスターし、より高度な設計、プレゼンテーション手法としてのコンピュータ利用の為の基礎を修得する。

【授業の目標】

コンピューターをデザインの道具として使いこなす能力を身につけるとともに、新しい表現方法を学びデザイン能力を高める。

【授業計画】

1　CADシステムの概要。本学のシステム構成と、機器の説明及び演習の進め方の諸注意
2　実社会で使われているCADソフトウエア体系の概観と本演習で使用するソフトウエアー
（VectorWorks）の基本操作の解説と実習

以下各演習課題に基づいて簡単なデザイン課題を完成させる。課題の各段階で必要な操作上の解説を行う。

演習課題１　簡単な建築的要素による造形。二次元図面の作成と三次元化によるデザイン上の評価。
演習課題２　建築図面のCADによる作図方法の演習。
演習課題３　演習課題１で行なった各自の作品を題材にして建築作品をコンピュータ上で設計する。すべての課題をプレゼンテーションして提出する。

【受講上の注意】

CAD教室の時間外使用を含め、施設使用上の諸注意を行うので第１回目の演習に必ず出席すること。

【評価方法】

演習への出席。各ステップごとの課題の提出。作品の内容を総合的に評価する。

【テキスト】

演習の各段階で解説資料を配布する。操作上のマニュアルはCAD教室に備え付ける。

建築材料実験

山田和夫

【授業の概要】

現代の建築構造物に使用されている主用構造材料は、鉄鋼およびコンクリートである。これらのうち、鋼については、建築技術者が材料の製造を担当することは殆どないため、専ら材料または構造物としての性能を評価するための実験が重要となるが、コンクリートについては、その製法と性質に関する実験が重要となることが多い。そのため本授業では、これらの点を十分に考慮して半期で修得すべき重要な実験項目を厳選した。

【授業の目標】

実験実習を通して、主要な構造材料であるコンクリートの構成材料（細・粗骨材、セメント）の各種性質を調べるための試験方法、コンクリートの調合設計方法、コンクリートおよびもう一つの主要な構造材料である鋼材の力学性質を調べるための試験方法を修得する。

【授業計画】

第１講　各種実験方法および実験予定の説明
第２講　骨材試験の種類と試験方法の説明
第３講　骨材の密度、吸水率、単位容積質量試験
第４講　コンクリートの調合設計方法の説明
第５講　コンクリートの実施調合表の作成
第６講　コンクリートの混練および打設
第７講　コンクリート試験の種類と試験方法の説明
第８講　フレッシュコンクリートの試験
第９講　硬化コンクリートの引張および圧縮試験
第10講　鋼材試験の種類と試験方法の説明
第11講　鋼材の引張実験
第12講　レポートの講評

【評価方法】

出席状況とレポートの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

構造材料実験法<第３版>（谷川恭雄他著　森北出版）

CAD 応用

天野良則

【授業の概要】

計画演習Ⅳ（CAD基礎）で修得した技術をもとに、設計初期段階における造形力開発の為の３次元形態のモデリングやシュミレーション技法、作品のレンダリングやプレゼンテーション技法をコンピュータ上で学ぶ。建築デザインの表現能力を高める手段として、コンピュータ利用に習熟することを目指す。

【授業の目標】

CAD/CGを用いた表現能力の向上・生産性の向上を目標とする。

【授業計画】

本演習では、VectorWorks、RenderWorksの他Photoshop、Illustrator、Shade等のプレゼンテーション用ソフトを使用する。演習課題をとおして、３次元モデリング、レンダリング、画像処理の技法を学び、最終的に作品としてまとめるための表現技法を学ぶ。

各演習課題にそって、講義時間内に演習の趣旨と、必要な操作上の解説を行います。

演習課題１　簡単な立体の組合せによるモデリング、レンダリングの基本操作
演習課題２　街並みのモデリング・ムービー作成
演習課題３　住宅のモデリング・レンダリング
演習課題４　過去の課題の再プレゼンテーション

〔受講上の注意〕

計画演習Ⅳ（CAD基礎）を受講していることを前提として演習を進めます。各課題は演習時間内に完成させることは難しいので、各自自習時間を利用して作業を進めることになります。

【評価方法】

演習への出席状況と、各課題の提出、課題作品の内容を総合評価します。課題を期限内に必ず提出することが評価の前提となります。

【テキスト】

演習時間内に資料を配布します。操作上のマニュアルはCAD室に備え付けます。

〔定員〕各40名（越えた場合はCAD基礎においてA、Bの者優先）

【参考文献・資料】

授業内に配布します。

CAD 特別演習

天野良則

【授業の概要】

CAD基礎・CAD応用で修得した技術をもとに、コンピューターを利用したプレゼンテーション技術の上達を目指す。

【授業の目標】

プレゼンテーションのみでなく設計時に発想段階からもCAD/CGを自然に活かせるレベルへの各アプリケーションの操作能力向上を目標とする。

【授業計画】

本演習では各CGアプリケーションの応用技術を演習課題をとおして学び、最終的に作品の表現力を高める事を目標としています。

各演習課題にそって講義時間内に演習の趣旨と、必要な操作上の解説を行います。

※第1回目の授業で演習課題を発表します。

【受講上の注意】

CAD基礎・CAD応用を受講していることを前提とします。

【評価方法】

毎回複数のアプリケーションについて説明を行うため、出席状況を重視します。

課題は期限内に提出したもののみ評価します。

【テキスト】

授業内に配布します。

〔定員〕40名（越えた場合はCAD応用においてA、Bの者優先）

【参考文献・資料】

授業内に配布します。

哲学概論

長滝祥司

【授業の概要】
西洋を中心とする哲学の概要をテーマにそって理解するとともに、哲学的思考法を学ぶことをめざす。哲学のトピックに親しみながら、現代社会の諸問題を哲学的な思索とを相互連関的にとらえ、論理的な思考力と表現力を養うことを目的とする。

【授業の目標】
哲学的な概念を理解し、論理的な思考力を養うことを目標とする。

【授業計画】
1．現代社会において哲学することの意義とは何か
2．心身二元論と認識論――デカルトから『マトリックス』へ
3．心身問題というアポリア
4．実在と表象について
5．身体論的転回――哲学から認知科学へ
6．コンピュータは心をもつのか１――『ブレードランナー』とチューリングテスト
7．コンピュータは心をもつのか２――中国語の部屋
8．ロボットが他者になるとき――『甲殻機動隊』の一話より
9．他者と心の帰属――心の理論
10．身体の機械化の果てにあるもの――『ゴースト・イン・ザ・シェル』と人格の同一性
11．心と脳の同一性をめぐって
12．水槽のなかの脳
13．クオリアとは何か

【評価方法】
平常点と論述形式を中心とするテスト。

【テキスト】
【講義の進め方】
基本的には教科書が中心となるが、折に触れて、講義で扱っている哲学的なテーマに関係する映画などを鑑賞しながら進めていく。

【参考文献・資料】
現象学と21世紀の知（長滝祥司　ナカニシヤ出版）

宗教学概論

川口高風

【授業の概要】
現代は情報化、国際化、少子化が進み、とりまく環境も大きく変化してきた。情報機器をはじめとする科学技術は目を見はるばかりに進展している。しかし、それに伴って人間性は失われていった。価値観が変わり、生きる指標を失ってしまったのが現代人ともいえよう。この混迷期の時代に、いかに生きるべきかの生き方が問われている。まさに人間の心の豊かさが求められた宗教の時代ともいえよう。
本講義では、最初に宗教に関する学説や本質を学び、その後、世界の諸宗教を概観する。次に私達の人生の先達ともいうべき人々の著作をとりあげ、その解説を通して、先達の生き方や人間の真の生きがいを考えてみようとする。必要に応じて、ビデオによる視聴覚授業もとり入れる。

【授業の目標】
世界の宗教を概観し知識を得た後、特に仏教を開いた釈尊の生涯、教説を学び、人間の心の豊かさと生き方を学んでもらいたい。

【授業計画】
1：はじめに
2：宗教の学問的見方
3：世界の諸宗教（1）
4：　〃　（2）
5：　〃　（3）
6：釈尊の生涯（1）
7：　〃　（2）
8：釈尊の教説（1）
9：　〃　（2）
10：　〃　（3）
11：祖師の著作や古文書の解読（1）
12：　〃　（2）
13：まとめ

【評価方法】
学期末に行う論述式の試験による。

【テキスト】
使用しない。経典、語録などのプリントは当方で用意し配布する。

心理学概論

藤井恭子

【授業の概要】
この授業では、個性の発揮や自己・他者理解のために、人間のパーソナリティ・発達・学習・動機づけなど、現代心理学の主なテーマを取り上げて解説し、考察していく。
心理学が人間の意識と行動を科学的に研究する学問であることを受講者が理解することをこの授業の目的とする。

【授業の目標】
心理学が人間の意識と行動を科学的に研究する学問であることを理解し、「人間」というものがいかにして成り立ち、どんな特徴をもつ存在であるかを考えるための基礎的な知識を身につける。

【授業計画】
1．心理学の歴史と独自性
2．個性を探る
（1）パーソナリティ理論
（2）パーソナリティの測定
3．人の発達の道すじ
（1）発達の捉え方
（2）生涯にわたる心理的プロセス
4．心の健康とつまづき
（1）現代社会と心の危機
（2）心の援助法
5．社会の中での個人
（1）対人認知
（2）集団過程
6．知性を探る
（1）動機づけと学習方法
（2）測定評価に関する問題

【評価方法】
テスト（詳細は授業にて説明する）

【テキスト】
未定。

【参考文献・資料】
授業の中で随時紹介する。

社会福祉学

原田正樹

【授業の概要】
現代社会において社会福祉を取り巻く状況はめまぐるしく変容している。
本講では、社会福祉のニーズの多様化、高度化について様々な角度から検討を加える。
また、当事者の声を可能な限り反映させ、必要に応じて視覚教材も用いて展開する。

【授業の目標】
今日的な社会福祉の価値・歴史と政策動向、また社会福祉実践における諸課題について学習する。このことによって社会福祉の概要と主体的参与の視点について理解を図る。

【授業計画】
1）社会福祉の価値とNormalization
2）社会福祉の歴史（日本）
3）社会福祉の歴史（近代社会福祉の源流）
4）社会福祉の制度（社会福祉基礎構造改革）
5）社会福祉の分野（高齢）
6）社会福祉の分野（障害）
7）社会福祉の分野（児童・家庭）
8）社会福祉の分野（施設福祉）
9）社会福祉の分野（在宅福祉）
10）地域福祉の推進（地域福祉計画）
11）地域福祉の推進（地域福祉実践）
12）ボランティア・NPO
13）福祉教育の展開（社会福祉と教育）
14）社会福祉の方法（社会福祉の援助）
15）社会福祉の方法（社会福祉の専門職）

【評価方法】
筆記試験と毎回のコメントカード（詳細については授業にて説明する）

【テキスト】
現代の社会福祉　みらい

【参考文献・資料】
参考文献・資料については毎回の授業にて配布、紹介する。

特別セミナー

親松和浩

【授業の概要】

（1）**趣旨**：高等学校教育から大学教育への円滑な移行を図り、入学後の基礎教育の推進を目的に、各種研修的行事への参加によるレポート作成指導を中心とした、「特別セミナー」を実施する。

（2）**指導方法**：担当教員がクラス単位で指導する。

（3）**注意事項**：担当教員からの連絡・課題図書等の指示、及び現代社会学会研修行事開催の案内は掲示で行うため、掲示に注意すること。また、学生は積極的に担当教員を訪ね、指導を仰ぐこと。

【授業の目標】

学生が担当教員（アドバイザー）とのコミュニケーションを深め、入学後の大学生活における勉学の目的意識を育むとともに、学生の課題発見・探求能力の向上を目指す。

【授業計画】

以下に指定するものの中から学生が選択をし、レポートを年に２回以上提出し、担当教員が指導・評価する。

<必須>

（1）エンカウンターキャンプの観察レポート
（病気等の理由でキャンプ不参加の学生は、博物館・美術館等の見学レポートをこれに代える）

<選択>

（1）担当教員の指定する課題図書の読書感想文
（2）現代社会学会主催の研修旅行への参加と観察レポート
（3）現代社会学会主催の講演会への参加と感想レポート
（4）学内で行われる各種研修行事への参加と感想レポート
（5）学外で行われるボランティア等体験学習への参加と感想レポート
（6）その他担当教員が認めるもの

【評価方法】

レポート（２回以上提出）による

【テキスト】

課題図書は、担当教員が指示する

基礎演習

親松和浩　渡辺かよ子

【授業の概要】

現代社会における課題発見と問題解決のための基礎知識と技法を学ぶ。この授業は２名の教員によるオムニバス形式で実施する。

【授業の目標】

調査、分析、報告に関する基本的な技能を習得する。

【授業計画】

1．ガイダンス
2．図書館を利用した文献検索実習
3．各教員の指定テーマに関する調査、発表、プレゼンテーション
4．文献購読等

（注）この授業は旧カリキュラム履修者に対して特別に開講する授業であるため、授業で扱うテーマは履修者の状況に即して各教員が適宜決定する。

【評価方法】

授業態度、課題提出および発表などから総合的に評価する。

【テキスト】

未定

地域社会演習Ⅰa・b

石田好江

【授業の概要】

マーケティング、消費者行動、就業行動、ジェンダー問題等の社会政策に関わる理解や問題意識を深めることを目的に、関連する文献や論文を読みあい、ディスカッションを行う。

それと平行して各自あるいはグループでテーマを設定し、研究する。その成果は順番に発表し、そこでの討議やコメントをふまえ、最終的にレポートとして提出する。

【授業の目標】

課題発見の力をつけるとともに、それらの課題についての深い考察を行い、研究としてまとめる力をつける。

【授業計画】

1．オリエンテーション
演習の目的、プレゼンテーションの方法、レジュメ（ハンドアウト）の作成方法など
2．文献講読
文献は、基礎的でありながら、新しい問題提起、パラダイム（理論の枠組み）の問い直し、通説の批判などを含んだものを選びたい。したがって文献講読を通じて基本的な知識を身につけるとともに、消費経済をめぐる新しい動きの理解をめざしたい。
3．個人研究・発表
研究方法について
個人研究・発表

【評価方法】

前期は発表内容及び演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。後期は個人研究の発表、レポート、演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜指示する。

地域社会演習Ⅰa・b

大嶽 浩

【授業の概要】

「住宅」（土地、建物）に関する法（法律）を、特に民法の観点から学習する。

【授業の目標】

民法の基本的な「仕組み」を理解すること。

【授業計画】

「住宅」に関する法制度を「総論」的に考察する。具体的には、

1　契約（意思表示）　2　代理（専門家）　3　売買契約
4　請負契約　5　賃貸借契約　6　消費貸借契約

などについて考察する。なお、当演習では、「条文」をこまめに引きますが、その際の態度としては、辞書（法学辞典、六法全書）は「引く」のではなく、辞書と「相談する」という姿勢であってほしい。六法は必ず、持参すること。

【評価方法】

出席状況（演習に対する姿勢）とレポート（内容）による総合的な評価。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

地域社会演習Ⅰa・b

榊原國城

【授業の概要】

多人数を対象として同一質問に対する回答を求め、それらを分類し、分析して人間理解を進める手法が質問紙調査法である。演習Ⅰaでは、統計パッケージ・プログラムSPSSに基づいて、調査資料の統計的データ解析の概念の理解とデータ解析手法の体得を目指す。演習Ⅰbは、受講学生の設定したテーマに基づく調査票の作成・調査実施・回収・集計・分析・報告書作成までの全過程の演習である。

【授業の目標】

この演習の目標は、科学的資料の収集法としての質問紙調査法とデータ解析手法の習得である。

【授業計画】

前期（演習Ⅰa）は統計解析パッケージ活用法をマスターするためのデータ解析実習。

1. オリエンテーション
2. データの分類
3. データ・ファイルの作成
4. 質的データの分析
5. 量的データの分析

後期（演習Ⅰb）は質問紙調査法の実際を体験するグループ作業による実習。

1. オリエンテーション
2. 調査計画立案
3. 調査票作成と調査実施
4. 調査結果の分析
5. 報告書の作成

【評価方法】

前期末および後期末にそれぞれリポート提出を課し、その内容によって評価する。なお、演習への参加態度の逐次評価をも行う。

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

授業中に指示する

地域社会演習Ⅰa・b

谷沢 明

【授業の概要】

テーマは「フィールドワークで探る生活文化・地域文化」。

生活文化や地域文化、地域の民俗をフィールドワークをとおして学びます。

各自が関心を持ったテーマを、「あるく・みる・きく」という行動をとおして追求することを演習の中心とします。好奇心を持ってなんでも観察し、小さな発見を積み重ねていきます。さらに、謙虚な気持で土地の人々に接し、そこから学んでいきます。その成果をパワーポイントにまとめ、ゼミ発表をおこないます。

【授業の目標】

各自が設定した地域研究のテーマに基づき、教員と協議の上、それぞれが一定の水準に到達することを目標とする。

【授業計画】

前期：「歴史・風土・文化を活かした地域づくり」のテーマでフィールドワークを行い、取り組んでみたいフィールドとテーマを決めます。

夏休み：１週間程度の学外教育・フィールドワークを実施する（行き先は協議の上決定、費用はその上で連絡します）。

後期：卒論で取り組んでみたいテーマを設定し、フィールドワークを行い、成果を発表します（レジュメ使用）。そして、４年次の卒論作成に向けて基礎固めを行います。

10月～：各自がそれぞれテーマに基づいてフィールドワークを実施。

【評価方法】

平生の授業態度、フィールドワークへの参加、パワーポイント作成、レポート作成等で行う。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

授業で必要に応じて紹介します。

地域社会演習Ⅰa・b

竹村 弘

【授業の概要】

「文献講読」「グループ討論」「スピーチトレーニング」「サブゼミ研究」「春合宿」および「夏合宿」を通じて、今何が問題で、何をすべきかを自分で考え、自分で決断し、実際に行動し、課題を達成し、そのプロセスと成果を人にきちんと説明し、理解と賛同を得る能力を修得するトレーニングを行う。

【授業の目標】

将来、企業・地方公共団体などにおいて、主体的に事業計画を企画、立案、遂行する能力を養成し、また、一人の市民として地域づくりに発言し、参加し、行動できる実力を身につけることを目的とする。

【授業計画】

1. 「文献講読」：　広く「日本経済」「地域開発」などに関する文献を講読することにより、基礎知識から詳細な専門的知識まで広範な知識および方法論を習得する。輪読、討論、専門家等との意見交換などにより、一層の理解を深めるとともに、自発的思考能力を養い、問題意識の喚起を図る。
2. 「グループ討論」：　グループ討論は、論理的かつ効果的に組み立て、好感の持てる話術で、穏やかに、辛抱強く、時にユーモアを交えて、自己主張するためのトレーニングである。
3. 「スピーチトレーニング」：　大勢の人の前でスピーチし、聞く人の共感を得るためには、事前の準備と十分なトレーニングが必要である。
4. 「サブゼミ研究」：　少人数のグループで、自らの問題意識に基づき選択したテーマについて、自主的に調査研究を行い、「レポート」を作成する。夏合宿で「中間報告」を行い、『淑楓祭』展示、他大学合同研究会など、外部との討論で一層の研究の充実を図り、かつ、説得力のある説明、質疑・批判に対する明快な応答など、ディベート能力の向上を図る。
「ケーススタディⅠ」（企業・プロジェクト研究）を併せ受講すること。
5. 「春　合　宿」：　４月上旬に一泊二日の日程で「３分スピーチト・レーニング」「グループ討論」「真実探し『藪の中』」などのディベート・EQトレーニングを実施する。（費用６千円程度）
6. 「夏　合　宿」：　９月下旬に二泊三日の日程で、サブゼミ研究の中間発表と全体討論を行い、併せて、スポーツ、バーベキュー、花火などのレクリエーションおよび工場見学・フィールドワークを行う。（費用１万７千円程度）

【評価方法】

討議、グループ研究など総合的に評価。

【テキスト】

EQ・心の知能指数（D.ゴールマン 講談社）
日本経済100の常識（日本経済新聞社）
日本の論点（文芸春秋）（各貸与）

地域社会演習Ⅰa・b

千葉善根

【授業の概要】

食べものと文化

「禽獣は喰らい、人間は食べる。教養ある人にしてはじめて食べ方を知る」『美味礼讃』より

即ち、人間が「食べること」には精神的・社会的な意味が加味されている。こうした動物とは異なる人間独特の食のあり方が食文化である。

各地に数多くある食品（または素材）および話題について、食文化形成要因や他の地域の食とのつながり、食と人間とのかかわりなどを視野に入れて討議し、今後の食文化や食生活について考察する。

【授業の目標】

「特色のある食、伝統的な食、地域特有の食、美味いもの」などが各地に存在するが、地域によっての特徴、差異の背景を理解する。

【授業計画】

1. 各自、種々の資料をもとに各地の「特色のある食、伝統的な食、地域特有の食、美味いもの」などからテーマを自主的に選択し要約・発表する。
2. 前半はできるだけおおくのテーマ（食）について幅広い知識を身につける。
3. 各発表に全員が参加し討議する。
4. 必要に応じて見学、調査、試食などを考える。

【評価方法】

発表・討議、リポート、出席など総合して評価。

【テキスト】

使用しない。

地域社会演習Ⅱa・b

石田好江

【授業の概要】

演習Ⅰにおいて深めた問題意識の上に立ち、各自があたためてきたテーマを、さらに「研究」にふさわしいものにしていく。前半では、そのために必要な方法論を中心に学び、後半では、その成果を発表する。

前期は、演習Ⅰの基礎的な理解の上にたって、消費者行動や就業行動をめぐる周辺領域の文献、あるいは近年の新しい視点の論文を取りあげ、よりこの分野の理解を深めることをめざす。

後期は、個人研究の発表を中心に進める。各自が3年後期から進めてきた個人研究をさらに深め2年間の演習の集大成として論文の形でまとめる。

【授業の目標】

テーマについてのより深い考察ができるようになることとともに、研究活動を通じて問題解決能力を身に付ける。

【授業計画】

前・後期とも学生の発表とディスカッションを中心に進める。発表者とコメンテーターは予め決めておく。また発表者は事前にレジュメ（ハンドアウト）を提出する。

【評価方法】

前期は発表内容及び演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。後期は個人研究の発表、レポート、演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。

【テキスト】

未定。

地域社会演習Ⅱa・b

大嶽 浩

【授業の概要】

演習Ⅰにひきつづき、「住宅」（土地、建物）に関する法（法律）を、特に民法の観点から学習する。

【授業の目標】

民法の基本的な「仕組み／精神」を理解すること。

【授業計画】

「住宅」に関する法制度を「各論」的に考察する。具体的には、

1　所有～賃貸　　2　維持～管理　　3　贈与～相続

などについて考察する。以上のほかに、「『住まう』とはどういうことか」や「文学作品から見た『住まい』」についても考える。なお、当演習では、「条文」をこまめに引きますが、その際の態度としては、辞書（法学辞典、六法全書）は「引く」のではなく、辞書と「相談する」という姿勢であってほしい。六法は必ず、持参すること。

【評価方法】

出席状況（演習に対する姿勢）とレポート（内容）による総合的な評価。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

地域社会演習Ⅱa・b

坂井貞彦

【授業の概要】

各人が、日本または世界の人口に関する領域において、演習Ⅰの学習をふまえて自主的に研究テーマを設定し、調査、文献資料の収集、討議などを通じてテーマについての理解を深める。後期は、研究テーマについての理解をさらに進めるとともに、テキストを購読する。

【授業の目標】

研究テーマについて、調査、文献収集、討論などを通じて理解を深め、文章にまとめるとともに、テキスト購読により日本人口全般に理解を深める。

【授業計画】

研究テーマの設定などの段階で、各人が構想を発表し、全員が討議に参加する。後期においては、各人が研究テーマへの理解を深めまとめる。テキストの購読においては、テキストを章（または節）ごとに分担し、分担した部分の要旨を順次全員に対して発表する。担当者は事前にレジュメを作成し、発表のさい全員に配布する

【評価方法】

討論への参加、発表内容、別途提出を指示するレポートの内容の総合評価

【テキスト】

日本人口論（岡崎陽一　古今書院）

【参考文献・資料】

（1）国勢調査報告（総務省統計局　日本統計協会）
（2）人口の動向（国立社会保障・人口問題研究所　厚生統計協会）
（3）少子化時代の日本経済（大渕寛　日本放送協会）
（4）人口成長と経済発展（山口三十四　有斐閣）

地域社会演習Ⅱa・b

榊原國城

【授業の概要】

受講学生は自らの興味や関心によって研究テーマを自由に設定し、担当者の指導を受けながら、自己のテーマについて積極的に学ぶことが求められる。演習は、先ず、問題・仮説の設定に関わる基礎的講義によってスタートする。その後、受講学生の個人発表および討議によって進められる。最終的には、演習を通して行った研究の成果を研究論文としてまとめる。

【授業の目標】

この演習の目標は、学生自身の個人研究活動を通じて、判断力・理解力・総合能力を涵養し、問題に対する客観的、科学的態度を身につけることにある。

【授業計画】

毎回数名の発表者が、予め用意したレジュメに基づいて発表し、それらに対して他の参加者がコメントするという方式である。その内容は研究活動の各段階ごとに、問題の設定・文献研究・研究目的の明確化・方法の検討・データの収集・結果の集計・分析・考察というように、段階的に変化しながら1年間継続的に進行する。

【評価方法】

演習への参加態度および期末に提出される研究論文の内容によって評価する。

【テキスト】

組織行動の調査方法（E.F.ストーン著　鎌田伸一・野中郁次郎　1980　白桃書房　定価2,400円）

【参考文献・資料】

授業中に提示する。

地域社会演習Ⅱa・b

竹村 弘

【授業の概要】

目的は、「演習Ⅰ」で述べたように、実社会においてプロジェクトを主体的に立案、遂行する能力を養成し、また、一人の市民として地域づくりに発言し、行動できる実力を身につけることである。

「演習Ⅱ」においては、日本経済および地域開発に関わるあらゆるテーマについて、一人ひとりの問題意識に基づき、「調査研究」「企画提案」「論文作成」を実施する。

【授業の目標】

論文の作成

【授業計画】

1.「調査研究」： 文献調査により先行研究を十分理解・整理した上で、現地調査、アンケート調査、ヒアリングなどにより、独自の観点からの研究を深める。

2.「企画提案」「論文作成」：事例調査・企画提案を統合して論文を作成する。中間報告で全体討論、意見交換を行い、論旨展開、実証資料、理論構成等の一層の充実を図る。

【評価方法】

討論、「論文」など総合的に評価。

地域社会演習Ⅱa・b

千葉善根

【授業の概要】

演習Ⅰにおいて身につけた知識の上に立ってテーマを大きく設定し、多岐にわたる地域特性（例えば気候風土、地形、交通路、都市形成の歴史と背景など）を考慮し、地域間の食文化の比較などさまざまな食と人間とのかかわりについて深く調査・研究するとともに将来の望ましい食文化を考える。

【授業の目標】

一つの大きなテーマを決め、深く調査研究し、卒業論文の資料にもなるように系統的に調べる。

【授業計画】

○各自がテーマを自主的に設定、計画的に調査・研究し逐次発表する。
○各発表に全員が参加し討議する。
○随時、個々に指導助言する。
○必要に応じて見学、試食などを考える。

【評価方法】

発表・討議、リポート、出席など総合して評価。

【テキスト】

使用しない。

地域社会演習Ⅱa・b

谷沢 明

【授業の概要】

地域文化や地域の民俗をフィールドワークをとおして学びます。
3年次後期に各自が設定したテーマに基づいておこなった「地域社会演習Ⅰa・b」のフィールドワークの成果を基礎に、それを発展させていきます。ゼミでは、学生の自発的な調査研究活動の成果報告をもとに、調査研究論文の作成の指導を行います。後期は、文献講読です。

【授業の目標】

各自が設定したテーマに基づき、教員と協議の上、それぞれが一定の水準に到達することを目標とする。

【授業計画】

前期：各自が設定したテーマに基づき、それぞれが、調査研究を進め、そのまとめを行う。
4～7月：調査研究とまとめ。
8月：個別研究指導。
10月初旬：調査研究論文の提出（これを卒業研究の基礎とする）。
後期：宮本常一『家郷の訓』（岩波文庫）をテキストとして講読を行う。
10～1月：『家郷の訓』講読。

【評価方法】

平生の授業態度、調査研究論文の内容等で行う。

【テキスト】

前期はテキストは使用せず。後期は、家郷の訓（宮本常一　岩波文庫）をテキストとする。

【参考文献・資料】

授業で必要に応じて紹介します。

国際社会演習Ⅰa・b

石橋千鶴子

【授業の概要】

（1）地域研究：多文化・多言語社会の考察

文化の多様性を尊重し共存の道を目指す多文化共生への流れは、世界各地で大きくなってきている。オーストラリア、カナダ、米国その他の多文化・多言語社会に焦点を当て、その歴史、経済、文化、人口構成、言語政策、外国人受け入れ政策、多文化維持政策などの視点から考察する。多文化共生世界の中で、日本が進むべき方向について、多くのヒントが得られるだろう。

（2）日本語教授法：日本語を母語としない人を対象とした日本語教育

日本語の特徴を文法の面から英語を使って考察する。（希望者を対象に、授業後に行う。）

【授業の目標】

文化の多様性を認識し、柔軟な視点を培っていって欲しい。

【授業計画】

英語・日本語資料の講読、ビデオ視聴、ゲストスピーカーとの意見交換などを通して多文化社会について具体的に学ぶ。英語語彙力および読解力の強化を念頭に授業を進める。

受講生は、各自興味を持った地域や問題を選び、調査・発表する。後期終りに冊子作成。

日本語教育については、テキストおよびビデオ教材を使い、初級授業で扱う文型・文法事項の英語による具体的指導法を考察する。

【評価方法】

レポート、発表および平常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

テキストは未定。英字新聞記事のコピーなどは配布する。

国際社会演習Ⅰa・b

清水 洋

【授業の概要】
この演習は、「アジアの社会経済発展と日本の役割」をテーマとして、アジア社会の諸問題を政治・経済・文化・宗教・民族などの側面から多面的に考察し、アジアに関する知識と関心を深める。また、アジア諸国に対する日本の影響を大衆文化（映画、音楽、和食、ファッションなど）、政府開発援助、直接投資、技術移転などを取り上げて検討する。

【授業の目標】
アジア諸国の諸相に関する専門知識を深めるとともに、様々な資料を用いて解読力を養う。

【授業計画】
テキスト、新聞・雑誌記事、ビデオなどを使ってアジア社会の諸問題を考察し、討議を通じて知識を深める。また、文献の集め方・使い方、レポート作成の方法などを適宜教示する。

1）シンガポール・マレーシアの政治・経済
2）民族、宗教、言語・文化
3）教育
4）アジア諸国の社会経済発展における日本の役割
5）その他

【評価方法】
討議への参加度、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】
シンガポールの経済発展と日本（清水洋著　コモンズ）。

【参考文献・資料】
授業中に随時指示する。

【備考】
海外調査実習（9月4日～9日にシンガポールとマレーシアで実施予定）に関心のある人は、フィールドワークⅣ②の履修登録もしてください。

国際社会演習Ⅰa・b

秦 忠夫

【授業の概要】
日本経済と世界経済の結びつきを重点に、経済をみる眼を養うことを目標とします。スタート時点では参加者の経済学履修状況にはバラツキがあると思われますので、次のような段階的アプローチをとる方針です。第1段階では、講義形式で経済学の基礎を勉強します。第2段階では、『世界経済白書』などをテキストに世界経済の現状ならびに日本経済の実情と課題を勉強します。この段階では、各自が割り当てられた部分の要旨を報告し、質疑応答する形を基本とします。第3段階では、内外経済の注目されているテーマに関する論文・解説記事を多読し、実践的な理解力を鍛練したいと思います。

【授業の目標】
積極的な姿勢で授業に参加し活発に意見を述べる。自分の報告の際にはよく準備して魅力的な報告を心がける。

【授業計画】
第1段階：最初の1カ月。経済学の基礎の勉強。
第2段階：5月以降前期末月まで。内外経済の実情がテーマ。
テキスト：追って連絡。
第3段階：残りの期間。実践的な理解力の鍛練。
テキスト：内外の論文・解説記事のコピー。
なお、前期末には共通テーマにつき、後期末には各自が選んだテーマにつきレポートの提出を求めます。

【評価方法】
レポートと授業への参加態度で評価。

【テキスト】
上記の通り。

【参考文献・資料】
授業の際、適宜紹介。

国際社会演習Ⅰa・b

西尾林太郎

【授業の概要】
「近・現代における日本人の対外観と外国人の日本観」
特に近・現代における日本人の対外観および外国人の日本観について、古代から現代に至るまで幅広く調査・研究し、〈国際化〉のまったただ中にある今日の日本および日本人について考えてみたい。

【授業の目標】
上記に関して韓国（ソウル）、中国（大連）で調査し、その結果を分析し表現・発表する。

【授業計画】
例えばルース・ベネディクト『菊と刀』など外国人の日本人論（日本論）や日本人の対外観に関する文献を逐一検討したり、新聞や雑誌あるいは各種テレビ番組で報じられた外国人の日本観、ないしは日本人の対外観をできる限り収集し、検討したい。また、こうした作業を通じて、調査・研究や発表のやり方あるいは討論（ディベート）の方法を修得する。
また日本近・現代政治史、外交史、社会史の文献講読をし、近・現代日本の姿を歴史的に把握することにも努めたい。
昨年は日露戦争100週年であった。この戦争は、その後の日本やヨーロッパの運命を変えた戦争である。日本国内に与えた影響は計り知れない。対外的には朝鮮を植民地化し大陸経営に乗り出した。そこで、今年度は9月上旬～中旬にかけて、韓国のソウルを中心にこのテーマに関する資料を収集するとともに韓国の学生と交流する。さらに戦争の舞台となった中華人民共国の大連（その旅順区）を訪問し、日露戦争や日本の「満州経営」に関する史蹟を見学する一方、現在の活力にあふれる中国の都市生活を体験し、それを観察する。
アジア各国の人々との真摯な交流を通じて、日本の歴史や現実に対する理解を深めることを、この授業の目的としたい。
a前期：上記のテーマに関して各自の発表（特に、韓国の現状、中華人民共和国の現状、日韓・日中関係、日露戦争などに関して）。
b後期：調査研修旅行に関する、いくつかのプレゼンテーション。日本政治・外交史、日本社会論、日本社会史に関する各自のテーマについて調査・研究と発表。

【評価方法】
評価は演習およびそれに付随する行事での活動状況と随時に課すレポートの内容による。

【テキスト】
特に定めない。

【参考文献・資料】
その都度指示する。

国際社会演習Ⅰa・b

藤井麻湖

【授業の概要】
前半期では、「旅行記」を「民族誌」として読みます。19世紀以前、各地を遍歴した修道士や旅行者の「旅行記」は、今でいう「民族誌」の役割を果たしました。ゼミでは、13世紀にモンゴルを旅したイタリアやフランスの托鉢修道士の旅行記を現在と絡めながら読みます。
後半期では、各自の卒論のテーマ探し（内容は自由）を始めます。

【授業の目標】
前半期では、西欧中心主義が台頭する大航海時代に入る少し前の世界を知ることで、現代社会をより複眼的に捉えることができるようにします。
後半期では、卒論のテーマを各自定め、文献を読み始めることを目標とします。

【授業計画】
●四月に大阪府吹田市の国立民族学博物館を見学する一泊二日の研修旅行をおこないます。
●前半期においては、十三世紀のモンゴルを旅したヨーロッパ人修道士プラノ・カルピニやルブルクの『蒙古旅行記』を輪読し、ディスカッションします。また、13世紀と現代の状況との絡みも論じます。
●後半期においては、各自、卒論のテーマを決めて、とりかかっていただきます。なお、テーマは輪読するテキストやモンゴルと関わりなくてもかまいません。
【備考】この授業は、実習Ⅷと一緒に取ることが望ましいです。

【評価方法】
出席と、前期一回、後期一回のレポートで判断します。

【テキスト】
プリントで配布します。

【参考文献・資料】
必要に応じてアドヴァイスします。

国際社会演習Ⅱa・b

青島 宏

【授業の概要】

演習Ⅰでの学習を踏まえて、冷戦構造消失後に新しい変化が起きつつある国際情勢のなかなどから、各自の興味あるテーマ追究に取り組む。拡大する欧州連合（EU）や北大西洋条約機構（NATO）などの国際機構の新しい機能や、中東紛争や北アイルランド紛争、ペルシャ湾とエネルギー安保、米中枢テロとアフガニスタンなど視野にいれたい。

演習Ⅰの学習内容と関連させながら計画する。

【授業の目標】

国際社会で起きている紛争や、新しい国際平和活動、地域共同体形成への動きなどを政治、文化、経済などから具体的に理解させ、世界人への基礎を作る。

【授業計画】

ゼミ生各自が演習Ⅰの学習を通じて国際問題への関心を広げ、興味のあるテーマを選んで、各自で調査発表する。

【評価方法】

日常の出席状況など授業への取り組みとレポート提出による。

【テキスト】

未定。

国際社会演習Ⅱa・b

石橋千鶴子

【授業の概要】

演習Ⅰに引き続き、（1）地域研究：多文化・多言語社会の考察、（2）日本語教育に関する考察を深めるとともに、各自が設定したテーマで論文作成を進めていく。

【授業の目標】

文化の多様性を認識し、柔軟な視点を培っていって欲しい。

【授業計画】

各自が、自分のテーマについて調査・研究を進め、中間発表を行う。クラス討議と個人指導を通して、卒論を仕上げていく。

【評価方法】

発表、レポートおよび平常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

テキストは未定。英字新聞記事のコピーなどは配布する。

国際社会演習Ⅱa・b

西尾林太郎

【授業の概要】

「東北アジアおよび日本社会に関する総合的研究」

戦前および戦後の東北アジアや日本の政治・外交・経済・社会・文化を国際的視点に立ちつつ歴史的に捉え、研究を進める。

【授業の目標】

プレゼンスの能力を涵養する。

【授業計画】

たとえ短くても、演習生全員が卒業論文（ワープロ打ちA４　12枚以上）作成を目指す。前半は演習生と相談の上で、いくつかの文献を読み、後半は各自の関心やテーマに応じて調査・研究を進め、その成果を演習で発表してもらうこととする。そうした積重ねの上に卒業論文が可能となる。なお、ゼミでは卒論作成の過程で見つけた問題点や卒論の一部について発表してもらう。

また、適宜、学外から講師をお呼びし、御指導いただきたいと思っている。

【評価方法】

評価は演習での活動状況と発表、および「卒論」提出の有無による。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

随時、指示する。

国際社会演習Ⅱa・b

秦 忠夫

【授業の概要】

演習Ⅰでは世界および日本の実体経済の動きを主たるテーマとしましたが、演習Ⅱでは国際通貨・金融問題にテーマを広げていきます。「国際金融論」で基礎的な勉強は終わっている筈ですから、「ヨーロッパの通貨統合」、「国際資本移動の功罪」、「わが国の金融制度改革」など注目されている動きに関する論文や記事を教材にして、討議形式で通貨・金融問題への関心と理解を深めて行きたいと思います。「卒論」は選択科目ですが、学生生活の仕上げに全員卒論に取り組んでもらいたいと考えています。前期の内に卒論につながる各自の研究テーマを定めてもらい、後期はそれぞれの研究の報告（中間報告）につき意見交換する形にしたいと思います。

教材とする論文や記事は原則として私が用意しますが、参加者から提案があればそれ以外の資料も取り入れていきます。前期末には各自の研究テーマの趣旨と研究の進め方につきレポートを提出してもらいます。

【授業の目標】

積極的な姿勢で授業に参加し活発に意見を述べる。割り当てられたテーマについてはしっかり準備し、説得力のある報告を行う。

【授業計画】

上記の通り。

【評価方法】

レポートと授業への参加態度で評価。

【テキスト】

テキストの使用予定なし。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

国際社会演習Ⅱa・b

渡辺かよ子

【授業の概要】

演習Ⅰからの継続。「現代社会における教育」を全体テーマとし、各参加者の個別プロジェクトについて発表・討議を行う。現代社会における教育をより広い歴史的社会的視点から考察し、今後の教育のあり方に関する確かな知見を養う。

【授業の目標】

現代社会における教育の課題を歴史的社会的視点から明らかにし、各自のテーマの関連性を理解する。

【授業計画】

各自の問題関心に基づくレポート発表と討論を行う。

【評価方法】

授業への参加貢献度（レポート、発表内容、発言等）。

【テキスト】

使用せず（資料配布）。

【参考文献・資料】

生涯発達と自己実現（麻生誠・堀薫夫　放送大学教育振興会）
国際化と教育（佐藤郡衛　放送大学教育振興会）
教育の比較社会学（原清治他編　学文社）
NPOの教育力（佐藤一子編　東京大学出版会）

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

太田浩司

【授業の概要】

音声、文字、画像などの表現・伝達媒体としてのメディアは文化や社会集団と密接に結びついている。テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどでのマスメディアで繰り広げられるコミュニケーションと個人レベルでの対人、異文化のコミュニケーションに潜む様々な人間心理について観察、実験、コンピュータを使用してのデータ分析・研究発表を通して理解を深めていく。

【授業の目標】

それぞれが興味のあるトピックを追求することにより、①メディアと人間社会生活の関連性について理解を深めること、②自分の意見を持ち、それを的確に表現・伝達する力をつけることを目標とする。

【授業計画】

各学期の最初の授業に詳しい予定を提示する。以下の内容を含む予定である。

1．メディアのとらえかた
2．文化としてのメディア
3．社会グループとメディア
4．メディアの影響とメディア利用
5．コミュニケーションと概念モデル
6．異文化間コミュニケーション
7．研究方法
8．データ分析
9．論文作成

【評価方法】

出席、口頭発表、タームペーパー

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業内で紹介する

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

石田米和

【授業の概要】

人々の意識や行動の総体としての文化に与える各種メディアの影響は、近年日増しに強くなってきている。このような状況のなかで、本演習では、先ずさまざまな基本的な方法論を修得し、メディアと文化に関わる広範な知識を蓄積し、議論し、理解力・洞察力を深めていくことに主眼を置く。なお、演習Ⅱや卒業論文作成への連携を念頭に置いて進めていく。

概ね、以下のようなテーマを考えている。

1．社会科学における方法論・手法論
2．理解力・洞察力・表現力等
3．メディア（環境）の変容とその影響
4．メディア文化の考え方
5．関心テーマ（卒業論文）の模索

【授業の目標】

コミュニケーション、メディアの基礎知識や考え方の枠組みを理解し、各種メディアが生まれてくるなかで問題とされている（メディア的）事象の分析能力やメディア・リテラシーを身に付けること。

【授業計画】

徹底的な議論と学生諸君のプレゼンテーションとをベースに進めていく。主体的かつ積極的な態度、十分な関連学習時間、海外文献のための英語力等が必要である。

【評価方法】

レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

【テキスト】

未定。英文も使用する。

【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

大西 誠

【授業の概要】

現代の情報化社会では、メディアの存在そのものが当然のものとして受けとめられている。この演習では、メディアの自明性に疑問を向け、多様化する現代のメディアの意義や問題点を探る。具体的には、リアリティを構成する映像等の素材をもとにメディアの送り手の意図を解読するとともに主体的な発信者となることを目指す。

【授業の目標】

テキストの解読を通じて、メディア論の基本を理解する。また個人発表をすることにより、プレゼンテーション能力と発言能力を身につける。

【授業計画】

テキスト、映像などの素材をもとに発表および討論。

＜前期＞

写真、映画、テレビ、ビデオなど様々なメディアの映像を読み解くとともに、現代社会のメディアの動向に目を向けて、ジャーナルな感覚を身につける。

1）テキストの解読・要約と意見の発表
2）メディア表現の分析と討論

＜後期＞

前期に引き続き、メディア表現について、各自テーマを設定しを分析に取り組む。またグループワークとしてメディア企画として、「ヒット商品」「ブランド」などのシミュレーションとともに具体的な成果物の作成に取り組む。

【評価方法】

口頭発表、小レポート、討論への参加、課題レポートなど。

【テキスト】

映像論（NHK出版）

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

小川明子

【授業の概要】

メディアと地域社会、文化について考える。

前期は、地域とメディアに関する文献の購読と議論を重視する。

夏休みには、前期の学習を踏まえ、地域メディアの調査旅行を行う。（費用は5万円程度。）

さらに後期には、メディアと文化に関して、文献を購読したうえで各自が調査、発表する形式を取る。

最終的には、メディアと社会、文化をめぐって学んだことを全員でドラマ形式の作品に仕上げることができればと考えている。

【授業の目標】

あるテーマに関して、適切な文献や調査方法を選び出し、分析できる力を養う。

自ら問題意識を持ってテーマを設定し、ゼミのメンバーと議論ができるようにする。

【授業計画】

1．年間計画提示
2－10．文献講読
11－20．文献購読、調査・発表
21－23．課題作品制作
24．まとめ

【評価方法】

授業態度、発表等から総合的に評価する

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

メディア・プラクティス（せりか書房）
メディア文化を読みとく技法（世界思想社）
沖縄に立ちすくむ（せりか書房）
メディア文化の権力作用（せりか書房）

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

古賀暁子

【授業の概要】

―映像の面白さを“ことば”で語る―

現代は映像の時代だといわれている。生活の中で映像の読解や映像による表現の必要性は日々に増している。

古今の映像、それが1枚の絵や写真、映画の1シーン、テレビCMの1場面であれ、自分に訴えてくるものを、ことばによって追い求め、知の枠組みとして構築してみることは愉しい。一人で楽しむのもいいが、授業では、この愉しみを仲間と共有してみよう。

【授業の目標】

映像を多角的に味わう力を養うとともに映像の世界を拡げる。

【授業計画】

各学生が自分のこだわりの映像を提示し解説し、全員でこれを解析してゆくことを中心とする。自作の映像作品を題材とすることも奨励する。

【評価方法】

授業への参加態度や貢献度、期末レポートなどによって常時評価する。

【テキスト】

なし。

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

親松和浩

【授業の概要】

情報メディア技術をはじめとした科学技術をどのように利用していけば、私たちの暮らしを豊かにそして幸せなものにできるかを考えていきます。演習Ⅰでは、自分自身の考えをまとめて、文章にしたり、人前で報告する練習を行い、「調査、分析、報告までの一通りのプロセスを体験」して、卒業論文/制作に繋げていきます。

【授業の目標】

情報メディアをはじめとした科学技術を暮らしに活かすことをテーマとして基本知識を習得し、調査、分析、報告の技能を養う。

【授業計画】

「暗しと自然環境について考える」「情報メディアを利用した作品や教材の制作」を2つの柱として、次の課題に取り組む予定です。

1．自然環境を考える～デジカメ、ビデオカメラやパソコンを利用した自然観察～
2．メディアとしてのコンピュータ入門～コンピュータ言語Squeak入門～
3．旧暦とピラミッドからGPSの科学まで～精密科学の発展と暮らし～
4．Webやケータイを利用した情報サービスの実態調査
5．科学館/博物館見学

【評価方法】

出席状況と報告レポート等で評価する。

【テキスト】

未定

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

五島幸一

【授業の概要】

新聞、テレビ、雑誌や広告などの様々なメディアを概観し、その特徴を考えていく。それとともにそのようなメディアを通して流されるメッセージの内容を考察する。

【授業の目標】

私たちの身の回りにあるメディアの特徴を覚え、そのメディアを通じて流されてくるメッセージ（コンテンツ）を分析し、人々にどのようにアピールしているのかについて、コミュニケーションの視点から理解すること。

【授業計画】

テキストを中心に行うが、副教材としてプリント、ビデオなどを使用する。とくに、学生主体の発表とするので、学生はプレゼンテーションを考えること。

【評価方法】

授業への参加度、与えられた課題についてのプレゼンテーション、および学期末に提出するレポートをもって評価の対象とする。

ゼミでは学期末試験を行わないかわりに、レポートを課す。

【テキスト】

未定

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

坂元 多

【授業の概要】

－映像表現のテクニックをさぐる－

テレビ制作の技能を学びとるには、数多くの番組視聴試写がかかせない。映画を含む既成の映像番組の中から具体的にすぐれた表現テクニックを抽出し、整理分析し体系化することでトータルな映像表現の理解を構築する。組織化された教材映像のスクリーニングを媒介として映像表現の知識、技能を習得する。

一枚の絵ハガキ、絵画、写真などスティールの解析
TV、映画、コマーシャルなど動く映像の解析
ディスプレー、インスタレーションの解析
ビデオ制作による表現技術の実践と評価

【授業の目標】

映像で伝達できるメッセージと映像表現のテクニックとの関連を知り自らも、その知識を使って表現できる基礎を養う。

【授業計画】

映像の提示、報告、解析の演習。

【評価方法】

試料となる映像から何をどう読みとるか、各回のとり組み方や自主的研究の深め方を見て常時評価する。

【テキスト】

特になし。

メディアプロデュース演習Ⅰa・b

辻 紘良

【授業の概要】

マルチメディアを題材に取り上げ、調査・研究を進めていくために不可欠な問題の設定とそのアプローチの方法、そして論理的な思考の方法や表現・発表の方法を実際に体験することより修得する。

実施にさいしては、マルチメディアの最先端のトピックスを取り上げ調査・研究するための各種技法を学習するとともに、マルチメディアの社会的な意味について調査検討を併せて行う。

【授業の目標】

1．マルチメディアを構成する要素技術、システムおよびその社会面について広範な理解を深める。
2．マルチメディアを対象に課題(テーマ) を設定し、調査・分析を行うための方法論を構築する力を培う。

【授業計画】

1．マルチメディアの基礎－学問の行為論
2．マルチメディア社会論
3．IT技術の利用や普及に関する調査と発表、討議
4．次世代マルチメディアの動向に関する調査と発表、討議
5．調査・研究の位置づけや論文の構成の理解
6．問題の設定とアプローチの方法
7．ホームページの作成と公開
8．表現の技術－論文の作法

OHPやプロジェクタを用いた発表、ホームページによる公開等、プレゼンテーション各手法の活用を試みる。

【評価方法】

課題の提出や発表ならびに期末試験の結果を総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

知の技法（小林・船曳他編　岩波書店、p322）
マルチメディア標準テクストブック－社会論編（編集委員会編　画像情報教育振興協会、p143）

メディアプロデュース演習Ⅱa・b

石田米和

【授業の概要】

演習Ⅰでのテーマをより深化させて、各自の関心テーマの絞り込みから卒業論文作成の計画と指導へと繋げていく。

概ね以下の項目についての指導を行っていく。
メディア文化に関する議論、個別研究
関心テーマの絞り込み
卒業論文の作成計画
卒業論文の執筆

【授業の目標】

問題意識をより深化させ、仮説設定、資料収集と分析、理論構築等の卒業論文作成に不可欠な能力を習得すること。

【授業計画】

徹底的な議論と学生諸君の発表とをベースに進めていく。主体的かつ積極的な態度、十分な学習時間、海外文献のための英語力等が必要である。

【評価方法】

レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

メディアプロデュース演習Ⅱa・b

太田浩司

【授業の概要】

演習Ⅰa・bに引き続き個人が社会生活の中でどのようにコミュニケーションをしているのかを調査・研究をする。前期は、調査を行った結果を社会の中にどのようにフィードバックをしていくかという応用面に焦点を当てる。後期は研究した内容について報告書を作成することを目標とする。

前期はグループプロジェクト方式、後期は卒論に向けての個人プロジェクトという形式を採用する予定である。

【授業の目標】

自らが問題視をしている社会的事象に関して適切な方法でリサーチして、適切な言葉を使用して表現、議論する技術を身につけることを授業の目標とする。

【授業計画】

学期の最初に提示する。

【評価方法】

個人の口頭発表とプロジェクト

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

随時配布をする。

メディアプロデュース演習Ⅱa・b

大西 誠

【授業の概要】

演習Ⅰa・bをさらに発展させる。

メディアプロデュースの実際について、計画から実施まで制作を試みる。それぞれの感覚や独自性の伸長を図る。

【授業の目標】

プレゼンテーションなどを通じて自己表現力を高める。研究成果をまとめることにより、論理的思考力と情報編集能力を身につける。

【授業計画】

研究発表と討論、一部フィールドワーク。課題の深化のため、個別指導を求めることが望ましい。

＜前期＞

各自の課題を明確にし、メディア・プロデュースについて理解を深める。

1）メディア表現分析

2）テキスト解読と応用

＜後期＞

グループワークとしてメディア企画のシミュレーションを行うとともに具体的な成果物（卒論、卒業制作など）の作成にとりくむ。

研究課題の柱は以下の二つ。

1）展示企画/イベント企画

2）広告概論（CM分析）

【評価方法】

口頭発表、レポートの提出などにより総合的に評価。

【テキスト】

情報デザイン入門（平凡社新書）

メディアプロデュース演習Ⅱa・b

小川明子

【授業の概要】

前期は文献購読。「世論」「孤独な群集」などのメディア研究の古典を読む。

後期はこれまでの研究内容を踏まえ、卒業論文、制作に関する構想発表の場としたい。

【授業の目標】

メディアに関する社会心理学の古典を理解する。また卒業研究に向けた基本的な準備を行う。

【授業計画】

1．全体計画提示

2．文献購読

3．卒業研究構想と討論

4．卒業研究の発表

【評価方法】

授業態度、発表、出席などから総合的に評価する。

【テキスト】

孤独な群集（みすず書房）

幻影の時代（東京創元社）

【参考文献・資料】

メディア・プラクティス（せりか書房）

メディアプロデュース演習Ⅱa・b

親松和浩

【授業の概要】

演習Ⅰをふまえて、各自が具体的なテーマを設定し、調査研究論文を完成させる。特に、情報通信技術に関連するテーマについては、より実践的研究として、パソコンを利用した教材制作も視野に入れる。

【授業の目標】

情報メディアをはじめとした科学技術を暮らしに活かすことをテーマとして基本知識の習得しその理解を深める。また調査、分析、報告の技能を実践的に磨いてゆく。

【授業計画】

学生の発表、ディスカッションによって調査研究（教材制作）を完成させていく。演習Ⅰ同様、資料の配付や収集、レポート提出には電子メールとWWWをフルに活用する。

【評価方法】

出席状況と報告レポート等で評価する。

メディアプロデュース演習Ⅱa・b

古賀暁子

【授業の概要】

演習Ⅰでの経験をもとに、映像の世界を更に深く遠く旅することにしよう。その過程では、先達の遺したすぐれた作品に感動したり、その時代としての新しい挑戦の意義に気付いたりすることも必要だ。映像の面白さをあえて言葉で分析し、整理し、表現することを学ぶことによって、注意深く“見る”眼が養われ、映像表現のテクニックも身につくことであろう。

【授業の目標】

映像を注意深く視る力を養い、映像の世界を更に拡げる。

【授業計画】

演習Ⅰとの相異点は、学生主体の発表に課題を与え、方向性を加味する。話し合うだけでなく、論理的な文章としてまとめる訓練も行う。演習Ⅰと同様、自作の映像作品をもちよって全員で検討することも奨励する。

【評価方法】

授業への参加態度や貢献度、レポート、自主研究の深まりなどにより常時評価する。

【テキスト】

なし。

メディアプロデュース演習Ⅱａ・ｂ

五島幸一

【授業の概要】

演習Ⅰを発展させて、様々なメディアの特徴を理解するとともに、メディアを通じて流されてくるメッセージの内容を分析する。具体的には、ニュース報道、広告、またはテレビドラマなど様々なものを対象にして、コミュニケーション（とくにレトリック批評）の観点からその内容を考察する。

授業はテキストを輪読するとともに、学生は自分たちの興味あるトピックをみつけ、それを発表することが課せられる。

【授業の目標】

メディアがどのようにメッセージ（コンテンツ）を作り上げているのかを学び、そのメッセージがどのような意味を人々に与えるのかを理解する。

【授業計画】

テキストを中心に、随時プリント教材も配付する。学生の発表を主体とする。

【評価方法】

与えられた課題についてのプレゼンテーション、および学期末に提出するレポートをもって評価の対象とする。

【テキスト】

未定

メディアプロデュース演習Ⅱａ・ｂ

坂元 多

【授業の概要】

演習Ⅰをふまえて、映像試写、映像制作をとおして映像への一層の理解を深める。

課外での自主的映像制作を前提とし、互いに制作者と観賞者の立場から、作品の試写、質疑、討議、評価を行う。

【授業の目標】

映像表現を、斬新性、実験性、創造性の観点から自ら試みる力を養う。

【授業計画】

試写と討議を中心とする演習。

【評価方法】

発表、討議、レポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

メディアプロデュース演習Ⅱａ・ｂ

辻 紘良

【授業の概要】

演習Ⅰで体得したマルチメディア技術諸相の認識を基盤とし、次の研究１～４を並行して進めていく。

（研究１）マルチメディア社会や技術に関し、今日的なテーマを設定し、調査分析を試みる。例えば、無線LANやiMTSなど具体例を取り上げ、それらの現状と将来を調査し、地域社会や産業に及ぼす影響を考察する。

（研究２）演習Ⅰの延長で電子メディアを総合的に駆使してマルチメディア作品の作成を行う。

（研究３）マルチメディアに関する要素技術をより深める実験・研究を行い、応用面を開拓する。

（研究４）新しいシステムの望ましい姿を思い描き、プログラム言語を用いてパソコン上に構築し、実現可能性を確認する。

【授業の目標】

1．マルチメディアを対象に課題を設定し調査・分析し、新たな提案や展望を得るための研究能力を高める。
2．システム制作や個人やグループ制作を通して総合的な制作能力を高めるとともに研究、開発力を高める。

【授業計画】

（研究１）は前期は調査が主、後期は具対例を対象に分析・考察し、論文にまとめる。調査対象は一人一つを選び、前期に専念して調査する。後期は各自がその結果を用いて現状や将来を考察するとともに、論文を作成する。これらを随時、各自が発表するとともに全員で討議し問題の認識を深める。講義や、クラス討議を通して各技術の位置づけや、関連性を理解する。これらを通して、マルチメディアに関して具体的で幅広い認識を得る。

（研究２）～（研究４）に関しても上記と同様に前期、後期の階段を追って研究を深める。

受講にさいしては「情報活用4,5,6」の履修が望ましい。学内ネットワーク利用資格は取得しておくこと。

【評価方法】

中間報告やクラス討議、ならびに論文の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

マルチメディア情報学の基礎（長尾真他著　岩波書店　p.240）

都市環境デザイン演習Ⅰａ・ｂ

渥美正子

【授業の概要】

住宅、その他の生活空間を、“住む”“生活する”側の視点に重点をおいて考えていく。近年、生活主体である家族のかたちや役割、ライフスタイルが多様化し、生活空間に求められる機能も変容している。こうした現状を客観的に見つめることにより、新たにどのような変化や矛盾が生じているのかを把握し、問題解決に向けての方向を探ることを目的としている。

【授業の目標】

生活空間をつくるには、生活の分析がベースとなる。生活者のニーズや思いを映し出した生活空間づくりのあり方考えたい。また、演習を通して、自分の考えを文章化したり、成果をプレゼンテーションする能力及び人前で聞き手が理解できるようにスピーチする能力向上を目指す。

【授業計画】

1）住宅・居住地における矛盾の発見
　住生活に関する文献を講読し、ディスカッションを行う。
2）テーマの設定
　全体で取り組む大テーマを設定し、各グループはそれに関連するサブテーマを決める。
3）調査・資料収集
　それぞれのテーマに基づいて、文献・論文等で予め情報を得たうえで、実際に見学やヒヤリングなどを行う。
4）結果の分析
　自ら得た情報を分析し整理する。
5）発表・討論
　成果のプレゼンテーションを行い、全員で討論する。討論をふまえ、最後にレポートを提出する。

【評価方法】

結果分析への取り組み過程、発表の内容、討論への参加状況、出席状況等を総合して行う。

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

都市環境デザイン演習Ⅰa・b

岡本晴彦

【授業の概要】

建築構造も人間の生活、文化と深い関係がある。その視点から、社会が必要としている建築構造に関する研究の方向と内容について考察する。

その研究実施のために必要となる基礎的学問の習得と文献調査を行う。

さらに、数値解析を行うことにより理解を深めるとともに、新たな知見を得るための検討を行う。

なお、本科目履修には授業科目「建築構造Ⅰ」の履修が完了していることが必要である。

【授業の目標】

鉄筋コンクリート構造の挙動を力学原理に基づいて理解できるようにする。

さらに、同構造に関する基礎的研究を行うことができるようになるために必要な既往知見の習得度を向上させる。

【授業計画】

1．次の課題について社会が求めることを実現するためには、どのようなことを行うべきかを考える。
　1）建築構造物を長寿命のものとする。
　2）建築構造物の性能表示を使用者に明確に行うことができるようにする。
2．前項についての資料調査と考察を背景として次を行う。
　1）鉄筋コンクリート構造の基本原理に関するテキスト講読
　2）「長寿命化」並びに「性能表示」に関連する文献調査結果の発表と討議
3．関連課題について力学モデルを用いた数値解析を行う。

【評価方法】

課題への取り組み方、発表内容、レポートにより総合評価する。

【テキスト】

エース　鉄筋コンクリート構造（渡邊史夫他著　朝倉書店）

その他に関連する論文、技術資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

都市環境デザイン演習Ⅰa・b

河辺泰宏

【授業の概要】

文献講読、資料調査、施設見学、都市観察などの演習を通じて、日欧の都市と建築を中心に造形様式と社会状況との関連について考える。

とくに、建築や都市の歴史、歴史的文化遺産の保存・再生、近現代の建築デザイン等について、フィールドワーク等を行いながら体験的に学ぶことを主な目的としている。

【授業の目標】

事例研究を通じて歴史的遺産の保存と再生の現状や問題点を把握する能力を養う。

【授業計画】

主な演習課題およびフィールドワークとして下記のような内容を予定しているが、フィールドワークの対象はメンバーと相談の上で決定する。

文献講読や見学会、研修旅行等にあたっては、レポート担当者や実行委員を決めて、報告や準備を行う。また、演習の根幹をなす見学会やフィールドワークには、必ず参加することが義務づけられる。

なお、年間を通じて1～2回の国内研修旅行、3～4回のフィールドワークおよび見学会を催すので、参加費用（5～8万円程度）を各自準備する必要がある。さらに、年度末には海外研修旅行を行うことがあるが、これについては有志参加とする。

1）論説文の書き方
2）フィールドワークの仕方
3）都市の開発と保存をテーマとしたフィールドワーク
　（例）名古屋市内（四間道から白壁町まで）/妻籠
　　高山/京都/長浜/有松etc.
4）日本の近代建築をテーマとしたフィールドワーク
　（例）明治村/神戸/半田/桑名etc.
5）日本の近代建築および西洋建築史に関する文献講読

【評価方法】

授業や見学会等への参加状況とレポート、課題発表の内容によって決める。

【テキスト】

図説ローマ『永遠の都』都市と建築の2000年（河辺泰宏著　河出書房新社）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリント等を配布。

都市環境デザイン演習Ⅰa・b

齋藤基之

【授業の概要】

地球環境問題の叫ばれる今日、建築の分野にもこれまで以上に環境に配慮した設計・技術が求められている。この演習では、文献講読、都市・建築の観察、調査・実験等を通じて、熱・空気・光・音環境といった室内の快適性を犠牲にすることなく、地球環境にもやさしい建築デザインのあり方について、様々な切り口から考えていく。また、その過程において、研究課題の設定や計画・実施・解析、プレゼンテーション能力を養う。

【授業の目標】

各自の興味の対象を明確にし、それについて検討するための手段・方法を整理したうえで、卒業論文・制作へと発展する課題設定の絞り込みを行うことを目標とする。

【授業計画】

1．受講者各自の興味に合わせ、各個人もしくはグループ毎に研究テーマを設定する。
2．設定した研究テーマの遂行に必要な基礎知識を、文献講読等により習得・整理する。
3．テーマの遂行に適切な調査方法（都市観察、アンケート調査、測定器を用いた実測調査・実験等）について検討し、実施計画をたてる。
4．調査を実施し、結果の解析・整理を行う。
5．研究成果についてプレゼンテーションを行い、受講者全員で討議する。
6．討議内容を考慮し、研究内容の追加・修正を加えたうえで、報告書等としてまとめる。

【評価方法】

テーマへの取り組み状況、討議への参加状況、プレゼンテーション、報告書等の提出物、出席状況により総合評価する。

【テキスト】

特になし。

都市環境デザイン演習Ⅰa・b

清水裕二

【授業の概要】

次のシークエンスに従って授業を進めていく。

1．課題の設定
　建築や都市に関係するテーマであれば、特に限定はしない。建築や都市を通して現代社会の事象や問題について考察し、それらについてアクチュアルな提案を含んだ設計・研究を目指してほしい。（共通のテーマを設定したり、ゼミ全体でコンペや展覧会などに参加する場合もある。）

2．調査・分析
　自らが設定した課題について調査・分析を行う。
　フィールドワーク：テーマについて実際に現場へ出向き、自ら情報を収集する。
　文献調査：書籍、雑誌、論文等の文献、インターネット等から必要な情報を獲得する。
　分析：テーマに沿って収集した情報の整理・分析を行い、設計や立論へとつなげる。

3．プレゼンテーション
　調査・分析を基に、課題に対する解答、提案、結論を、他の人々にプレゼンテーションする。その際、テーマに沿って最も効果的なメディア（図面、模型、映像、小論文等）を各自選択する。

4．総合評価：前期、後期末に総合講評をおこなう。

例年、前期はテーマ別に数人のグループをつくって共同で作業を行う。後期は各個人のテーマをより突き詰め、それぞれで作業を進めることとする。ただし、年度によって作業の進め方を変更することもある。

【授業の目標】

自ら設定したテーマについて調査・分析し、それに対する具体的提案を提示する。

【授業計画】

ゼミ期間中を通して以上1→4の流れで授業を進めて行く。

【評価方法】

プレゼンテーションと、その過程の発表、レポート等の提出物、出席状況等を評価の対象とする。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

都市環境デザイン演習Ⅰa・b

高橋敏郎

【授業の概要】
「コンセプトの無いデザイン」はありえない。私たちを取り巻く家具、調度品、室内、建築、都市すべてが何らかの意図を持ち関わり合い空間を構成している。この演習では、設定されたテーマあるいは自分の関心を持ったテーマについて基礎知識を習得し、また、作品を見ることから設計・デザインの方法論、デザインの手がかりを解読することによって独自のデザインの切り口を見つけようとするものである。特に室内の家具や調度、室内空間、室内気候と人間の関わり、建築内部と外部空間の関わり、都市と建築の関わりなどに着目し、資料収集、調査・観察、分析を行い、設計に結びつけてゆきたい。

【授業の目標】
人間工学、家具、インテリア、空間についての基礎知識の習得とプレゼンテーションテクニックを習得し、作品化できること。卒業研究についての自分のテーマが設定でき、資料収集・調査の計画が立案できること。

【授業計画】
前期
1．建築と室内の現代デザイン思潮、人間工学と家具、インテリア、空間についての基礎知識の習得。
2．共通課題の設計（個人）、プレゼンテーションテクニックの習得。
3．作品の発表と討論会。

後期
1．共通課題の設計（個人）。共通課題に必要な基礎知識の習得
2．a）卒業研究についての各自でテーマ設定の仕方について
2．b）各自の設定したテーマについて資料収集・調査を行い、収集した情報を分析する
2．c）分析結果を踏まえ、研究または設計計画書を作成する
2．d）計画書の発表と討論会

【評価方法】
計画書、成果物、プレゼンテーションにより評価。

【テキスト】
特になし。必要に応じプリント教材を配布する。

【参考文献・資料】
目を養い手を練れ（彰国社）
建築のかたちと空間をデザインする（彰国社）

都市環境デザイン演習Ⅰa・b

垂井洋蔵

【授業の概要】
建築を設計するということは、「意味に形を与える」ということであるといえる。形態や様々な記号の操作の前に、その建築が存在する場所の意味、さらにそこに企画しようとする建築の意味の本質、そしてそこにどのような場所と空間を生み出そうとするのかという明快な論理性を物としての建築の全体と部分が持っていなければならない。建築をデザインする上での基本となるこうした思考方法を建築を学び始めた学生諸君に様々な建築思潮、作品の分析、実際の制作行為を通して学んでもらうことを目的とする。

【授業の目標】
教員とのディスカッションの中で、建築を設計する上で基礎となる理論的な知識を得る。

【授業計画】
1）建築論、空間論に関する基本的文献の紹介と解説を行う。
2）現代建築の作品をいくつか取り上げ、見学し、実際の体験と観察を通して、その解読と分析を試みる演習を行い、制作者の意図と建築空間の連関について学ぶ。
3）小規模な設計課題にとりくみ、設計意図の明確化、コンセプトの建築形態への具体化とデザインを学ぶ。
4）夏期に現代建築作品の見学研修旅行を行なう。

以上の過程で、演習Ⅱ、卒業論文、設計へと発展する各自のテーマが見出せるように指導したい。

【評価方法】
課題への取り組み、発表、成果を総合評価する。

【参考文献・資料】
参考文献として
人間と空間（O.F.ボルノウ　せりか書房）
かくれた次元（E.ホール　みすず書房）
その他いくつかの文献や論文を演習中に提示します。

都市環境デザイン演習Ⅰa・b

日色真帆

【授業の概要】
自分たちの居住環境を形成している、室内、建築、都市というそれぞれスケールの異なる空間について、現実の体験や観察の記述、図面やその他の視覚的な表記法、模型、写真、創作的な物語、コンピュータシミュレーションなど、さまざまなメディアを利用して、解読し評価することを学習する。調査や実験の方法についても一連の作業の中で習得する。特に都市住居を見直す視点からアプローチする。

【授業の目標】
都市や建築の空間のデザインについて知見をひろめ、各自が焦点を当てて考察を深める方向性を定める。

【授業計画】
演習の進め方は、受講者と議論の上具体的に決めることとするが、「目標をたて、調査や実験をし、プレゼンテーションをする」という一連の作業を、数セット行うこととする。大学院生や4年生の研究テーマと関連づけて行うこともある。
・イントロダクション：居住空間を解読する視点を概説する。様々な分析手法についても解説する。
・見学：対象とする地域について見学をし議論を深める。
・調査・実験：各自が関心をもった側面について、それぞれ調査・実験を行う。
・中間発表会：調査・実験の経過について発表をし講評を受ける。
・調査・実験の追加およびプレゼンテーション作業
・講評会
・プレゼンテーション追加作業：講評会での批評をもとにプレゼンテーションの追加作業を行う。

【評価方法】
プレゼンテーションと提出されたレポートによって行う。

【テキスト】
特になし。

都市環境デザイン演習Ⅰa・b

吉田邦彦

【授業の概要】
建築設計に関わる下記の項目に関するテーマを取り上げ、調査・分析・検討する。
・建築の設計プロセス
・建築設計におけるCAD・CGの機能や表現力の可能性
・情報技術（IT）革命の建築（住宅・オフィス・図書館など）への影響
・建築（大学キャンパスやオフィスなど）の評価
・サスティナブル・デザインの手法

検討結果をもとに今後の変化の方向あるいは望ましい将来のあり方や方法を考察・提案する。

【授業の目標】
各自が自主的にテーマを取り上げ、調査・分析・検討し、その結果を発表する。これらの一連の作業を通して、調査・分析・評価・表現のための技術を習得する。

【授業計画】
（1）テーマ設定：各自が関心を持ったテーマについて発表、討論の上、設定する。内容や方法によっては、2～3名でグループを編成する。
（2）演習実施計画の作成と発表：取り上げたテーマについて、どのような観点、方法、スケジュールでアプローチするかをとりまとめた実施計画書を作成・発表し、討論する。
（3）調査・分析あるいは制作の実施：文献調査、現地調査、アンケート調査、ヒヤリング調査など適切な手法で調査し、結果の分析を行う。また、CAD・CG等による制作を通して、検討する。作業は、各人が自主的に行い、その経過を随時報告し、全員で討議する。
（4）発表及び講評：各グループ毎に調査・分析・制作の結果についてプレゼンテーションを行い、討議・講評を受ける。講評会での討議をもとに、追加・修正作業を行い、最終報告書のとりまとめを行う。

【評価方法】
成績評価は、出席状況、討論への参加状況、研究発表の仕方、報告書の内容などを総合して行う。

【テキスト】
特になし。必要に応じてプリント教材を配布する。

都市環境デザイン演習Ⅱa・b

渥美正子

【授業の概要】

演習Ⅰを基に、さらに、それらを発展させていくことにより、論文としてまとめていく。

【授業の目標】

それぞれのテーマに関連する文献、論文の収集を行い、オリジナルな視点を設定する。居住者調査やヒヤリング調査等、自らの足で動き現状を客観的に把握し、得られたデータを分析していくことにより、提言（含　平面プランの提案）に結び付けていく。

【授業計画】

次のようなことをふまえ、進めていく。

（1）テーマの設定

研究テーマを設定した目的・意義を明確にする。

（2）研究論文の書き方

（3）関連文献・論文の収集

（4）居住者調査等の方法

調査対象の設定、調査票の作成、集計結果の分析

（5）全員による討論

各人、個別にテーマを設定するが、全員での議論をもとに進めることを原則としている。したがって、他のメンバーの研究に対しても、全員で積極的に意見を出し合う。

【評価方法】

授業への出席状況、テーマへの取り組み状況、討論への積極性、研究発表の内容を総合して行う。

都市環境デザイン演習Ⅱa・b

河辺泰宏

【授業の概要】

デザインと建築の歴史、建築と都市の造形、現代のデザイン状況等に関連したテーマを扱った文献のサーヴェイリポートとフィールドワークを中心とした演習を行う。

本年度の主な課題としては、とくに西洋建築史や古建築の保存と再生に関わる文献講読等を考えている。

このほか、各個人の研究テーマを設定し、随時研究報告を行う。

【授業の目標】

事例研究を通じて歴史的遺産の保存と再生の現状や問題点を把握する能力を養う。

【授業計画】

文献講読やフィールドワーク等にあたっては、持ち回りで担当者を決めて準備・報告を行う。また、年度末の研究報告会は口頭試問として行うので、必ず参加しなければならない。

なお、3年生の演習Ⅰで研修旅行やフィールドワークを行うが、4年生も希望があればその都度、自主的に参加することができる。

【評価方法】

授業・見学会・調査活動等への参加状況とレポート、論文発表の内容と口頭試問の結果によって決める。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

必要に応じて参考資料を配布。

都市環境デザイン演習Ⅱa・b

齋藤基之

【授業の概要】

都市環境デザイン演習Ⅰで各自が設定したテーマに基いて内容を発展・深化させるとともに、詳細な実施計画をたて、それを遂行し、卒業論文・卒業制作としてまとめる。

【授業の目標】

卒業論文・制作における提案・結論に到るまでの思考を整理することにより、論理的思考力を身につけるとともに、それを人に伝える（プレゼンテーション）能力を養う。

【授業計画】

授業の進め方は、都市環境デザイン演習Ⅰに準じる。

前期は主に、調査や実験の遂行に必要な基礎知識やノウハウ、得られたデータの解析方法等について指導する。

後期では、研究成果のプレゼンテーション（論文執筆や図面・模型の制作など）の充実に重点を置いた指導を行う。

【評価方法】

卒業論文・卒業制作に向けての取り組み状況、途中経過の発表、報告書等の提出物、討議への参加状況、出席状況により総合評価する。

【テキスト】

特になし。

都市環境デザイン演習Ⅱa・b

清水裕二

【授業の概要】

都市環境デザイン演習Ⅰのテーマ（建築や都市を通した現代社会の事象や問題についての考察）をふまえ、それらを発展、深化させるかたちで卒業制作や卒業論文へとつなげることを目指す。

授業の進め方としては、都市環境デザイン演習Ⅰに準じる。

【授業の目標】

都市環境デザイン演習Ⅰと同様、自ら設定したテーマについて調査・分析し、それに対する具体的提案を提示することが目標であるが、卒業制作、卒業論文としては、社会性をもったテーマ、提案が望ましい。

【授業計画】

基本的には都市環境デザイン演習Ⅰに準じる。

【評価方法】

最終成果物（卒業製作・卒業論文）と、その過程の発表、レポート等の提出物、出席状況等を評価の対象とする。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

都市環境デザイン演習Ⅱa・b

高橋敏郎

【授業の概要】
演習Ⅰで学んだ事項を基礎に、昨年度各自が設定したテーマについて作業をすすめ卒業設計、卒業論文に結びつけていく。具体的には資料収集、調査・観察、分析を行い研究レポートを提出、教員との議論、ゼミ全体での討議を経て計画書を作成する。これらの作業の中から設計・デザインの方法論、デザインの手がかりを解読することによって独自のデザインの切り口を見つけ卒業設計や卒業論文に結びつけてもらいたい。前期にはこれらの作業と平行して設計課題も行い設計に必要な知識、技術の習得をも目指す。

【授業の目標】
人間工学、家具、インテリア、空間などについての各自のテーマに沿って資料収集・調査、分析を行い、論文、設計、制作として完成させること。

【授業計画】
前期
1．各自のテーマの設定。資料収集、調査、観察を行いレポートを作成する。
2．共通課題の設計（個人）、プレゼンテーションテクニックの習得。
3．作品の発表と討論会。
後期
1．作品の発表と討論会（第二回）。
2．研究または設計計画書を作成する。
3．補足の資料収集・調査を行い、収集した情報を分析する。
3．分析結果を踏まえ、計画書を加筆、研究または設計へと展開する。
4．論文または設計としてまとめる。
5．研究または設計の発表と討論会。

【評価方法】
計画書、成果物、プレゼンテーションにより評価。

【テキスト】
特になし。必要に応じプリント教材を配布する。

【参考文献・資料】
同上

都市環境デザイン演習Ⅱa・b

垂井洋蔵

【授業の概要】
原則的には昨年度各自が設定したテーマに基づいて、卒業設計・論文としてまとめる為の修正、テーマの絞込み、内容の深化をめざす。既存の類似作品の分析を通して、独自性のある視点を開発すると同時に、コンセプトの明確さ、計画的確性や空間・造型の論理性等、卒業設計をまとめる上で必要な見識を修得する。

【授業の目標】
自らの選んだテーマにそって、より深く学ぶための分析手法や設計の際しての思考方法を学ぶ。自ら学ぶという姿勢を身につける。

【授業計画】
1）昨年度演習Ⅰで各自が発表してきたテーマに関連した既存の作品や文献を提示します。
2）それとの比較の上で各自自分のテーマの絞込みと、新しい視点の設定を行う。
3）各自のテーマを進める上で、どのような調査や資料が必要かを整理する。
4）卒業設計又は卒業論文骨格を整理した予備的なレポートを提出して発表し全員で議論する。
5）卒業設計あるいは論文としてまとめるための個別指導を行う。
6）建築作品の見学と分析のためのフィールドワークを行なう。

【評価方法】
途中の発表と積極性、最終的な作品又は論文の内容で評価します。

【テキスト】
テーマごとに必要な文献や論文を提示します。

都市環境デザイン演習Ⅱa・b

日色真帆

【授業の概要】
建築や都市空間のデザインに関連して、教員と議論の上、学生がそれぞれに選択したテーマについて分析、調査、実験、考察を加え、研究レポートを作成する。デザイン的な提案をまとめる場合もある。この演習を通して各自テーマを絞り込み、卒業研究へと結びつけてもらいたい。

【授業の目標】
各自のテーマについて考察を深め、最終的に研究成果をまとめあげる。

【授業計画】
受講者と議論の上具体的にテーマを決めるが、教員が掲げている最近のテーマは以下のようなものである。

・街区内のヴォイド空間の調査と提案
・都市空間のオープンスペースについての研究
・現代の囲われた庭について
・デパートなど商業空間におけるwayfindingの研究
・空間の表記方法「スペースブロック」の開発
・出来事の表記方法「イベントピクトグラム」の開発
・場面のデザインの視点から見た各種デザインの比較
・映画や演劇における場面デザインの分析
・回遊式庭園のwayfindingの分析
・ハイパーテクストのwayfindingの分析
・建築空間の転用に関する研究
・立体的に複雑な建築空間のデザインについて
・都市空間の緑化についての研究

【評価方法】
評価は、研究レポートとそのプレゼンテーションによって行う。

【テキスト】
特になし。

都市環境デザイン演習Ⅱa・b

吉田邦彦

【授業の概要】
演習内容については、演習Ⅰを継続し、範囲を拡げるか、あるいは深く調査・検討する。今後の情報化・長寿化及び環境型社会などの動向への対応と問題点の解決方法についても検討する。

【授業の目標】
各自が自主的にテーマを取り上げ、調査・分析・検討し、その結果を発表する。これらの一連の作業を通して、調査・分析・評価・表現のための技術を習得する。

【授業計画】
演習の進め方は、演習Ⅰの方法を引き継ぐ。特定テーマについて、グループでの研究あるいは個人単位での研究を行う。研究論文としての形式、内容を重視した視点からの討議、講評を行う。

【評価方法】
成績評価は、出席状況、討論への参加状況、研究発表の仕方、報告書の内容などを総合して行う。

【テキスト】
特になし。必要に応じてプリント教材を配布する。

教職入門

後口伊志樹

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途や、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定するための情報と機会を提供したい。

【授業の目標】

現在の教育現場で、教師や生徒たちが置かれている状況を知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極めるための機会を提供したい。

【授業計画】

1　教育とは何か
2　近代学校教育制度の変遷
　（1）第一の教育改革
　（2）第二の教育改革
　（3）第三の教育改革
3　教師に求められる資質能力
　（1）いつの時代にも求めらる資質能力
　（2）今後特に求められる資質能力
4　教師の資質能力の形成諸段階
　（1）養成段階
　（2）採用段階
　（3）現職研修段階
5　教職員の職種・職務
6　教員の一日・一学期・一年の仕事
7　まとめ

【評価方法】

コメント・カード、期末考査及び出席率を総合する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

教職入門

小栗正彦

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審などの答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業の目標】

現在の教育現場で、教師や生徒たちが置かれている状況を知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極めるための機会を提供したい。

【授業計画】

1　学生たちの被教育体験
2　「教職入門」が必修化された時代背景
3　教師の一日、一年（教師の仕事）
4　いまの生徒たちが育ってきた社会とは
5　教育現場のいま（学級崩壊、いじめ、不登校など）
6　教職の意義とは何か
7　教員養成の歴史
8　学校、教師をとりまく諸制度
9　教育問題に関するいくつかの判例から学ぶ
10　教師になるためには（教員採用試験について）
11　生徒たちの進路と教師の役目（教科と教師）

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

「教育関係　基礎資料集」
必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教師論

佐藤実芳

【授業の概要】

日本おける明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業の目標】

日本の教員養成の歴史を理解した上で、現在の教員の養成、採用の仕組み及び教員に求められている資質や能力等について理解すること。

【授業計画】

1．日本における教員養成の制度
　（1）教員養成の歴史と現在
　（2）教職課程の仕組
　（3）教員の採用
2．教師について考える
　（1）教科指導
　（2）生徒指導
　（3）教員の研修
3．種々な教師に学ぶ

【評価方法】

課題の提出、学習及び受講態度により評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育原理

佐藤実芳

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐり様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

・教育を受けるという立場だけではなく、教職課程を履修し教職をめざすという立場で教育をするという視点から学校とは何か、教育とは何かを考え理解すること。
・教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

【授業計画】

1．教育とは何か
2．人間と教育
　動物学からみた人間の特殊性/人間の成長と環境/教育の重要性/人間形成の場
3．教育の本質
　注入主義（ソフィスト～本質主義）/開発主義（ソクラテス～進歩主義）
4．教育の目的
　教育目的とは/教育目的の歴史的変遷（古代ギリシャ～現代）
5．現代の教育

【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度により評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育原理

五島敦子

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐり様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

教職教養課程の基礎科目として、主要な教育思想を理解して覚えるとともに、戦後日本の教育改革の理解を通じて、「学ぶ側」でなく「教える側」として学校教育をとらえる視点を養う。

【授業計画】

1．教育をめぐる二つの考え方
2．戦後日本の教育と社会
（1）戦後新教育とその修正
（2）高度経済成長と受験戦争・落ちこぼれ
（3）校内暴力からいじめ・不登校へ
（4）「普通の子」の事件・学級崩壊
3．現代日本の教育問題
（1）ゆとりと新しい学力観
（2）教育改革のモデル
（3）問われる改革の内容

【評価方法】

定期試験、授業内小テスト、出席状況による総合評価

【テキスト】

やさしい教育原理（田嶋一他　有斐閣アルマ）

【参考文献・資料】

窓ぎわのトットちゃん（黒柳徹子　講談社）
教育改革の幻想（苅谷剛彦　ちくま新書）
不良少年の夢（義家弘介　光文社）

教育思想史

梅村敏郎

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなくて、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあろうが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業の目標】

17世紀以来の西洋の代表的な教育思想家が現代教育にどのような影響を及ぼしたかを調べることによって、現代教育の思想的基盤について一層の理解を得ることを目標とする。

【授業計画】

1．教育思想史を勉強することの意義
2．教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3．コメニウス
4．ルソー
5．ペスタロッチ
6．ヘルバルト
7．フレーベル
8．デューイ
9．教育思想と教育実践

【評価方法】

評価は資料持ち込み自由の筆答試験による。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

欧米教育文化史

渡辺かよ子

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」の意味を、子どもの生活の変遷に着目しつつ、比較教育史的に明らかにし、今日の世界の教育文化と教養の問題を検討する。

【授業の目標】

西洋教育史の概要を子どもの生活との関連から理解する。

【授業計画】

1．欧米教育文化史の視点と課題
2．中世後期の欧米教育文化とルネサンス、宗教改革
3．近代教育文化の生誕と展開（啓蒙思想と市民革命、産業革命）
4．大学の誕生と展開
5．西洋的教養と学校制度の確立
6．欧米教育文化と今日の世界の教育

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

子どもの教育の歴史（江藤恭二他編　名古屋大学出版会）

【参考文献・資料】

子供とカップルの美術史（森洋子　日本放送出版協会）
歴史のなかの子どもたち（森良和　学文社）
教養の復権（沼田裕之他　東信堂）

教育心理学Ⅰ

冨安玲子

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害のある幼児、児童、生徒への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

【授業の目標】

発達についての理解や行動形成への関わり方について、教育する立場に立って考えていくこと。

【授業計画】

1．教育の機能と教育心理学の位置づけ
2．生涯発達の視点
3．障害のある幼児、児童、生徒の理解と発達可能性
4．発達段階と発達課題
5．認知の発達を通しての人間理解
6．学習の成立過程
7．学習における知識の役割
8．学習意欲を育てる

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学Ⅰ

小池理穂

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

【授業の目標】

教育に対して、教育心理学が求められている点、教育心理学が担っている役割、提供できる知識・技術を理解する。その上で、自己を見つめ、自分の教育観を考える。

【授業計画】

1．教育心理学を学ぶということ
　・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2．発達について考える
　・生涯発達の視点
　・障害の意味と発達可能性
　・発達段階と発達課題
　・認知の発達
3．学習の過程を考える
　・学習の成立過程
　・学習における知識の役割
　・学習意欲を育てる
　　外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐって/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

加藤文子

【授業の概要】

特殊教育から特別支援教育へと移行し、障害をもつ生徒への指導が、従来の特殊教育諸学校から、一般学級に在籍する障害児に対しても指導の場が拡大されてきた。このことから障害児の教育に対しても広く学ぶ必要性が生じ、今後教職に就く者にとって障害児の理解を深めていくことが大切である。

【授業の目標】

それぞれの障害の発生原因、障害の特殊性を理解し、個に応じた発達促進を計る為に学校教育では、どのように配慮する必要があるか理解する。

【授業計画】

1 現在の障害児教育の実際を概略理解する。
2 心身障害児の種類と障害の程度について理解
　特別支援教育諸学校に在籍する障害児について
　一般学級に在籍する障害児について
3 心身障害児の早期発見・早期教育の必要性について理解
4 社会自立に向けた後期中等教育の必要性とその実状について理解
5 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

教育心理学Ⅱ

冨安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日的問題への理解を深めていきたい。

【授業の目標】

自分自身の自己形成のプロセスへの関心を深め、自己理解を促進すること。

【授業計画】

1．発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2．青年期の意味
3．発達と教育
4．「自分」の諸相
5．「自分でない」世界の認識から
6．第一「反抗」期の意味
7．自我と他我
8．他律的規範への順応
9．第二の誕生
10．アイデンティティの確立
11．生涯発達の視点と生き方
12．自分探しの旅と人間関係

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育制度

佐藤実芳

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史的変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】

・教育制度の基本的な事項について理解すること。
・日本の学校教育制度の歴史的変遷について理解すること。
・現在の日本の教育制度について、教育法規に基づいて理解すること。

【授業計画】

1．教育制度の意義
2．現代学校教育制度の起源
3．学校教育制度の類型
4．日本の学校教育の変遷
5．現在の日本の学校教育制度と教育行政制度
6．外国の学校教育制度

【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度により評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育制度

五島敦子

【授業の概要】
社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史的変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】
学校教育制度の類型を、世界の教育改革の進展状況を比較考察しながら理解するとともに、教育法規については、教員の服務と義務に焦点をあて、教員としてふさわしい行動に対する判断力を身につける。さらに、グループ・ワークを通じて、教育制度に関する関心を深め、意見をまとめて発表する力を養う。

【授業計画】
1．教育制度の概観
（1）学校教育制度の類型
（2）教育段階とその課題
2．諸外国の教育制度
（1）欧米諸国の教育改革
（2）アジア諸国の教育改革
3．教育法規と教育行政
（1）日本国憲法・教育基本法・学校教育法
（2）教員の服務と義務
4．グループ研究発表

【評価方法】
定期試験、レポート、グループ・ワークによる総合評価（出席を重視する）

【テキスト】
やさしい教育原理（田嶋一他　有斐閣アルマ）

【参考文献・資料】
世界の教育改革（佐藤三郎編　東信堂）
「超」教育（グリーンバーグ　一光社）

学級経営

前田勝洋

【授業の概要】
学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業の目標】
教師の資質の一つである「学級経営」の進め方の方法を、具体的な事例研究によって、実証的に学ぶことをめざす。

【授業計画】
小学校、・中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていきたい。
（1）学級づくりと学級こわしの関係
（2）生徒理解と学級担任の役割
（3）共感的学級経営の実践
（4）成就型教育観と参加型教育観
（5）学級担任と言葉の問題
（6）カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営
以上のような視点を軸にしながら、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

【評価方法】
毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

【テキスト】
後日、必要に応じて採用し、活用する。

比較教育論

渡辺かよ子

【授業の概要】
進展する国際化・情報化の中にあって、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は自らが社会問題であると共に、貧困や不平等などの社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育制度と教育状況の比較を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

【授業の目標】
各国の教育制度や教育事情を日本との比較から検討し、日本の教育の特徴と課題を理解する。

【授業計画】
1．比較教育学の基礎理論
2．社会発展論と教育
3．近代化と各国の教育制度（識字と就学）
4．「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5．近現代日本の教育制度の成立と特徴
6．文化と教育、異文化交流としての教育
7．人権としての教育
8．比較教育と教育改革

【評価方法】
レポート。

【テキスト】
世界の学校：教育制度から日本の学校風景まで（二宮皓編著　学事出版）

【参考文献・資料】
比較国際教育学（石附実編著　東信堂）
世界の学校（二宮皓編著　福村出版）
多文化教育（中島智子編著　明石書店）
学歴社会　新しい文明病（ドーア著　岩波書店）
被抑圧者の教育学（フレイレ著　亜紀書房）
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著　中公新書）
世界の教育開発（米村明夫　明石書店）

教育課程

後口伊志樹

【授業の概要】
特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程（カリキュラム）について学習する。
なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業の目標】
教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

【授業計画】
1　教育課程とは
（1）教育課程研究の重要性
（2）教育課程の編成原理
2　教育課程の歴史的変遷
（1）戦前の教育課程
（2）戦後の教育課程
ア　学習指導要領第一次改訂
イ　学習指導要領第二次改訂
ウ　学習指導要領第三次改訂
エ　学習指導要領第四次改訂
オ　学習指導要領第五次改訂
カ　学習指導要領第六次改訂
3　改訂学習指導要領の普及化
（1）伝達講習（ブロック、県、各学校）
（2）実践研究指定校制度
4　現行学習指導要領総則編（小・中・高）
5　現行教育課程の事例検討（小・中・高）
6　教育課程編成の構成要件
7　教育課程研究と教師

【評価方法】
コメント・カード及び期末考査、出席率を総合する。

【参考文献・資料】
授業時に紹介または配布する。

教育課程

小栗正彦

【授業の概要】
特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。
なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業の目標】
教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

【授業計画】
1　学生たちの経験した授業の数々
2　教育課程の哲学（思想）…アメリカにおける教育課程の考え方の歴史
3　教育課程の構造（編成）と法
4　近代日本の教育課程の歩み
5　戦後の教育課程変遷史（「学習指導要領」改訂の歴史）
6　新教育課程（1998年改訂の学習指導要領）を学ぶ
7　新教育課程の問題点１（ゆとり、学力低下問題、「生きる力」とは）
8　新教育課程の問題点２（「総合的な学習の時間」、「情報」）
9　新教育課程の問題点３（あたらしい実践の数々に学ぶ）
10　新教育課程の問題点４（小学校の英語教育を考える）
11　教育課程をどう編成するか（構成要件、基本原則）
12　各国にみる教育課程

【評価方法】
課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】
「教育関係　基礎資料集」
必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】
授業時に紹介する。

社会科教育法Ⅰ

小栗正彦

【授業の概要】
小学校社会科の教育課程の概要を解説し、中学校社会科の教育課程の構造について理解を深める。日本と関係の深い国々について学習することによって日本の国土について理解を深める。新鮮なテーマを教材とする。

【授業の目標】
中学校における地理的分野、歴史的分野、公民的分野の授業が十分展開できるように、基礎的学力を身につけること。

【授業計画】
1．「社会科」の成り立ち（「地歴科」「公民科」とのかかわりの中で）
2．地理的分野、歴史的分野、公民的分野の目標
3．世界と日本の地域構成
4．世界史の中の日本（その歴史的特色について）
5．情報化社会の中のくらし
6．世界の平和と、わが国のはたす役割

【評価方法】
課題（指導案など）の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】
「中学校学習指導要領（社会科編）解説」（文部科学省）
地図帳並びに年表は必携（なお年表は高校時代に副教材として使用していた図説に付いているものでよい）。
各自が高校時代に使用していた教科書（地理、世界史、日本史…Ａ、Ｂのどちらでもよい）と副教材として使用していた図説。

【参考文献・資料】
授業時に紹介する。

社会科教育法Ⅱ

小栗正彦

【授業の概要】
社会科教育法Ⅰに同じ。

【授業の目標】
中学校における地理的分野、歴史的分野、公民的分野の授業が十分展開できるように、基礎的学力を身につけること。

【授業計画】
1．新教育課程の中の「中学校社会科」
2．地図の「読み方」（模擬授業）
3．歴史の流れをわかりやすく生徒に教えるための教案づくり
4．紀元前後、４世紀、８世紀、10世紀、13世紀の世界と日本（模擬授業）
5．戦国時代がはぐくんだ文化（模擬授業）
6．「15年戦争」の意味
7．日本国憲法の成り立ち（模擬授業）
8．高度経済成長のもたらしたもの（指導案づくり）
9．少子化時代の日本、情報化社会の下での日本（指導案づくり）

【評価方法】
課題（指導案など）の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】
「中学校学習指導要領（社会科編）解説」（文部科学省）
地図帳並びに年表は必携（なお年表は高校時代に副教材として使用していた図説に付いているものでよい）。
各自が高校時代に使用していた教科書（地理、世界史、日本史…Ａ、Ｂのどちらでもよい）と副教材として使用していた図説。

【参考文献・資料】
授業時に紹介する。

公民・社会科教育法Ⅰ

不破民由

【授業の概要】
中学校社会科の公民的分野を視野にいれて、高等学校学習指導要領（公民科）の構成とその目的を学習し、民主主義社会の担い手としてふさわしい資質の育成をめざす。「現代社会」の授業においては、中学校社会科の公民的分野を発展させて、現実的・具体的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書（現代社会）を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業の目標】
1．新聞記事の切抜きを作り、要約し、コメントを入れて発表することで現代社会の諸問題についての関心を高めるとともに、新聞を用いた授業の方法を身につける。同時に、新聞記事やマスコミ報道そのものに対する批判的な目も養うことの重要性に気づく。
2．日本における公民教育の変遷をたどり、その問題点と課題を考察する。
3．できるだけ、生徒の関心のある身近な話題から出発し、より大きな問題へと目を開いていけるような指導法を工夫する。
4．ディベート・立場討論・シュミレーションなどの手法を用いた授業の手法を身につける。
5．グループによる模擬授業を計画・立案・実行することで、より実践的な公民科教育の能力をつけるとともに、お互いが授業の評価をしあうことで反省し、授業の力量を高める。
6．個人による指導案の作成によって、授業のまとめを行う。

【授業計画】
1．公民科設定の趣旨と基本理念に基づいて、「公民の概念」と「公民として資質」を育む公民教育について、中学校社会科の公民分野との関連にも留意し学習する。
2．「総合的な学習」を視野にいれ、特に「現代社会」の新しい課題として平和教育、人権教育、環境教育を取り上げ具体例に基づいて考察する。
3．「現代社会（公民科）」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4．各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、授業の在り方を考察する。

【評価方法】
模擬授業・指導案・新聞記事の切抜きを中心に評価します。出席や普段の授業参加状況も参考にします。

【テキスト】
高等学校学習指導要領解説　公民編（文部省　実教出版予価230円）
現代社会（高等学校教科書　一橋出版　予価580円）

【参考文献・資料】
近代日本の公民教育（松野修　名古屋大学出版会）
人生の教科書〔よのなか〕（藤原和博　宮台真司　ちくま文庫）
21世紀「社会科」への招待（魚住忠久　山根英次共編　学術図書出版社）
続　手に取る公民・現代社会教材（全国民主主義教育研究会編　地歴社）
新「ウソッ」「ホント」からはじまる公民学習（河原和之　日本書籍）
イミダス（集英社）等、時事用語集
日本の論点2006（文藝春秋社）

公民・社会科教育法Ⅱ

不破民由

【授業の概要】

「倫理」及び「政治・経済」の学習を通して、深い洞察力をそなえた民主的な行動と実践ができる人間の育成をめざす。「倫理」及び「政治・経済」の授業においては、特に今日的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書（倫理、政治・経済）を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

【授業の目標】

1．各自のゼミ論・卒論等のテーマ設定の簡単なプレゼンを行い、それぞれの問題意識を共有し、高等学校の「倫理」や「政治・経済」での取り扱いとの関連を考える。
2．ルソーやアダム・スミスなど18世紀の思想家たちやヴェーバーなどがもっていた「倫理」的課題と「政治・経済」的課題の関連について考察し、高度に専門化した現代においても、根にこうした関連性を持つべきであることを認識する。
3．日本社会の特質を「世間」と「社会」の比較から考え、西欧の哲学や社会諸科学の概念導入における問題点を考慮できるようにする。
4．できるだけ、生徒の関心のある身近な話題から出発し、より大きな問題へと目を開いていけるような指導法を工夫する。
5．ディベート・立場討論・シュミレーションなどの手法を用いた授業の手法を身につける。
6．グループによる模擬授業を計画・立案・実行することで、より実践的な公民科教育の能力をつけるとともに、お互いが授業の評価をしあうことで反省し、授業の力量を高める。
7．個人による指導案の作成によって、授業のまとめを行う。

【授業計画】

1．学習指導要領が目指す高等学校公民科の「倫理」及び「政治・経済」の目標と内容について概説する。
2．生涯学習にも深いかかわりをもつ自己指導能力の育成を目的とする「倫理」と、現代における政治、経済、国際関係等の諸課題について公正な判断力を養うことを目標とする「政治・経済」について中学校公民分野との関連にも留意しつつ、具体例に基づいて考察する。
3．「倫理」及び「政治・経済」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4．各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、創造的な授業の在り方についても考察する。

【評価方法】

模擬授業・指導案・プレゼンを中心に評価します。出席や普段の授業参加状況も参考にします。

【テキスト】

政治・経済（高等学校教科書　教育出版　予価435円）
倫理（高等学校教科書　教育出版　予価435円）

【参考文献・資料】

思想としての近代経済学（森嶋通夫　岩波新書）
社会認識の歩み（内田義彦　岩波新書）
プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神（M.ヴェーバー　岩波文庫）
世間とは何か（阿部謹也　講談社現代新書）
哲学入門１～４（フルキエ　ちくま学芸文庫）
哲学の教科書（中島義道　講談社学術文庫）
逝きし世の面影（渡辺京二　平凡社ライブラリー）
イミダス（集英社）等、時事用語集
日本の論点2006（文藝春秋社）
等

地歴・社会科教育法Ⅱ

小栗正彦

【授業の概要】

「地歴・社会科教育法Ⅰ」で行った、中学校社会科地理的分野・歴史的分野、及び高校の世界史B、日本史B、地理Bを足場にして、学生が自ら授業案を作成し、模擬授業を行う。

何回か模擬授業を行った後に、その「授業案」の内容と、模擬授業について、皆で検討会をする。

なお、「地歴・社会科教育法Ⅰ」の時間に出来なかった「文化」については、ここで行う。

【授業の目標】

中学・高校における社会科（地理的分野、歴史的分野、公民的分野）、地歴科の授業が十分展開にできるように、基礎的学力を身につけること。

【授業計画】

1．「歴史の学び方」について（講義）
2．「紀元前後、４世紀」の世界史に関するわかりやすい授業案の作成と模擬授業
3．「８世紀、13世紀」の世界史に関するわかりやすい授業案の作成と模擬授業
4．市民革命や産業革命とは何か（この革命の前と後で社会はどう変わったか）に関する授業案の作成と模擬授業
5．　〃
6．奈良時代のわかりやすい授業案と模擬授業
7．「10世紀史」のわかりやすい授業案と模擬授業
8．戦国時代が育んだ文化（お伽草子のナゾ）
9．織豊政権時代のわかりやすい授業案と模擬授業
10．江戸時代の産業について、どのような授業案を作成するか
11．「戦争への道（十五年戦争）」をいかに授業するか
12．文化について（絵画の「読み方」講義
13．国家の成り立ち、領土、国境について（講義）

【評価方法】

模擬授業、教案（レポート）及び出席率などを総合して評価する。

【テキスト】

高校の時に使用した教科書、年表、地図帳は必携。

地歴・社会科教育法Ⅰ

小栗正彦

【授業の概要】

「地歴・社会科教育法Ⅰ」では、中学校社会科地理的分野・歴史的分野、及び高校の世界史B、日本史B、地理Bを中心に、もっとも授業でポイントになる（重要かつ生徒たちが理解し難い）部分を解説する。

まず、従来「社会科」として成立していた教科が、なぜ「地歴科」と「公民科」に分かれたのか。分けられた意味はどこにあるのか、そして分けられたことに関する問題点などについて考える。

ついで、日頃から中学、高校での授業中に、生徒たちが最も「難しい」と感じる部分をいくつか取り上げて、解説する。

【授業の目標】

中学・高校における社会科（地理的分野、歴史的分野、公民的分野）、地歴科の授業が十分展開にできるように、基礎的学力を身につけること。

【授業計画】

1．「地歴科」はどのような論議を経て登場したか
2．世界史の中の日本史（歴史的事項の同時代性について）
「紀元前後、４世紀、８世紀、13世紀」の世界史
3．イスラム世界がもたらしたもの（ユーラシアはどのように一体化されたか）
4．「ヨーロッパ」とはどのような世界か（ヨーロッパを生み出した力）
5．市民革命や産業革命とは何か（この革命の前と後で社会はどう変わったか）
6．「考古学」の面白さ（日本における旧石器時代の研究、弥生時代を学ぶ意味、卑弥呼の墓は）
7．7世紀史の学び方
8．平安時代を理解するために（10世紀史の学び方、荘園制）
9．幕末の世界史（ペリーの航跡・・・カリフォルニア金鉱の発見と日本の開国）
10．明治時代の学び方
11．昭和史の学び方
12．世界の気候・植生・土壌
13．人口と人口問題

【評価方法】

レポート、期末考査、出席率などを総合して評価する。

【テキスト】

高校の時に使用した教科書、年表、地図帳は必携。

情報科教育法Ⅰ

松薗重弘

【授業の概要】

本授業においては、高度情報化社会における学校教育における情報科教育の意義、役割を認識し、情報科の学習指導要領に示された教育の目的を理解するとともに、情報科担当者に要求される教育目標達成に必要な基礎的な知識、技能について実習を織りまぜながら学習する。授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。

教育実習に参加する学生がある場合には、授業計画を変更することがある。

【授業の目標】

一般教科「情報Ａ」、「情報Ｂ」、「情報Ｃ」の概要を理解する。

【授業計画】

1．情報科教育の史的展開と意義の概観
2．情報倫理、セキュリティの指導法
（1）情報科社会に正しく、主体的に参画する態度
（2）情報の受信と発信における個人の責任
3．高度情報化社会における職業倫理、職業観の指導法
（1）高度情報化の進展と職業及び職業人としてのあり方
（2）情報に関するスペシャリストに求められる諸資格
4．コンピュータ及び情報に関する基本的な知識・技能の指導法
5．情報システムの設計、管理、運用に関する知識・技能の指導法
6．情報通信ネットワークの構築、運用管理、活用に関する知識・技能の指導法
7．マルチメディアを活用した表現・処理に関する知識・技能の指導法

【評価方法】

提出された報告書により評価する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省　海隆堂出版　2000）
全員必須とする。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

情報科教育法Ⅱ

松薗重弘

【授業の概要】

本授業においては、情報科教育法Ⅰにおいて学習した事項について、授業者として、実際の学校の授業でどのように展開するかを学習することを目的として、効果的な授業を実施するに必要な、学習指導案、教材・教具の開発と活用、教育方法について、授業計画の作成と模擬授業を行ない実践的な学習を実施する。

授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。

【授業の目標】

専門教科「情報」の11科目についてその概要を理解する。

【授業計画】

1．情報Aの指導法
（1）教育目標と教育計画
（2）教材・教具の活用と開発
（3）学習指導案の作成と模擬授業の実践
2．情報Bの指導法
（1）教育目標と教育計画
（2）教材・教具の活用と開発
（3）学習指導案の作成と模擬授業の実践
3．情報Cの指導法
（1）教育目標と教育計画
（2）教材・教具の活用と開発
（3）学習指導案の作成と模擬授業の実践
4．専門教科「情報」の指導法
（1）教育目標と教育計画
（2）教材・教具の活用と開発
（3）学習指導案の作成と模擬授業の実践
5．総合的な学習の時間と情報化教育について、情報機器を活用した効果的な授業の具体的な展開
6．情報化技術の発展と学校における情報教育のあり方

【評価方法】

提出された学習指導案、レポート等により評価する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省　海隆堂出版　2000）
全員必須とする。（前期と同じテキストです。）

【参考文献・資料】

随時紹介する。

特別活動指導法

不破民由

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業の目標】

特別活動を歴史的・国際的に比較し、相対的に考えることができるようにする。
「読書タイム」や話し合いなどを通じ実践的に特別活動を考察する。

【授業計画】

1．自由度の高い特別活動の可能性…学習活動や生徒指導とのかかわりとともに、特別活動の独自な価値を考える。
2．特別活動の歴史的変遷…「どくとるマンボウ青春記」や森有礼を事例として近代日本の特別活動の変遷を具体的にイメージする。
3．学級活動…閉鎖的な空間であることによる団結力の向上というプラス面と、逃げれない息苦しさというマイナス面を考察する。
4．生徒会活動…特に、「校則」の見直しを考察し、日常生活における生徒会活動の活性化を重点化して考察する。
5．学校行事…学校行事の精選化の流れの中で、必要な学校行事とその取り組み方、計画方法を工夫する。
（1）儀式的行事　（2）学芸的行事　（3）健康安全・体育的行事　（4）遠足・集団宿泊的行事　（5）勤労生産・奉仕的行事　等

以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題としてとり入れる。

【評価方法】

2回のレポートを中心に評価する。出席・普段の授業の参加状況を参考にします。

【テキスト】

どくとるマンボウ青春記（北杜夫　新潮文庫）

【参考文献・資料】

特別活動（高旗正人・倉田侃司編著　ミネルヴァ書房）
教科外活動を創る（折出健二他編　労働旬報社）
<子供>の誕生　（フィリップ・アリエス　杉山光信・杉山恵美子訳　みすず書房）
教養主義の没落（竹内洋　中公新書）
立身出世主義（竹内洋　NHKライブラリー）
立志・苦学・出世（竹内洋　講談社現代新書）
日本の近代12　学歴貴族の栄光と挫折（竹内洋　中央公論新書）
近現代日本の教養論（渡辺かよ子　行路社）
学級経営の歴史（志村廣明　三省堂）
「勉強」時代の幕開け（江森一郎　平凡社）
<学級>の歴史学（柳治男　講談社選書メチエ）
運動会と日本近代（吉見俊哉他編　青弓社）
「校則」の研究（坂本秀夫　三一書房）
教育には何ができないか（広田照幸　春秋社）
教育学がわかる事典（田中智志　日本実業出版社）
教育に関する私の方法叙説（不和de民由　新風舎）

他

道徳指導法

伊藤昭道

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史的変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業の目標】

道徳教育の必要性を理解すると共に、教育実習で行う「道徳の時間」の指導が適切に行えるよう、その実際を体得する。

【授業計画】

1 道徳と道徳教育
2 児童・生徒を生かす道徳教育
3　公教育における道徳教育の歴史
・明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
・戦後の道徳教育の変遷
4　道徳性の発達理論と学校道徳教育
5　学校における道徳教育の実際
・道徳教育の目標
・道徳教育の内容
・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
・まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

講義資料を配布

【参考文献・資料】

授業の中で、必要に応じて紹介。

教育方法

霜田一敏

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業の目標】

人間回復の立場に立って、今日の教育状況を見直せる力量をつけ、具体的に学校や授業をどう展開したらよいか、その方法が考えられるようになる。

【授業計画】

1．人間回復の学力と教師の在り方
（1）中学・高校における学力論と教師論の検討
（2）生徒の思考の発展を目指す授業方法
（3）生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
（4）生徒の側に立った学習指導技術
2．情報機器及び教材の活用の方法
（1）情報機器の特色とその効果的な利用方法
（2）視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
（3）メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3．学習者にとって個を生かす学習集団とは
（1）多様化した生徒への対応の仕方
（2）中学校における個を生かす学習集団
（3）高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

子どもの側に立つ授業論（霜田一敏著　明治図書　2,370円）

生徒指導（進路指導を含む）

後口伊志樹

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点ではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指すという積極的な視点で考察する。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に追究する。

【授業の目標】

現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、飛行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

【授業計画】

1　生徒指導にかかる三つの基礎理論
（1）マスローの所論
（2）エリクソンの所論
（3）ロジャースの所論（ビデオ視聴）
2　生徒指導の四領域
（1）生活指導
（2）進路指導
（3）学習指導
（4）保健指導
3　特に開発的指導としての生活指導について
（1）日常的指導項目
（2）対症療法的指導項目
（3）計画的指導項目
4　特に在り方・生き方指導としての進路指導について
（1）進路指導にかかる今日的課題
（2）小・中・高という発達段階に応じた進路指導の在り方
（3）総合的な学習の時間を生かした進路指導の展開
5　まとめ

【評価方法】

コメント・カード、期末試験及び出席率を総合する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、飛行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

【授業計画】

1　いま学校では…
2　いまの生徒たちが育ってきた社会を見てみよう
3　「生徒指導の手引き」を読む（生徒指導の意義、「積極的」生徒指導とは、生徒指導の課題、生徒指導の基礎としての人間観）
4　青年期の心理と生徒指導
5　校則と生徒指導
6　教科と生徒指導
7　教育問題をドキュメントしたビデオを見て
8　新しい「荒れ」やいじめ、不登校についてどう対応するか
9　中・高校生徒の進路指導について（フリーター、ニート）

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

「教育関係　基礎資料集」
必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

冨安玲子

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えるとともに、カウンセリングの基礎知識学ぶ。

【授業の目標】

生徒の立場に立った生徒ー教師関係のあり方を考えながら、面接の進め方の実際を学び、さまざまな視点からの柔軟な対応の必要性を体得すること。

【授業計画】

1．今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2．「自分」は他者との関係の中で育つ
3．教師- 生徒の相互影響過程
4．生徒理解
5．学校における教育相談
6．教育相談の進め方
7．相談とカウンセリング
8．適応と不適応
9．問題行動のとらえ方とその対応
10．不登校を考える
11．いじめを考える
12．非行を考える

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

カウンセリング

冨安玲子

【授業の概要】

人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。それらを体験的に理解し、傾聴について学ぶ。

【授業の目標】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていくこと。

【授業計画】

1．教育相談とカウンセリングを巡って
2．カウンセリングの歴史
3．カウンセリングの人間観
4．カウンセリングの理論
5．カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6．共感的理解のエクササイズ
7．正確に「聴く」とは
8．カウンセリングの実際例
9．話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
10．応答訓練
11．ロールプレイ
12．カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

期末試験、ロールプレイ・レポート、授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

総合演習

小栗正彦　伊藤昭道　後口伊志樹　佐藤成哉　佐藤実芳
霜田一敏　冨安玲子　渡辺かよ子　羽場俊秀

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の９テーマに別れて演習を行なう。（各テーマ20名以内）

（１）学校におけるクライシス・マネージメントの問題（後口伊志樹）
（２）福祉－障害のある人も健常な人も共に生きるコミュニティについて－（伊藤昭道）
（３）みんなの学校問題（小栗正彦）
（４）人間と自然環境（佐藤成哉）
（５）社会と子育て（佐藤実芳）
（６）高齢者福祉の実態と未来（霜田一敏）
（７）ジェンダーと教育（冨安玲子）
（８）生涯学習における学校（渡辺かよ子）
（９）国際化を考える（羽場俊秀）

【授業の目標】

各先生方の示す課題に対して、自ら問題点を明らかにし、その解決に向けて調査・研究し、それを分かりやすく説明する（プレゼンテーション能力）スキルを学ぶ。

【授業計画】

※印は後期日程（於　星が丘）

１．全体、各テーマ別　８月11日　※１月31日
　（１）総合演習とは、これからのすすめ方
　（２）各テーマの概要説明（各担当者）
　（３）希望テーマ提出、テーマ別編成
　（４）各テーマ別に課題設定と学習法の指導
２．8月29日　※２月20日
　課題レポートの提出（必要部数の印刷）
３．各テーマ別　９月１日　※２月23日
　（１）課題レポートについて報告（１人10～15分）
　（２）質疑応答、問題点について討議
４．各テーマ別　９月２日　※２月24日
　（１）問題点について分析検討
　（２）グループとして課題について整理、代表者の選出
５．全体　９月８日　※３月２日
　（１）グループ代表者の発表（１名15～20分）
　（２）担当教員の指導
　（３）感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文、出席状況によって総合的に評価する。

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

伊藤昭道

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護等体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

教育実習履修上の心構え、介護等体験実施上の心構えをしっかり確立すると共に、教育技術・介護等体験の態度を習得する。

【授業計画】

１．教育実習の意義と目的
　・前年度実習者からのアンケート結果
　・「先輩からの一言」
２．教育実習の内容と方法
　・教育実習の領域
　・教育実習の方法
３．教育実習記録
　・実習記録の意義
　・実習記録の方法
４．授業研究
　・教材研究、教具の意義
　・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
５．教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
６．介護体験事前指導
　・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
　・特別支援教育諸学校教育の理解
　・障害児（者）介護への心構え
７．介護体験事後指導
８．まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布
介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」（全国特殊学校長会編著　ジアーズ教育新社）使用。

教育実習Ⅰ

伊藤昭道

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での３週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして３年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

（１）学級担任として
　朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
　また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。
（２）教科担任として
　前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
　後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
（３）特別活動として
　学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

教育実習Ⅱ

小栗正彦

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での２週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして３年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

（１）学級担任として
　朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
　また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。
（２）教科担任として
　前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
　後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
（３）特別活動として
　学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりと深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業の目標】

わが国の、これまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。
（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展
生涯学習実践の課題
生涯学習と社会
生涯学習と人間
社会教育の意義
社会教育施設の概要
社会教育の内容・方法・形態
社会教育指導者
総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

国際理解教育論

羽場俊秀

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業の目標】

明治以降のわが国の教育のあり方を踏まえ、国際理解教育を理解すること。
（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1．日本の近代化の過程における外国文明の摂取
（1）近代化への萌芽
（2）海外視察と帰国後の動向
（3）外国人教員の雇用とその教育への影響
（4）技術伝習による日本の産業の近代化
2．現代の学校教育における国際化
（1）学校教育における国際理解教育
（2）海外留学生等の派遣と受け入れ

【評価方法】

レポートにより評価を行う。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

学校経営と学校図書館

小栗正彦

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功実例を紹介し学習する。

【授業の目標】

司書教諭及び学校図書館司書教諭の資格取得のために必要な基礎的知識を習得する。

【授業計画】

1．学校図書館の理念と教育的意義
　（1）学校教育における学校図書館の役割
　（2）館種別にみた図書館の世界
2．学校図書館の発展と課題
　（1）学校図書館法の成立と展開
　（2）国内外の先進事例
　（3）レファレンスサービスの実践
3．教育行政と学校図書館
4．学校図書館の経営
　学校図書館の経営組織のあり方
5．司書教諭の役割とその問題点
6．学校図書館メディアの内容と構成
7．学校図書館活動と社会のつながり

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

学習指導と学校図書館

加納篤憲

【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、（1）学校の教育課程の展開に寄与するとともに、（2）生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、（1）の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

【授業の目標】

学校図書館司書および司書教諭に必要な基礎的知識と心得を習得させるとともに、学習指導における学校図書館の重要性について認識させる。

【授業計画】

1．教育課程と学校図書館
2．学習活動を促進する学校図書館――実践例
3．学校図書館の現状と問題点――蔵書冊数・蔵書構成・図書館利用
4．各教科・科目の学習指導と図書館――実践例
5．「総合学習」における図書館利用
6．図書館利用における学級担任及び生徒図書委員の役割
7．図書館実習――テーマ学習における司書教諭の指導について
8．討論――中学・高校時代の経験を踏まえて、学校図書館及び司書教諭の望ましいあり方について考える。

【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

【参考文献・資料】

特になし

学校図書館メディアの構成

中村和夫

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業の目標】

1．学校図書館の各種メディアを特性を理解し、収集、選択する上での諸問題を考察する。
2．学校図書館メディアの組織化（分類、目録、件名）とその機能を習熟する。
3．これからの理想とする学校図書館のあり方を考える。

【授業計画】

1．　1．児童生徒が喜んで利用するメディア構成
　（1）現在の学校図書館メディアの実態分析
　（2）児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
　（3）児童生徒が学校図書館に期待するものは何か
2．教育課程にマッチしたメディア構成
　（1）教養図書中心から教科学習に必要な資料の収集へ
　（2）「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
　（3）「情報」、「オーラル英語」等新しい教科科目への対応
3．情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
　（1）ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
　（2）FD、CD－ROM等の活字メディアに代わるもの
　（3）Webサイトに代表されるネットワーク系メディアの活用と問題点
4．学校図書館メディアの組織化
　（1）分類の意義と分類作業の基本
　（2）目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成（小田光宏編　樹村房）
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務　新改訂第3版　第一法規）

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な実例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業の目標】

人類の歴史の中で、図書館・本・読書はどのような役割を果たしてきたか。また個人の成長の過程で読書はどのような意味を持つか。
人間精神と読書との関わりを、実例によって見ながら、学校図書館が「豊かな人間性」のために果たすべき役割を考える。

【授業計画】

1．読書のよろこび
　（1）人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
　（2）代表的な先人の読書経験から学ぶ
2．人間形成と読書
　（1）幼児期における読み聞かせの教育的意味
　（2）少年期・青年期の決定的・運命的な読書との出会い
　（3）読書における、内省、思索の意義
3．学校教育における読書指導
　（1）教師による本の紹介、読み聞かせ
　（2）「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4．読書と仲間作り
　（1）家庭・友人間での読書、対話、読書会
　（2）学区図書館を利用した共同研究
　5．読書の技術
　（1）情報化時代の読書のあり方
　（2）愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

情報メディアの活用

枝元益祐

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業の目標】

教育の情報化にあって、学校図書館にはその中枢機関としての機能が求められている。その前提となるのがメディアを活用する能力である。その根底となる考え方に焦点を当てる。

【授業計画】

1．学校図書館と情報機器
　（1）学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
　（2）学校図書館に設置する情報機器
2．学校図書館とコンピュータとの関わり
　（1）図書検索とコンピュータ（OPAC）
　（2）インターネットを使用しての資料の収集
3．学校図書館の情報メディアの活用
　（1）視覚メディアとしてのVTR等
　（2）聴覚メディアとしてのDVD、CD等
　（3）活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等
　（4）情報メディアの今後の動向とその対応

【評価方法】

授業内での課題及び試験による。

【テキスト】

使用しない。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりと深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業の目標】

わが国の、これまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。
（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展
生涯学習実践の課題
生涯学習と社会
生涯学習と人間
社会教育の意義
社会教育施設の概要
社会教育の内容・方法・形態
社会教育指導者
総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

図書館情報学概論Ⅰ

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅰでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

【授業の目標】

まず、用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それが第一である。それに加えて、「情報」も、「図書館情報学」という学術分野それ自体も、簡単には理解できない難物であるということも体感してほしい。そして、情報伝達にはさまざまな因子が関与することを理解し、情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

【授業計画】

1．情報と知識の研究と実務に関わる分野
　図書館学/情報学/図書館情報学
　図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2．情報の概念
　概念・考え方・観点・立場
　定義の多様性と現象の多面性
　情報概念の歴史/情報・知識・データ
　定義の整理のための枠組み/構造的な理解
　認識・認知・こころ/人間・人・ヒト
3．情報検索の過程

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注：「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善　3,800円税別定価）および配布資料

図書館情報学概論Ⅱ

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業の目標】

「図書館情報学概論Ⅰ」に引続き、まずは図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。また、図書館については、その多様な性格を包括的に理解するとともに、とくに情報サービスとしての側面に関する理解を深めること。

【授業計画】

1．情報の流通過程
　情報の流れと情報メディア/学術情報の流通過程
2．図書館・情報サービスの世界
　構成要素と機能/情報システムとしての図書館
3．協力と競合
　図書館ネットワーク/競合する情報サービス
4．図書館員と情報専門職の世界
5．図書館情報学の未来

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善　3,800円税別定価）および配布資料

図書館経営論

松下 鈞

【授業の概要】

図書館の技術的な面―分類・目録等―資料組織とは別に図書館運営上の諸問題―司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業の目標】

図書館運営に基本にあるさまざまな基準と現状の問題点を理解するとともに、地域と情報支援をキーワードとする様々な活動の可能性を考え、それらを実現する方策を検討する。

【授業計画】

1．図書館法成立までの動き
2．21世紀の図書館界が直面している諸問題
3．文化芸術振興基本法の動き
4．総合法律支援法（司法ネット法）の動き
5．インフォームド・コンセントと医療情報支援の動き
6．中小企業ビジネス支援ポータルサイトなどの動き
7．生涯学習と図書館サービス
8．指定管理者制度、ＰＦＩ、アウトソーシングと図書館
9．図書館員と労働裁判
10．顧客満足、目標管理の図書館経営
11．図書館活動の評価法
12．ネットワーキングとコンソーシアム
13．学術情報政策と情報専門職の養成

【評価方法】

出席（30%）、小レポート（30%）、最終レポート（40%）

【テキスト】

適宜プリントなどを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

情報サービス基礎論Ⅰ

松下 鈞

【授業の概要】
電子情報技術の急速な発展とグローバルな広がりを背景として、人と情報との関わりが変化してきた。社会はあらゆる面で急速な変化の様相を見せている。「情報サービス基礎論Ⅰ」では、社会の多様化と情報の多様化と肥大化及び情報流通の変化に直面する「図書館」のサービスについて、主として公共図書館のサービスを念頭において諸問題を概観する。

【授業の目標】
電子化する情報社会における図書館が直面する諸問題と図書館に期待されている情報サービスの多様性を理解し、21世紀の図書館と図書館員の活動の可能性を考える。

【授業計画】
1. イントロダクション「情報の自分史」
2. 検索の達人をめざす
3. 情報環境の変化と図書館
4. こどもと図書館
5. お年寄りと図書館
6. 地域におけるビジネス情報支援
7. 地域における医療情報支援
8. 地域における法律情報支援
10. 学術コミュニティと情報変革
11. 大学図書館の諸問題
12. 専門図書の諸問題
13. 指定管理者制度、アウトソーシング
14. 求められる情報専門家

授業は講義を中心とし、グループ学習を並行させて進めます。受講に先立って次のことをしておくこと。
a）「インタネット講習会」を受講しておくこと。
b）Ｇｏｏｇｌｅの「ヘルプ」をよく読み、検索オプション等などさまざまな機能を試行し、検索法などで初めて知り、驚いた機能に関して「Ｇｏｏｇｌｅで目からウロコ」というテーマの感想文（1600字程度）を授業開始前に提出する。

【評価方法】
出席（25%）、提出物（25%）、グループ学習への積極的な参加（20%）、期末レポート（30%）

【テキスト】
適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】
授業中に適宜紹介する。

情報サービス基礎論Ⅱ

松下 鈞

【授業の概要】
「情報サービス基礎論Ⅰ」の履修を前提とする。
あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】
これまで学んだ図書館情報学の断片的な知識を、ある図書館の建築計画を立案する過程を通して総合的に理解し、人々の図書館機能への期待を如何に具体化するかを考える。

【授業計画】
1. イントロダクション
2. ある地域の地形、人口、産業などの構造
3. ひとびとの生活、その地域の歴史と文化
4. 競合する文化情報施設
5. 建築計画立案の基本的な考え方と技術
6. 情報サービス施設を設置する環境
7. サービス内容と施設・設備
8. バリアフリーとユニヴァーサル・デザイン
9. 情報支援サービス
10. 利用者像
11. スタッフ像
12. ランガナタンの「図書館学の５法則」

ある地域に住むひとびとのニーズに応えた情報サービス施設を立案します。
その過程で机上の図書館情報学の学習では学べなかったことを自ら学ぶことが期待されます。授業はグループ学習を中心に行います。グループ編成は担当教員が行います。

【評価方法】
出席（25%）、グループ研究への積極的な参加（20%）グループ発表（20%）最終個人レポート（35%）

【テキスト】
適宜プリントなどを配布する。

【参考文献・資料】
授業中に適宜紹介する。

レファレンスサービス論

櫻木貴子

【授業の概要】
図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

【授業の目標】
図書館サービスにおけるレファレンスサービスの意義および重要性について、これまでの展開、利用者と担当者の関わり合い、今後のサービス展開について理解すること。

【授業計画】
1. レファレンスサービスの特徴・機能・組織
2. レファレンスプロセス
   - ・質問の受付から内容の確認へ
   - ・質問内容の分析から探索の実行へ
   - ・質問回答とレファレンスプロセスの終結
3. レファレンスサービスのための情報源

【評価方法】
平常点、レポート、試験によって評価する。

【テキスト】
使用せず（配付資料）。

【参考文献・資料】
講義において指示する。

情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

松井美紀

【授業の概要】
学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。
LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】
情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。
さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

【授業計画】
1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索
   学術論文の特徴
   抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス
5. 各種オンライン情報検索システム
   JDream
   DIALOG
   CSA
6. テーマ検索

【評価方法】
平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

【テキスト】
使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

櫻木貴子

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。

さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

【授業計画】

1．情報検索とは
2．学術情報の検索
　学術論文の特徴
　抄録・索引誌
3．CD-ROM検索
4．シソーラス
5．各種オンライン情報検索システム
　JDream
　DIALOG
　CSA
6．テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

中島玲子

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】

情報検索および情報活用における実践的なスキルを身につける。

【授業計画】

1．情報検索とは
2．学術情報の検索
　学術論文
　抄録・索引誌
3．CD－ROM検索
4．シソーラス、統制語彙
5．オンライン情報検索システム
6．テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

櫻木貴子

【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業の目標】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

【授業計画】

［演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）］

1．文献探索と情報探索
2．各種情報源の特徴
2．1　雑誌記事（書誌情報）検索
　MAGAZINE PLUS（NICHIGAI ASSIST）、LLIS（DIALOG）、CiNii（NII）、JST Plus（J Dream）、大宅壮一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
2．2　雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索（DIALOG）
2．3　シソーラスを利用した検索
　JST Plus（J Dream）、ERICファイル（DIALOG）、MEDLINE（DIALOG）
2．4　引用関係を利用した検索：Social SciSearch（DIALOG）
2．5　一次資料が入手可能なシステムの検索
　NACSIS-IR（NII）、OCLC ArticleFirst（OCLC FirstSearch）、PubMed（NLM/NCBI）
2．6　ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA（CSA）
2．7　図書（所蔵/目次情報）検索
　Webcat（NII）、BOOKPLUS（NICHIGAI ASSIST）、WorldCat（OCLC FirstSearch）
2．8　新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2．9　人物情報検索：人物情報横断検索（G-Search）
3．レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

松井美紀

【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業の目標】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

【授業計画】

［演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）］

1．文献探索と情報探索
2．各種情報源の特徴
2．1　雑誌記事（書誌情報）検索
　MAGAZINE PLUS（NICHIGAI ASSIST）、LLIS（DIALOG）、CiNii（NII）、JST Plus（J Dream）、大宅壮一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
2．2　雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索（DIALOG）
2．3　シソーラスを利用した検索
　JST Plus（J Dream）、ERICファイル（DIALOG）、MEDLINE（DIALOG）
2．4　引用関係を利用した検索：Social SciSearch（DIALOG）
2．5　一次資料が入手可能なシステムの検索
　NACSIS-IR（NII）、OCLC ArticleFirst（OCLC FirstSearch）、PubMed（NLM/NCBI）
2．6　ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA（CSA）
2．7　図書（所蔵/目次情報）検索
　Webcat（NII）、BOOKPLUS（NICHIGAI ASSIST）、WorldCat（OCLC FirstSearch）
2．8　新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2．9　人物情報検索：人物情報横断検索（G-Search）
3．レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報メディア基礎論Ⅰ

櫻木貴子

【授業の概要】
情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に，その過程での問題点について議論し，より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】
多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

【授業計画】
1　情報流通と情報メディア
2　学術情報の流通モデル
3　情報メディアの特徴と問題点
（1）図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
（2）雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e－print
レター、editorial comment
（3）新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
（4）会議資料
学会、会議録
（5）特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
（6）規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
（7）データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
（8）インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
4　情報流通モデルの修正
5　電子環境下における情報メディア

【評価方法】
平常点、レポートおよび試験によって評価する。

【テキスト】
使用せず（配付資料）。

情報メディア基礎論Ⅱ

櫻木貴子

【授業の概要】
情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に，その過程での問題点について議論し，より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】
多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

【授業計画】
1　情報流通と情報メディア
2　学術情報の流通モデル
3　情報メディアの特徴と問題点
（1）図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
（2）雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e－print
レター、editorial comment
（3）新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
（4）会議資料
学会、会議録
（5）特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
（6）規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
（7）データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
（8）インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
4　情報流通モデルの修正
5　電子環境下における情報メディア

【評価方法】
平常点、レポートおよび試験によって評価する。

【テキスト】
使用せず（配付資料）。

情報メディア論Ⅳ（人文社会情報メディア）

松井美紀

【授業の概要】
人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から，学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業の目標】
人文・社会科学分野で生産され利用されている各種情報メディアの特徴を理解すること。

【授業計画】
1　学問分野と情報メディア
2　自然科学分野と人文・社会科学分野
3　人文・社会情報メディア
3．1　美術分野
3．2　音楽分野
3．3　文学
3．4　ビジネス分野
3．5　法律分野
3．6　心理学
3．7　図書館情報学
4　情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】
平常点およびレポートによって評価する。

【テキスト】
三浦逸雄,野末俊比古編.専門資料論.東京,日本図書館協会,2005,140p,(JLA図書館情報学テキストシリーズ,8).(ISBN：4820405128)
この他に、配付資料。

情報メディア論Ⅴ（科学技術情報メディア）

櫻木貴子

【授業の概要】
自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。
1．環境としての学術情報
2．文献情報と文献調査
3．学術雑誌の歴史と生態
4．総合誌、レビュー誌、レター誌
5．日本からの英文論文発表
6．主要海外誌への日本からの発表傾向
7．生物医学雑誌への統一投稿規程
8．オーサーシップからみた学術論文
9．出版倫理と利害の衝突
10．ニュースメディアと学術雑誌
11．レフェリーシステム
12．一流誌への発表
13．インパクトファクターの批判的吟味
14．電子メディア（データベース、一次雑誌）の現在

【授業の目標】
学術雑誌を中心に、執筆、審査、発表、製作、流通、利用の流れを理解し、より深く情報サービスを展開できる能力を育成する。

【授業計画】
講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】
期末レポート、小レポート（授業時間内）

【テキスト】
使用せず（配付資料）。

【参考文献・資料】
電子時代の学術雑誌（Lambert, J.著　日本図書館協会）
出版産業の起源と発達（Thompson, J.W.著　出版同人）
歴史としての学問（中山茂著　中央公論社）
生命科学論文投稿ガイド（山崎茂明著　中外医学社）
医学文献サーチガイド　第2版（山崎茂明著　日本医書出版協会）
研究評価（根岸正光・山崎茂明著　丸善）

資料組織論

櫻木貴子

【授業の概要】
情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。
目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業の目標】
情報の組織化に関する概念を理解し、現在の目録サービスについて批判的に考察することができること。
目録やそれに関連する専門用語を理解すること。

【授業計画】
第1回　情報の組織化
第2回　目録
第3回　書誌コントロール
第4回　書誌ユーティリティ
第5回　目録規則
第6回　記述目録（1）AACR 2 r、NCR
第7回　記述目録（2）アクセス・ポイントの選定；標目形；典拠コントロール
第8回　記述目録（3）各種記述フォーマット
第9回　メタデータ
第10回　主題目録（1）概要
第11回　主題目録（2）分類法
第12回　主題目録（3）主要分類法
第13回　主題目録（4）主要件名標目表
第14回　期末テスト

【評価方法】
平常点、レポート、試験

【テキスト】
初回時にテキスト配布。

【参考文献・資料】
書誌コントロールの課題（国立国会図書館編　日本図書館協会、2002）
文献世界の構造：書誌コントロール論序説（根本彰著　勁草書房、1998）
図書館ネットワーク―書誌ユーティリティの世界―（宮澤彰　丸善、2002）

資料組織演習

櫻木貴子

【授業の概要】
「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。
演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。
記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。
主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。
本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。
学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】
「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。
書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

【授業計画】
・目録作業の概要
・記述目録法
　ISBD
　書誌ユーティリティ（NACSIS/MARC）を利用したMARCレコード作成
　アクセス・ポイントの選定
　典拠コントロール
・主題目録法
　分類：日本十進分類法
　主題件名標目表：基本件名標目表

【評価方法】
出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】
資料組織演習　改訂新版（北克一著　M.B.A.,2003年）

【参考文献・資料】
「資料組織論」で配布したテキスト

資料組織演習

松井美紀

【授業の概要】
「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。
演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。
記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。
主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。
本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。
学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】
「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。
書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

【授業計画】
・目録作業の概要
・記述目録法
　ISBD
　書誌ユーティリティ（NACSIS/MARC）を利用したMARCレコード作成
　アクセス・ポイントの選定
　典拠コントロール
・主題目録法
　分類：日本十進分類法
　主題件名標目表：基本件名標目表

【評価方法】
出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】
資料組織演習　改訂新版（北克一著　M.B.A.,2003年）

【参考文献・資料】
「資料組織論」で配布したテキスト

図書館学特殊Ⅲ（児童サービス論）

近藤洋子

【授業の概要】
図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広くとりあげる。

【授業の目標】
図書館における児童サービスの理論の基礎的理解を具体的資料にあたって学ぶ。
サービスがよりよく実践されるための実技を学ぶ。
図書館見学等を通して、現状のサービスについて理解を深めていく。

【授業計画】
1　公立図書館の児童サービス
　（1）子どもの読書と児童図書館
　（2）児童図書館の意義と歴史
　（3）児童用資料の種類と特性（1）絵本・文学
　（4）児童用資料の種類と特性（2）ノンフィクション・その他
2　児童サービスの実際
　（5）児童室の企画・運営、児童室施設・設備、展示・広報活動
　（6）資料収集・蔵書構成、選書、貸出
　（7）予約・レファレンス、ブックトーク
　（8）よみきかせ、ストーリーテリング、集会活動
3　児童サービスの対象
　（9）乳幼児・ヤングアダルト・一般・研究者
4　類縁機関との連携
　（10）学校・保育園・幼稚園・病院・文庫等
5　児童図書館員の専門性
　（11）養成と採用　ボランティア
6（12）児童サービスの現在と今後　見学レポートによる
7（13）実習・ストーリーテリング

【評価方法】
出席状況　平常点　図書館見学等レポートを総合評価

【テキスト】
別に使用せず、そのつどプリントを用意する

【参考文献・資料】
児童サービス論　新訂版（堀川照代編著　日本図書館協会）
児童サービス論（佐藤凉子編　教育史料出版会）
児童図書館のあゆみ（児童図書館研究会編　教育史料出版会）

情報学Ⅲ（図書館と情報検索の歴史）

松井美紀

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第２版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行なってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅲでは、古代から中世までを対象とし、Ⅳに引き継ぐ。

【授業の目標】

まず、図書館情報学の世界の一員として知っておくべき基本事項を習得する。次に、それらの事項の相互間の連関（歴史の流れ）を看取する。さらに、そうした歴史の流れを形成する「力」および「メカニズム」について探求する。

【授業計画】

1．古代文明のメディアと情報・知識活動
2．ギリシア・ローマにおける進展
3．中世の学術と書物・図書館
4．印刷革命

【評価方法】

出席点と定期試験　※出題形式については授業にて明示

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（勁草書房　税別定価3,800円）
図書館情報学用語辞典（丸善　税別定価3,800円）

情報メディア論Ⅰ（マルチメディア）

松井美紀

【授業の概要】

現代社会ではあらゆる組織においてコンピュータ等情報機器が不可欠のツールとなっている。これら情報機器を使いこなすことにより、情報のより効果的な利用が可能となる。

この授業では、情報メディア・情報機器に関する基礎的なことを解説する。また、情報技術について図書館・情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。

【授業の目標】

情報技術活用のための基礎知識を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1）ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
2）メディアとは何か
3）情報機器の発展経緯と種類、機能
4）情報メディアの発展経緯と特性
5）視聴覚メディアの種類と特性
6）コンピュータの基本的な仕組み
7）図書館の機械化
8）データベースと情報検索
9）メディアの多様化と情報技術
10）インターネットについての基礎知識
11）インターネットによる情報発信
12）電子情報と知的所有権

【評価方法】

（1）出席状況（2）定期試験（またはレポート）
以上の結果により評価を行う。

【テキスト】

授業時に提示する。

情報学Ⅳ（図書館と情報検索の歴史）

松井美紀

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第２版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行なってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅳでは、Ⅲの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお，マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱うのみなので，それらの内容に期待する学生には，別の科目や参考書等を紹介する。

【授業の目標】

まず、図書館情報学の世界の一員として知っておくべき基本事項を習得する。次に、それらの事項の相互間の連関（歴史の流れ）を看取する。さらに、そうした歴史の流れを形成する「力」および「メカニズム」について探求する。

【授業計画】

1．印刷のもたらした近代
　学術情報流通システムの成立/新聞と雑誌/読書大衆
2．図書館の世紀
3．書誌とドキュメンテーション
4．情報メディア技術の発達
5．20世紀の情報流通システムと情報検索
6．図書館学と情報学
7．未来を索めて：Vannevar BushのMemex構想をもとに

【評価方法】

出席点と、定期試験　※出題形式については授業にて明示

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（勁草書房　税別定価3,800円）
図書館情報学用語辞典（丸善　税別定価3,800円）

博物館概論

長谷川銹治

【授業の概要】
博物館とは何か、発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観する。

【授業の目標】
学芸員として必要な基礎となる知識を学習する。

【授業計画】
ア　はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を知る。
イ　博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
ウ　博物館の始原… 博物館の始原をたずねてみる。
エ　博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
オ　近代博物館の出発Ⅰ…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
カ　近代博物館の出発Ⅱ…市民への公開がなされていく過程を考える。
キ　ヨーロッパの博物館…主要な博物館を例にとり、近世からの特徴をまとめる。
ク　アメリカの博物館…合衆国独立から現代までの特徴を探る。
ケ　博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど新しい動きをみる。
コ　日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
　・幕末から明治期にかけての博物館の出発
　・国威の宣揚と博物館
　・通俗教育による教化と博物館
　・十五年戦争と博物館

【評価方法】
・数回にわたるテストとリポートの提出で評価する。
・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】
新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

【参考文献・資料】
必要に応じてプリントを配布する。

博物館概論

早川正一

【授業の概要】
「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省（現在の文科省）の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。充分な心構えが肝要である。
次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業の目標】
この科目は、後期におこなう「博物館学各論Ⅰ」と共に、所定の必修科目の一つである。必修の理由は、卒業を条件として学芸員の資格が与えられる基幹の学科目のため、この講義内容を習得させることが目標となる。

【授業計画】
博物館や美術館の基本概念と必要性
専門職員としての「学芸員」とは何か
博物館と美術館の発達とその時代背景
博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
博物館の分類と現代性
博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
博物館の相互協力と情報の活用
毎時間、入念にノートをさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。
長谷川銹治『博物館学論考』(1995) をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】
学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

【テキスト】
新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）を参照することをすすめる。

博物館学各論Ⅰ

長谷川銹治

【授業の概要】
博物館の現状を分析し、その将来を考えるとともに、文化財の保護についても学習する。

【授業の目標】
学芸員資格にかかる基礎的事項を学習する。

【授業計画】
ア　博物館の機能…生涯学習施設と定義されていることを考える。
イ　博物館の分類…分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
ウ　博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
エ　博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
オ　学芸員考…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
カ　予算など…博物館のマネージメントについて考える。
キ　博物館の施設・設備…市民参加の視点から、あるべき施設・設備についてみる。
ク　博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
ケ　博物館の協力…大学・研究機関などとの連携についても考える。
コ　文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察する。

【評価方法】
・数回にわたるテストとリポートの提出で評価する。
・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】
新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

【参考文献・資料】
必要に応じてプリントを配布する。

博物館学各論Ⅰ

早川正一

【授業の概要】
愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業の目標】
この科目は、前期に実施する「博物館概論」と共に、所定の必修科目の一つであって、必修とした最大の理由は、卒業を条件に学芸員の資格が与えられる。したがって、授業計画による講義内容を受講生に修得させることが目標となる。

【授業計画】
次の単元を土台として講義を展開する予定である。
博物館や美術館の展示と陳列構造
博物館がとり扱う資料の収集と保存
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
文化財の種類と保護にかかわる諸問題
生涯学習の必要性と博物館の関連事業
毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。
博物館学論考（長谷川銹治　1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】
本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】
新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）を参照することをすすめる。

博物館学各論Ⅱ

長谷川銹治

【授業の概要】

博物館資料とは何か、資料の取扱い方を学習する。また、博物館における調査・研究についても考える。

【授業の目標】

学芸員として必要な基本となる事項を実践をとおして学習する。

【授業計画】

ア「物」が博物館資料と位置づけられることを考える。
イ　博物館資料の実際について具体的に学ぶ。
　1　資料の収集
　2　資料の取扱い
　　・掛軸
　　・古文書　・和装本
　　・やきもの　・茶碗
　　・瓦
　　・刀、太刀
　3　資料の整理・保存
　4　資料の保全
ウ　資料情報の管理についてその実際を探る。
エ　博物館における調査と研究、成果の公表について考える。

【評価方法】

・数回にわたるテストとリポートの提出で評価する。
・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館学各論Ⅱ

川合 剛

【授業の概要】

博物館は「もの（物）」「ひと（人）」「ば（場）」の３つの要素で構成される。この授業では、そのうちの「もの」＝博物館資料に焦点をあて、博物館活動の中での役割を考える。

【授業の目標】

博物館資料の定義、収集、整理分類、保管保存、調査研究そして実際の取扱い方について、基礎的な知識を学び、技術を習得することを目標とする。

【授業計画】

履修学生が、手を動かし、自分で考える「実技」の時間をできるだけ多くとる。
(a) 博物館と博物館資料
(b) 資料を記録する技術
　拓本・実測・写真など。
(c) 資料を扱う技術
　掛け軸・巻子・和本・陶磁器・考古資料など。
(d) 資料を保管・保存する技術
　ドキュメンテーション・保存科学など。
(e) 博物館と調査・研究

【評価方法】

実技を行う。出席および授業に臨む姿勢を重視する。あわせて、レポートなどの課題、（時間内の）小テストの結果も勘案する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

【参考文献・資料】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業の目標】

博物館において、「資料」とはどのような存在かを知り、その取り扱いと活用方法について学ぶことが目標である。

【授業計画】

1．博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。
2．資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
3．資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。
　やきもの、和装・巻子本、掛け軸その他で実習する。
4．資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
5．資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
6．資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
7．資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
　また、４年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

【評価方法】

出席、実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

博物館実習

長谷川銹治

【授業の概要】

展示演習、内外の博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

【授業の目標】

学芸員の基本的な役割について、種々の実践をとおして考察するとともに学芸員資格取得のためのまとめをする。

【授業計画】

ア　展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。
　1　展示とは
　2　展示のポイント
　　・動線　・視線　・照明　・温度　・湿度
　3　展示の施設
　4　展示のプロセス
　5　展示と保全
イ　生涯学習が重要な課題である現代社会にあって、博物館が果たす役割を考える。
ウ　学外に出て現場の実務に接し理解を深める。
　1　博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
　2　館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
　3　海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
　4　県外実習……２、３に参加できない者は、９月に県外へ見学に出かける。

【評価方法】

・実習はもちろん、学外での研修にはかならず参加し、それぞれリポートを提出。評価の対象とする。
・その都度、提出させるリポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

【テキスト】

博物館学概論（長谷川銹治　戸谷印刷）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館実習

秋元悦子

【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

【授業の目標】

展示についての基礎的な手法を学び、その上で見学会を通して、様々な展示の手法や計画を知ることが目標の一つである。

また、自ら展示企画することで、博物館の展示ができあがるまでの流れをシミュレートすることを目標としている。

【授業計画】

1．展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2．展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的事例をふまえながら、学んでゆく。
3．展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4．展示の企画および実習……各自で企画した展覧会の計画書を作成し、また展示方法やその活用法を実習する。
5．展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後をになう役割と未来を探る。

授業以外に、

●土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
●夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、各自の展示企画についての口頭発表およびその計画書で評価する。

【テキスト】

新訂博物館学概論（長谷川銹治　戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりと深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業の目標】

わが国のこれまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。（詳細は授業にて解説する。

【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展
生涯学習実践の課題
生涯学習と社会
生涯学習と人間
社会教育の意義
社会教育施設の概要
社会教育の内容・方法・形態
社会教育指導者
総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

博物館実習

松村冬樹

【授業の概要】

「展示」は博物館における「顔」とも評されるが、最高の広報普及活動でもある。この授業では、さまざまな施設の見学を含め、「展示」の知識と実践を学ぶ。

【授業の目標】

博物館や美術館の専門知識を基礎とした鑑賞法を学ぶとともに、社会人として、ゆたかな教養をはぐくむための「考え方・学び方」を習得してもらう。

【授業計画】

「展示」を疑似体験できるよう「実技」の時間をできるだけ多くとる。適宜、プリントを配付する。

（a）「展示」とは
（b）展示のプロセス
（c）展示の実際　（仮想展覧会企画）
（d）展示と解説
（e）印刷物　（ポスター、ビラ、図録）
（f）まとめ
＊1　土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年5～6回程度）。
＊2　夏休み中に各博物館に依頼し、館務実習を行う。
＊3　夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。
※　＊2、＊3に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

【評価方法】

出席状況は重視する。意欲や、館務実習では必要な社会常識も評価の対象とする。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

視聴覚教育メディア論

藤井 信

【授業の概要】

情報社会における視聴覚教育の特性や情報・視聴覚機器の持つ機能、宗教と視聴覚との関連、メディアリテラシーの観点から情報教育のあり方、更には、学芸員としての博物館・美術館等における視聴覚的展示や補助資料に関することを論じていきたい。

【授業の目標】

視聴覚教育の意義・役割を理解する。情報メディアの特性を把握し送り手と受け手の立場からメディアリテラシーを理解する。展示・解説等における視聴覚・情報メディアの活用を追求する。

【授業計画】

1　視聴覚教育の意義
　1－1　視聴覚教育の目標
　1－2　視聴覚教材の役割と特性
　1－3　情報機器・視聴覚機器と機能

2　宗教における視聴覚の役割
　2－1　宗教における荘厳
　2－2　宗教における音声
　2－3　宗教における絵画・彫刻

3　情報の活用とリテラシー
　3－1　情報とメディア
　3－2　情報の記録と保存
　3－3　情報の信憑性
　3－4　プレゼンテーションの意義と機能
　3－5　情報モラル
　3－6　マルチメディア　リテラシー

4　博物館・美術館におけるプレゼンテーション
　4－1　展示の機能と効果
　4－2　補足資料

【評価方法】

レポートおよび期末テストで評価する

【テキスト】

特になし
プリントを配布

【参考文献・資料】

授業時に指示する

教育学概論

渡辺かよ子

【授業の概要】

現代世界は多くの社会問題を抱えている。教育問題はこれらの社会問題の一つであると同時に、これらの有効な解決方法の一つでもある。あるべき教育とは何か。これほどあるべき教育が語られるのになぜ教育問題は解決しないのか。本講義はこれらの問いへの答えと解決の試みを教育と社会の連関から考察していく。

【授業の目標】

教育学の基礎知識の習得と現代社会教育課題の理解を通じ、社会と教育の関連に関心を喚起する。

【授業計画】

1．オリエンテーション：教育と教育学
2．教育の思想と歴史：近代以前と近代以後
3．教育制度：各国の教育行政と学校制度
4．教育内容と教育課程
5．教育方法
6．家庭教育としつけ：教育の比較文化
7．社会教育と生涯学習
8．総括：人権としての教育

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

教育の比較社会学（原清治他編　学文社）

【参考文献・資料】

生涯発達と自己実現（麻生誠・堀薫夫　放送大学教育振興会）

美術史

高橋秀治

【授業の概要】

美術の歴史をつくってきた美術家たちはその生きた時代の動きと無関係に作品を生み出したのではなく、常にその背景と共にあります。美術が社会を映す鏡という視点に立ち、19世紀末から今日に至る西洋近現代美術のありさまを社会的、文化的あるいは思想や、政治、人々の生活などの背景と結びつけながら理解していきます。

【授業の目標】

美術作品を鑑賞するときに、単に表現上の技法や構成などを分析的に理解するにとどまらず、作品の生れた時代的、社会的あるいは文化的背景まで含めた幅広い視野の必要性を理解できるようになることを目標とする。

【授業計画】

1～4　印象派からシュルレアリスムへ
　・産業革命と芸術
　・写真と絵画
　・時間表現
　・心理学
5～8　激動の時代と美術
　・第一次世界大戦
　・反芸術
　・第二次世界大戦
　・工業社会
9～12　アメリカ美術の時代
　・巨大絵画
　・アメリカン・ドリーム
　・文明の廃棄物
　・エコロジー
13～15　ニューメディアと美術
　・ニューメディア
　・身体表現

【評価方法】

出欠を確認し、評価に反映させる。ワークシートや感想・質問などを記すフィードバックシートなどを適宜配布、回収して出欠の確認に代えるとともに内容を評価する。また、授業で自分の考えを表明したり質問をする姿勢もあわせて評価する。

【テキスト】

とくになし

【参考文献・資料】

必要により授業内で紹介する。

民俗学

谷沢 明

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業の目標】

日本民俗学の基礎を幅広く学び、民俗学的な物の見方を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1．民俗学を学ぶ～目的・領域・方法論～
2．稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3．農耕儀礼～田遊びを中心に～
4．年中行事～正月行事を中心に～
5．年中行事～盆行事を中心に～
6．人生儀礼～人生の折り目にあたって～
7．暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8．暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9．庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10．庶民信仰を探る～庚申信仰～
11．日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12．日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による。

【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と生活文化

【参考文献・資料】

授業で必要に応じて紹介します。

文化史

秋元悦子

【授業の概要】

本講座は、歴史・文化が地理的背景とどのように関係してきたか、中国を例にさまざまな角度から検討するものである。

授業では、古典文献・地形図・考古学などの情報を利用しながら文化的特質を考察してゆく。

また、学芸員課程の一環として各資料の所在調査の方法や活用法も紹介していく。

教材としてプリントを配布し、視覚資料（ビデオ・OHCなど）を多用し、地域と歴史の様相をより具体的に示していきたい。

【授業の目標】

ある地域の「文化」を知ろうとするときに、どのような手段・方法があるかを学ぶことが目標である。

本講座では、日本の文化に多大な影響を与えた「中国」の文化を例として、その地理的状況や歴史思想、考古学的な状況を知ることにより、様々な視点から物事を解読することができることを目標としている。

【授業計画】

1．履修に関するガイダンス・オリエンテーション
2．歴史地理学概説
3．中国と日本のの自然地理を知る
4．自然地理と歴史の関係概説　史前期から近代まで
　ユーラシア大陸の歴史と中国の王朝交代
　中国歴代王朝と都の位置
5．中国人の地域概念
　『禹貢』の世界から現代の地理意識まで
6．古代中国の地域と現状
　夏殷周三代の歴史とその遺跡
7．中国の気候変遷と歴史の関係
8．地形図にみる地域と歴史
　中国地形図の種類と現状

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。（毎回出欠調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

なし。授業中に配布するプリントを使用。

【参考文献・資料】

世界の歴史と文化　中国（陳舜臣・尾崎秀樹監修　新潮社）
また、授業中に各種文献を紹介する。

考古学

赤羽一郎

【授業の概要】

学問としての考古学の主な対象は先人が遺した遺跡・遺物であり、それらを確認・資料化するための方法は発掘調査に拠っている。遺跡・遺物には、いつ造られ使われそして廃棄されたかという情報、即ち「時計」と、誰がどこでどのような材料で造ったかという情報、即ち「戸籍」が内包されている。その「時計」と「戸籍」を解明することが、考古学ではまず求められる。このために、近年は自然科学的分野との共同研究が活発化している。また、遺跡・遺物が先人の生活でどのような役割を担っていたかを知る上で、民俗学の知見も有効である。このように、考古学も他の学問領域との共同作業、学際の道を歩んでいる。

しかし、遺跡・遺物に内包されている「時計」「戸籍」を解き明かすことだけが考古学の目的ではない。何故なら、考古学は歴史学の一分野として、単に先人の足跡を追跡するにとどまらず、それがどのような現代的意味、私たちが生きていく上での指針を持っているかを学ぶものだからである。特に、博物館などで資料として遺跡・遺物を活用する際に必要不可欠な視点であると考えたい。

講義では、西欧に端を発した考古学の理念、日本での考古学研究の歩みと今日の研究の到達点、さらには遺跡・遺物の文化財としての保存・活用について考えていく。

【授業の目標】

多くの博物館・資料館では考古資料が収蔵・展示されていることから、学芸員として必要な考古学及び考古資料に関する基礎的な知識の修得を目的とする。

【授業計画】

1　考古学の理念と方法論
2　日本考古学の発展　ア　原始
3　　〃　　イ　古代・中世
4　　〃　　ウ　近世以降
5　文化財としての遺跡・遺物

随時、スライド、OHPを用いて視覚による理解を促す。

【評価方法】

出席状況、数回のミニ・レポートにより判定する。

【テキスト】

講義の都度、レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

特になし。

英語海外セミナーⅠ（米国）

担当者未定

【授業の概要】

語学学習と異文化体験を目的とする、アメリカ北東部のウエスト・バージニア大学における海外英語研修プログラム。全学を対象に実施される。参加者は、キャンパス近辺のホテルに滞在し、約３週間の集中授業を受ける。週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流なども用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の単位が与えられる。

期間は８月中旬から９月中旬の約１ヶ月、定員は約30名。面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2005年度実施研修プログラムにおける１日（９:00〜15:20）の学習内容は、以下の通り：

午前　少人数制英会話クラスと総合英語の授業

午後　アメリカ文化の授業とプロジェクト（音楽/芸術・ニューズレター作成などのプロジェクトから、各自が興味のある分野を選択し、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、修了パーティーで発表する。）

【授業の目標】

＊英語表現能力を高めること。
＊アメリカおよびウエスト・バージニア地方の文化・社会を理解すること。
＊ウエスト・バージニア大学のアメリカ学生および各国留学生との交流により国際性を涵養すること。
＊海外生活を通して、自立性を養成すること。

【授業計画】

この研修は、ウエスト・バージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムである。（全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフがあたる。期間中、本学教職員は滞在しない。）

【評価方法】

ウエスト・バージニア大学授業担当者の評価および研修前後の課題から総合的に判断する。

【テキスト】

現地にて用意される。

【参考文献・資料】

オリエンテーションで指示する。

英語海外セミナーⅡ（オーストラリア）

NORRIS, Harry T.

【Course description】

Students will be in an English Emersion course with Canberra University. Students will study English and English usage in class, have many English activities out of class and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

【Course objectives】

This course hopes to improve students' fluency and confidence in using English. Being emerced in English, it is hoped students will stop translating and interpreting into Japanese, but to understand and think in English.

This ability will assist the students greatly in the listening comprehension section of the TOEIC test.

【Course schedule】

After welcome and introductions on the first day. Daily schedules will include morning classes with afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National gallery and the interactive science museum "Questacon".

The course will conclude with a 4 day excursion to Jervis Bay and then on to Sydney, activities and sight seeing are preplanned.

【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards. These standards are based on ability to use English, willingness to try to use English and improvement in English ability.

【Textbooks】

No text, as necessary worksheets will be given.

米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group（CSCG）との共同プログラムとして、毎年２月中旬から約１ヵ月間実施する。米国の民間非営利組織（NPO）でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。

（活動可能な分野）老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

（米国側協力団体）Civil Society Consulting Group（CSCG）

【授業の目標】

実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

【授業計画】

（事前研修）・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

（現地プログラム）・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの５日間のインターン・１日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

（事後研修）・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価（受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書）を考慮し総合評価を行う。

【テキスト】

米国側提出の英文資料

【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

中国語海外セミナーⅠ（中国）

馮 富榮

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

１．南京師範大学において４週間の中国語研修を行う。
◎　月曜〜金曜の午前中は８：00〜11：30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
◎　午後は課外活動として南京市内見学（中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など）を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
◎　夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
◎　土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
◎　風光明媚な「瘦西湖」で名高い楊州への一日旅行。
２．言語文化論Ⅰの講義内容と呼応した５日間ほどの研修旅行。
３．定員は20名程度。
４．今年度の２月中旬から３月中旬にかけて実地する。
５．終了者に２単位を認定する。

【授業の目標】

研修を参加することによって、授業に使われている中国語を聞いて分かること、買い物に使う会話や中国人との普通の会話がマスターすること、並びに研修から帰って２ヵ月後に学内で実施するHSK基礎試験の３級を取ることを目標とする。

【授業計画】

４月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。９月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を２回ほど、オリエンテーションを１回実施する。詳しくは掲示を見る。２月中旬に出発し、３月中旬に帰国する。費用は25万程度。

【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

韓国・朝鮮語海外セミナーⅠ（韓国）

キム ソヨン

【授業の概要】

韓国語の学習と韓国文化の体験、そして韓国の大学生との交流を目的に設けられた研修です。韓国屈指の名門、ソウルの梨花女子大において実施されます。梨大（イデ）の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流する形での韓国語の授業、韓国の文化と社会を理解し体験できるための韓国文化の各講座、韓国の庶民生活がじかに体験できる２泊３日におよぶホームステイ、そしてこの国際時代の未来をともに生きる韓国の若者と一緒に語りあい、活動しあえる日韓学生共同プログラムなどが正規のメイン企画です。その他、ソウル随一の学生街、おしゃれ街として知られる新村での一夏の生活もこの研修の大きな魅力の一つです。

期間：夏期休暇の８月中の３～４週間
内容：
1．韓国語研修
　a．梨大（イデ）の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流
　b．実生活での意思疎通のための集中的韓国語の学習
　c．入門の１段階から最上級の６段階に分けられたクラス編成
　d．専門教授陣による自分の能力に見合ったクラスでの研修
2．韓国文化研修
　a．芝居鑑賞
　b．板門店の訪問
　c．ホームステイ（２泊３日）
3．日韓学生共同プログラム
　a．毎週１回程度の頻度
　b．テーマごとに、韓日の大学生が協同参加で活動する大学生との交流行事
　c．テーマ、「韓国と日本の大学生活を語る」、「地域探訪（文化財踏査）」、「韓国の民俗と礼節」など
4．その他の課外活動

【授業の目標】

韓国に滞在しながら実生活で必要な意思疎通のための韓国語（サバイバル韓国語）を身に付け、梨大言語教育院で韓国語の実力を向上させるとともに、韓国文化研修やホームステイ、韓国の大学生との交流行事等を通して、韓国の文化や諸事情に関する知識や理解を深める。

【授業計画】

４～５月：ガイダンス、参加者の募集および決定
６～７月：数回の事前研修
８月：現地研修
９～11月：事後研修および報告書のまとめ

【評価方法】

現地教員、プログラムの関連スタッフ、および引率教員の総合評価による。

【テキスト】

現地研修の韓国語教材「Pathfinder in Korean 1,2,3,4,5」（梨花女子大学校出版部）中
その他は特になし

Japan's Global Interface Ⅰ

藤井正志　森下允之　福本明子　真田幸光　JOLLY, James A.

【授業の概要】

本講義は、日本のビジネスの国際的側面を中心に議論し、日本社会・文化をより深く認識する。同時に、異文化理解を深め、今後の日本のあり方を考える。受講対象者は、特別科目等履修生（ただし交換留学による者）・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生（含む外国人留学生）である。

The omnibus lectures will be conducted in English and mainly introduce the global aspect of Japanese business to students. Focusing on Japan' s global interface, students will obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business, and intercultural exchange as well as what Japan should do in the future.

This lecture is open to:
- Special Credit-Auditors (exchange students only)
- Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture
- Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

【授業の目標】

日本のビジネスの国際的側面を中心とした英語の授業を通し、日本社会・文化をより深く認識すること、および異文化理解を深め、今後の日本のあり方を考える力を養うこと。

Through the omnibus lectures conducted in English mainly on the global aspect of Japanese business, students are supposed to obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business, and intercultural exchange as well as what Japan should do in the future.

【授業計画】

Schedule

1	FUJII, Masashi	Introduction
2	FUJII, Masashi	Business Society in Japan
3	FUKUMOTO, Akiko	Intellectual Property and Cultures
4	FUKUMOTO, Akiko	Intellectual Property and Cultures
5	FUKUMOTO, Akiko	Intellectual Property and Cultures
6	SANADA, Yukimitsu	East Asian Economy and Japan
7	SANADA, Yukimitsu	East Asian Economy and Japan
8	MORISHITA, Tadayuki	Overseas Strategy of Japanese Firms
9	MORISHITA, Tadayuki	Overseas Strategy of Japanese Firms
10	MORISHITA, Tadayuki	Overseas Strategy of Japanese Firms
11	JOLLY, James	International Business and Law
12	JOLLY, James	International Business and Law
13	JOLLY, James	International Business and Law

【評価方法】

Assessment

Assessment will be made based on attendance and a report to be written by the students in the final lecture conducted by Professor Jolly. Students will be given 1 / 2 hour to finalize the report. Even though they are absent from the final lecture, they will still have a chance to write a report and submit it. In that case, it is unlikely for them to be given a good assessment.

出席点及び最後の授業において実施されるレポートにより、総合的に評価する。

【テキスト】

To be announced

【参考文献・資料】

To be announced

Japan's Global Interface Ⅱ

藤井正志　太田浩司　宮田 Susanne　ブイ チ トルン
國信潤子　梅田敏文　JOLLY, James A.　福本明子

【授業の概要】

本講義は、国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマを通して日本の文化や社会の理解を深める。受講対象者は、特別科目等履修生（ただし交換留学による者）・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生（含む外国人留学生）である。

This omnibus lecture will be conducted in English and introduce students to cultural exchange, international cooperation and international business, and the part Japan plays in these intercultural movements. Along with increasing an awareness of Japan' s global interface will come a deeper understanding of Japanese culture and society. This lecture is open to: -Special Credit-Auditors (exchange students only)-Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture-Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

【授業の目標】

国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマで英語で行われる授業を通し日本の文化、ビジネス、社会および異文化理解を深めることを目的とする。

Through the omnibus lectures conducted in English mainly on cultural exchange, international cooperation and international business, students are supposed to obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business and inter-cultural exchange.

【授業計画】

1	FUJII, Masashi	Introduction
2	OTA, Hiroshi	Language Use in Japan
3	OTA, Hiroshi	Language Use in Japan
4	MIYATA, Susanne	Intercultural Communication from a Psychological Point of View
5	MIYATA, Susanne	Intercultural Communication from a Psychological Point of View
6	BUI, Chi Trung	Intercultural Communication Through NPO Activities
7	KUNINOBU, Junko	Gender Relations in Japanese Society
8	UMEDA, Toshifumi	Information Technology and Information Ethics
9	UMEDA, Toshifumi	Information Technology and Information Ethics
10	FUKUMOTO, Akiko	History and Representations
11	FUKUMOTO, Akiko	History and Representations
12	JOLLY, James	Developing International Business Practices
13	JOLLY, James	Developing International Business Practices

【評価方法】

Assessment

Assessment will be made based on attendance and a report to be written by the students in the final lecture conducted by Professor Jolly. Students will be given 1 / 2 hour to finalize the report. Even though they are absent from the final lecture, they will still have a chance to write a report and submit it. In that case, it is unlikely for them to be given a good assessment.

出席点及び最後の授業において実施されるレポートにより、総合的に評価する。

【テキスト】

To be announced

【参考文献・資料】

To be announced

スポーツ特殊講座

松田秀子

【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】

ボウリングの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

〔ボウリング〕
1．実習日時　平成18年９月６日（水）・７日（木）・８日（金）
　　11日（月）・12日（火）・13日（水）
　　計６日間　９：30～12：40
2．説明会　日時　平成18年７月５日（水）12：30～13：15
　　場所　長久手キャンパス体育館１階　多目的室
　　実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
　　参加できない場合は事前に長久手キャンパス
　　健康科学教育センターに問い合わせること。
　　説明会の欠席者は受講を認めません。
3．場所　星ヶ丘ボウル
4．実習費　6,000円
　　（平成17年度のものですので変更する場合があります）
5．定員　60名
6．内容
　　１日目　開講式、ボウリング学習の意義と特質、用具説明
　　２日目　ボウリングの歴史、基本動作
　　３日目　ボールのコントロール、軌道調整
　　４日目　アジャスティングの基本と実践、３－２－１理論
　　５日目　レーンコンディションとボールの曲がり
　　ストライクアングルの実践練習
　　６日目　競技会説明、競技会（アメリカン方式３ゲーム）、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

スポーツ特殊講座

松田秀子

【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】

スケートの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

〔スケート〕

1．実習日時　平成19年２月７日（水）・８日（木）・９日（金）
13日（火）・14日（水）・15日（木）
計６日間　９：30〜12：40

2．説明会　日時　平成19年１月10日（水）12：30〜13：15
場所　長久手キャンパス体育館１階　多目的室
実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
参加できない場合は事前に長久手キャンパス
健康科学教育センターに問い合わせること。
説明会の欠席者は受講を認めません。

3．場所　名古屋スポーツセンター（大須）

4．実習費　7,200円
（平成17年度のものですので変更する場合があります）

5．定員　40名

6．内容
1日目　開講式、床で歩行練習、基本姿勢、氷上歩行・両足滑走
2日目　自然滑走、正しい押し出し
3日目　フォアスケーティング・カーブ滑走
4日目　ストップ、バックスケーティングの基本
5日目　クロスステップ、フォアからバックへのターン
6日目　総合練習、実技テスト、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

初級簿記（３級程度）　＊基礎総合

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定３級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。前期は２コマ（３時間）ずつ週２回のペースで、後期は２コマ（３時間）ずつ週１回のペースで講義を行う。この講義は初学者向けの講義であり、簿記の仕組みから精算表の作成まで簿記の基礎とされる内容を一通り学習した後、全国公開模擬試験などの問題を通して日商簿記検定３級の合格サポートを行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定３級に合格すること。

【授業計画】

第１回　簿記の目的・取引・仕訳・勘定口座の記入方法
第２回　試算表・商品売買の記帳方法、現金預金の記帳
第３回　手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
第４回　その他の勘定記帳方法、主要簿および補助簿
第５回　主要簿および補助簿、伝票
第６回　直前総まとめ問題集解説（補助簿、試算表、伝票対策）
第７回　決算整理（売上原価）、英米式決算法、精算表
第８回　決算整理（貸倒、減価償却、固定資産の売却、繰延・見越）
第９回　決算整理（消耗品、現金過不足、売買目的有価証券、引出金）
第10回　直前総まとめ問題集解説（仕訳、精算表対策）
第11回　直前答練第１回、解説
第12回　直前答練第２回、解説
第13回　直前答練第３回、解説
第14回　全国公開模擬試験、解説
第15回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（２級程度）Ａ　＊商業簿記

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定２級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。２コマ（３時間）ずつ、週１回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定３級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定２級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく２級の試験範囲である「工業簿記」は中級簿記（２級程度）Ｂで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定２級に合格すること。

【授業計画】

第１回　簿記一巡、固定資産
第２回　減価償却、銀行勘定調整表、引当金
第３回　その他の引当金、商品の評価、税金
第４回　株式の発行、利益処分
第５回　会社の合併、社債の発行、決算整理
第６回　社債の償還、決算法、財務諸表
第７回　伝票会計
第８回　帳簿組織
第９回　特殊商品売買
第10回　仕入割引、売上割引、研究開発費、有価証券
第11回　債務保証、手形の不渡り、裏書譲渡
第12回　本支店会計
第13回　総まとめ
第14回　単位認定試験第１回
第15回　単位認定試験第２回

【評価方法】

２回の単位認定試験の成績に応じて評価をする。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（２級程度）Ｂ　＊工業簿記

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定２級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。２コマ（３時間）ずつ、週１回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定３級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定２級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく２級の試験範囲である「商業簿記」は中級簿記（２級程度）Ａで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定２級に合格すること。

【授業計画】

第１回　工業簿記の基礎、個別原価計算の体系
第２回　材料費会計
第３回　労務費会計
第４回　経費会計、製造間接費会計
第５回　工企業の財務諸表
第６回　部門別会計、工場会計
第７回　工業簿記の基礎、総合原価計算の体系
第８回　単純総合原価計算
第９回　減損および仕損
第10回　組別・等級別原価計算
第11回　標準原価計算
第12回　損益分岐点分析、直接原価計算、固定費調整
第13回　総まとめ
第14回　単位認定試験第１回
第15回　単位認定試験第２回

【評価方法】

２回の単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（２級程度）C　＊実践

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定２級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。この講義は中級簿記（２級程度）AまたはBの受講者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定２級に合格すること。

【授業計画】

第１回　直前答練第１回、解説
第２回　直前答練第２回、解説
第３回　直前答練第３回、解説
第４回　直前答練第４回、解説
第５回　全国公開模擬試験、解説
第６回　ファイナルチェック問題、解説
第７回　直前総まとめ
第８回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（１級程度）B　＊会計学

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定１級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。夏季集中授業時間に集中的に講義を行う。この講義は日商簿記検定２級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定１級の試験範囲のうち「会計学」を取り扱う。同じく１級の試験範囲である「商業簿記」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（１級程度）A、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定１級に合格すること。

【授業計画】

第１回　現金および預金、債権、有価証券
第２回　金融資産および金融負債、デリバティブ取引
第３回　ヘッジ会計、為替換算会計
第４回　外貨建取引処理基準、為替予約
第５回　税効果会計、一時差異等の会計処理Ⅰ
第６回　一時差異等の会計処理Ⅱ
第７回　本支店会計
第８回　連結会計、取得日連結
第９回　連結会計、取得後連結Ⅰ
第10回　連結会計、取得後連結Ⅱ
第11回　連結会計、持分の段階取得、売却、増資
第12回　持分法、連結税効果会計、在外子会社連結
第13回　キャッシュ・フロー会計
第14回　連結キャッシュ・フロー会計
第15回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（１級程度）A　＊商業簿記

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定１級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。２コマ（３時間）ずつ、週１回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定２級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定１級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく１級の試験範囲である「会計学」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（１級程度）B、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定１級を合格すること。

【授業計画】

第１回　総論、企業会計原則、簿記一巡
第２回　一般販売、特殊商品売買Ⅰ
第３回　特殊商品売買Ⅱ
第４回　特殊商品売買Ⅲ
第５回　棚卸資産
第６回　固定資産Ⅰ
第７回　固定資産Ⅱ
第８回　減損会計、繰延資産
第９回　研究開発費、引当金Ⅰ
第10回　引当金Ⅱ、退職給付会計Ⅰ
第11回　退職給付会計Ⅱ、社債Ⅰ
第12回　社債Ⅱ、資本Ⅰ
第13回　資本Ⅱ
第14回　合併会計、会社分割
第15回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（１級程度）C　＊原価計算

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定１級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。２コマ（３時間）ずつ、週１回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定２級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定１級の試験範囲のうち「原価計算」を取り扱う。同じく１級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「工業簿記」は上級簿記（１級程度）A、B、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定１級に合格すること。

【授業計画】

第１回　総論、原価・営業量・利益関係の分析Ⅰ
第２回　原価・営業量・利益関係の分析Ⅱ
第３回　予算編成
第４回　予算統制Ⅰ
第５回　予算統制Ⅱ、売上数量差異の分析
第６回　事業部制、セグメント別損益計算
第７回　業務的意思決定Ⅰ
第８回　業務的意思決定Ⅱ
第９回　業務的意思決定Ⅲ、最適セールス・ミックス
第10回　構造的意思決定Ⅰ、設備投資の意思決定
第11回　構造的意思決定Ⅱ
第12回　構造的意思決定Ⅲ
第13回　戦略的原価計算Ⅰ、品質原価計算
第14回　戦略的原価計算Ⅱ、原価企画、活動基準原価計算
第15回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）D　＊工業簿記

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。春季集中授業期間および春季特別授業期間に、集中的に講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「原価計算」は上級簿記（1級程度）A、B、Cで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

第1回　総論、単純個別原価計算
第2回　部門別個別原価計算
第3回　部門別計算Ⅰ
第4回　部門別計算Ⅱ
第5回　実際総合原価計算Ⅰ、総論
第6回　全部原価計算と直接原価計算、固定費調整
第7回　実際総合原価計算Ⅱ、減損、仕損
第8回　実際総合原価計算Ⅲ、異常減損・仕損
第9回　工程別総合原価計算
第10回　組別・等級別原価計算、練産品・副産物・作業屑
第11回　標準原価計算Ⅰ
第12回　標準原価計算Ⅱ、歩減が発生する場合
第13回　標準原価計算Ⅲ、配合差異・歩留差異
第14回　工程別標準原価計算、直接標準原価計算
第15回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）E　＊実践

コーディネーター：浅野敬志・浅井敬一朗

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。この講義は上級簿記（1級程度）A、B、C、Dのうちいずれか1つを受講した者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

第1回　直前答練第1回、解説
第2回　直前答練第2回、解説
第3回　直前答練第3回、解説
第4回　直前答練第4回、解説
第5回　全国公開模擬試験、解説
第6回　ファイナルチェック問題、解説
第7回　直前総まとめ
第8回　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

外国語教育センター主催の英語、中国語、韓国・朝鮮語科目および情報教育センター主催のコンピュータ科目は、それぞれ言活（英語）、言活（中国語）、言活（韓国・朝鮮語）、コン活のページを参照ください。